

上信越自動車道
埋蔵文化財発掘調査報告書15

—信濃町内 その1—

かん の き
貫ノ木遺跡
にし おか
西岡A遺跡

旧石器時代

本文編

2000

日本道路公団
長野県教育委員会
長野県埋蔵文化財センター

上信越自動車道
埋蔵文化財発掘調査報告書15

—信濃町内 その1—

かん の き 遺 跡
貫 ノ 木
にし おか
西 岡 A 遺 跡

旧石器時代

本文編

2000

日 本 道 路 公 団
長 野 県 教 育 委 員 会
長 野 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー



妙高山

西岡A遺跡

貫ノ木遺跡

野尻湖

貫ノ木遺跡と西岡A遺跡（南西上空から）



貫ノ木1石器文化 ナイフ形石器と台形石器



貫ノ木1石器文化 斧形石器と砥石

例 言

1. 本書は長野県上水内郡信濃町の所在する貫ノ木遺跡・西岡A遺跡の発掘調査報告書のうち、旧石器時代についての調査結果を取録したものである。
2. 調査は上信越自動車道建設に伴う事前調査として実施し、日本道路公団より長野県教育委員会を通じた委託事業として、財団法人長野県埋蔵文化財センターおよび財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 上信越自動車道建設と並行して行われた国道18号線バイパス建設に伴う事前調査の成果は既報告であるが、両事業用地は隣接し、遺跡も連続することから、本書ではバイパス用地内の遺物も含め報告する。
4. 上記遺跡の概要は、長野県埋蔵文化財センター刊行の「長野県埋蔵文化財センター年報」10～15や「一般国道18号線（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書」他で紹介しているが、内容において本書と相違がある場合は、本書の記述の方が優先する。
5. 本書は【上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1】のうち、「貫ノ木遺跡・西岡A遺跡」旧石器時代 本文編・遺構・遺物図版編・写真図版編である。さらに本書は利便上「本文編」、「遺構・遺物図版編」、「写真図版編」の3冊に分けて製本を行った。本書を含む信濃町内の上信越自動車道建設に伴う発掘調査報告書は下記のとおりである。

【上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1】

「日向林B遺跡・日向林A遺跡・セツ栗遺跡・大平B遺跡」旧石器時代 本文編・図版編

【上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1】

「裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡」旧石器時代 本文編・図版編

【上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1】

「貫ノ木遺跡・西岡A遺跡」旧石器時代 本文編・遺構・遺物図版編・写真図版編

【上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16 信濃町内その2】

「星光山荘A遺跡・星光山荘B遺跡・西岡A遺跡・貫ノ木遺跡・上ノ原遺跡・大久保南遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡・針ノ木遺跡・大平B遺跡・日向林A遺跡・日向林B遺跡・セツ栗遺跡・普光田遺跡」縄文時代～近世 本文編・図版編

【上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16 信濃町内その2】信濃町データ編

6. 本書に掲載した地図は、日本道路公団作成の上信越自動車道平面図（1：1,000）をもとに作成したほか、国土地理院発行の地形図（1：25,000）を使用した。
7. 巻頭図版および写真図版の航空写真は縮写真測図研究所に撮影を委託したものである。
8. 出土遺物等の理化学分析は次諸氏機関に依頼し、それぞれ報告をいただいた。
テフラ分析・放射性炭素年代測定・樹種同定：榎パレオ・ラボ
残存脂肪酸分析：榎ズコーシャ
黒曜石産地同定：沼津工業高等専門学校 望月明彦
黒曜石年代測定・黒曜石産地同定：立教大学 鈴木正男
9. 石器の石材名については信濃町ナウマンゾウ博物館中村由克氏の指導により、整理担当者が鑑定を行

った。

10. 石器実測は一部を榑アルカと榑こうそくに委託した。
11. 石器実測図についている番号を報告番号とする。報告番号は本文・挿表・実測図・写真のすべてに共通する。
12. 挿表中に用いられている石材・黒曜石産地等の記号は「遺構・遺物図版編」の凡例に基づくものである。
13. 挿表の各種組成表内の礫の取り扱いは以下のとおりである。

貫ノ木遺跡においては、ブロック別出土層位組成とブロック別器種組成では礫を含んでいるが、ブロック別石材組成と石材別器種組成は礫を除いた組成表となっている。

西岡A遺跡においては、礫はすべての組成表から除かれている。
14. 挿表中の重量の単位はすべてgとなっている。
15. 本文中で用いた石器の呼称については第1章4節に記した。
16. 本文および表中で、無斑晶質安山岩と安山岩を下記のように区別をしている。

無斑晶質安山岩：黒色でガラス質の強い緻密な安山岩。産地は長野県飯山市北部～新潟県津南町付近と思われるが、長野・群馬県境にある八風山付近で採集されるガラス質黒色安山岩とはほぼ同質な岩石である

安山岩：無斑晶質安山岩以外の安山岩。多くは遺跡周辺で採集可能な、多孔質の普通輝石安山岩である。
17. 本文中における石器の部位・加工の表現は下記のとおりである。

基端：剥片の打面側

遠端：剥片の末端側

正方向の剥離（加工）：石器の腹面を打面とした背面側への剥離（加工）。

反方向の剥離（加工）：石器の背面を打面とした腹面側への剥離（加工）。

鋸歯状剥離（加工）：縁辺が鋸歯縁状になるような素材を強く断ち切る剥離（加工）。

通常剥離（加工）：鋸歯状剥離と微細剥離の中間的な剥離（加工）。ナイフ形石器の一般的な刃潰し加工などはこれにあたる。

微細剥離（加工）：素材の形状をほとんど変えない弱い剥離（加工）。

平坦剥離（加工）・平坦な剥離（加工）：器面内部まで入り込む剥離（加工）。

折れ：偶発的な折れと意図的な折れの両者を含む。
18. 遺物の計測・属性・出土位置等は「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16 信濃町内その2」信濃町データ編に記載されている。
19. 遺構の写真撮影は各調査担当者、遺物の写真撮影・現像・焼付けは西嶋 力が担当した。
20. 本書の執筆・編集・校正は大竹恵昭が行い、土屋 積が全体を校閲した。
21. 発掘調査から本書の刊行に至るまで多くの方々のご指導・ご協力を得た。本文中にお名前を掲げさせていただいたが、厚く感謝申し上げたい。
22. 本書で報告した各遺跡の記録および出土遺物は、長野県立歴史館が保管する。

本文目次

例言

第1章 調査の概要

第1節	調査の経過	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査体制と調査期間	2
3	指導者・協力者	3
4	発掘および整理作業参加者	4
第2節	調査の方法	5
1	発掘調査の方法	5
2	整理作業の方法	9
第3節	遺跡周辺の環境	11
1	遺跡の地理的環境	11
2	遺跡の歴史的環境	13
第4節	石器の器種分類	17

第2章 貫ノ木遺跡

第1節	遺跡と調査の概要	20
1	遺跡の概要	20
2	遺跡の地点呼称	20
3	調査の概要	22
4	基本層序	29
第2節	第1地点	32
1	第1地点の概要	32
2	遺構	48
3	遺物	51
4	接合資料	54
第3節	第2地点	55
1	第2地点の概要	55
2	遺構	84
3	遺物	104
4	接合資料	108
第4節	第3地点	109
1	第3地点の概要	109
2	遺構	134
3	遺物	142
4	接合資料	145
第5節	第4地点	146
1	第4地点の概要	146

2	遺構	177
3	遺物	197
4	接合資料	201
第3章 西岡A遺跡		
第1節	遺跡と調査の概要	202
1	遺跡の概要	202
2	調査の概要	202
3	基本層序	205
第2節	調査の結果	205
1	調査結果の概要	205
2	遺構	225
3	遺物	231
4	接合資料	234
第4章 自然科学分析		
第1節	貫ノ木遺跡出土炭化材の樹種	235
1	はじめに	235
2	標本の記載と結果	235
3	考察	240
第2節	貫ノ木遺跡のテフラ分析	249
1	はじめに	249
2	層序の概要	249
3	試料と分析方法	249
4	分析結果	250
5	テフラの同定・対比	251
6	まとめ	252
第3節	貫ノ木遺跡のアラント・オパール分析	254
1	試料と分析方法	254
2	分析結果	254
3	遺跡周辺のイネ科植物	254
第4節	貫ノ木遺跡の放射性炭素年代測定結果(平成6年度分)	257
1	測定結果	257
2	測定結果に関する若干の考察	257
第5節	貫ノ木遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定(平成8年度分)	259
1	放射性炭素年代測定について	259
第6節	貫ノ木遺跡から出土した遺物に残存する脂肪の分析	260
1	礫、敲石および土壌試料	260
2	残存脂肪の抽出	261
3	残存脂肪の脂肪酸組成	261
4	残存脂肪のステロール組成	262
5	脂肪酸組成の数理解析	263

6	脂肪酸組成による種特异性相関	266
7	総括	266
第7節	野尻湖遺跡群出土黒曜石の産地推定(II)	269
1	はじめに	269
2	分析法	269
3	分析試料	269
4	産地推定法	272
5	産地推定結果	273
6	まとめ	274
第8節	貫ノ木・西岡A・星光山荘B遺跡出土黒曜石の分析	281
1	考古学的黒曜石の産地推定と水和層年代測定	281
2	焼けた考古学的黒曜石等のフィッシュトラック年代	286
3	年代の解釈・比較および引用のための補足	289
第5章	成果と課題	
第1節	貫ノ木遺跡出土石器群の検討	292
第2節	西岡A遺跡出土石器群の検討	295
第3節	貫ノ木遺跡における石器文化の検討	295
第4節	西岡A遺跡における石器文化の検討	297
第6章	結論	302
	引用・参考文献	303
	報告書抄録	

挿図目次

第1図	遺跡の位置と調査範囲	第29図	第2地点	石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)
第2図	グリッド呼称法	第30図	第2地点	石材別分布図4 (無斑品質安山岩)
第3図	野尻湖遺跡群の地形	第31図	第2地点	石材別分布図5 (チャート)
第4図	野尻湖周辺の遺跡分布図	第32図	第2地点	石材別分布図6 (頁岩系)
第5図	貫ノ木遺跡の調査地点と地形	第33図	第2地点	石材別分布図7 (凝灰岩系)
第6図	貫ノ木遺跡 全体石器全点	第34図	第2地点	石材別分布図8 (その他石材1)
第7図	貫ノ木遺跡 全体石器全点 (ブロック範囲入り)	第35図	第2地点	石材別分布図9 (その他石材2)
第8図	貫ノ木遺跡 全体礫全点	第36図	第2地点	石材別分布図10 (その他石材3)
第9図	貫ノ木遺跡 全体礫全点 (礫群範囲入り)	第37図	第2地点	礫群 (礫群範囲入り)
第10図	基本層序	第38図	第2地点	礫群配置図
第11図	第1地点 石器全点	第39図	第3地点	石器全点
第12図	第1地点 石器全点 (BL範囲入り)	第40図	第3地点	石器全点 (BL範囲入り)
第13図	第1地点 ブロック配置図	第41図	第3地点	ブロック配置図
第14図	第1地点 石材別分布図1 (黒曜石全点)	第42図	第3地点	石材別分布図1 (黒曜石全点)
第15図	第1地点 石材別分布図2 (黒曜石原産地別1)	第43図	第3地点	石材別分布図2 (黒曜石原産地別1)
第16図	第1地点 石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)	第44図	第3地点	石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)
第17図	第1地点 石材別分布図4 (無斑品質安山岩)	第45図	第3地点	石材別分布図4 (無斑品質安山岩)
第18図	第1地点 石材別分布図5 (チャート)	第46図	第3地点	石材別分布図5 (チャート)
第19図	第1地点 石材別分布図6 (頁岩系)	第47図	第3地点	石材別分布図6 (頁岩系)
第20図	第1地点 石材別分布図7 (凝灰岩系)	第48図	第3地点	石材別分布図7 (凝灰岩系)
第21図	第1地点 石材別分布図8 (その他石材)	第49図	第3地点	石材別分布図8 (その他石材1)
第22図	第1地点 礫群 (礫群範囲入り)	第50図	第3地点	石材別分布図9 (その他石材2)
第23図	第1地点 礫群配置図	第51図	第3地点	石材別分布図10 (その他石材3)
第24図	第2地点 石器全点	第52図	第3地点	礫群 (礫群範囲入り)
第25図	第2地点 石器全点 (BL範囲入り)	第53図	第3地点	礫群配置図
第26図	第2地点 ブロック配置図			
第27図	第2地点 石材別分布図1 (黒曜石全点)			
第28図	第2地点 石材別分布図2 (黒曜石原産地別1)			

- 第54図 第4地点 石器全点
- 第55図 第4地点 石器全点 (BL 範囲入り)
- 第56図 第4地点 ブロック配置図
- 第57図 第4地点 石材別分布図1 (黒曜石全点)
- 第58図 第4地点 石材別分布図2 (黒曜石原産地別1)
- 第59図 第4地点 石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)
- 第60図 第4地点 石材別分布図4 (無斑品質安山岩)
- 第61図 第4地点 石材別分布図5 (チャート)
- 第62図 第4地点 石材別分布図6 (頁岩系)
- 第63図 第4地点 石材別分布図7 (凝灰岩系)
- 第64図 第4地点 石材別分布図8 (その他石材1)
- 第65図 第4地点 石材別分布図9 (その他石材2)
- 第66図 第4地点 石材別分布図10 (その他石材3)
- 第67図 第4地点 礫群 (礫群範囲入り)
- 第68図 第4地点 礫群配置図
- 第69図 西岡A遺跡の調査地点と地形
- 第70図 西岡A遺跡 石器全点
- 第71図 西岡A遺跡 石器全点 (ブロック範囲入り)
- 第72図 西岡A遺跡 ブロック配置図
- 第73図 西岡A遺跡 石材別分布図1 (無斑品質安山岩)
- 第74図 西岡A遺跡 石材別分布図2 (黒曜石産地別1)
- 第75図 西岡A遺跡 石材別分布図3 (黒曜石産地別2)
- 第76図 西岡A遺跡 石材別分布図4 (黒曜石産地別3)
- 第77図 西岡A遺跡 石材別分布図5 (黒曜石産地別4)
- 第78図 西岡A遺跡 石材別分布図6 (頁岩系)
- 第79図 西岡A遺跡 石材別分布図7 (凝灰岩系)
- 第80図 西岡A遺跡 石材別分布図8 (その他の石材)
- 第81図 西岡A遺跡 礫全点
- 第82図 西岡A遺跡 礫全点 (礫群範囲入り)
- 第83図 西岡A遺跡 礫群配置図
- 第84図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真1
- 第85図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真2
- 第86図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真3
- 第87図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真4
- 第88図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真5
- 第89図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真6
- 第90図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真7
- 第91図 貫ノ木遺跡のATの火山ガラス
- 第92図 試料採取位置
- 第93図 火山ガラスの形態分類
- 第94図 貫ノ木遺跡のプラント・オパール
- 第95図 試料採取地点
- 第96図 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成
- 第97図 試料中に残存する脂肪のコレステロール組成
- 第98図 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図
- 第99図 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特异性相関
- 第100図 原石を採取・分析した東日本の黒曜石産地
- 第101図 旧検出器による東日本・隠岐の産地原石判別図
- 第102図 貫ノ木遺跡出土黒曜石の産地判別図
- 第103図 新検出器による東日本・隠岐の産地原石判別図
- 第104図 貫ノ木遺跡出土黒曜石の産地判別図 (新検出器)

第105図 西岡A遺跡出土黒曜石の産地判別図
 第106図 黒曜石分析の手法
 第107図 プラトー法
 第108図 補正曲線
 第109図 実験手順のフローチャート

第110図 補正曲線
 第111図 貫ノ木Ⅰ石器文化
 第112図 貫ノ木Ⅱ石器文化
 第113図 貫ノ木Ⅲ石器文化
 第114図 西岡A遺跡の石器文化

挿表目次

第1表	野尻湖周辺遺跡一覧	7
第2表	野尻湖周辺遺跡調査一覧	第20表
第3表	貫ノ木遺跡調査工程	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表
第4表	貫ノ木遺跡 第1地点ブロック別出土層位組成表	8
第5表	貫ノ木遺跡 第1地点ブロック別器種組成表	第21表
第6表	貫ノ木遺跡 第1地点ブロック別石材組成表	貫ノ木遺跡 第2地点礫群
第7表	貫ノ木遺跡 第1地点石材別器種組成表	第22表
第8表	貫ノ木遺跡 第1地点礫群	貫ノ木遺跡 第3地点ブロック別出土層位組成表
第9表	貫ノ木遺跡 第2地点ブロック別出土層位組成表	第23表
第10表	貫ノ木遺跡 第2地点ブロック別器種組成表	貫ノ木遺跡 第3地点ブロック別器種組成表
第11表	貫ノ木遺跡 第2地点ブロック別石材組成表1	第24表
第12表	貫ノ木遺跡 第2地点ブロック別石材組成表2	貫ノ木遺跡 第3地点ブロック別石材組成表
第13表	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表1	第25表
第14表	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表2	貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表1
第15表	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表3	第26表
第16表	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表4	貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表2
第17表	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表5	第27表
第18表	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表6	貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表3
第19表	貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表	第28表
		貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表4
		第29表
		貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表5
		第30表
		貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表6
		第31表
		貫ノ木遺跡 第3地点礫群
		第32表
		貫ノ木遺跡 第4地点ブロック別出土層位組成表
		第33表
		貫ノ木遺跡 第4地点ブロック別器種組成表1
		第34表
		貫ノ木遺跡 第4地点ブロック別器種組成表2
		第35表
		貫ノ木遺跡 第4地点ブロック別石材組成表1
		第36表
		貫ノ木遺跡 第4地点ブロック別石材組成表

	成表 2			第56表	遺構・層位別の炭化材樹種 (その1)
第37表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第57表	遺構・層位別の炭化材樹種 (その2)
	1			第58表	テフラの鉱物組成
第38表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第59表	火山ガラスの屈折率測定結果
	2			第60表	試料 1 g 当たりのプラント・オパール個数
第39表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第61表	貫ノ木遺跡の放射性炭素年代測定結果 1
	3			第62表	貫ノ木遺跡の放射性炭素年代測定結果 2
第40表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第63表	試料の残存脂肪抽出量
	4			第64表	試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合
第41表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第65表	試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合
	5			第66表	産地原石判別群 (SEIKOUSEA-2210L 蛍光X線分析装置による)
第42表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第67表	各遺跡の産地推定結果
	6			第68表	貫ノ木遺跡 ブロック別黒曜石産地組成 1 (試料点数)
第43表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第69表	貫ノ木遺跡 ブロック別黒曜石産地組成 2 (試料点数)
	7			第70表	西岡A遺跡 ブロック別黒曜石産地組成 (試料点数)
第44表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第71表	原産地採取黒曜石判別結果
	8			第72表	遺跡出土黒曜石判別結果
第45表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第73表	上ノ原・日向林B遺跡の地温・相対湿度測定結果
	9			第74表	活性化エネルギーと定数
第46表	貫ノ木遺跡	第4地点石材別器種組成表		第75表	黒曜石水和層年代測定結果
	10			第76表	遺跡出土の焼けた黒曜石の年代測定結果
第47表	貫ノ木遺跡	第4地点礫群			
第48表	西岡A遺跡	ブロック別出土層位組成表			
第49表	西岡A遺跡	ブロック別器種組成表			
第50表	西岡A遺跡	ブロック別石材組成表			
第51表	西岡A遺跡	石材別器種組成表 1			
第52表	西岡A遺跡	石材別器種組成表 2			
第53表	西岡A遺跡	石材別器種組成表 3			
第54表	西岡A遺跡	礫群			
第55表	貫ノ木遺跡	出土炭化材の樹種			

第1章 調査の概要

第1節 調査の経過

1 調査に至る経緯

本書の貫ノ木遺跡、西岡A遺跡の発掘調査は、日本道路公団（以下、公団）による上信越自動車道建設に先立ち行われたものである。高速道路用地内にある埋蔵文化財の保護については、昭和42年9月30日付け文化庁（文化財保護委員会）と公団とで取り交わされた「日本道路公団の建設事業等工事施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書」に準じて実施されるのが通例となっている。それによれば、公団は公団事業施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、事前施行前に都道府県教育委員会の意見を聴取し、文化庁と協議のうえ、必要な措置をとるとある。これに基づき、長野県教育委員会（以下、県教委）は、事業地区の踏査および試掘調査を行い、信濃町内では本書の2遺跡を含め計13遺跡について発掘調査を行って記録を残すこととした。発掘調査に際して本県では、公団と県教委の委託契約後、あらためて（財）長野県埋蔵文化財センター（以下、センター）に再委託をする方式がとられた。

貫ノ木遺跡は周知の遺跡として登録されていたが、遺跡周囲の高速道用地内は山林部分が多く、遺跡範囲の把握が困難な状況にあった。そこで未周知の遺跡を確認するための試掘調査が県教委により平成4年8月に行われた。その結果、貫ノ木遺跡の西方事業地内に新たな遺物の発見があった。この新たな遺物の分布域はインターチェンジ料金所予定地を中心にかなり広範囲にわたって認められた。地形的な所見から、事業地外南に位置する周知の遺跡である西岡A遺跡と連続することから、西岡A遺跡を大幅に北側に拡大し記録保存の対象とした。

貫ノ木、西岡Aの両遺跡は、上信越自動車道野尻インターチェンジ予定地に位置し、そこへのアクセス道路として国道18号線妙高野尻バイパスも高速道と並行して工事着手となるため、発掘調査も高速道用地、バイパス用地を並行して行うことになった。調査範囲は、工事内容・時期・現況などがさまざまであった。そのため、調査区設定・調査方法・調査時期などが、埋蔵文化財調査の観点からふさわしくない点もあろうが、最善を尽くした結果であり、当初の目的は達成できたといえよう。

センターでは、須坂以北の上信越自動車道・中野市内のいわゆるオリンピック道路の調査に対応するため、平成3年、中野市立ヶ花に中野支所を設置した。中野支所は翌4年から中野調査事務所となった。平成5年から信濃町内の発掘調査が始まり、日本旧石器時代の発掘調査史上例のない大規模調査が行われた。平成7年度、降雪の中、信濃町内での発掘調査を終え、平成8年3月、閉所された。以後の整理作業は長野県調査事務所に引き継がれている。

両遺跡の発掘調査の契約面積は下記のとおりである。なお、並行して調査が行われたバイパス分も掲載した。

平成5年度	貫ノ木遺跡（高速道）	10,000㎡
平成6年度	貫ノ木遺跡（高速道）	25,000㎡
	貫ノ木遺跡（バイパス）	1,600㎡

第1章 調査の概要

	西岡A遺跡（高速道）	3,500㎡
	西岡A遺跡（バイパス）	9,000㎡
平成7年度	貫ノ木遺跡（高速道）	6,000㎡
	貫ノ木遺跡（バイパス）	3,400㎡
	西岡A遺跡（高速道）	13,000㎡
平成8年度	貫ノ木遺跡（バイパス）	200㎡

2 調査体制と調査期間

調査体制および調査期間は以下のとおりである。

(1) 平成5年度

調査体制	事務局長	峯村忠司
	同 総務部長	神林幹生
	同 調査部長	小林秀夫
	中野調査事務所長	関 孝一
	同 庶務課長	高野幹郎
	同 調査課長	土屋 積
	同 調査研究員	鶴田典昭 山本 浩 白田広之 谷 和隆 前田利彦
調査期間	貫ノ木遺跡	平成5年7月1日～同年11月19日

(2) 平成6年度

調査体制	事務局長	峯村忠司
	同 総務部長	神林幹生
	同 調査部長	小林秀夫
	中野調査事務所長	関 孝一
	同 庶務課長	高野幹郎 6月より村山茂美
	同 調査課長	土屋 積
	同 調査研究員	大竹憲昭 白田広之 奥山宗春 片山 徹 小田切清一 代田 孝 鈴木孝則
調査期間	貫ノ木遺跡	平成6年4月21日～同年12月9日
	西岡A遺跡	平成6年4月21日～同年12月9日

(3) 平成7年度

調査体制	事務局長	峯村忠司
	同 総務部長	西尾紀雄
	同 調査部長	小林秀夫
	中野調査事務所長	関 孝一
	同 庶務課長	村山茂美
	同 調査課長	土屋 積
	同 調査研究員	大竹憲昭 石原州一 白田広之 奥山宗春 片山 徹 小田切清一 代田 孝 酒井健次 鈴木孝則 柳沢佑三
調査期間	貫ノ木遺跡	平成7年4月3日～同年11月30日
	西岡A遺跡	平成7年4月5日～同年10月20日

(4) 平成8年度

整理体制	事務局長	青木 久
	同 総務部長	西尾紀雄
	同 調査部長	小林秀夫 (兼長野調査事務所長)
	長野調査事務所長	小林秀夫
	同 庶務課長	戸谷 功
	同 調査課長	土屋 積
	同 調査研究員	大竹憲昭 神林忠克 谷 和隆 柳沢佑三

整理作業内容 遺物の分類・実測、遺構図作成

(5) 平成9年度

整理体制	事務局長	青木 久
	同 総務部長	山崎悦雄
	同 調査部長	小林秀夫 (兼長野調査事務所長)
	長野調査事務所長	小林秀夫
	同 庶務課長	戸谷 功
	同 調査課長	土屋 積
	同 調査研究員・調査員	大竹憲昭 谷 和隆 藤森俊彦 中島英子

整理作業内容 遺物実測、写真撮影、遺物・遺構図のトレース・図版組み、原稿執筆、編集・校正

(6) 平成10年度

整理体制	所長	佐久間鉄四郎
	副所長	山崎悦雄(兼管理部長)
	調査部長	小林秀夫
	管理部長補佐	宮島孝明
	調査課長	土屋 積
	調査研究員・調査員	大竹憲昭 谷 和隆 中島英子

整理作業内容 遺物実測、写真撮影、遺物・遺構図のトレース・図版組み、原稿執筆、編集・校正

(7) 平成11年度

整理体制	所長	佐久間鉄四郎
	副所長	山崎悦雄(兼管理部長)
	調査部長	小林秀夫
	管理部長補佐	宮島孝明
	調査課長	土屋 積
	調査研究員・調査員	大竹憲昭 谷 和隆 中島英子

整理作業内容 遺物実測、写真撮影、遺物・遺構図のトレース・図版組み、原稿執筆、編集・校正

3 指導者・協力者

発掘調査と整理作業にあたり、下記の方々や機関にご指導ご協力を得た。お名前を記して感謝したい(敬称略・五十音順)。

会田 進 麻生 敏隆 阿部 芳郎 有本 雅己 安齋 正人 安藤 政雄 池谷 信之 石川恵美子
伊藤 健 稲田 孝司 大竹 幸恵 大田原 潤 岡村 道雄 岡本 東三 荻 幸二 小野 昭

織笠 昭 角張 淳一 軽部 達也 木崎 康弘 栗島 義明 小池 義人 小杉 康 小菅 将夫
 小林 達雄 近藤 洋一 酒井 潤一 佐藤 宏之 佐藤 雅一 佐藤 良二 沢田 敦 実川 順一
 菅沼 亘 島田 和高 白石 浩之 鈴木 次郎 鈴木 忠司 鈴木 宏之 鈴木 正男 須藤 隆司
 砂田 佳弘 諏訪間 順 関口 博幸 大工原 豊 高尾 好之 高見 俊樹 竹岡 俊樹 田中 純
 谷口 康浩 鄧 聰 辻本 卓夫 堤 鄭 漢徳 戸沢 充則 中島 庄一 中島 宏
 中島 誠 長沼 孝 永峯 光一 中村 由克 野口 淳 朴 美哲 橋本 勝雄 原川 雄二
 比田井民子 平口 哲夫 藤野 次史 藤原 紀敏 保坂 康夫 松沢 亜生 松島 吉信 松藤 和人
 道沢 明 宮坂 清 宮坂 光昭 宮崎 朝雄 宮下 健司 宮田 栄二 望月 静雄 望月 明彦
 矢島 國雄 柳田 俊雄 山下 秀樹 山田 晃弘 山田 昌久 山本 誠 山本 克 吉井 雅男
 吉川耕太郎 渡辺 哲也 信濃町教育委員会 ㈱アルカ ㈱こうそく ㈱写真測図研究所 ㈱新日本航業
 ㈱ズコーシャ 中野土建㈱ ㈱パレオ・ラボ ㈱北條組

4 発掘および整理作業参加者(平成5年~平成11年)

(1) 発掘調査参加者

青井 祐一 青木 文雄 青柳 正一 青山 弘美 青山 嘉汪 赤塩 範治 麻田 紀子 浅沼喜一郎
 畔上ちよ子 天尾 洋子 荒井 恵子 池田 和昭 池田 強 池田 ひで 池田 博之 池田 陸
 池田 良高 石井 賢一 石川 治 石川 清子 石川 肇子 石田 寿文 石野清治郎 市川 武
 市川 由一 稲田 敏恵 井上 司郎 今井 侃 今井百合子 岩下 昭吉 岩下 とい 岩村五十鈴
 牛木悦次郎 内田 守 内堀はるえ 大川 和子 大川 成司 大川 理恵 大澤 孝枝 大塚千代子
 岡田 勲 岡野美由紀 小川 春義 荻原 みな 奥村 和子 小崎 延子 小田切吉夫 小野沢時子
 小野 順子 小日向 一 風間たき子 片山 恒子 勝山みつ子 金井 清里 上島 啓作 川口 耐子
 川村 喬一 川村 幸彦 木内 征子 北沢 甲三 北沢 富幸 北原ひさえ 北村 智子 久保田貴美江
 久保田哲子 熊木ケイ子 倉石 久子 黒岩 澄男 小金井都子 小坂 仁造 小坂 幸子 児玉四利信
 小沼 泉 小林 栄子 小林 和子 小林 和弘 小林 定子 小林 節子 小林 千里 小林 初子
 小林 春枝 小林 昌子 小林美智子 小林 資成 小林 嘉子 小林 義治 小宮山武男 小山 周一
 小山 富江 西条 桃恵 斉藤 静 酒井 泉 酒井今朝吉 酒井 千代 酒井 紀子 酒井 優
 坂口 二郎 坂口 秀美 坂田 与一 佐藤さち子 佐藤 哲也 佐藤 幸人 塩崎 巖 塩崎きみよ
 静谷 邦子 静谷さつき 実延 章子 篠崎恵美子 篠澤 きよ 志原三千夫 淡澤 伸治 淡澤とし子
 白井隆太郎 菅谷 澄子 鈴木 道子 須田 有子 春原弥惣治 関 克也 関塚 恒 関谷 照二
 関谷 シン 関谷 花江 高木けさ子 高嶋 肇 高相 三男 高橋 静 高橋 周三 高橋 節子
 高橋 詮昭 高橋知代江 高橋 信子 高橋 格 高橋 深 高橋 安正 武井スミ子 竹内 康
 竹内 寅雄 竹内 良子 竹内 晴江 竹内 三男 竹内ゆき子 武田 初枝 竹田 保夫 竹花 民夫
 田崎 金一 辰野 重男 田中 格一 田中幸太郎 田中せつ江 田中 孝志 田中 進子 田村 哲
 田村多恵子 壇原 康信 塚田 牛二 塚田 悦子 塚田 てい 築田 隆司 土倉 裕子 土屋 實治
 土屋 照美 土屋 と志 寺島 厚二 寺島 尊夫 傳田 米三 徳武 洋 徳武 孝文 徳竹ミサオ
 徳竹 喜春 徳永 徳一 中川 悞 中島亮之進 中島 忠夫 中野 聖夫 長橋喜一郎 永原シズエ
 中村 弘 中村華佐夫 中村 又二 中村 洋介 中村 芳子 中山 和江 中山 安雄 新野 源吾
 根岸 由恵 野村 久子 野村竜太郎 橋内 賢裕 橋本 静子 長谷川悦子 長谷川和朗 長谷川繁信
 長谷川芳恵 畑山 茂治 服部恵美子 服部カツ子 服部 正志 花岡 彬夫 原田 忠直 原山 正子
 張間 政信 東 貴 樋口のり子 日詰 甲子 平塚 勝 深沢 政雄 深谷 亘 福岡 邦友

藤木 明子	藤木 利高	藤沢 大樹	藤城 昂子	藤田 柱子	藤牧 久男	藤本 敏男	踏分 実
降旗 茂	降旗まつ子	古澤三千代	保坂 勝子	保坂 吉次	堀川 章	巻柄 恵子	牧野タマエ
真篠 美晴	増田 昭子	待井 春子	町田登美子	町田 幸重	松尾よし子	松田 正一	松野クララ
イレーネ	松橋 千里	丸本 市郎	三澤 貞利	湊 喜一	湊美 佐子	宮川 朝子	宮崎 正枝
宮澤 亨	宮沢 益	宮沢ツネ子	宮沢ひさみ	宮沢美代子	宮下 金一	宮本 和明	宮本 澄子
宮本 義章	村上 安子	矢澤ゆき子	矢島 弘子	柳沢 純子	山尾 洋美	山口 守	山口 久江
山崎キヨシ	山崎千代和	山田 啓子	山本 昭	山本智恵子	山本 知良	山本 房子	横田 節子
横山真理子	吉池シマエ	吉川 忠吉	吉澤 聖子	吉澤平一郎	吉沢 好夫	吉田 米子	綿田 茂実
渡辺 昭一	渡辺三千代	綿貫 良人					

(2) 整理作業参加者

阿部 敬	荒井 かつ	荒井 恵子	新井 晴美	市川ちず子	岩泉 辰子	内田 仁	内田陽一郎
内山恵美子	内山 清子	迫川 吉生	大橋 里奈	大林久美子	門内 政広	河崎 裕二	川本真由美
北沢三枝子	北森梨恵子	蔵田 愛子	小林 克次	小林奈美江	駒村 和子	佐藤 桂子	須藤文美子
高久 昌子	高城 大輔	高柳すえ子	滝沢 久子	武田 友子	玉井 久雄	張 龍俊	塚田 祐子
寺門 義範	寺田真木子	戸枝 周平	戸谷 邦隆	中沢 祐一	中島 透	野口 淳	野沢 久子
平井 義敏	藤原 泰子	堀木 照美	丸山 和子	丸山 園枝	三上 義子	三木 陽平	峯村 恵子
峯村 敏子	宮川 優作	宮坂 美樹	宮崎 正枝	宮野尾和子	宮本 宰江	村田 雅子	矢澤健太郎
矢田美智子	柳沢るり子	柳原 澄子	山科 哲	山田 理恵	横田 節子	横山 真	吉川 孝子
吉川耕太郎	吉田 米子	吉田 望	渡辺恵美子	宇賀村節子	倉沢より子	柳原 智子	山崎 明子

第2節 調査の方法

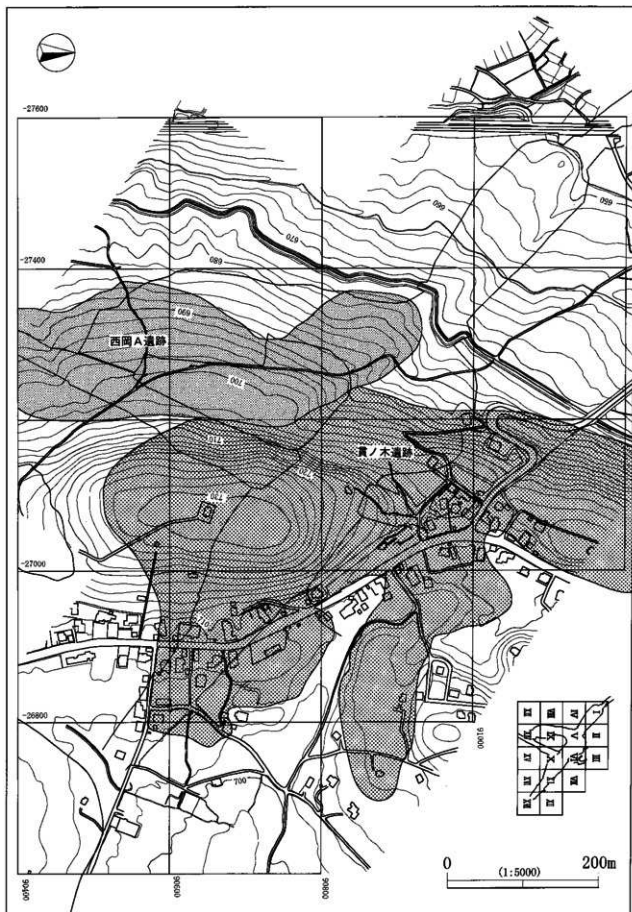
1 発掘調査の方法

(1) 試掘と調査区の設定 (第1図参照)

試掘調査と調査範囲の設定については、前節1で述べたとおり、未周知部分について県教委が踏査および試掘を行った。しかしながら山林が多い本地域では、遺跡の詳細な状況は完全に捉えることができない。従って、本調査に先かけてセンターでも高速道路路線範囲内の試掘調査を行い、遺跡の範囲および遺物の包含層の確認をし、その結果に基づき調査範囲を設定することにした。試掘調査の方法は、重機を併用したトレンチ掘りを採用した。重機によるトレンチ掘りは、表土除去後、重機により数cm掘り下げた後、鉤籠により遺構・遺物の検出を繰り返してゆき、遺構・遺物が検出された面と定める。

貫ノ木遺跡は、既存の調査で、大規模な遺跡であることが予想されており、ほぼ全域にわたって遺物が包含されているという認識のもと、本調査に入った。なお遺跡の範囲について東端は、上ノ原遺跡と接することから、試掘調査は不必要と判断。東端は急傾斜地という地形的な制約から範囲を確定した。ほぼ全面が調査対象となり、今回の高速道調査遺跡では、最大の面積を調査することとなった。

西岡A遺跡については、県教委の試掘により範囲が拡大されたため、既存の発掘調査による遺跡情報はなく、県教委の試掘結果を基本としながらも一部補完するかたちで試掘調査を並行しながら調査区を確定していった。



第1図 遺跡の位置と調査範囲

(2) 本調査

調査対象地は、本来であれば、表土からすべて人力による調査が望ましいのであろうが、広大な面積を一定の調査期間で行うことは、とても不可能である。従って重機を併用した。本調査時における重機の使用については以下の3通りを原則とした。①表土除去、②遺物包含層間の無遺物層の掘り下げ、③包含層内であっても、遺物の出土をみない範囲の掘り下げ。③については、人力による調査をなるべく広く取り、駆力重機の使用は抑えた。使用する場合も、小型のバックホーを用いた。

先行した試掘調査の結果から、各地点、調査区ごとに遺物包含層までは重機により掘り下げ、その後は作業員による掘り下げを行った。近年、旧石器時代遺跡でも、竪穴住居跡、土坑といった掘り込みが確認できる遺構の検出割合が増えているため、包含層の掘り下げには細心の注意を払ったが、残念ながら調査時には明瞭な落ち込みは確認することができず、遺物の検出とその記録・取り上げが発掘調査の主となった。

なお、調査対象範囲のなかでも、急傾斜地があり、すべてを精査するのではなく、トレンチ調査を併用しながら本調査をすすめた。

石器集中部（ブロック）の精査 旧石器時代の遺物は、調査範囲から満遍なく出土するわけではなく、径数10cm～数mの範囲に集中して出土する傾向にある。広範な調査対象面積をもつ貫ノ木遺跡ではブロックの検出を努める調査方法をとった。つまり、ブロックが検出される層序までは、重機と人力によるジョレンがけによりブロックが検出される層序まで掘り下げていくと、ブロックにあたる範囲にまず数点の遺物の集見が見られる。ブロック部分においては人力による精査はブロックをほぼ竪穴住居址にたとえた調査方法といえよう。ただ、実際には調査中にブロックの認定はおこなっていない。もちろん周囲に遺物が皆無の場合はブロックの範囲が容易に把握できるが、重複するかのようなブロックについては、ブロック群として大きなくくりの中で調査を進めていった。遺物はトータルステーションにより出土層位、位置、標高を単点により記録することを原則とした。大形石器の集中等特別な出土状況を示すものについては、詳細図を作成した。

礫群の精査 礫群も石器集中部の調査と同じである。ただ礫群のほうが同一層準に比較的に密集して分布するので、調査時に礫群と認定することを原則とした。なお、貫ノ木遺跡第2地点（遺跡頂上部）の第Ⅲ層上面では全面に礫が分布していたため、石器集中部と同様な調査方法を取り、発掘終了後、室内で礫群を認定した。認定した順に礫群番号を付し、礫の広がり、地形の傾斜を考慮して十字にセクションポイントを設定し、縮尺1/10で個別詳細図を作成、礫の形、赤化の箇所、付着物の状況を記録した。出土層位についてはセクションベルトに沿って、サブトレンチをいれて、礫下の土層堆積まで確認し、礫群の出土層位を検討し、記録した。

炭化物集中の調査 炭化物は調査中に検出された時点で、周辺部への広がりの有無を調べ、広がりが捉えられた場合は炭化物集中と認定した。調査方法は、礫群と同様に十字のセクションポイントを設定し、炭化物の平面的広がりを範囲図として記録し、大粒の炭化物は位置を記録して分析用サンプルとして取り上げた。垂直分布はセクションベルトに沿ってサブトレンチ確認する方法と5cm単位で平面的に掘り下げ、範囲の変化を記録する2つの方法を使い分けた。単独で検出された炭化物については、他の遺物と同様に、単点測量を行って記録をした。

微細遺物 調査区内すべての土壌を水洗し、微細遺物の検出を行うことは、残念ながら今回の調査ではできなかった。貫ノ木・西岡A遺跡とも石器集中部の土壌を試験的に一部サンプリングするにとどまった。

地形測量 遺物が出土し、平面的に調査をした箇所については、V a層上面で10cmコンタをとった。また、貫ノ木遺跡においては、調査対象全域にわたって、第Ⅲ層～第Ⅶ層上面まで、20mメッシュで土層柱状図を作成した。土層名については、第2章第1節(4)を参照された。

(3) 遺跡名称と遺跡記号

本書で報告する遺跡の名称と遺跡記号は下記のとおりである。遺物・写真他の記録類の注記などもすべてこれによる。

かんのみき 貫ノ木遺跡 MKN にしおか 西岡A遺跡 MNA

(4) グリッドの設定と呼称法 (第2図)

グリッドの設定にあたっては、国家座標を基準として大々地区・大地区・中地区・小地区の4段階に区分した。

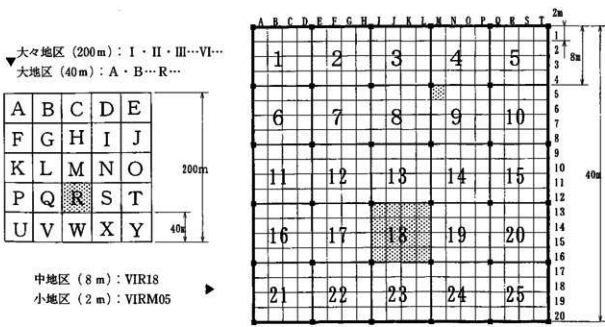
大々地区：調査対象地区全体にかかるように200m×200mの区画を設定し、北西から南東方向にⅠ・Ⅱ・Ⅲ……とローマ数字で表記した。

大地区：大々地区を40m×40mの25区画に分割し、北西から南東へAからYまでの大文字アルファベットを用いた。

中地区：大地区を8m×8mの25区画に分割し、北西から南東へ1から25の算用数字を用いた。

小地区：大地区を2m×2mの400区画に分割し、小地区とした。大地区の北西角を起点として東西軸上に西から東へAからTまでアルファベット、南北軸上に北から南へ01から20の数字を付して、両者の組み合わせで「A01」のように小地区名とした。

上記の呼称を組み合わせ、たとえば大々地区「Ⅵ区」、大地区「R区」、中地区「18区」(8m×8m)は「Ⅵ—R18」と表記される。また、大地区「R区」を小地区に分割した「M05」(2m×2m)の場合は「Ⅵ—RM05」と表記される。



第2図 グリッド呼称法

本調査は複数地点同時期に並行して行われること、貫ノ木遺跡と西岡A遺跡は隣接していることから、グリッド設定に際し、一括して「I区」から「XVII区」まで大々地区の設定を行った。貫ノ木遺跡が関係する大々地区は「III・VI・X-XII・XVI・XVII」、西岡A遺跡が関係する大々地区は「V・IX・XIV」である。なお、貫ノ木遺跡のXVII区と隣接する上ノ原遺跡のI区とは、座標上の設定が重複する。

(5) 遺構記号

記録・注記等の便宜を図るために遺構名称は記号を用い、遺構番号は時代等にかかわらず種類ごと、検出順に付した。遺構記号は原則として検出時に決定するため、主として平面的な形態や遺物の分布状況等指標としたもので、必ずしも遺構の性格を示すものはない。整理段階で遺構名称変更の必要が生じた場合は、発掘時の遺構記号・遺構番号は欠番とし、新しい遺構記号の最終番号に追加した。本書で報告する遺構番号は前述の理由から飛び番号が生じているが、混乱を避けるため発掘時の遺構記号・遺構番号をそのまま使用した。したがって最終遺構番号=遺構数とはならない。

なお、本書の遺構記号は当センターで共通して用いているもので、以下のとおりである。

[BL] 旧石器時代の石器・剥片集中

[SB] 2m以上の大きさの方形、円形、楕円形の掘り込み。(竪穴住居址、竪穴状遺構)

[SK] 単独もしくは他の掘り込みと関係が認められないSBより小さな掘り込み。(土坑、陥し穴、貯蔵穴、井戸等)

[SH] 石(主に礫)が面的に集中するもの。ただし旧石器時代の石器・石片集中であるブロックには、発掘時に決定することが困難なため用いない。(集石、礫群、配石)

[SQ] 遺物が面的に集中するもの。(ごみ捨て場、祭祀址)

[SV] 炭化物集中

(6) 遺物の取り上げと記録方法

遺物の取り上げに際しては、測量業者に委託して、光波トランシットを用い、端点測量を行った。現地では、出土位置をmm単位までの精度で、端点の属性として、①点の種別(土器、石器、礫といった遺物の種類等)、②出土層位、③遺物番号をデータとして電子野帳に記録し、それをもとに作成した。編集図面、観測成果簿、観測データ(フロッピーディスク)の3種で管理している。

また、礫群や良好な遺存状態で集中していた遺物については、別に微細図を作成した。

遺物の取り上げ番号は、遺構に帰属する遺物については、遺構ごとに1番から番号を付し、包含層・遺構外の遺物については遺跡ごと、大地区毎に1番から番号を付した。注記については以下のとおりである。

貫ノ木遺跡第20号礫群3番の遺物は、MKN.SH20.3と記す。

西岡A遺跡V-Q区250番の遺物は、MNA.V-Q.250と記す。

2 整理作業の方法

(1) 遺物の整理方法と管理収納

1. 遺物の洗浄・注記

遺物の洗浄については、使用痕観察のため、安山岩のような表面が風化・劣化が著しい遺物以外は、超音波洗浄機を用いた。

遺物の注記終了後、石器・土器・礫を分別し、それぞれに作業を進めていった。

2. 石器の器種判別

石器の整理では最初に器種判別作業を行った。器種判別の観察項目は以下のとおりである。

器種／材質／礫面の遺存状態／欠損部位／遺存度／剝離方向／打面形態／打角／打面長／長さ／幅／厚さ／重量

3. 器種認定の基準と数量認定

器種認定については、本書を含む信濃町内旧石器時代編で統一をはかった。詳細については本章第4節を参照願いたい。しかしながら各遺跡、性格の違いにより細部については違いがある。それについては適宜断って使用する。

器種のカウントのうち、破片のとらえ方は以下の2つについて用いる。器種には接合してはほぼ完形になった場合、個体数としては1でカウントしようとする原則から、接合したうち1点をその器種名としてカウントし、他の接合した資料について「器種名+破片」とした。さらに接合でなくても、石器の先端や基部がごく一部しか残存していないものについても破片を用いた。

4. 石器石材の観察および母岩判別・接合作業

器種判別後、石器実測作業と並行しながら、母岩判別、接合作業を行った。

石器石材の特徴を観察し分類分析する方法が、旧石器時代の整理では通常に行われている。それを個別別資料分析という。個体の判別には、接合による同一個体の認定と、主に肉眼判別により認定している。そして個別別資料分析の有効性は主に2つがあげられる。ひとつは石器製作技術に関すること、もうひとつは遺跡の構造に関することである。貫ノ木・西岡A遺跡の整理でも、個別別資料分析を行うべく石材を判別した。本書では「個体」という用語のかわりに「母岩」を用いた。この「母岩」という語は、個別別資料分析研究のはじまりである砂川遺跡の報告書で用いられている「個体」と実質的には同義である。しかしながら、接合資料の中には、ひとつの母岩から複数の石核に分かれる、つまり複数の個体が存在することが明らかである。遺跡内の資料をすべて接合すれば個体の数も確定するはずであるが、実際にはそこまでの時間的余裕はなかった。したがって、複数の個体を含む群として母岩という用語を用いる。

実際の判別にあたって、破片については除外した。小さいため特徴の看取が困難であったためである。また、本来的には同一石器文化の中で行われるべきであったが、貫ノ木遺跡の場合、同一石器文化の認定が困難であったため、時期をこえて母岩判別作業を行った。従って、石材による大別をさらに詳細な石材の岩相（色調／含有物／粒度等）、若干の石器製作技術の特徴を加味して細別したというのが実態である。個体分類にいたる中間的なレベルの分類であるといえる。なお、黒曜石に関しては、破片を除き全点について原則として産地同定を行っているが、大量の点数であったため肉眼判別作業と産地分析が時間的に並行して行われたため、母岩が同一であっても産地は異なっているものが若干ある。

5. 礫の整理

礫の整理では、礫の計測・観察を行った後接合作業を行った。計測観察項目は以下のとおりである。材質／遺存度／礫の形状／赤化状態／付着物の状況／長さ／幅／厚さ／重量

6. 遺物の管理収納

遺物管理は、石器、礫の大別に従いそれぞれ収納している。

(2) 遺構の整理方法

遺構の整理は以下の手順で行った。

1. ブロックの認定

ブロックとは、遺物が集中して分布している箇所について用いる。ここでいう遺物とは旧石器時代遺跡であるので、石器（剥片・破片・石核・原石を含む）と礫である。ブロックの認定に関しては「遺物の分布上の視覚的まとまりに対して用い、分布上のまとまりということの他に意味をもたない。」という鈴木

志司氏の定義（鈴木1980）に基本的に則っている。無遺物の空間がありブロックが単独に存在しているような場合は認定に関してさほど問題はない。しかし貫ノ木・西岡Aの両遺跡はそのようなブロックはむしろ少なく、分布密度の疎密はあるものの、多くが調査区の広範囲にわたって分布し、ブロックの境界がわかりづらい状況にある。また、包含層の厚さも関東ローム層ほどは厚くないため、各時期の遺物が垂直的にも重複して出土する。したがって、認定されたブロックには複数石器文化の石器群が混在していることが前提となる。時間を限定できる器種については、ブロック内で分離することも可能であるが、剥片・碎片等にいたるまでの時期分けは困難である。

実際のブロックの切り分け方法は、トータルステーションによる単点測量で遺物はすべて3次元データとなっているので、コーディックシステム（写真測図研究所 長野）を用い、パーソナルコンピュータの画面上で行った。画面上の遺物ドットの疎な部分を結線してブロックを認定していった。画面上での遺物データの属性は器種別と石材別で試してみたが、ブロックの切り分けには石材別のほうが、効果的であった。平面分布ひとくくりとなったブロックは、それぞれ垂直分布でも分離できないことを確認した上でブロックと認定した。その後、母岩判別等の結果により、ブロックの境界に位置する遺物が若干移動したことはあるが、大きな変更はなかった。

2. 礫群の認定

遺跡内から出土した礫は、調査時に礫群として認定したもの（礫群礫）と、単独で出土したため、単点測量で取り上げたもの（単独礫）の2者がある。整理作業では、礫群礫と単独礫を画面上で重ね合わせ、平面分布および垂直分布を検討し、再認定を行った。そのことにより、調査時認定された礫群は、散漫な分布のため単独礫に変更、一部の礫が密集域から離れているので単独礫に変更したものが若干出土。また、平面的にも垂直分布も礫群にとりこまれる単独礫もあった。なお、礫群番号であるが、原則的に調査時の番号を踏襲した。そのため、平面的位置は番号順に並ばない、また欠番も生じている。単独礫は、上記のブロックとの平面・垂直分布を検討し、重なるものはブロック内礫として扱った。

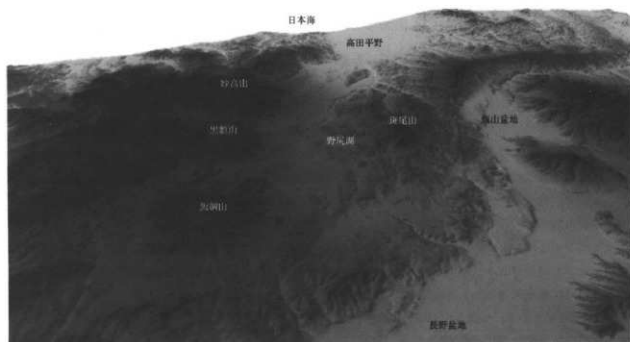
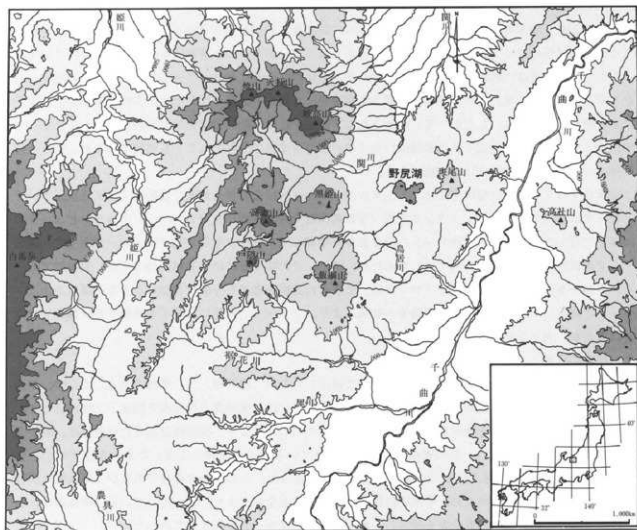
第3節 遺跡周辺の環境

1 遺跡の地理的環境（第3図参照）

野尻湖は長野県の北端の水上内郡信濃町にある。この湖の西側を中心に北西南東方向に約6km、北東南西方向に約4kmの範囲に旧石器時代から縄文時代草創期の38遺跡が集中しており、野尻湖遺跡群とよばれている。本書で報告する貫ノ木、西岡A遺跡も野尻湖遺跡群に含まれる。

野尻湖は日本海に面する高田平野と内陸の長野盆地との間にあり、古くから交通の要所となっていた。湖の西側には北から妙高、黒姫、飯綱の火山が並び、東側には斑尾山が存在し、これらの山々に囲まれている。水面標高は654m、面積は3.96haある。野尻湖の水は西岸の池尻川から流れ出し、関川を経て日本海へと注ぐ。鳥居川は遺跡群内から南西に向かって流れ、千曲川を経て日本海へと注ぐ。貫ノ木遺跡は関川、鳥居川両水系のちょうど分水嶺に当たる。西岡A遺跡は関川水系に当たる。

野尻湖周辺には火山の影響によりローム層が堆積している。主たる火山灰の給源とそれぞれの火山の活動期は次のとおりである（地学団体研究会1996）。飯綱火山の活動期は約34万年前と約20万年～15万年で、約6万年前に水蒸気爆発を2回起こしている。黒姫火山の活動開始年代は約25万年前で最新のマグマ噴火は約4.3万年前である。妙高火山の活動開始年代は約30万年前で、最新のマグマ噴火は約4,200年前である。斑尾山火山の活動開始年代は約3,000年前で現在も活動中である。斑尾山は約70万年前と55万年前ごろに



第3図 野尻湖遺跡群の地形

活動をしていた。したがって、上部旧石器時代には飯綱、黒姫、斑尾火山はすでに休止しており、活動していた火山は妙高火山ということになる。また、焼山の活動は縄文時代以降となる。

野尻湖は約7～6万年前に起こったと思われる黒姫山からの池尻川泥流が、斑尾山西麓からの川を堰止めたことによって誕生した。その後湖西側の仲町丘陵の隆起と湖東側の沈降により、形を変化させながら現在の野尻湖へとになっていく。貫ノ木遺跡の北西部にある池尻川低地は後期旧石器時代には野尻湖の一部であったことが確認されている。

野尻湖周辺は丘陵地帯となっている。旧石器時代の遺跡は丘陵の様々な場所に立地している。丘陵頂部、中腹の緩斜面やテラス状の場所、丘陵の裾部など比較的平坦な地形に遺跡が形成される場合が多い。また、現在の水田域となっている部分の多くが、かつては池や湖、湿地であったことが確認されており、野尻湖以外にも多くの水場が存在していたこととなる。これらの丘陵地形と水場環境の良さから、多くの狩猟対象動物が生息していたと考えられる。これら丘陵地帯では隆起・沈降が激しく旧石器時代には現在の地形とはかなり異なった様相を示していたと思われる。7～6万年前頃の野尻湖底堆積物である貫ノ木層が貫ノ木遺跡において約50mの比高差が確認されており、1万年で10m近く隆起していたことになる。したがって、旧石器時代の人々が活動していた当時は、現在の地形よりも起伏が緩やかであったと考えられる。

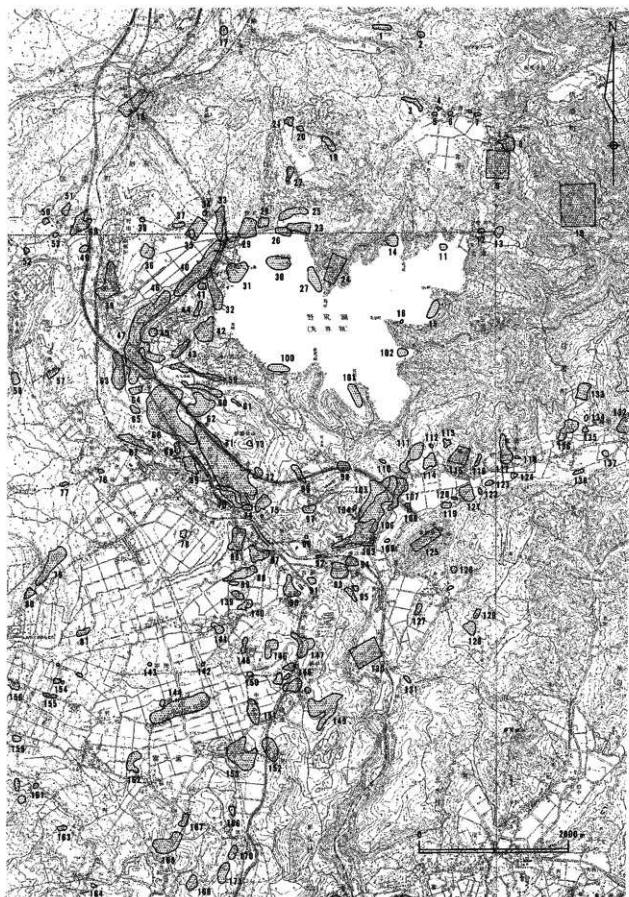
2 遺跡の歴史的環境

野尻湖はナウマンゾウの化石が湖底から発見されたことがきっかけとなり、古くから学術調査が行われてきた。近年になって、町教育委員会や県教育委員会（埋文センター）により数多くの遺跡が調査されるようになり多大な成果があがってきている。それらの調査の経過について、信濃町立ナウマンゾウ博物館により簡潔にまとめた年表があるので、第1表に転載した。特にこの2～3年の発掘調査の成果は著しく、現在それらの整理が進められている中で、遺跡群の評価は刻々と変化しているが、現時点では以下のようまとめられよう。

現在確認されている野尻湖周辺における最古の人類遺跡は立が鼻遺跡であり、中期旧石器時代（約5～4万年前）に相当する（野尻湖周辺の発掘調査経過については第2表参照）。立が鼻遺跡からは、ナウマンゾウなどの動物化石と共に石器や骨角器などが出土している。立が鼻遺跡以外では仲町遺跡で確認されているが、こちらも湖成層からの出土であり、陸上の風成層からはまだ確認されていない。

後期旧石器時代に入ると遺跡が激増し、野尻湖遺跡群が形成されるようになる。全国的に見ても遺跡数は多く、遺跡規模は高い遺跡群となっている。また、石器組成も特徴的で、1遺跡から1～数点の出土が一般的であった斧形石器を多量に組成する遺跡が多く存在する。また、斧形石器の研磨に用いたと思われる砥石も同じ遺跡内から発見されている。台形石器も大量に出土しており、その形態も他地域のものと比較すると大形で斉一性の高いものとなっている。また、ナイフ形石器も多く存在する。同一時期と思われる遺跡間においても斧形石器、台形石器、ナイフ形石器の組成が異なる点も注目される。

約2.5～2.4万年前の始良丹沢火山灰（AT）降灰以後も多くの遺跡が存在している。また、系統が異なると思われる複数の石器群が存在するようになる。裏ノ山遺跡や東裏遺跡では黒曜石やチャート、無珪晶質安山岩などを石材とし、2側縁加工のナイフ形石器や槍先形尖頭器、搔器などを主な組成とする石器群が、貫ノ木遺跡第1地点やセツ栗遺跡では珪質頁岩や珪質凝灰岩、無珪晶質安山岩を主な石材とし、基部加工のナイフ形石器、彫器を組成する石器群が、西岡A遺跡では無珪晶質安山岩を主な石材とし横長刺片を素材とするナイフ形石器を特徴とする石器群などが存在し、中には九州地方にみられるような刺片尖頭器や台形石器を組成する石器群もある。それぞれの石器群がある程度の時間幅をもって登場し、異なる系統の石器群が同時期に存在していた可能性も高いと考えられる。



第4図 野尻湖周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世	近世
1	鹿沢A	古高・鹿沢							
2	鹿沢B	古高・鹿沢							
3	鹿沢C	古高・鹿沢							
4	鹿沢D	古高・鹿沢							
5	鹿沢E	古高・鹿沢							
6	鹿沢F	古高・鹿沢							
7	林野	古高・林野							
8	花ヶ入	古高・花ヶ入							
9	古高城跡	古高・城ノ入							
10	宮川A	古高・宮川							
11	宮川B	古高・宮川							
12	宮川C	古高・宮川							
13	寺前	古高・寺前							
14	清原	古高・清原							
15	新久保	古高・新久保							
16	丸木寺出土地	古高・世野の内久保							
17	山手	野原・山手							
18	赤川城跡	野原・赤川							
19	大木道A	野原・大木							
20	大木道B	野原・大木							
21	大木道C	野原・大木							
22	大木道D	野原・大木							
23	野原城跡	野原・城ノ入							
24	家老殿跡	野原・家老							
25	城ノ入	野原・城ノ入							
26	城ノ入	野原・城ノ入							
27	家ノ尾	野原・家ノ尾							
28	田野尾湖中学校	野原・田野							
29	杉久保	野原・杉久保							
30	高保	野原・高保							
31	立保	野原・立保							
32	藤保	野原・藤保							
33	川久保	野原・川久保							
34	土橋前	野原・土橋							
35	小丸山土橋城跡	野原・小丸山							
36	向新田	野原・向新							
37	向新田	野原・向新							
38	向新田	野原・向新							
39	清明白	野原・清白							
40	仲野	野原・仲野							
41	納山北	野原・納山							
42	風久保	野原・風久保							
43	納山A	野原・納山							
44	納山B	野原・納山							
45	納山C	野原・納山							
46	納山D	野原・納山							
47	真ノ木	野原・真ノ木							
48	真光山井A	野原・真光山							
49	真光山井B	野原・真光山							
50	下山家A	野原・下山							
51	下山家B	野原・下山							
52	下山家C	野原・下山							
53	下山家D	野原・下山							
54	駒爪	野原・駒爪							
55	上山家A	野原・上山							
56	上山家B	野原・上山							
57	瑞穂A	野原・瑞穂							
58	瑞穂B	野原・瑞穂							
59	太久保A	柏原・太久保							
60	太久保B	柏原・太久保							
61	太久保C	柏原・太久保							
62	太久保南	柏原・太久保							
63	西岡A	柏原・西岡							
64	西岡B	柏原・西岡							
65	上ノ原	柏原・上ノ原							
66	城ヶ丘	柏原・城ヶ丘							
67	城ヶ丘	柏原・城ヶ丘							
68	野尻岡団地	柏原・野尻岡							
69	小丸山公園	柏原・小丸山							
70	浅沼	柏原・浅沼							
71	家ノ山	柏原・家ノ山							
72	伊勢山山	柏原・伊勢山							
73	東家城跡	柏原・東家							
74	藤倉	柏原・藤倉							
75	新田川	柏原・新田川							
76	五輪堂	柏原・五輪堂							
77	仁之倉	柏原・仁之倉							
78	仁之倉	柏原・仁之倉							
79	仁之倉	柏原・仁之倉							
80	仁之倉	柏原・仁之倉							
81	長木A	柏原・長木							
82	長木B	柏原・長木							
83	長木	柏原・長木							
84	鳥居川第1遺跡	柏原・鳥居川							
85	上原	古高・上原							
86	上原	古高・上原							

番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世	近世
87	一里家	古高・一里家							
88	陣地A	古高・陣地							
89	陣地B	古高・陣地							
90	小高岡	古高・小高岡							
91	小高岡	古高・小高岡							
92	吹野原A	古高・吹野原							
93	吹野原B	古高・吹野原							
94	山手	古高・山手							
95	山手	古高・山手							
96	大平	古高・大平							
97	大平	古高・大平							
98	針ノ木	古高・針ノ木							
99	針ノ木	古高・針ノ木							
100	砂原	古高・砂原							
101	砂原	古高・砂原							
102	宮沢	古高・宮沢							
103	藤助ノ原	古高・藤助ノ原							
104	藤助ノ原	古高・藤助ノ原							
105	日向林A	古高・日向林							
106	日向林B	古高・日向林							
107	七ヶ丘	古高・七ヶ丘							
108	七ヶ丘	古高・七ヶ丘							
109	大木	古高・大木							
110	大木	古高・大木							
111	大木	古高・大木							
112	大木	古高・大木							
113	大木	古高・大木							
114	高瀬	古高・高瀬							
115	高瀬	古高・高瀬							
116	高瀬	古高・高瀬							
117	高瀬	古高・高瀬							
118	高瀬	古高・高瀬							
119	高瀬	古高・高瀬							
120	高瀬	古高・高瀬							
121	高瀬	古高・高瀬							
122	高瀬	古高・高瀬							
123	高瀬	古高・高瀬							
124	高瀬	古高・高瀬							
125	高瀬	古高・高瀬							
126	高瀬	古高・高瀬							
127	高瀬	古高・高瀬							
128	高瀬	古高・高瀬							
129	高瀬	古高・高瀬							
130	高瀬	古高・高瀬							
131	高瀬	古高・高瀬							
132	高瀬	古高・高瀬							
133	高瀬	古高・高瀬							
134	高瀬	古高・高瀬							
135	高瀬	古高・高瀬							
136	高瀬	古高・高瀬							
137	高瀬	古高・高瀬							
138	高瀬	古高・高瀬							
139	高瀬	古高・高瀬							
140	高瀬	古高・高瀬							
141	高瀬	古高・高瀬							
142	高瀬	古高・高瀬							
143	高瀬	古高・高瀬							
144	高瀬	古高・高瀬							
145	高瀬	古高・高瀬							
146	高瀬	古高・高瀬							
147	高瀬	古高・高瀬							
148	高瀬	古高・高瀬							
149	高瀬	古高・高瀬							
150	高瀬	古高・高瀬							
151	高瀬	古高・高瀬							
152	高瀬	古高・高瀬							
153	高瀬	古高・高瀬							
154	高瀬	古高・高瀬							
155	高瀬	古高・高瀬							
156	高瀬	古高・高瀬							
157	高瀬	古高・高瀬							
158	高瀬	古高・高瀬							
159	高瀬	古高・高瀬							
160	高瀬	古高・高瀬							
161	高瀬	古高・高瀬							
162	高瀬	古高・高瀬							
163	高瀬	古高・高瀬							
164	高瀬	古高・高瀬							
165	高瀬	古高・高瀬							
166	高瀬	古高・高瀬							
167	高瀬	古高・高瀬							
168	高瀬	古高・高瀬							
169	高瀬	古高・高瀬							
170	高瀬	古高・高瀬							
171	高瀬	古高・高瀬							
172	高瀬	古高・高瀬							

第1表 野尻湖周辺遺跡一覧

第1章 調査の概要

年度	野尻湖の発掘	宿置町内の発掘	高遠遺跡の発掘	おもなできごと
1948(昭23)	ナウマンゾウの化石発見			
1953(昭28)		杉久保遺跡の石器、旧石器と判明		
1958(昭33)		二ヶ倉遺跡(開闢)		
1962(昭37)	☆野尻湖発掘始まる 第1次野尻湖発掘	杉久保遺跡		ナウマンゾウ、オオツノシカ化石を発見
1963(昭38)	第2次野尻湖発掘	伊勢見山遺跡(国学院大学) 杉久保遺跡		野尻湖発掘、C14年代測定と花粉分析によるウルム文化期の確認
1964(昭39)	第3次野尻湖発掘	杉久保遺跡		はじめて石器(新玉)を発見
1965(昭40)	第4次野尻湖発掘	杉久保遺跡 荻原島遺跡		ナウマンゾウの歯骨の一部を発見
1966(昭41)		杉久保遺跡(駐車場)		
1967(昭42)		黒久保遺跡(町道)		
1973(昭48)	第5次野尻湖発掘			「月と星」の発見
1974(昭49)	74年3月湖底調査 74年10月神町調査			
1975(昭50)	第6次野尻湖発掘			ビーナス像(?)の発見
1976(昭51)	第1回陸上発掘(神町)			
1977(昭52)		神町(水道工事)		
1978(昭53)	第7次野尻湖発掘			ナウマンゾウの胎骨を発見
1979(昭54)	第2回陸上発掘(神町)			基礎跡でナウマンゾウの牙を発見 神町遺跡で縄文早期期の土坑墓を発見 台形状のナイフ形石器発見
1981(昭56)	第8次野尻湖発掘			「ヤリ状木器」、青銅ステイパーの発見 2.4mのナウマンゾウの骨発見 埴輪出土品の発見
1982(昭57)	第3回陸上発掘(神町、向新田)			丸石の確認
1984(昭59)	第9次野尻湖発掘			丸石の確認
1985(昭60)	第4回陸上発掘(神町、向新田、照月台、貫ノ木)		大久保南遺跡【土取り】	向新田遺跡で縄石器文化確認
1987(昭62)	第10次野尻湖発掘			物置タリバー発見
1988(昭63)	第5回陸上発掘(貫ノ木)			礎石と配石を伴う生活跡を確認 丸石地遺跡で平安時代の住居跡を発見 氷積層跡、線などが出土
1989(平1)		☆町教育委員会の調査始まる 丸石地遺跡(町道) 大遠下遺跡(町道)		
1990(平2)		第11次野尻湖発掘	大遠下遺跡(会社事務所) 上ノ原遺跡(開拓) 杉久保遺跡(町営トイレ) 一草塚遺跡(町道) 丸石地遺跡(町道)	第11次発掘でナウマンゾウの足跡化石を確認 上ノ原遺跡で5基が並んだ石割が発見
1991(平3)	第6回陸上発掘	貫ノ木遺跡(保管所) 大遠下遺跡(土取り) 丸石地遺跡(資材置場) 赤川遺跡(国道18号)		陸上発掘でナウマンゾウの化石発見
1992(平4)		貫ノ木遺跡(保管所) 東原遺跡(町道) 役屋敷遺跡(店舗) 赤川遺跡(国道18号) 比羅遺跡(干場)		貫ノ木遺跡で扇形磨製石斧4点や特殊な尖頭器を発見
1993(平5)	第12次野尻湖発掘	東原遺跡(特別安葬老人ホーム) 東原遺跡(宅地造成) 上ノ原遺跡(町道) 毛無遺跡(町道) 西岡B遺跡(宅地造成) 七ツ茶遺跡(県道)	☆高遠遺跡建設に伴う発掘調査始まる 日内林B遺跡 日内林B遺跡 セツ茶遺跡 東原遺跡 貫ノ木遺跡 菅光田遺跡	日内林B遺跡で石斧41点出土 上ノ原遺跡で杉久保型ナイフ形おび多数出土 東原遺跡(町)瀬戸内系の石器群が出土 東原遺跡(県)で「割片尖頭器」出土
1994(平6)	第7回陸上発掘(神町)	東原遺跡(町道) 七ツ茶遺跡(奥道) 日内林B遺跡(宅地) 貫ノ木遺跡(宅地) 北野東B遺跡(町道) 山根遺跡(広域農道) 高山遺跡(ゴルフ場) 市成遺跡(ゴルフ場)	七ツ茶遺跡 内林B遺跡 大平B遺跡 狭ノ山遺跡 東原遺跡 上ノ原遺跡 貫ノ木遺跡 西岡A遺跡	陸上発掘で野尻湖文化の石器多数発見 貫ノ木遺跡(県)で砥石8点出土 山根遺跡で発生土層が多数出土
1995(平7)		大久保南遺跡(県道) 上ノ原遺跡(ガソリンスタンド) 上ノ原遺跡(防犯帯) 役屋敷遺跡(倉庫跡対策) 山根遺跡(広域農道) 市成遺跡(ゴルフ場) 清永久保遺跡(ゴルフ場) 上ノ原遺跡(奥道) 上ノ原遺跡(宅地)	七ツ茶遺跡 日内林B遺跡 東原遺跡 大久保南遺跡 上ノ原遺跡 西岡A遺跡 星光山荘B遺跡	大久保南遺跡(県)で黒曜石の石核が3点出て出土 市成遺跡で縄文土器など24,000点以上出土 星光山荘遺跡で神子梨形石斧など出土 上ノ原遺跡(町)で、瀬戸内系の石器群が多数出土
1996(平8)	神町遺跡、立が鼻遺跡で地質調査	吹ノ原A遺跡(広域農道) 山根遺跡(広域農道) 大久保南遺跡(県道) 七ツ茶遺跡(町道) 大遠下遺跡(橋立て) 東原遺跡(町道)	貫ノ木遺跡	上ノ原遺跡で瀬戸内系石器群が2つの地層から出土 吹ノ原A遺跡で砥石群が出土 山根遺跡で発生土層の住居跡が出土 大遠下遺跡で縄文早期の土器が多数出土
1997(平9)	第13次野尻湖発掘 神町遺跡、立が鼻遺跡で地質調査	吹野東A遺跡(広域農道) 上ノ原遺跡(町道) 貫ノ木遺跡(ガスパイプ) 東原遺跡(町道) 上ノ原遺跡(町道) 照月台遺跡(店舗) 役屋敷遺跡(駐車場)		上ノ原遺跡で砥石と石斧素材がおかれた状態で出土 東原遺跡で瀬戸内系の石器群が出土 照月台遺跡で古平の杉久保型ナイフと小形の石器群が出土 吹ノ原A遺跡で大型の石鏡が出土

第2表 野尻湖周辺遺跡調査一覧

後期旧石器時代終末期になると、前時期に比べ遺跡数、規模ともに減少する傾向にある。細石器石器群、大形両面調整尖頭器や局部磨製石斧を伴ういわゆる神子柴采石器群がこれにあたる。ただ、顕著な石器製作を伴う遺跡はみられないが、単発的な出土はどの遺跡にもみられるというのが、特徴的である。

縄文時代草創期にも人間の生活の跡が確認される。星光山荘B遺跡では隆起線土器片とそれに伴う石器類が多量に発見されており、そのほかにも爪形土器を出土する遺跡などいくつかの遺跡が確認されている。表裏縄文土器の出土量は特に多い。その後、縄文時代前期頃までの遺物は多く発見されているが、中期以降になると少なくなり遺物が断片的に出土する程度になる。現在のところ縄文時代遺跡からの住居跡の発見はなく、土坑や落とし穴、集石遺構などが残されているのみである。

弥生時代・古墳時代の遺跡は非常に少なく、断片的に土器片などが出土するのみである。

平安時代になると再び遺跡数が増える。大規模な集落は発見されていないが住居が数件でいどの小規模な遺跡が点在するようになる。

中世には野尻湖周辺に集落が点在するようになる。また、高田平野から長野盆地を結ぶ経路となっていたようだ（各遺跡の位置、時期については第4図、第1・2表を参照）。

引用・参考文献

- 赤羽貞幸 1996 「野尻湖の生い立ちとその変遷」『アーバンクボタ』35
 酒井潤一 1996 「野尻湖と最終氷期の研究」『アーバンクボタ』35
 信濃町誌編纂委員会 1968 「信濃町誌」
 地学団体研究会編 1996 「新版地学辞典」平凡社
 野尻湖人類考古グループ 1994 「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告』第2号

第4節 石器の器種分類

本書で行った石器の器種分類の基準を以下に示す。

(1) ナイフ形石器

剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器をさす。(2)の台形石器もこの定義にあてはまるが、全体の形状で、先端を尖らせているものをナイフ形石器とした。

(2) 台形石器

剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器のうち、石器長軸（主軸）に直交もしくは斜交する刃部をもつ石器。基本的にはナイフ形石器の1種と考えるが、特徴的に存在しているため、器種を分けた。AT降灰以前の時期を代表する器種の「台形様石器」の一部や、AT降灰以降の「切出形石器」や「台形石器」と呼称されていた石器を含む。

(3) 槍先尖頭器

主として平坦な加工により先端および周縁が作り出されている石器。柳葉形、木葉形、広葉形をしているものが多い。加工は先端部のみではなく、器体全体に及ぶ。平坦な剝離により面的に加工されるものと、ブランディングにより周縁が加工されるものがある。

(4) 斧形石器

主として平坦な加工が施され、石器の長軸に直交するような刃部を持つ石器。刃部には研磨が施されるものが多い。従来、「局部磨製石斧」と呼ばれているものがこれに含まれるが、研磨の認められないものや、用途が木材の伐採以外にもあったと考えられる点から斧形石器という呼称を用いる。

欠損しているものについても、接合がなく素材からの両側縁への加工が認められる場合は1点として認定している。剥離後に加工が認められないものは調整剥片、そこに研磨面が認められるものについては刃部剥片として捉えている。

(5)石刃

目的をもった技法により連続して剥離された両側縁が平行する縦に長い石器。平面形は似ていても偶発的に剥離されたものや、剥離に連続性が認められないものは縦長剥片としこれと区別する。また、組成表中の石刃には両付き剥片も含まれカウントされている。

(6)貝殻状刃器

鋭い縁辺と切り立った側縁を持つ石器。「台形椋石器」と呼称されている石器の一部。明瞭な加工は少なく、数回の剥離、折れ面、切断面、打面、素材末端などのきりたった面で1以上の側縁が形成される。2次加工のある剥片との区別が難しいが、長幅比が1:1に近く平面形が台形もしくは円形を呈しており、かつ刃部に使用痕と思われる微細剥離が認められるものをこれにした。

(7)掻器

連続する加工により、厚い刃部が作り出されている石器。平面形は円形、拇指状を呈するものが多い。刃部の角度が45度以上のものを掻器、以下のものを削器とし分別することとする。

(8)掻器状石器

加工によって比較的急角度の刃部が作り出されているもので、平面形が円形もしくは台形を呈する。従来「台形椋石器」とよばれていたものの中で、連続する加工による刃部が認められるものをさす。「ウワグイラ型台形石器」(白石1978)、「立野ヶ原型ナイフ形石器」(麻柄1986)と呼ばれていたものの多くがこれに属する。

(9)削器

連続する加工による刃部を持つ石器。形態や加工は様々である。

⑩挿入削器

削器のうち刃部がノッチ状になるものをさす。

⑪鋸歯縁状削器

連続する強い加工や平坦な加工により、鋸歯縁状の刃部が作り出されている石器。複数のノッチ部によるベックと呼ばれている石器などもここに含む。

⑫厚刃掻器

打面や折れ面などの切り立った縁辺から加工を施し、90度に近い角度の刃部が作り出されているもの。

⑬角錐状石器

断面形が三角形を呈し、素材の腹面側から平坦な加工が施され、背面中央に1条の稜が作り出されている石器。断面形が三角形を呈し、素材の腹面側から平坦な加工が施され、背面中央に1条の稜が作り出されている石器。

⑭細石刃

目的を持って連続的に剥離された小形の石刃。石器自体にはほとんど加工が施されないが、組み合わせ道具として用いられたと考えられている。

⑮細石核

細石刃が剥離された石核。

⑯彫器

極状剥離によって作り出された彫刻刀面を持つ石器。

07削片

楯状剥離によって剥がされた剥片。

08捺錐器

2 側縁もしくは 1 側縁の加工により錐状の先端部が作り出されている石器。

09楔形石器

相対する 2 端に反対向からの剥離が認められる石器。

10 2 次加工のある剥片

器種としての認定ができなかったが、2 次加工が認められる剥片。

11 微細剥離のある剥片

使用痕の可能性の高い微細な剥離が認められる剥片。

12 剥片

石核などから打ち剥がされた石片。

13 砕片（チップ）

剥片剥離や加工時に出る非目的な細かい石屑。剥片との厳密な区別が難しいために、本報告では約 1 cm の長さを基準とし、それより小さいものを砕片とした。

14 石核

剥片を剥ぐための母体、または剥いだあとの石塊。

15 機器

礫を素材とし、粗い加工によって刃部が作り出されている石器。チョッパー、チョッピングツールが該当する。

16 敲石

敲打痕が認められる石器、ハンマー。

17 磨石

磨面のある石器。

18 砥石

砥ぎ面のある石器。

引用・参考文献

- 安齋正人1988「斜軸尖頭石器器群からナイフ形石器器群への移行—前・中期/後期旧石器時代過渡期の研究」『先史考古学研究』第1号
- 佐藤宏之1988「台形棒石器研究序説」『考古学雑誌』第73巻第3号
- 白石浩之1978「西南日本におけるナイフ形石器終末期の予察」『神奈川考古』第3号
- 麻栢一志1986「いわゆる立野ヶ原型ナイフ形石器の基礎的整理」『旧石器考古学』33

第2章 貫ノ木遺跡

第1節 遺跡と調査の概要

1 遺跡の概要

貫ノ木遺跡は、長野県上水内郡信濃町大字野尻字貫ノ木1461他に所在する。本遺跡は野尻湖の西から南西方向に次第に標高を増していく仲町丘陵の最南端に位置する。野尻湖までの距離は約2kmほどである。遺跡内は北流して日本海に注ぐ関川水系と一度南流して千曲川に注ぐ鳥居川の分水嶺にあたり、標高は700mから730mと比高をもち、小丘陵と低地が複雑に入り込んだ地形が存在する。

遺跡地は土取場等によって形成された崖面が多く、野尻湖発掘調査団により地層の観察がよく行われてきており、「貫ノ木層」という神山ローム層に対比される水成層の模式地となっている。土層観察の折に崖面より石器が発見されており、A・B・Cの3地点が以前より確認されていた（野尻湖発掘調査団1975）。

発掘調査は野尻湖調査団により1985年（A・B地点）と1988年（B地点）の2回、信濃町教育委員会により1991年～1992年にかけてC地点が、1995年にB地点が緊急調査されており、約3万年前以降の上部旧石器時代の文化層が5枚確認されていた（野尻湖人類考古グループ1987、同1990、渡辺・中村1993、信濃町教育委員会1996）。

上記のような過去の調査の結果から、遺跡の広がり、文化層の数とも野尻湖周辺の旧石器時代遺跡群のなかでも最大級の遺跡であることがわかっていった。

引用・参考文献

信濃町教育委員会 1995 「貫ノ木遺跡・日向林B遺跡（個人住宅地点）発掘調査報告書」

2 遺跡の地点呼称

前節でも述べたように、貫ノ木遺跡は過去の調査歴が多い。それぞれ地点名もつけられている。過去の調査を列挙すると以下のようである。

A地点 1985年、野尻湖発掘調査団調査

B地点 1985・1988年 野尻湖発掘調査団調査

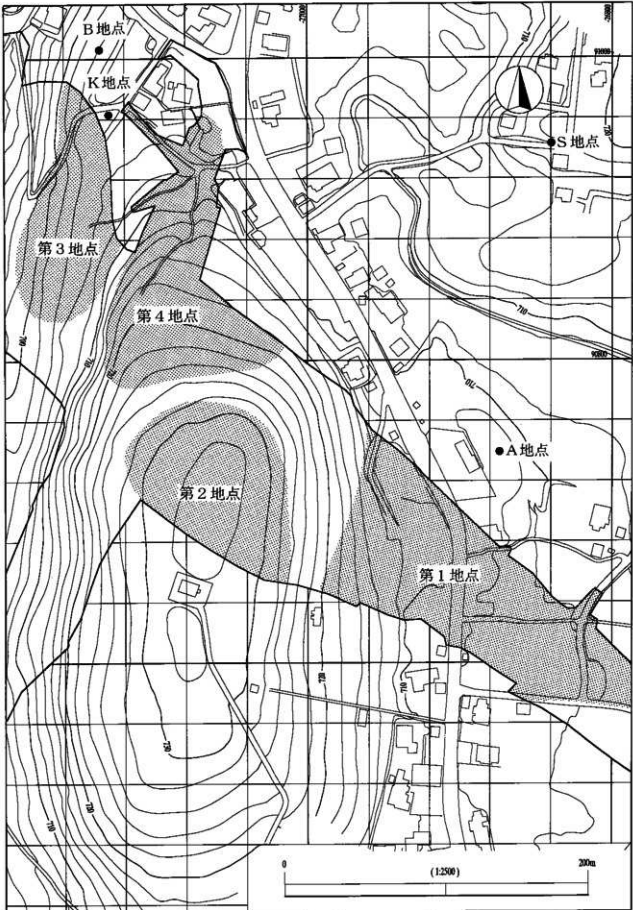
誠文堂地点 1991・1992年 緊急調査 信濃町教育委員会 S地点とする。

金氏住宅地点 緊急調査 信濃町教育委員会 K地点とする。

帝国石油パイプライン地点 緊急調査 信濃町教育委員会

A・B地点については、野尻湖発掘調査団による命名による。それ以外は町教委の緊急調査原因により地点名がつけられてきた。これらの経緯から、高速道・バイパス事業にかかる長野県埋蔵文化財センターによる調査は、高速道等地点とし、略称をH地点とするが、本書中では省略する。

今回の調査対象区は非常に面積も広く、また地形的にも変化に富んでいるため、この高速道等地点をさらに1～4地点までに分けた。この地点は通常の遺跡の単位にあたるものと考えている。発掘調査もおお



第5図 貫ノ木遺跡の調査地点と地形

むねこの地点ごとに行われた。各地点は以下の通り。

第1地点 貫ノ木遺跡の東端で、上ノ原遺跡が隣接する。やや北東に向かって傾斜しているが比較的平坦な微高地。国道18号が中央を走っている。

第2地点 標高730mを測る貫ノ木遺跡では最高位にある地点。東に第1地点、北に第4地点、西に第3地点を臨むことができる。

第3地点 遺跡西端に位置し、西向き傾斜の狭いテラス状の台地。仲町丘陵の西南端にもあたり、テラスの下は20mの急傾斜地になる。

第4地点 第2地点北端から比高10mほどの傾斜地をへて、北向きの平坦面が本地点である。高速道本線部分に接しバイパス用地が続き、発掘調査も同時に行われた。

3 調査の概要

(1) 調査範囲と調査方法

貫ノ木遺跡の調査対象範囲は広大であったため高速道の調査は、平成5～7年度まで3年間行われた。地点ごとによる調査期間は(第3表)を参照していただきたい。

平成5年度の調査 高速道が通過する貫ノ木遺跡の範囲は山林部が多く、遺跡の範囲、内容ともに詳細が不明であったことは前章でもすでに述べたところである。県教育の試掘調査により調査を必要とする遺跡の範囲については概ねとらえられたというものの、遺物の出土層位、包蔵量などの内容については不明であったため、はじめに、第2地点および第4地点に重機によりトレンチを入れ、包含層の確認を行った。その結果に基づき、第4地点は面的調査に移行した。第2地点(頂上部)も遺物が全体にみられたためトレンチの幅を広げ、一部2×2mの試掘坑を設定し包含層の確認調査を行った。本年度はさらに第2地点の北から東の急傾斜地にもトレンチを入れ、遺物が検出されないことを確認した。

平成6年度の調査 工事工程の都合上、西側からの調査終了を要請されたため、第3地点から調査を開始した。方法は、重機によりトレンチを入れ、遺物の平面的広がりや包含層を確認し、面的調査に移行した。第3地点と並行して第4地点も西側から面的調査に入った。本地点については昨年度調査で遺物の包含層が判明していたため、直接表土剥ぎを行った。第1地点は家屋等があり県教委の試掘ができなかった範囲である。遺物が若干表面採集されているだけの状況であったため、遺物の包含は希薄であると思われる。国道を挟んで東側は土層の堆積も薄く、またすぐに出水があり、トレンチ調査で終了した範囲が多かった。一方国道の西側には良好な包含層がとらえられた。

地点	平成5年度												平成6年度												平成7年度												平成8年度	
	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	11	12	6	7											
1																																						
2																																						
3																																						
4																																						

第3表 貫ノ木遺跡発掘調査工程表

平成7年度の調査 本年度は一連の調査の最終年度となる。第1地点は、昨年度家屋があったため調査できなかった、国道18号線東地区と国道の反対側で、第1地点では最西部にあたる第2地点の斜面直下の2地区を調査した。第2地点は、平成5年度の試掘により、平坦部ほぼ全域に遺物の分布が予想され、また、出土層位も第III層上面（漸移層）からすぐに旧石器が出土することが明らかになっていたため、全面的に重機により第III層直上まで剥ぎ取った後、4×4mの範囲に2×2mの試掘坑を人力により入れる方法をとった。試掘坑は遺物の出土状況により順次拡張していった。結果的には平坦部はほぼ全面的に面的調査範囲となった。第4地点の高速道用地部分はすでに昨年度の調査で終了しており、本年度はそれに隣接するバイパス用地部分の調査をおこなった。調査区が隣接しているため調査方法は前年度を踏襲した。

(2) 調査経過

平成5年度

6月21日	上信越自動車道関係の調査開始。第4地点のトレンチ調査から入る。	8月5日	第2地点、III層上面を精密、全面的に遺物（剥片）が散見される。
7月6日	第4地点、本日より人力による発掘作業に入る。	8月10日	第2地点、8×8mの範囲に2×2mの試掘坑をいれる調査を開始する。平坦部の遺物は多く、ひとつの試掘坑で20～30点の遺物が出土する。
7月22日	砥石出土。	8月24日	第2地点、作業員による試掘調査終了。
7月28日	頂上部（第2地点）表土剥ぎ開始。南側の用地境にそって、約10m幅でI・II層を除去。	10月9日	現地説明会
7月29日	同志社大学松藤和人助教授指導。	11月19日	平成5年度の発掘調査終了。
8月3日	文化庁記念物調査課岡村道雄主任調査官視察。		

平成6年度

4月21日	平成6年度調査開始式。第3地点のすでに表土剥ぎは1週間前からは行っており、作業員によるIII層上面からの精密をはじめる。	9月9日	第4地点、遺物の出土量多く、トータルステーションによる遺物の取り上げはVI-R区だけで547点にも及んだ。
5月23日	第3地点、III層（漸移層）からIV層上面に進すると遺物量は増し、すぐに斧形石器や砥石が検出される。	10月3日	第1地点、国道18号線東側地区のトレンチ調査に入る。
6月6日	第3地点、全面的に第IV層の精密に入る。	10月13日	第4地点、調査区を北西から南東に走る断層をVa層上面で検出し、地形測量を行う。
6月22日	第3地点、埋没谷の脇より、長さ40cmにもおよぶ大形の砥石出土する。	10月17日	第1地点国道18号線西側地区の調査に入る。
7月13日	第4地点（VI-R区）の重機による表土剥ぎ開始。	10月24日	第1地点国道18号線東側地区のトレンチ調査により遺物の出土した地点の面的調査に入る。
7月19日	第4地点、III・IV層の精密開始。	11月1日	第4地点、旧石器時代遺物出土状況の空撮を実施。第2地点北西斜面部（第2と第4地点の中間部）の調査に入る。
7月31日	貫ノ木・日向林B・裏の山の3遺跡合同現地説明会	11月16日	信越放送テレビ取材
8月8日	第2地点の南西部において、西岡A遺跡との境を確認するため、斜面部の重機によるトレンチ調査開始。	11月22日	第1地点国道18号線西側地区、埋没谷部分に遺物が集中する。ナイフ形石器の出土量が極めて高い。
8月23日	8日からの重機によるトレンチ調査終了。斜面部で旧石器の包含層は確認されなかった。	11月30日	第4地点、平成6年度発掘調査終了。
8月25日	第4地点、空撮・空撮を実施。	12月6日	昨日よりの積雪1mを測る。雪かきをしての発掘調査。第1地点、国道18号線西側地区の調査終了。
9月7日	第3地点の調査を終了する。		

第2章 貫ノ木遺跡

12月9日 第2地点と第4地点の斜面部調査を終了。これをもって平成6年度発掘調査分を終了する。なお

第2地点は一部表土を剥いだ状態で来年度に調査をする。

平成7年度

4月5日 平成7年度の調査を開始する。第1と第2の地点を並行して調査する。
4月10日 第2地点、頂上平坦部はIII層から全面的に遺物が出土する。
4月14日 第2地点、石器・石片とともに礫の出土も非常に多いため、8mメッシュのグリッドを設定し、礫は手測で記録をすることにする。
5月7日 第1地点国道18号線東地区調査終了。引き続き国道西側地区に入る。
5月18日 第2地点、磨石出土。
5月29日 明治大学安藤政雄教授指導。
6月5日 第1地点国道18号線西地区深掘りをするが、遺物の出土はなかった。第1地点の調査はすべて終了。
6月7日 文化庁記念物課岡村道雄主任調査官視察。
6月9日 第2地点、作業員を約30名増強し、100名態勢

にして、調査の迅速化をはかる。

7月10日 第4地点(バイパス用地内)、重機による表土剥ぎ開始する。
7月12日 新潟～長野県北部にかけて集中豪雨により、道を崩壊、家屋浸水など多大な被害をこうむるが、幸いにして、遺跡は調査区が若干水没した程度で大きな被害はなかった。
7月17日 第2地点、器材を撤収して完全調査終了する。これをもって高速道用地内の発掘調査はすべて終了する。
7月18日 第4地点、人力による精査開始する。以降11月末日まではバイパス用地内の発掘調査。
7月28日 長野県遺跡指導委員会視察および現地指導。
9月14日 四県会議現場視察。
11月30日 撤収、平成7年度調査終了。

平成8年度(参考:国道18号線バイパス関連調査)

6月5日 バイパス本線へのアクセス道の調査開始、第4地点にあたる。面積は約200㎡。
6月7日 IV層まで掘り下げる。土器、槍先形尖頭器出土する。
6月27日 Vb層の精査、遺物多数出土する。
6月28日 礫群1基を検出。
7月3日 調査区北壁にてVb層から焼土層?を確認。

7月10日 焼土層の記録、検討。
7月12日 撤収作業。
10月28日 国道18号黒姫スキー場入口交差点北の試掘調査。トレンチを入れるが、谷頭あたり、黒色土が厚く、また出水もあり、遺物の包含層は確認できなかった。

(3) 調査結果の概要

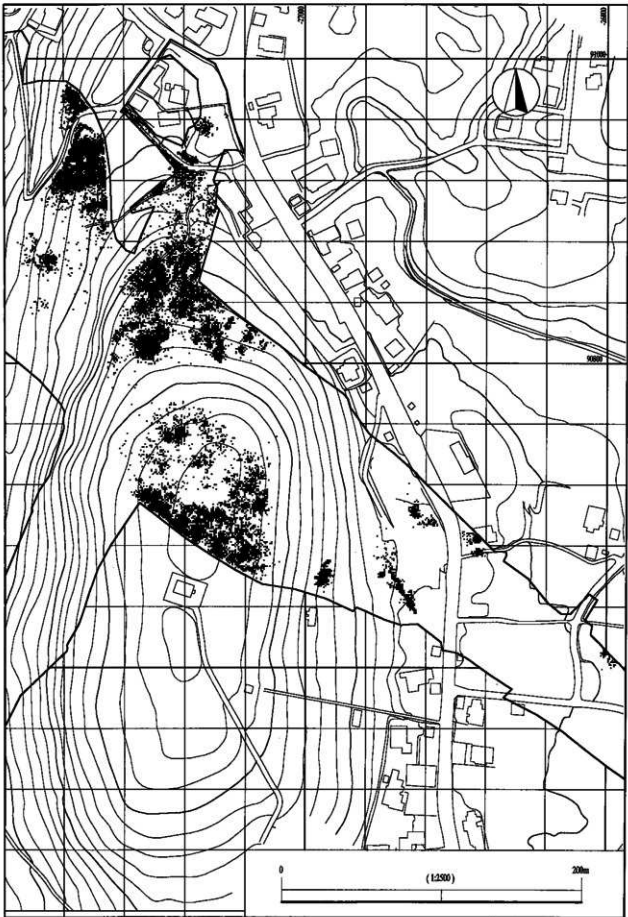
平成5年度から平成8年度にかけて、高速道用地と国道18号線バイパス用地、合計46,400㎡を発掘調査した。その結果、調査対象地内の旧石器時代遺物は大きく4つの地点に分かれて出土した。4つの地点は、それぞれ地形的に他と区分される単位としてとらえられる。

第1地点で検出された遺構は、ブロック13か所、礫群11基、遺物は、石器2987点、礫665点が出土した。出土石器は、ナイフ形石器や槍先形尖頭器が多く、後期旧石器時代後半期の資料が中心となる。

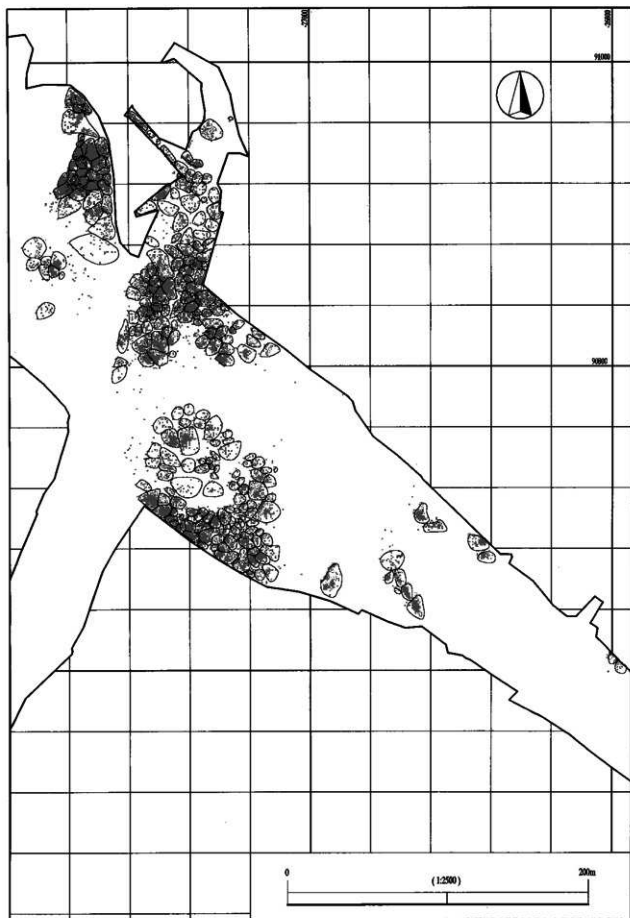
第2地点で検出された遺構は、ブロック100か所、礫群60基、遺物は、石器9299点、礫5789点が出土した。出土石器は、ナイフ形石器や槍先形尖頭器が多く、後期旧石器時代後半期の資料が中心となる。

第3地点で検出された遺構は、ブロック38か所、礫群15基、遺物は、石器8795点、礫1764点が出土した。出土石器は、斧形石器、砥石と、それに伴って出土するナイフ形石器や台形石器が特徴的な後期旧石器時代前半期の資料が中心となる。

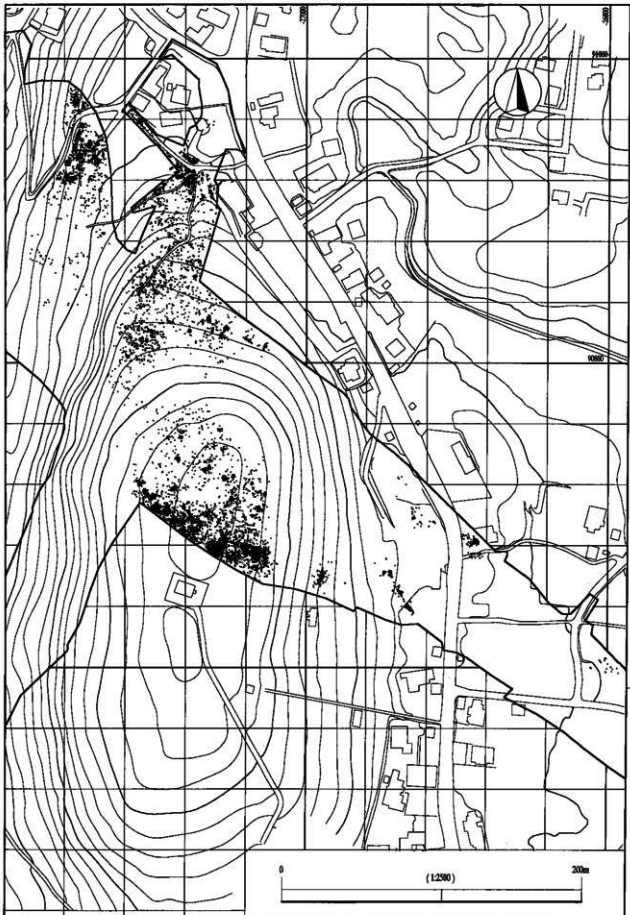
第4地点で検出された遺構は、ブロック100か所、礫群50基、遺物は、石器13206点、礫3107点が出土し



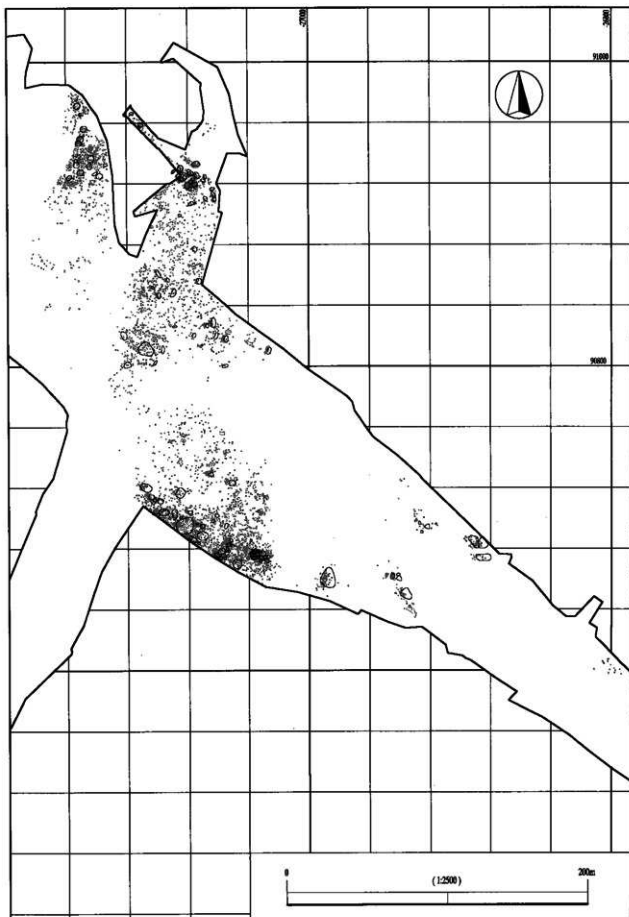
第6図 買ノ木遺跡 全体石器全点



第7図 貫ノ木遺跡 全体石器全点（ブロック範囲入り）



第8図 貫ノ木遺跡 全体概観点



第9図 貫ノ木遺跡 全体礫全点 (礫群範囲入り)

た。出土石器は、斧形石器、砥石と、それに伴って出土するナイフ形石器や台形石器が特徴的な後期旧石器時代前半期の資料が中心となる。

以上、第1・2地点は後期旧石器後半期が主体、第3・4地点は後期旧石器前半期が主体となるが、各地点とも後期旧石器時代をとおして石器群が残されており、貫ノ木遺跡は後期旧石器時代全般にわたる複合遺跡であったといえよう。出土石器も野尻湖遺跡群内の他の遺跡で特徴的にみられるものと同様な特徴をもつ石器も多いことから、野尻湖遺跡群内でも利用頻度が高い、つまり移動生活を営んだと考えられている旧石器時代人が、常に立ち寄った中核的な遺跡であったことが明らかになった。

4 基本層序 (第10図)

遺跡の地形は先にも述べたように概略4つに区分される。層序としては、第4地点北端の低地部とその他の台地部に分けられる。旧石器時代の遺物は基本的に台地部で確認された。台地部の層序は地点によって層厚の違いはあるものの、基本的には変わりはない。

層序の区分が地点によって困難であったのはV層の細分、特にV a層とV b層であった。各層厚薄い第3地点では細分できず、V層一括とした箇所が多かった。

なお低地部ではII層の堆積が厚く細分された。基本土層を以下に示す。

I層：表土 黒色土 (Hue7.5YR 1.7/1) 白色粒子、黄色粒子を含む。攪乱層も含む。地表面でII a層は固くしまっている。

II層：黒色土 (Hue7.5YR 1.7/1) 柏原黒色火山灰層。低地部では厚く堆積しており、以下のように細分される。

II a 1層：黒色土 (Hue7.5YR 1.7/1) マトリックスはI層と同じ。ただ白色、黄色粒子をほとんど含まない。

I層に比べ柔らかい。

II a 2層：黒色土 (Hue7.5YR 2/1) マトリックスは色調が若干褐色味をおびる他はII a 1層と変わらない。白色粒子が目立つ。

II a 3層：黒色土 (Hue7.5YR 1.7/1) II a 1層とほとんど同じ。ただ白色粒子がII a 2層ほどではないにしろ若干含まれる。

II a 4層：黒褐色土 (Hue7.5YR 2/2) 白色粒子、黄褐色火山灰粒子 (小ブロックといった方がよいかもしいない。径2~5mm)をよく含む。妙高の火山灰を含む層か。

II a 5層：黒褐色土 (Hue7.5YR 2/2) マトリックスは基本的にII a 1・II a 2層と同様。白色粒子はほとんど含まない。

II b層：明赤褐色土 (Hue5YR 5/8) マトリックスはII a 5層になると考えられるが、ごく限られた範囲に本層があらわれる。調査区全面にはみられず、低位面方向に分布した。粘性の強い、一見焼土のような土である。また赤味の強弱があり、平面的にはまだら状になる。径50~60cmの赤味の強い部分が点々とあり、周りに弱い赤味の部分がある。

II c層：黒褐色土 (Hue7.5YR 3/1) マトリックスはII a 5層と同じ。遺物包含層となる。やや団粒状にみえるところがある。

低地部III層：灰褐色土 (Hue7.5YR 4/2) II層とIV層の漸移層と考えられる。若干の赤褐色粒子を含む。粘性に富み、固い。

低地部IV層：黄褐色水付ローム層 (Hue10YR 5/8) 赤色スコリアを若干含む。粘性に富む。

III層：黒褐色土 (Hue10YR 3/2) 厚い層をなし、上層部ほど黒味が強い。下層部に黄色ロームを多く含む (20%)。粒子はやや粗く粘性は小さい。野尻湖発掘調査団 (以下調査団と略す)の本層下部より旧石器時代の遺物包含層となる。モヤ層に対比される。

IV層：黄褐色土 (Hue10YR 5/6) 層の上部にIII層の黒色土の入り込みがみられる (5%)。層の下部に鈍い黄褐

色の粘性のあるローム粒（1～3mm）がみられる（10%）。調査団の上部野尻ローム層IIに対比される。

V a層：褐色土（Hue10YR 4/4） 灰黄褐色ローム粒（1～5mm）を含む（10%）。粒子がやや粗く、粘性が少しある。北端約1mに灰黄褐色土の集中部（40%）がみられる。第3地点では本層の中心で始良丹沢火山灰（AT）がブロックで確認された。調査団の上部野尻ローム層II最下部に対比される。

V b層：暗褐色土（Hue10YR 3/4） 粒子の細かい密なローム塊で、粘性がかなりある。調査団の上部野尻ローム層II黒色帯上部に対比される。

V c層：褐色土（Hue10YR 4/6） V b層をブロック状に含む。調査団の上部野尻ローム層II黒色帯下部に対比される。旧石器時代の遺物は上層に比べ激減する。

VI層：明褐色土（Hue7.5YR 5/6） 同色のローム粒を多く含む（50%）。粘性が少しある。調査団の上部野尻ローム層Iに対比される。

VII層：赤褐色土（Hue2.5YR 4/6） 固い塊状をなし、内部に黄色の粒子（1～3mm）を多く含む（10%）。もろくはげやすい。調査団の中部野尻ローム層（赤スコ）に対比される。本層より下部には1点の遺物も確認されなかった。

VIII層：黄褐色土（Hue2.5Y 4/6） 固くしまった岩盤状をなす。粒子は細かく密である。粘性はない（青ヒケ）。

IX層：明赤褐色土（Hue5YR 5/6） 粒子が粗く小さな塊をつくる（3～5mm）。湯くと白黄色になり、表面はほろほろとなる。青白い小粒の火山礫を多く含む（3%）。

X層：黄褐色土（Hue10YR 5/6） 粒子が細かく粘性をもつ。青白い小粒の火山礫を層の上部にわずかに含む（1%以下）。

X I層：オリーブ色土（Hue5Y 5/4） 粒子が粗く砂状の塊を為す（ドライカラー）。

X II層：オリーブ褐色土（Hue2.5Y 4/3） 粒子が細かく固くしまっている。間にX V層を含んでいるところもある。粘りはない（コナアズキ）。

X III層：にぶい黄褐色土（Hue10YR 6/4） 粒子は細かく固くしまった層を為す。青白い火山礫（1～10mm）を多く含む（5%～7%）。

XIV層：灰オリーブ色土（Hue5Y 5/3） 細かい砂状の塊で固い岩盤を為す（プレッシャーゾーン）。

X V層：褐色土（Hue10YR 4/6） 青白色の小粒（1～3mm）の火山礫を多く含む（5～7%）。粒子が細かく粘りが少しある。赤スコリア粒（1～2cm）をわずかに含む。

XVI層：三点セット 灰色土と明褐色土の互層が三回繰り返される。

XVII層：褐色土（Hue10YR 4/4） 細かい粒子で密な層を為す。赤スコリア粒（1～2cm）をわずかに含む。北端近くに灰ドロ（?）を少し含む。

XVIII層：黄褐色土（Hue10YR 5/6） 粒子は細かい。層の堅さはXVIIより弱い。所々に黄ゴマ（粒子が粗い砂状の塊）を含む。粘性のある土である。

XIX層：にぶい黄褐色土（Hue10YR 5/4） 固い層を為し、青白い火山灰（1mm以下）をかなり多く含む（7～10%）。

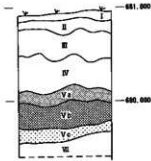
XX層：褐色土（Hue10YR 4/6） 固くしまった層になっているが、赤スコリア粒（1～3cm）を多量（25%）に含む。粒子は細かく粘性が少しある。

XX I層：明黄褐色土（Hue10YR 6/6） 粒子が細かく粘性が強い。水分を多く含む。黒いガラス状粒（輝石）を多く含む（3%）。

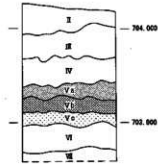
XX II層：黄褐色土（Hue10YR 5/6） 細かい粒子の土でしまった層を為す。青白い火山粒（1mm以下）を少し含む（2%）。

XX III層：黄褐色土（Hue10YR 5/8） 粒子が細かく密である。黒いガラス状粒（輝石 1mm以下）を若干含む。水につきやや脱色している。

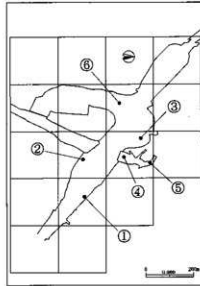
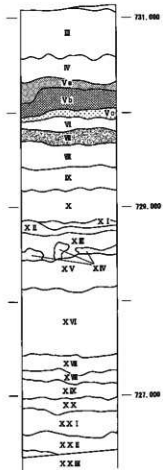
⑥西岡A遺跡
(V-Q)



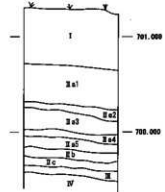
③貫ノ木遺跡第3地点
(VI-G)



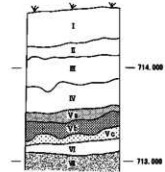
②貫ノ木遺跡第2地点
(X-M)



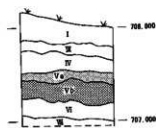
⑤貫ノ木遺跡第4地点(低地部)
(VI-D)



④貫ノ木遺跡第4地点
(VI-S)



①貫ノ木遺跡第1地点
(XI-M)



第10図

第2節 第1地点

1 第1地点の概要

(1) 地形と遺物の分布

貫ノ木遺跡の東端で、すぐ東側に上ノ原遺跡が隣接する。地形は第2地点のある標高730mの丘陵頂上部から下がること約20m、標高710m前後のやや東に傾斜する平坦地。現況は国道18号が中央を走り、宅地化による削平のため旧地形がわかりづらい。貫ノ木遺跡は関川水系と鳥居川水系の分水嶺にあたることは先に述べたが、第1地点はなかでも鳥居川水系の最上流部が網状にいくつかに分かれ、谷頭を形成している部分にあたる。従って地点内の旧地形は微高地と浅い埋没谷が複雑に入り組んでいる。BL1007・1008・1009は埋没谷の中に形成されたブロック、BL1010・1011・1013は埋没谷を取り巻くように形成されたブロック、BL1012は急傾斜面の直下に形成されたブロックで、他は微高地上の平坦地に形成されている。

(2) 遺物の出土層位 (第4表)

遺物はI層～Vc層まで出土している。土層の堆積状況は、地点の西ほど厚く、東になるにつれ薄くなる傾向にある。また、東よりの地区の低地部(谷部)はIV層以下が脱色し白色粘土化していることから、水が付いていた状況が想定される。もちろんブロックが形成されていた時は離水していたと考えられるが、全体的には湿気が多い地区であったと思われる。

出土層位をブロックごとにみれば、Va・Vb層にピークがくるBL1005・1006・1012とIII・IV層にピークがくるそれ以外のブロックに2分される。

(3) 器種組成 (第5表)

石器2987点、礫665点が出土した。

ナイフ形石器61点、台形石器10点、貝殻状刃器1点、槍先形尖頭器21点、角錐状石器1点、斧形石器2点、彫器22点、抹鉢器4点、搔器37点、搔器状石器6点、削器42点、楔形石器16点、石刃34点、2次加工のある剥片29点、微細剥離痕のある剥片58点、折断剥片2点、敲石15点、ナイフ形石器破片2点、槍先形尖頭器破片5点、搔器破片1点、剥片1432点、尖頭器調整剥片72点、削片14点、砕片1023点、石核76点、原石1点である。

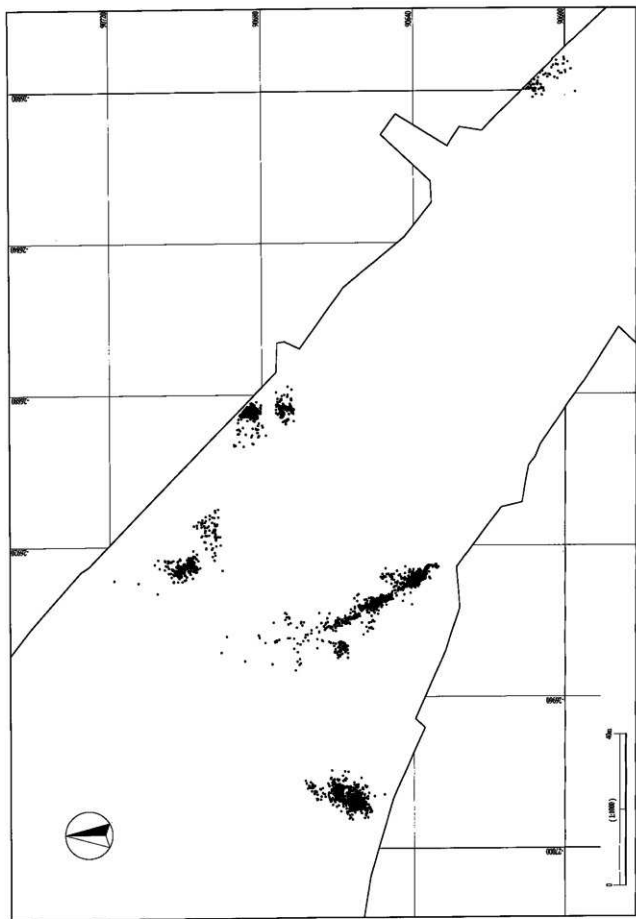
(4) 石材組成 (第6・7表)

第1地点全体として、点数的に最も多用された石材は無珪晶質安山岩で1582点、これについて黒曜石755点、チャート318点、珪質頁岩118点、凝灰質頁岩106点と続く。重量的にも無珪晶質安山岩が12kg強と最も多く、次に多い黒曜石、チャートでもそれぞれ約1.7kgと、かなりの重量的に差がある。凝灰質頁岩、凝灰岩がそれぞれ約1.4kg出土しており、黒曜石、チャートと点数的には差があるが、重量はあまり変わらない。

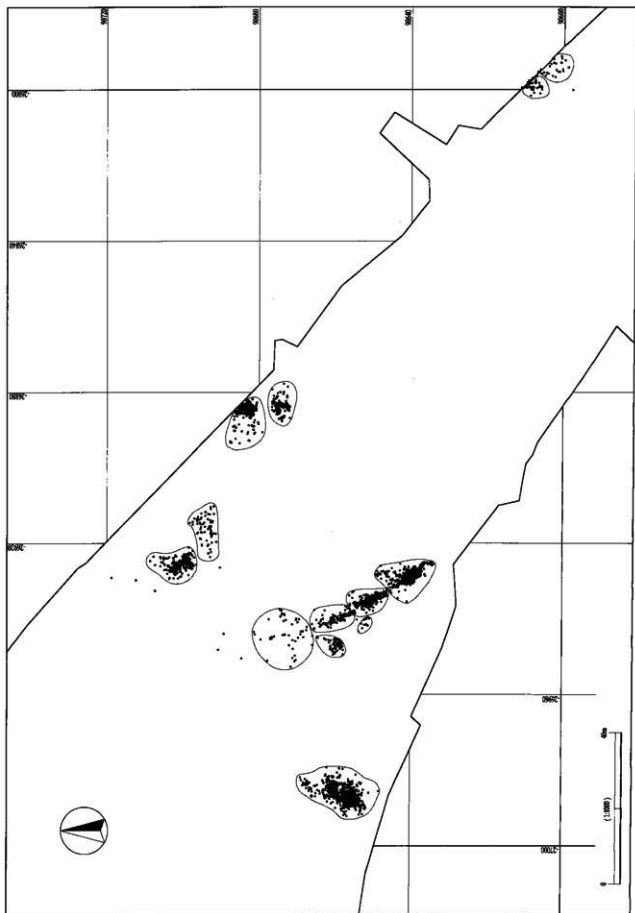
ブロックごとでみると、やはり無珪晶質安山岩を主体とするブロックはBL1001～1005・1009・1012・1013と多い。一方BL1006・1008・1011は黒曜石が主体をなす。また、BL1005・1012は無珪晶質安山岩が主体であるが、次に使用される石材はチャートである。

ポイント	層	年	器種別数(個)												土器片数(片)	土器片割合(%)	石片数(片)	石片割合(%)	その他
			土器片	土器片	土器片	土器片	土器片	土器片	土器片	土器片	土器片	土器片	土器片	土器片					
1001	An	13																	
	Ob	7																	
1002	An	35																	
	Ob	5																	
1003	An	24				1				1									
	Ob	5																	
1004	An	27	3			1	2			3									
	Ob	7	1							1									
1005	An	32																	
	Ob	1																	
1006	An	22																	
	Ob	1																	
1007	An	53	18	1															
	Ob	1																	
1008	An	181	10	1			2			19									
	Ob	34								5									
1009	An	22																	
	Ob	1																	
1010	An	87																	
	Ob	1																	
1011	An	22																	
	Ob	1																	
1012	An	499	2	1						8									
	Ob	31																	
1013	An	10																	
	Ob	3																	
104	An	3																	
	Ob	1																	

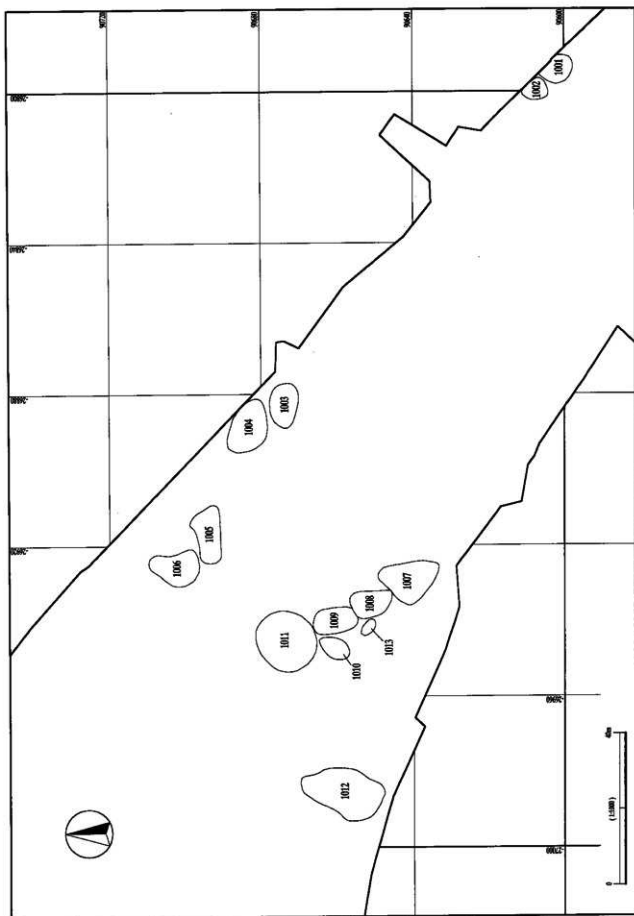
第7表 貫ノ木遺跡 第1地点石材料器種組成表



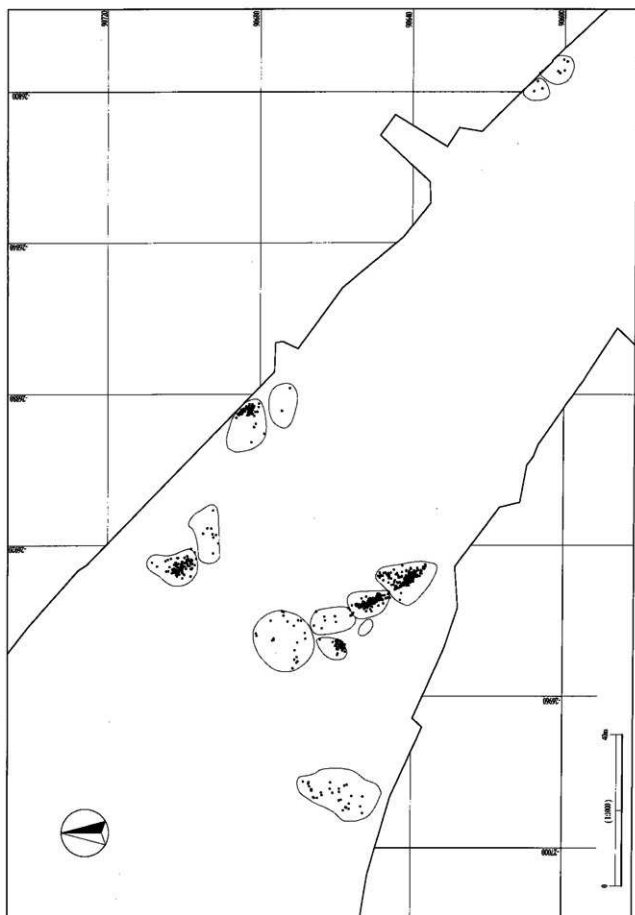
第11図 第1地点 石器全点



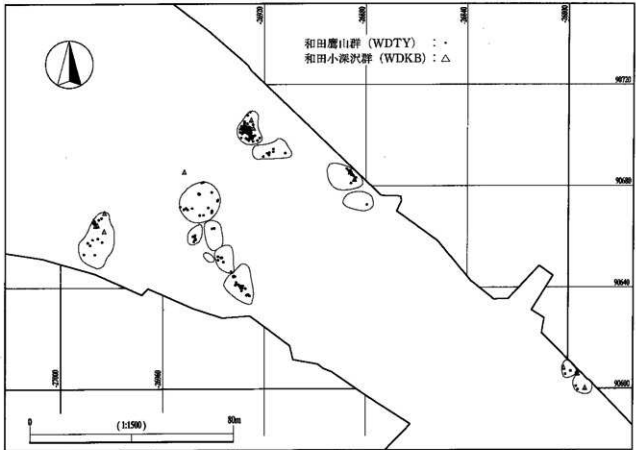
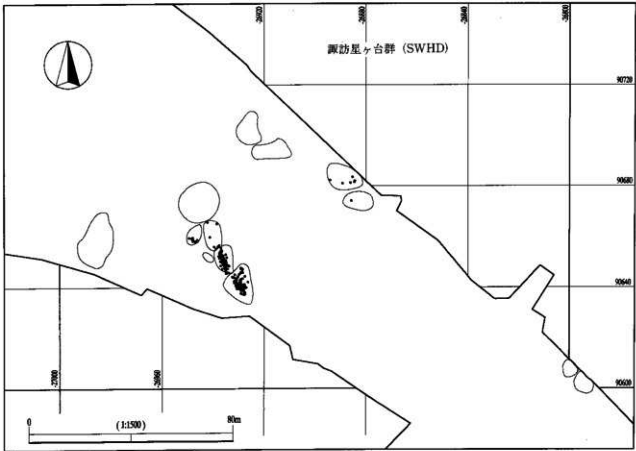
第12図 第1地点 石器全点 (BL 範囲入り)



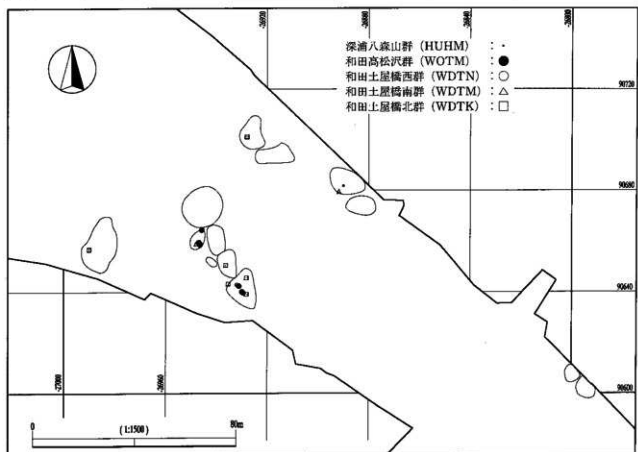
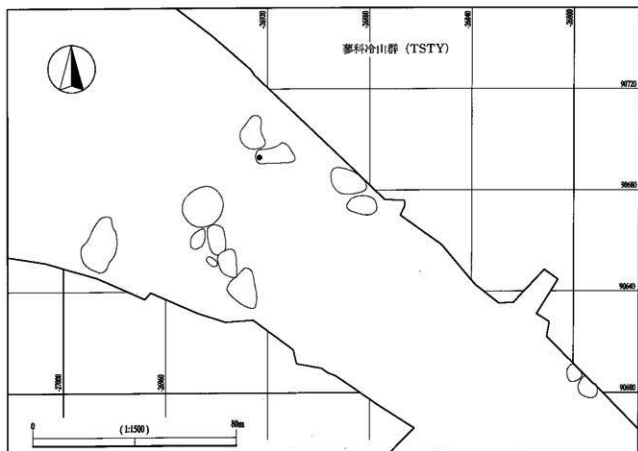
第13図 第1地点 ブロック配置図



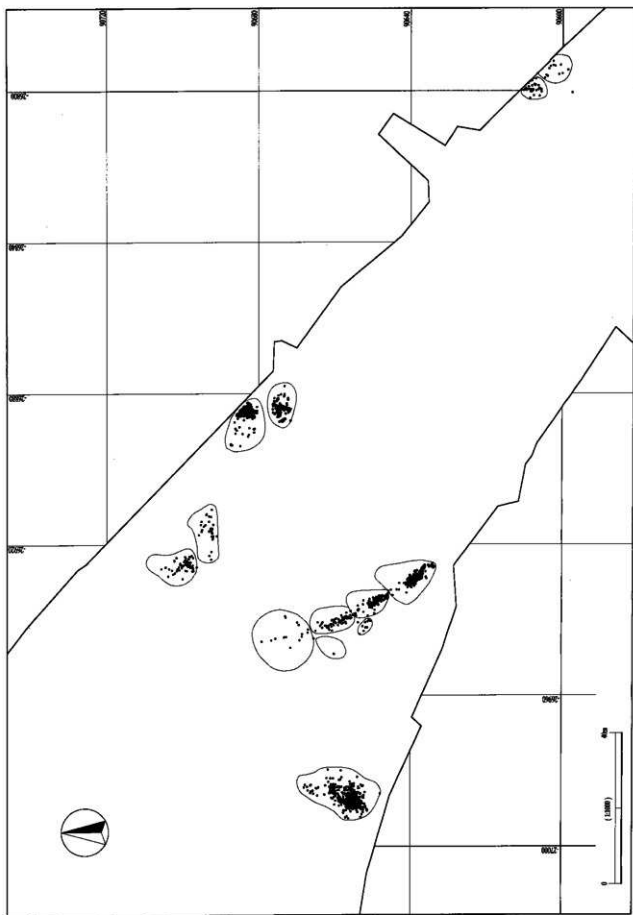
第14図 第1地点 石材別分布図1 (黒曜石全点)



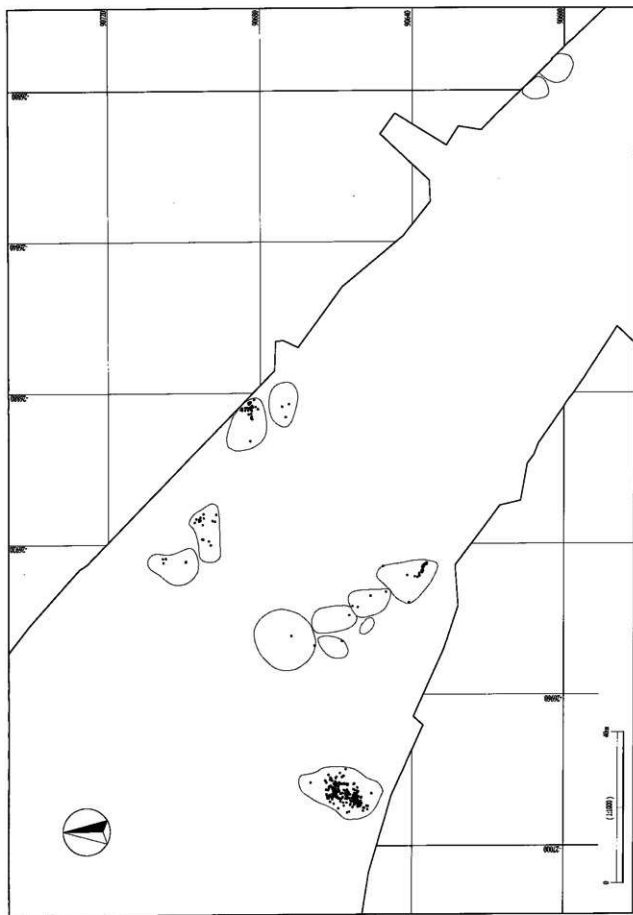
第15圖 第1地点 石材別分布圖2（黒曜石原產地別1）



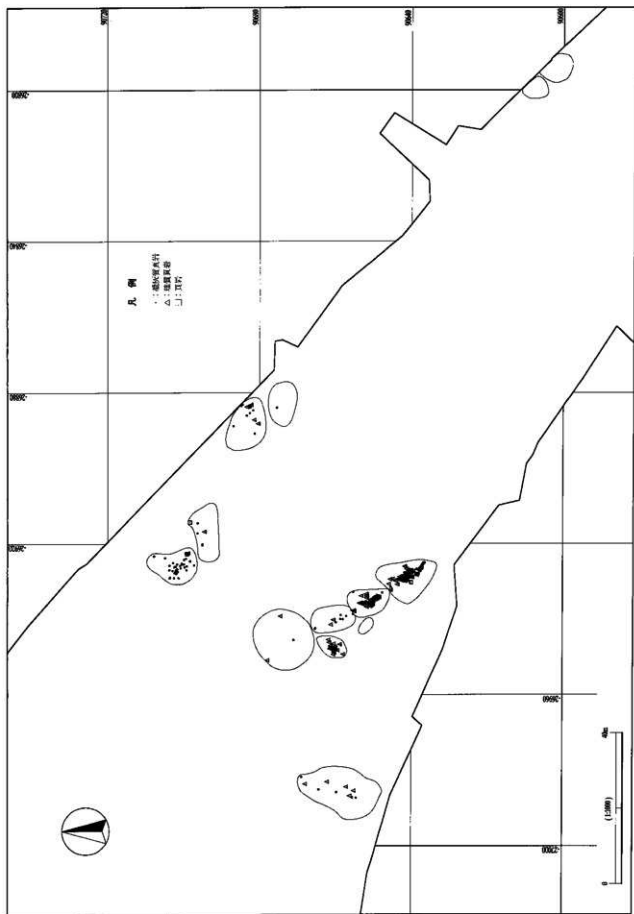
第16図 第1地点 石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)



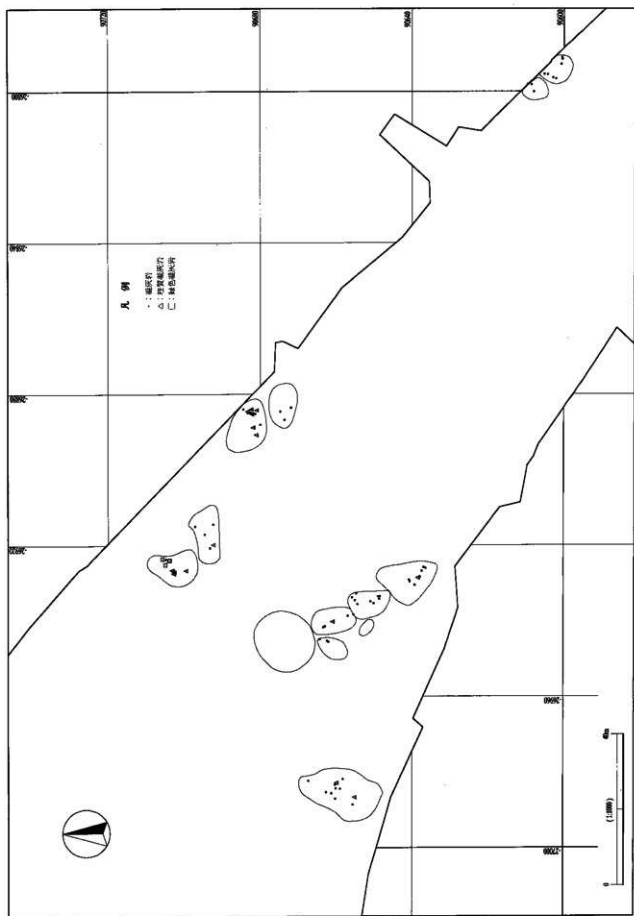
第17圖 第1地点 石材別分布圖4 (無斑晶質安山岩)



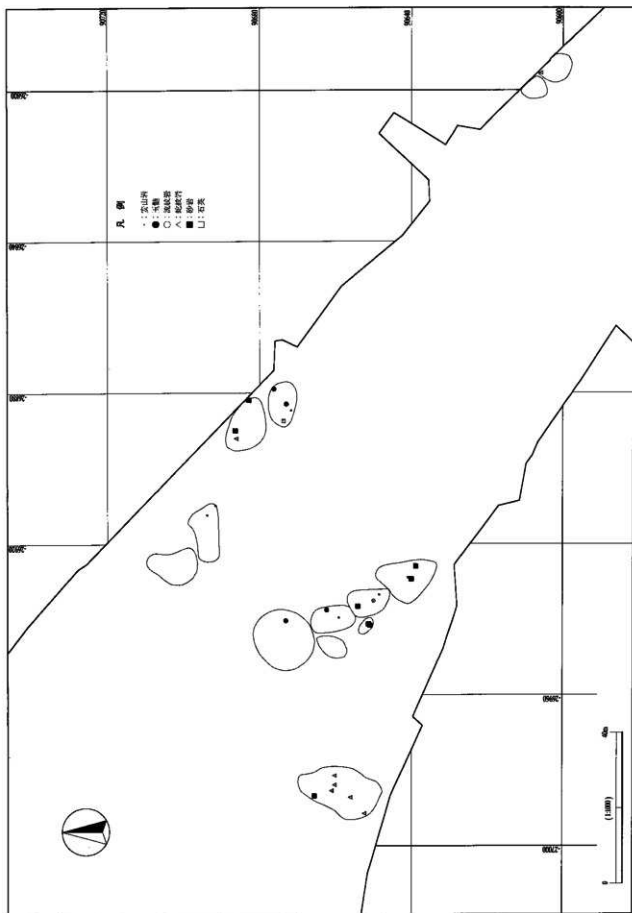
第18図 第1地点 石材別分布図5 (チャート)

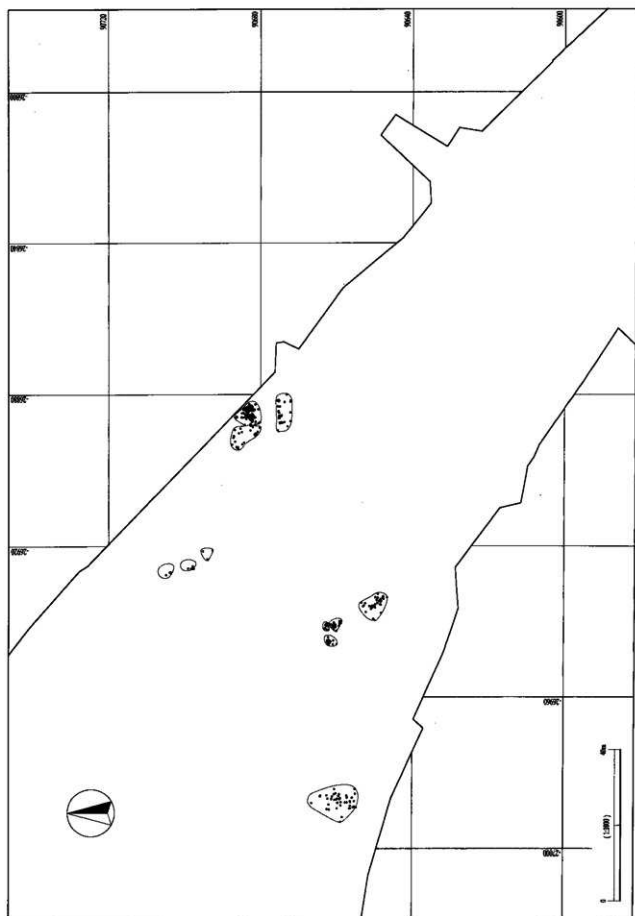


第19図 第1地点 石材別分布図6 (頁岩系)

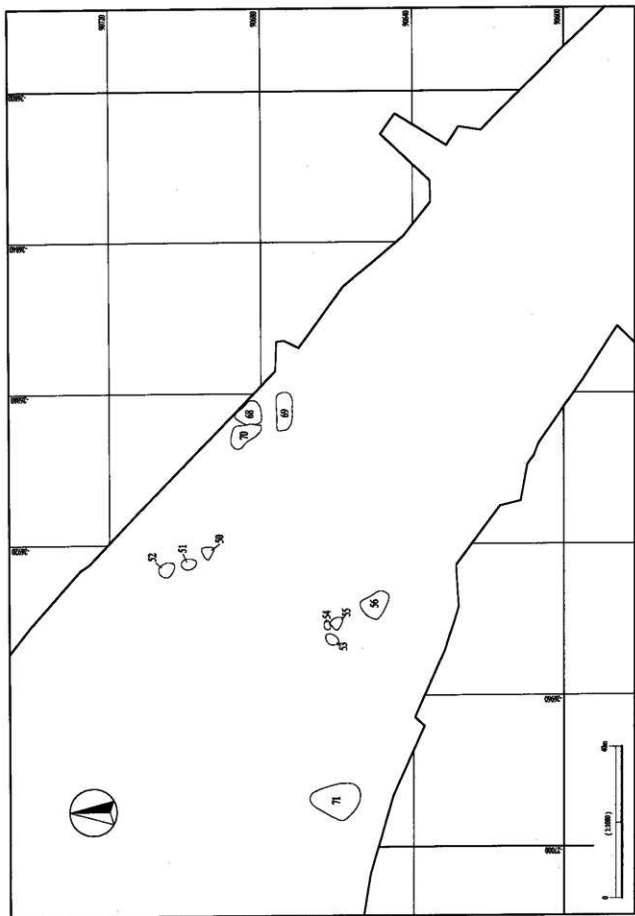


第20図 第1地点 石材別分布図7 (凝灰岩系)





第22図 第1地点 礫群 (礫群範囲入り)



第23図 第1地点 礁群配置図

2 遺構

(1) ブロック

第1001号ブロック (図版5)

本ブロックはXVII UD19グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸に約7.5×5mの楕円形の範囲に散漫な平面的広がりをもつ。北西に第1002号ブロックが接する。遺物は、石器が28点、礫が9点、総数が37点である。出土層位はI・II層～V層におよぶが、III層が主な包含層で、厚さは約60cm。器種組成は、微細剥離痕のある剥片1点、剥片23点、碎片2点、石核2点である。石材は無斑品質安山岩が主体で、次いで黒曜石、凝灰岩が使用されている。

第1002号ブロック (図版5)

本ブロックはXVII UA17グリッドを中心に、直径約5mの平面的広がりをもつが、北西側の調査範囲外に広がる可能性がある。南東に第1001号ブロックが接する。遺物は、石器が41点、礫が8点、総数が49点である。出土層位は、III・IV層がほぼ半数ずつ出土。器種組成は、2次加工のある剥片2点、剥片33点、碎片5点、石核1点である。石材は無斑品質安山岩が主体をなす。

第1003号ブロック (図版6)

本ブロックはXI RR04グリッドを中心に、東西方向を長軸に約10×5mの楕円形の平面的広がりをもつ。第69号礫群と分布が一致する。北西に第1004号ブロックが接する。遺物総数は、石器が137点である。出土層位はIV層を主体とする。器種組成は台形石器1点、搔器1点、削器5点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石2点、剥片63点、碎片63点である。剥片・碎片が多い。また、剥片の平均重量は5.5gと軽く、小形の剥片が多い。石材は無斑品質安山岩が主体をなす。

III・IV層主体の第69号礫群と重複する。

石器群の特徴はとらえづらいが、後述する第1004号ブロックと共通点が多いことから、貫ノ木II石器文化と考えられる。

第1004号ブロック (図版6)

本ブロックはXI MR19グリッドを中心に、北東-南北方向を長軸に約15×10mの楕円形の平面的広がりをもつ。南東に第1003号ブロックが接する。遺物は、石器が469点、礫が5点、総数が474点である。出土層位はIV層が主体。器種組成は、ナイフ形石器4点、台形石器1点、彫器1点、揉錐器2点、搔器3点、削器4点、楔形石器1点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石3点、剥片154点、碎片284点、石核8点である。石材は、無斑品質安山岩が主体をなす。第1003号ブロックと器種・石材組成ともに類似する。剥片・碎片が多く、また小さい。

IV層主体の第68号礫群、III層主体の第70号礫群と重複する。

ナイフ形石器を主体とする貫ノ木II石器文化と考えられる。

第1005号ブロック (図版7)

本ブロックはXI MC14グリッドを中心に、東西方向を長軸に約15×8mの平面的広がりをもつ。北西に第1006号ブロックが接する。遺物は、石器が70点、礫が10点、総数が80点である。出土層位はIV上～Vb層だが、IV層下部～Va層にかけてピークをもつ。器種組成は、ナイフ形石器2点、斧形石器1点、搔器1点、2次加工のある剥片1点、敲石2点、剥片39点、削片1点、碎片20点、石核3点である。石材は無斑品質安山岩を主体とするが、ついでチャートが多い。

斧形石器を出土していることから、AT 降灰以前の貫ノ木I石器文化と考えられるが、日向林I石器文化とは同一ではなく、後続する時期と考えられる。出土層位はVa層あたりか。

V a層主体の第50号礫群と重複する。

第1006号ブロック (図版7)

本ブロックはXI LR10グリッドを中心に、南北方向を長軸に約13×9mの平面的広がりをもつ。南東に第1005号ブロックが接する。遺物は、石器が209点、礫が7点、総数が216点である。出土層位はIII～V c層、V b層が最も多く、上層になるにつれ、遺物が減少する。器種組成は、ナイフ形石器1点、彫器2点、搔器1点、削器2点、楔形石器3点、石刃1点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片8点、折断剥片2点、剥片117点、削片1点、碎片58点、石核10点が出土。石材は、黒曜石が主体をなす。ついで無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩が多い。

V a層主体の第51号礫群、V b層主体の第52号礫群と重複する。第1012号ブロックと接合資料を共有している。

出土層位、接合関係から貫ノ木I石器文化に属すると考えられる。

第1007号ブロック (図版8)

本ブロックは、北西—南東方向に走る旧谷地形の中に形成されたブロックで、XI VP01グリッドを中心に、南北方向を長軸に約15×11mの平面的広がりをもつ。谷上方の北西に第1008号ブロックが接する。遺物は、石器が696点、礫が14点、総数が710点である。出土層位はI・II～IV層、IV層が主体。器種組成は、ナイフ形石器24点、台形石器1点、槍先形尖頭器10点、彫器12点、搔器15点、削器12点、楔形石器2点、石刃15点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片15点、敲石1点、槍先形尖頭器破片1点、剥片380点、尖頭器調整剥片38点、削片3点、碎片146点、石核19点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩と黒曜石が主体となる。

第1008号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックは、IV層を主体とする無斑晶質安山岩製のナイフ形石器群とIII層を主体とする黒曜石製ナイフ形石器・槍先形尖頭器石器群があり、複数の石器文化が重複している可能性がある。ブロックの性格、帰属時期などは、近接するブロックと関連させて、成果と課題の章で検討する。

第1008号ブロック (図版9)

本ブロックも第1007号と同様に、北西—南東方向に走る旧谷地形の中に形成されたブロックで、XI QM16グリッドを中心に、南北方向を長軸に約12×10mの平面的広がりをもつ。谷下方に第1007号ブロックが、谷上方に第1009号ブロックが、西に第1013号ブロックが近接する。遺物は、石器が370点、礫が7点、総数が377点である。出土層位はI・II～IV層、II・III層は少なく、IV層になって急増する。周りのブロックより出土層位が深い。器種組成は、ナイフ形石器17点、台形石器1点、角錐状石器1点、彫器3点、搔器1点、搔器6点、削器6点、石刃16点、2次加工のある剥片7点、微細剥離痕のある剥片14点、敲石2点、ナイフ形石器および搔器の破片が各1点、剥片153点、尖頭器調整剥片19点、削片7点、碎片110点、石核5点である。石材は、黒曜石と無斑晶質安山岩が主体となる。

IV層主体の第56号礫群と重複する。第1007・1011号ブロックと接合資料を共有している。

ブロックの性格、帰属時期などは、近接するブロックと関連させて、成果と課題の章で検討する。

第1009号ブロック (図版10)

本ブロックも第1007号と同様に、北西—南東方向に走る旧谷地形の中に形成されたブロックで、XI QK11グリッドを中心に、南北方向を長軸に約12×8mの平面的広がりをもつ。南東に第1008号ブロック、北西に第1011号ブロックが接し、西に第1010号ブロックが近接する。遺物は、石器が93点、礫が3点、総数が96点である。出土層位はI・II～IV層で、IV層が主体となる。器種組成は、ナイフ形石器9点、槍先形尖頭器1点、搔器6点、削器5点、石刃1点、2次加工のある剥片2点、敲石2点、ナイフ形石器

破片1点、槍先形尖頭器破片1点、剥片50点、破片13点、石核2点が出土。破片が少ないことが注目される。石材は、無斑晶質安山岩が主体をなす。

IV層主体の第54・55号礫群と重複する。第1010号ブロックと接合資料を共有している。

ブロックの性格、帰属時期などは、近接するブロックと関連させて、成果と課題の章で検討する。

第1010号ブロック (図版11)

本ブロックはⅡ QG11グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に約9×5mの平面的広がりをもつ。北東に第1009・1011ブロック号が近接する。遺物は、石器が90点、礫が2点、総数が92点である。出土層位はⅢ・Ⅳ層はほぼ半数。器種組成は、槍先形尖頭器8点、彫器4点、削器2点、微細刺離痕のある剥片3点、槍先形尖頭器破片3点、剥片22点、尖頭器調整剥片9点、削片1点、破片38点が出土した。石材は黒曜石が主体、ついで珪質頁岩が多い。

IV層主体の第53号礫群と重複する。第1009号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックでは、槍先形尖頭器を製作しており、貫ノ木Ⅲ石器文化と考えられるが、詳細については、近接するブロックと関連させて、成果と課題の章で検討する。

第1011号ブロック (図版12)

本ブロックは第1007—1008号の旧谷地形内に形成された一連のブロックの谷頭部分に位置し、Ⅱ QI04グリッドを中心に、直径約16mの範囲に散漫な平面的広がりをもつ。南東に第1009号ブロックが接し、南西に第1010号ブロックが近接する。遺物は、石器が44点、礫が3点、総数が47点である。出土層位はⅠ・Ⅱ—Ⅳ層から出土、ややⅢ層の方が多い。器種組成は、ナイフ形石器1点、槍先形尖頭器2点、2次加工のある剥片1点、微細刺離痕のある剥片7点、剥片21点、尖頭器調整剥片4点、削片1点、破片5点、石核2点である。石材は、黒曜石、無斑晶質安山岩がほぼ等量で構成される。

第1008号ブロックと接合資料を共有している。

ブロックの性格、帰属時期などは、近接するブロックと関連させて、成果と課題の章で検討する。

第1012号ブロック (図版13)

本ブロックはⅡ PG13グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に約22×14mのやや弧状の平面的広がりをもつ。遺物の密集度からさらに3群に細分されそうであるが、ここでは一括した。遺物は、石器が682点、礫が40点、総数が722点である。出土層位はV b層主体。器種組成は、台形石器6点、貝殻状刃器1点、斧形石器1点、搔器状石器6点、削器6点、楔形石器10点、2次加工のある剥片9点、微細刺離痕のある剥片4点、敲石2点、剥片344点、破片271点、石核22点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体、次いでチャートが多い。

V b層主体の第71号礫群と重複する。第1006号ブロックと接合資料を共有している。

斧形石器と台形石器に特徴付けられる貫ノ木Ⅰ石器文化に属する。

第1013号ブロック (図版12)

本ブロックはⅡ QJ15グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に4.5×3mの平面的広がりをもつ。東に第1008号ブロックが近接する。遺物は、石器総数が12点である。出土層位はIV層主体である。器種組成は、揉錐器1点、搔器1点、石刃1点、敲石1点、剥片6点、破片1点、石核1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体をなす。

ブロックの性格、帰属時期などは、近接するブロックと関連させて、成果と課題の章で検討する。

(2) 礫群 (図版14～18・第8表)

第1地点で検出された礫群は11基である。属性は第8表に示した。層位的にみると3分される。

BL1003・1004と重複関係にあるSH68～70の3基がⅢ—Ⅳ層と比較的浅い礫群。続いてBL1008～BL1010

と重複関係にあるSH53～56の4基がIV層を主体とする。AT降灰以前の石器群と考えられるBL1005・1006・1012と重複関係にあるのはSH50～52・71の4基である。SH50～52は数点の礫が散漫に分布する構成で、いわゆる配石と考えられる。SH71は45点を数えるが、広範囲に分布しており、小さな配石の単位が集合したものと考えれば、前述のSH50～52と同類ともとれる。

なお、SH54は展示用として発泡ウレタンで土ごと取り上げたため、礫群のデータは周辺部の礫のみである。

遺構名	点数	方位	規模	重複BL	出土層位	重量gの平均	重量gの合計	遺存率(%)					遺存率 類型	層位 類型	
								不明	0	25	50	75			100
SH70	29	NW	9.2×6.2	1004	III>IV	288	8,340			10	2	1	16	a	2
SH69	36	EW	4.4	1003	III・IV	192	6,705	1		26	1	3	5	b	3
SH68	163	NS	7.2×6.6	1004	IV>III	88	14,300			130	13	10	10	b	4
SH53	43	NE	4.1×2.5	1010	IV	369	15,856			19	2	12	10	c	5
SH54	19	EW	2.6×1.6	1009	IV	204	3,885			8	1	4	6	c	5
SH55	37	NW	3.3×3	1009	IV	115	4,260			24	4	1	8	b	5
SH56	41	NW	8.1×6.7	1008	IV・Vb	203	8,340			25	6	5	5	b	7
SH50	5	NW	3.6×3.2	1005	Va	752	3,760					2	3	a	8
SH51	5	NS	4.1×2.7	1006	Va	626	3,130			1	1	2	1	c	8
SH52	4	NW	4.2×3.4	1006	Vb	115	460					1	3	a	9
SH71	45	NS	13×10	1012	Vb	1,151	50,660	1		23	5	6	10	b	9

第8表 貫ノ木遺跡 第1地点礫群

3 遺物

(1) ナイフ形石器 (図版19～25・報告番号1～61・写真図版6～9)

ナイフ形石器は61点出土した。1～4は、BL1004から出土している。横長剥片を素材として、打面を側縁に置き、除去するように一側縁のみ細部加工を施している。2・4の加工はやや鋸歯状である。

8～31はBL1007から出土している。大きく3群に分けられる。①8～10・16は長さ7cm以上を測る大形品の基部加工で無斑晶質安山岩製。23はやや小さいが、本群に近い。②11～15・17～20は5cm前後の中・小形品の基部加工で黒曜石が多い。③24～31素材は主に横長剥片、打面を側縁に置き、打面を除去するように細部加工が施される。細部加工の部位は31を除き二側縁、基端側の細部加工は正反両方向からの対向調整になっており、ほぼ全縁に及ぶのに対し、遠端側は基部近くを調整している。なお、21・22は素材の用い方が異なるが、本群に一番近い。

素材剥片について、縦長剥片には石材によって差がある。黒曜石製は主要剥離面側が内反剥離傾向が強く、一方、無斑晶質安山岩製は直縁のもしくは外湾傾向にある。

32～48はBL1008から出土している。縦長剥片を用い、長さ4～7cmで小・中形の基部加工、基端は一部を除き石器基部側に用いる。基部の加工は正方向に基部両側縁を行い、基部を尖らせる(39・46)。打面を残しても点状になる(32・36～38)。BL1007の②群と対比される。47は二側縁加工のナイフ形石器で、下半部欠損品。48は部分加工のナイフ形石器である。

49～57はBL1009から出土している。53を除き、縦長剥片を素材に、打面を基部に設け、打面を残置する基部加工のナイフ形石器である。大きさにバラエティーがあるのが特徴で、8cm前後の大形品と5cm前後の小形品の2者が認められる。基部加工、打面残置の状況、大きさの点からBL1008①群に近い。ただ、石材が大きく異なる。つまり、BL1007の群は近在の石材である無斑晶質安山岩を用い、BL1009の群は遠隔地石材の頁岩・凝灰岩系を主体としている。

(2) 台形石器 (図版26・報告番号62~71・写真図版9~10)

台形石器は10点出土した。62は切出形ナイフ形石器、63は刃部が微妙な欠損によってやや不確定要素があるが、62と同類ととらえた。64は、素材の用い方、細部加工のあり方はBL1007の②群と共通するが形状は切出形ナイフ形石器としてとらえた。65は側縁(右側縁)をやや挟りこむ形態をもつ。左側縁は微細な剝離、右側縁は正方向にやや粗い剝離を行った後裏面に平坦な剝離および微細剝離を行っている。本形態の台形石器は貫ノ木遺跡では第4地点に、さらに東裏遺跡にみられ、かなり特徴的な石器である。66~71はBL1012出土のもの。横長剥片を素材とし、基部は側縁部側に置く。66・68・69は打面が残置され、細部加工の剝離の大きさが不ぞろいな点が共通する。細部加工の角度は緩やかである。67は基部の両側縁をかなり平坦な剝離で調整している。70の基部は折り取られ、その後反方向の剝離を、遠端は反方向の微細剝離。71の基部は正方向の通常剝離、遠端は70と同じ。

(3) 貝殻状刃器

貝殻状刃器として認定できた石器はBL1012出土の1点のみであった。

(4) 槍先形尖頭器 (図版27~29・報告番号72~91・写真図版10~12)

槍先形尖頭器は21点出土した。72~80はBL1007出土である。72~75全長5cm前後の中形両面調整尖頭器である。素材は72・76から判断して剥片であったと考えられるが、73・74・75の3点には基部に自然面(節理面)が観察されることから礫面を有する剥片が素材となっており、分割された礫片が素材であったといえる。器体両面を覆う調整加工は長い鱗状の剝離形態が基本的に看取される。その器体面に残された剝離痕の状況からは非常に薄い尖頭器調整剥片が剝離されたと考えられる。階段状の剝離は73の裏面右側縁の一部に見られるだけである。81はBL1009からの出土であるが、前述のBL1007と同様な特徴をもつ。82~89はBL1010から出土している。82は長さ8cmをこえる木葉形大形両面調整尖頭器で、器体中央部で節理面により斜めに2つに折れている。83・84は柳葉形になろうか。82~84は裏面が比較的平坦であり、83の先端部の剝離痕、84の中央部に残された剝離痕から推定して剥片が素材であったと考えられる。85・86・88・89は調整加工が粗く、形状も整えられていない未製品と考えられる。86・88は単独の母岩と判別され、同一母岩がブロック内には認められない。89は同一母岩の調整剥片が4点認められるが、主要剝離面が内側に湾曲しており、89とは直接接合しない。調整剥片は89とは直接関係しないとも考えられる。86・88・89の3点は本ブロックでは製作の痕跡は認められない尖頭器未製品ということになろうか。90・91はBL1011出土。90は楕状剝離を有する木葉形両面調整尖頭器。先端部の楕状剝離は、剝離後先端に小さな剝離痕が一撃認められるが、調整剝離はない。つまり楕状剝離は調整剝離後に入れられたことになる。衝撃剝離ともとれるが、左側縁先端部には微細剝離痕およびエッジの磨耗が認められることから、楕状剝離後も使用されていたことがわかる。基部側にみられる楕状剝離は、剝離後に調整加工がみられることから、製作途上に施されたと考える。

第1地点の黒曜石製槍先形尖頭器に顕著な擦痕もしくは磨耗痕が認められたので、記述する。84は裏面のみ、86は両面全体的に、89は両面だが、主に稜線上のみ、90は裏面の基部側(下半部)のみ。

(5) 角錐状石器 (図版29・報告番号92・写真図版12)

BL1008より、角錐状石器は1点出土した。素材の剥片形状は不明、両側縁とも正方向のやや粗い鱗状剝離と微細な階段状剝離を組み合わせて施し、器体が横断面三角形になるように作り上げている。稜上からの調整は一部に認められる。裏面は素材面のままで平坦である。

(6) 斧形石器 (図版30・報告番号93~94・写真図版12)

斧形石器は2点出土した。93は表面に礫面を大きく残す横長剥片を素材として、調整加工はあまり顕著ではない。ただ表面の刃部がやや磨耗しているようなので、斧形石器とした。94は欠損品、裏面にも礫面

が回り込むことから、素材は扁平な礫だったと考えられる。刃部はあまり鋭くなく、頭部に近い厚みと縦断面形を呈する。右側面が折れ面であることから、再生品である可能性も高い。

(7) 彫器 (図版31～33・報告番号95～113・写真図版13～14)

彫器は22点出土した。BL1007からの出土が多く、12点を数える。

95・96はBL1006出土。95は剥片遠端の折れ面を打面として左右両側縁に彫刀面が、96は正方向のややノッチ状の加工により彫刀面打面を出し、左側縁に彫刀面を形成している。

97～106はBL1007出土。97は石刃を素材として、遠端背面側からの剝離で彫刀面打面を出し、正方向に小剝離が2ヶ所認められるが、槌状剝離ではない。基部に加工がみられる。98は折れ面を打面としている。99は正方向の加工によって打面を出している。同様な打面作出をもつものは他に101・104に認められるが、この2点は打面の作出のための加工がややノッチ状になり、槌状剝離は石器主軸に対し斜めになることからいわゆる上ヶ屋型彫器に類するものと思われる。99はむしろ小坂型彫器に類するのだろうか。

(8) 挿錐器 (図版33・報告番号114・写真図版14)

挿錐器は4点出土した。3点は無斑晶質安山岩製、1点は黒曜石製で折断面をもつ剥片の縁辺に微細な剝離で機能部を作り出している。

(9) 搔器 (図版34～42・報告番号115～140・写真図版14～16)

搔器は37点出土した。BL1007から15点、BL1008、1009から各6点と115は部厚な剥片を素材としている。裏面側は剥片の主要剝離面で、リングが複雑であるが2次加工ではない。刃部はやや直線的なエッジが3辺を形成している。116は寸詰まりの縦長剥片の遠端にやや急斜な加工を施して刃部を作り出している。

(10) 搔器状石器 (図版42・報告番号141～143)

搔器状石器は6点出土した。すべてBL1012からの出土である。

(11) 削器 (図版43～44・報告番号144～151)

削器は42点出土した。

(12) 楔形石器 (図版44・報告番号152～156・写真図版16)

楔形石器は16点出土した。BL1012から10点出土している。第1地点ではAT降灰以前の石器群に顕著な石器であるといえよう。

(13) 石刃

石刃は34点出土したうち、BL1007で15点、BL1008で16点出土している。両ブロックとも黒曜石が主体で、欠損品が多いもの、小形品が多く5cmを超えるものはない。打面形態は調整もしくは複数打面が主体をなす。無斑晶質安山岩製の石刃2点がBL1007から出土している。本地点の石刃はAT降灰以降の石器群に伴うものと考えられる。

(14) 2次加工のある剥片・微細剝離痕のある剥片・折断剥片 (図版44・報告番号157)

2次加工のある剥片は29点、微細剝離痕のある剥片は58点、折断剥片は2点出土した。BL1004から出土した2次加工のある剥片の1点が、黒曜石産地分析の結果、青森県深浦産と判明した。

(15) 敲石 (図版45～46・報告番号158～167・写真図版16)

敲石は15点出土した。BL1008で多く出土している。黒曜石はIV層に、珪質頁岩はIII層に多い傾向がある。

(16) 削片

削片は14点出土した。BL1008で多く出土している。黒曜石はIV層に、珪質頁岩はIII層に多い傾向があ

る。

⑦ 剥片・碎片

剥片は1432点、碎片は1023点出土した。

⑧ 石核 (図版47～50・報告番号168～189・写真図版17～18)

石核は76点出土した。出土が多かったブロックはBL1004の8点、BL1006の10点、BL1007の19点、BL1012の22点である。BL1004は、無斑晶質安山岩製の石核については寸詰まりの縦長剥片から横長剥片を目的としているようである。また残核には、スクレイパーと認定してもよさそうなものが見受けられる。

⑨ 原石

BL1007から黒曜石製の原石が1点出土した。

4 接合資料

第1地点における接合資料、38例91点あった。石材としては無斑晶質安山岩が多く、次いで黒曜石が多かった。

接合資料 TS-6は、剥片、搔器、石核を含み9点が接合している。BL1006と1012間で接合資料を共有している。凝灰質頁岩の円礫に打撃を加え、打面を作出し、数枚の剥片を剥いでいる。一見「礫山技法」的である。剥片は縦長剥片とは言いかねる。貫ノ木 I 石器文化の所産である。

第3節 第2地点

1 第2地点の概要

(1) 地形と遺物の分布

標高730m前後を測る貫ノ木遺跡では最高位にある地点で、南北250m、東西150mと南北に長い丘陵上である。今回の調査ではその北半部が対象範囲となった。したがって、地形はやや北側に傾斜している。本地点からは眼下東に第1地点、北に第4地点、西に第3地点をそれぞれ臨むことができる。

検出された遺構は、丘陵頂上部の平坦地を中心に、ブロックが100基、礎群が60基である。

(2) 遺物の出土層位 (第9表)

遺物はI層～VI層まで出土している。ただしVI層出土遺物は礎が1点であった。本地点は丘陵頂上部にあたるため、土層地積が全体的に薄く、特にI・II層が薄かった。その影響か、ローム層との漸移層と考えられるIII層も不安定で、IV層上部精査時も、III層が斑状にかなり深いレベルまで残っていた。

出土層位ごとに出土点数をみると、石器類の遺物は、III層が3199点、IV層が3799点、V a層が1522点、V b層が673点、礎はIII層が1227点、IV層が849点、V a層が195点、V b層が104点であった。地点全体としてはIII・IV層の遺物が多く、以下V a層、V b層と続く。

III層の遺物は地点全域に散漫に分布する傾向がみられた。III層は野尻湖調査団により「モヤ層」と命名され旧石器時代終末期から縄文時代早期までの遺物包含層としてとらえられているが、本地点では縄文時代の遺物の検出はほとんどなく、旧石器時代の遺物もナイフ形石器など終末期よりも古いと考えられる遺物がこのIII層から出土している。これらのことから、本地点においてIII層の遺物は本来ならばIV層に包含されているべき遺物の一部が上に浮き上がってきていると想定される。したがって、本地点においてはIII層とIV層の石器群を層序によって区分するのは、一部傾向として参考になるものの、全体的には困難であることを示している。

III・IV層の遺物にくらべV a層・V b層の遺物は比較的まとまりをもつ複数のブロックがあった。地点北側に位置するBL2019・2020はV a層が多いブロック群、地点西側のBL2027・2028・2030周辺はV a・V b層ともに多いブロック群、地点東側のBL2076・2077・2100周辺のV b層が多いブロック群、BL2083・2086・2089周辺のV a層が多いブロック群などがみられる。このように比較的下層の石器群はまとまりをもって出土する傾向にあるが、その一方で同ブロック群はIII・IV層出土遺物も決して少ないわけではなく、単純に1時期に限定できるものでもなかった。

(3) 器種組成 (第10表)

石器9299点、礎5789点が出土した。

ナイフ形石器127点、台形石器33点、貝殻状刃器9点、槍先形尖頭器36点、斧形石器11点、影器65点、搦錐器3点、搔器86点、搔器状石器3点、削器135点、楔形石器85点、石刃84点、細石刃1点、2次加工のある剥片124点、微細剝離痕のある剥片点203、折断剥片6点、敲石82点、磨石7点、台石2点、槍先形尖頭器破片2点、磨石破片1点、剥片6175点、削片50点、碎片1526点、石核431点、原石12点である。

(4) 石材組成 (第11～21表)

無斑品質安山岩が4547点で66.77kgと点数、重量ともに他の石材より圧倒的に多い。次いで、チャートが1407点で16.93kg、黒曜石が1127点で4.57kgであった。珪質凝灰岩、凝灰岩は点数的には774点と467点と黒曜石より少ないが、重量はともに10kgを超えている。

第2章 貫ノ木遺跡

年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2001	16	1											10
2002	105	4											120
2003	164	5	1										170
2004	1	8	23										32
2005	17	29	5	21									67
2006	4	44	4	5									56
2007	49	4	15	14									82
2008	1	13	4										18
2009	0	7	13	1									21
2010	15	2	114	4	2								133
2011	8	16	18	13									55
2012	14	4	29	3									48
2013	14	4	29	3									48
2014	19	1	1	1									22
2015	36	9	1	1									47
2016	32	9	1	1									43
2017	36	3	1	1									41
2018	41	1	1	1									44
2019	223	8	48	5									284
2020	281	14	14	1									310
2021	7	11	2										10
2022	161	45	118	13									237
2023	150	165	184	10									410
2024	61	66	10	1									138
2025	30	14	1	1									36
2026	35	3	1	1									40
2027	367	11	14	1									383
2028	69	4	19	2									94
2029	4	19	6	9									38
2030	7	6	4	4									21
2031	106	11	11	1									130
2032	34	5	2	2									43
2033	3	3	3	3									12
2034	181	16	1	1									199
2035	40	13	1	1									56
2036	146	1	1	1									149
2037	40	1	1	1									43
2038	10	1	1	1									13
2039	18	1	1	1									21
2040	49	1	1	1									52
2041	19	1	1	1									22
2042	8	1	1	1									11
2043	149	1	1	1									152
2044	14	1	1	1									17
2045	10	1	1	1									13
2046	30	1	1	1									33
2047	16	1	1	1									19
2048	105	1	1	1									108
2049	1	1	1	1									4
2050	1	1	1	1									4
2051	1	1	1	1									4

第11表 貫ノ木遺跡 第2地点ブロック別石材組成表1 (上段: 点数、下段: 重量(g))

ブローク	材質	合計	ナイフ形石器	白磁石器	貝殻状刃器	棒先形尖頭器	角棒状石鏃	斧形石鏃	彫器	鏃	環状石鏃	厚刃鏃器	環状石鏃	細石刀	石刀	細石刀	折衝刺片	微細刺片	2次加工の刺片	刺片	石核	原石
2001	An	16																		12	4	
	Ob	1																		1		1
	Qu	1																				
2002	An	10	1																	8	1	
	Ob	5																		3		
	Ch	1																				
2003	An	1																		1		
	Ob	1																				
	Se	1			1																	
2004	An	22																		20	1	1
	Ob	3	1																	2		
	GT	2																		1		
2005	安山岩	1																		1		
	Ob	8	1																	5	2	
	SS	2	2																	1		
2006	An	1																		1		
	Ob	15			1															8	3	2
	Ch	6																		5		
2007	Ob	44	2		1						1	2		2	6					17	9	4
	SS	5	1																	3		
	Tu	5																		2		
2008	An	4																		2		
	Ch	4																		2		
	ST	2																		1		
2009	An	4										2								1		
	GT	3	1																	1		
	An	1																		1		
2010	Ob	15																		6	1	2
	An	2																		2		
	SS	2											1							1		1
2011	Ob	16	2																	8	3	1
	An	8																		2		
	Tu	3																		2		
2012	安山岩	3																		1		1
	Ob	2																		1		
	SS	2																		1		
2013	An	12																		9		3
	Tu	1																		1		
	An	19																		15		3
2014	An	1																		1		
	SS	1																		1		
	SS	1																		1		
2015	An	56																		45	3	5
	Ch	9																		7		2
	SS	3																		2		
2015	安山岩	2	1																	1		
	Ob	2																		2		
	Ob	1																		1		1

第13表 貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表1

ブローク	材質	合計	ナイフ形石器	石形石器	片状石片	片状石片	石核	厚石	
2043	SS	3					2	1	
	AK	2					1		
	TS	2					1		
	CF	2					1		
	ST	1							
	未知	1							
2044	Ob	22	1				5	1	
	An	16		3			1		
	Ch	13					1		
	SS	7					3		
	Ge	3					1		
	TS	2					1		
	Tu	2					2		
	Ag	1						1	
	GI	1							
	Ho	1							
2045	An	605	3	2			413	149	
	Ob	44					14	27	
	Ch	25					14	5	
	SS	9					4	1	
	TS	6					2		
	Tu	4					3		
	Ag	2					2		
Se	1						2		
2046	An	397	1				277	182	
	Ch	198	1				139	25	
	Ob	57	2	4			22	21	
	TS	12					12		
	SS	15					2		
	Tu	6					5	4	
	Sp	5					2		
	Ja	5					3		
	ST	5					2		
	Ge	3					1		
	AK	2					1		
	Se	2					1		
	未知	1						2	
	2047	Ch	43					31	6
An		25					20	3	
TS		9					7	1	
Ob		7					7		
Tu		4					2		
Ag		4					3		
Ja		3					1		
SS		3					2		
Se		1							
2048		Ch	262	3	1			167	56
		An	234	2				163	31
	Ob	87	4				28	38	
	TS	83	1				73	4	
	Tu	27	1				14	18	
	Ag	18					12	4	
	SS	18					10	1	
	GI	16					16	2	
	Sh	6					4		
	Ho	4					4		
	SC	4						2	
	Ge	3					3		
	Ja	1					1		
	Sa	1							
2049	An	5					5		
	Ch	5					5		
	TS	3					1		
	SS	2					1		
	Tu	2					2		
2050	An	66	1				50	12	
	Tu	55	1				41	11	
	TS	50	2				44	2	
	Ob	17					14	1	
	Ch	15					7	3	
	SS	11	1				9		
	Sa	6					5		
	ST	4					1		
	Ag	3	1				2		
2051	GI	2					1		
	Sh	1						1	
	Ja	1							
	An	60					50	8	

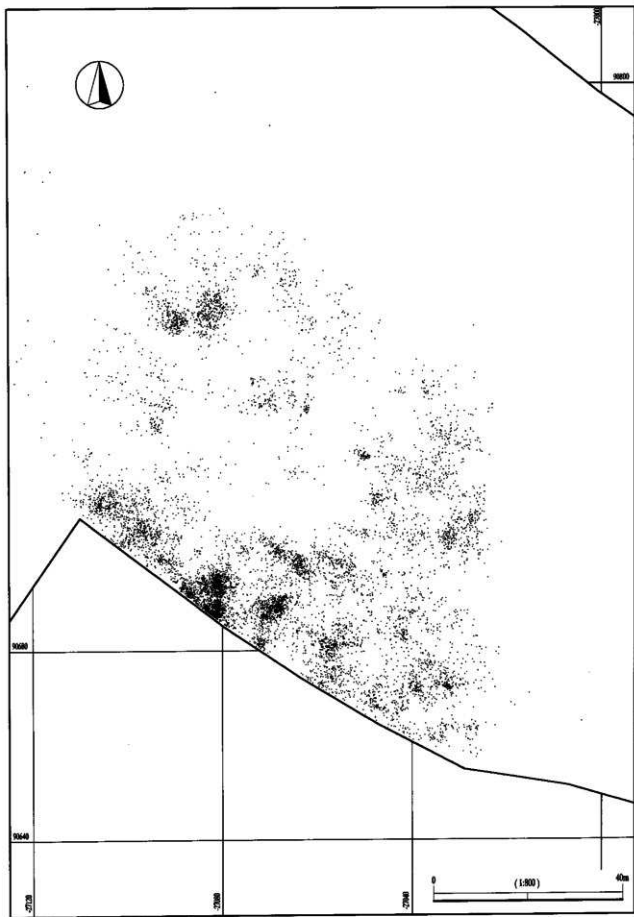
第16表 貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表4

アローツ	材質	合計	ナイフ状石器	角形石器	板状石器	棒状石器	角状石器	有縁状石器	片断	石核	厚石
2060	An	8									
	Sa	6									
	Ch	2									
	TS	3									
2061	SS	38	1								
	TS	33									
	Ob	17									
	Tu	17									
	An	12									
	Sa	4									
	Ch	1									
	Ja	1									
	Sh	1									
	火山礫	1									
	TS	22									
	SS	13	1								
Tu	11										
2062	An	8									
	Ob	8	2								
	Ch	6									
	Sa	4									
	Ag	1									
	ST	1									
	SS	33	3								
	Ob	24	2								
2063	An	18									
	TS	10									
	Ch	6									
	Ag	3									
	ST	2									
	Tu	2									
	Sa	1									
	Tu	22	1								
	Ob	16									
2064	An	10									
	Ch	8									
	TS	6	1								
	Tu	14									
	An	7	1								
2065	Ch	3									
	Ob	2									
	TS	2									
	Ag	1									
	ST	1									
	火山礫	1									
2066	An	20									
	Sa	2									
	SS	2									
	TS	2									
	Ag	1									
	Ob	1									
2067	An	8									
	Ob	2	1								
	TS	1									
	Tu	1									
	Ob	17									
2068	Tu	6									
	TS	5									
	Sa	1									
	SS	1									
	An	11									
2069	Ch	4									
	Tu	2	1								
	Ob	2									
	SS	2									
	TS	1									
2070	An	9									
	Ch	2									
	TS	1									
	Ob	16									
	Tu	9									
2071	TS	3									
	An	2									
	Ch	1	1								
	Ge	1									
	ST	1									
2072	Ob	11									
	Tu	2									

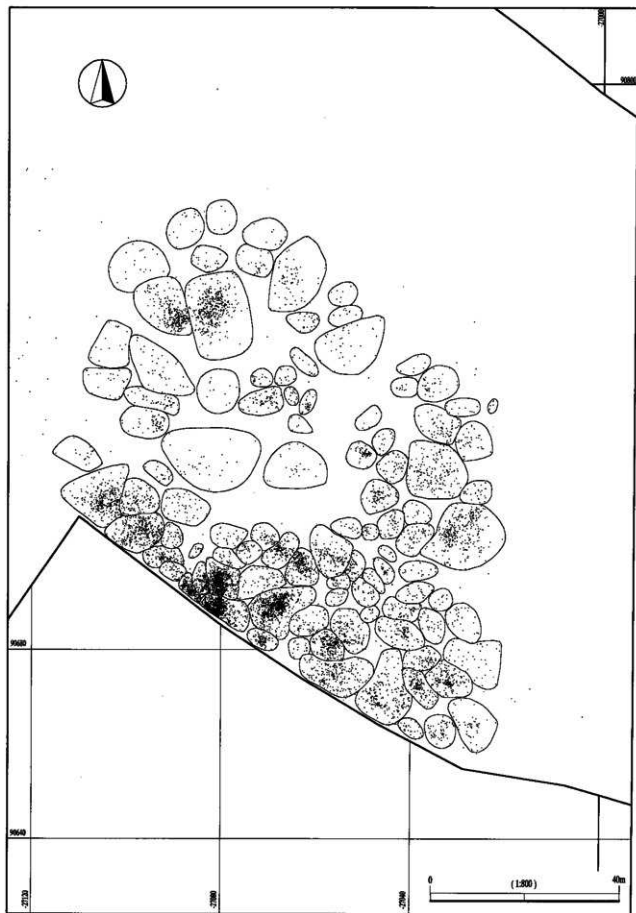
第18表 貫ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表6

プロック	材質	合計	ナイフ石類	尖形石類	角状石類	柱状石類	貝殻状刃物	錐形石類	彫刻器	厚刃器	環状石類	細石刀	石刀	彫石刀	2次加工のある細片	微細砥石のある細片	新削細片	珽石	磨石	砥石	四石	白石	碾磨器	磨石	彫形石類	割片	砂片	石核	礫石
2084	Ag SS	1 1																							1			1	
2085	An Ob Ob Ob Ob Ob Ob	4 1 1 1 1 1 1																							2				
2086	An Ob Ob Ob Ag Sa TS	58 5 4 1 1 1 1		1						1											1				10	46	3	1	
2087	An Ob Ch Sa SS TS	8 3 2 1 1 1																							4	2	2		
2088	An Ob Ob Ch Tu TS SS	24 3 5 5 5 3 1																			1				23	1	2		
2089	An Ch Ob Ob TS Tu Ag Se CT CT SS	62 44 39 19 15 3 3 3 3 2	1		1							1	1											6	51	7	2	5	
2090	An Ch Tu Ob CT Se SS TS	15 7 4 2 1 1 1 1			1																				11	3	2		
2091	An Ch Ob Tu Se TS Ag Ch An Ag Tu Ob TS	16 13 6 3 3 2 1 46 17 3 3 3 1		1																					13	10	1	2	
2092	An Ch Ob Tu TS	4 4 1 1 1																							35	5	2	1	
2093	An Ch Ob SS TS 安山岩	4 4 1 1 1 1		1																					1				
2094	Ch An	3 2																							3				
2095	An Ch SS	34 1 1	1																						29	2	2		
2096	An Rh Tu	8 7 1																							7	1			
2097	An Ch Ob Ch Ob TS Ts	4 3 2 4 2 1																							4	1			
2098	An Ob SS Tu	4 3 1 1																							4	2	1		
2099	An SS Ch	20 4 3	1																						18	1	2		

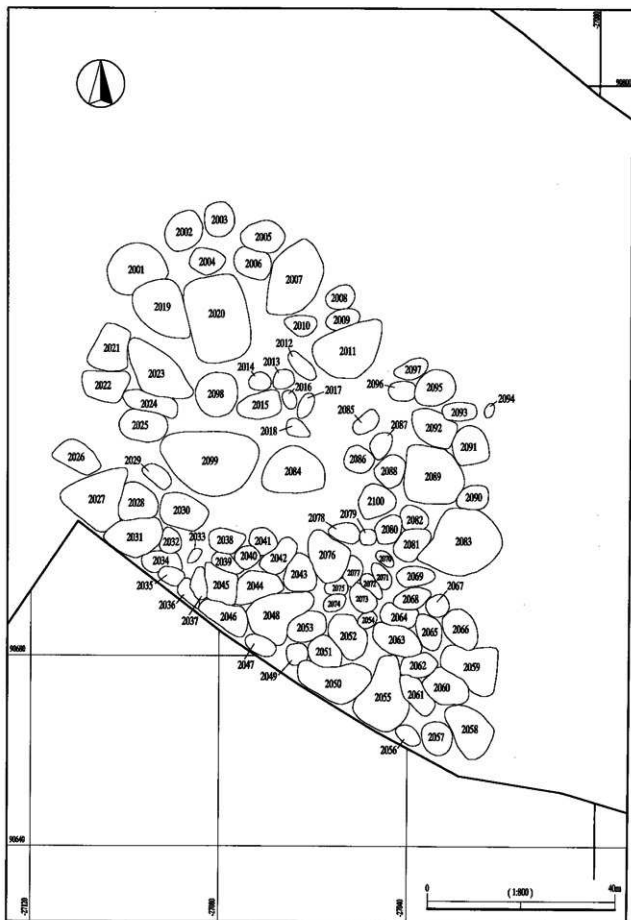
第20表 賈ノ木遺跡 第2地点石材別器種組成表 8



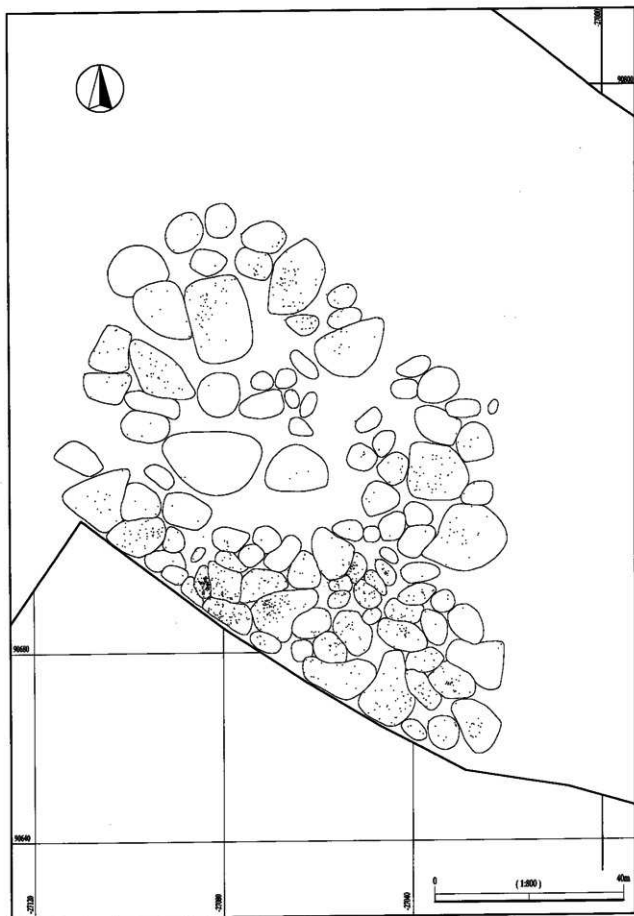
第24図 第2地点石器全点



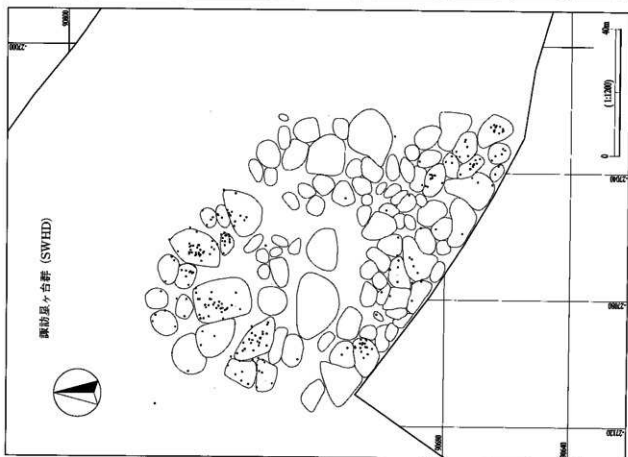
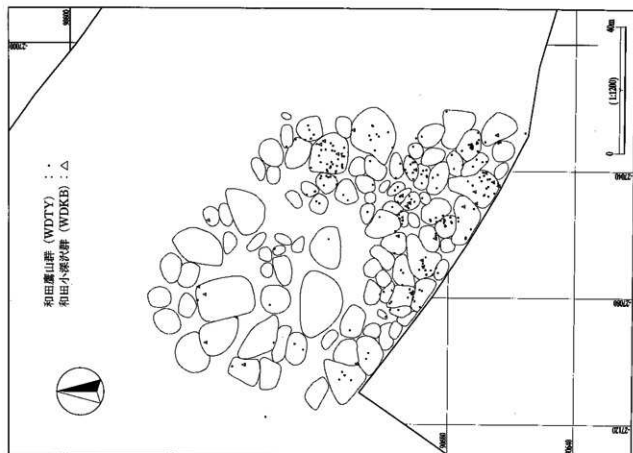
第25図 第2地点 石器全点 (BL 範囲入り)



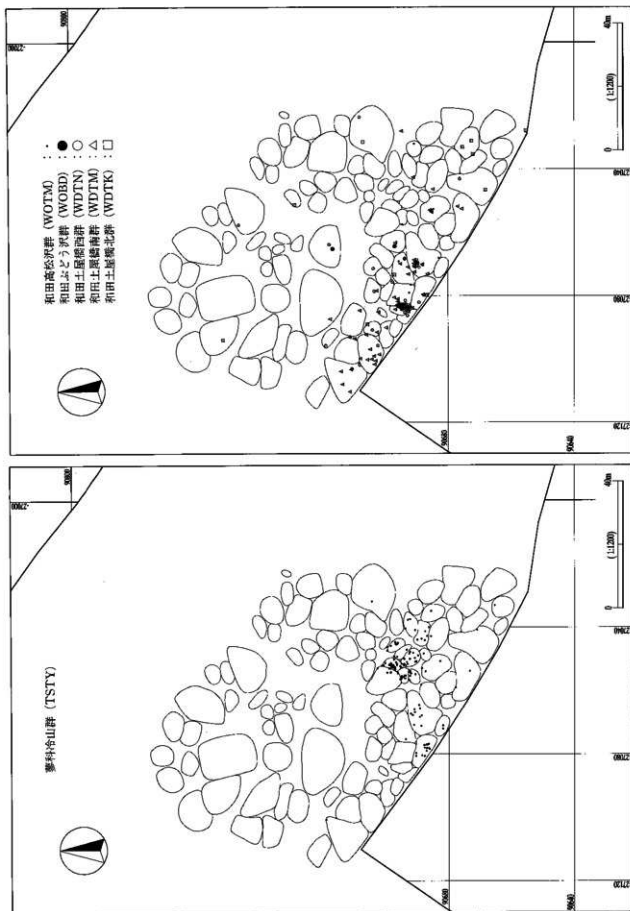
第26図 第2地点 ブロック配置図



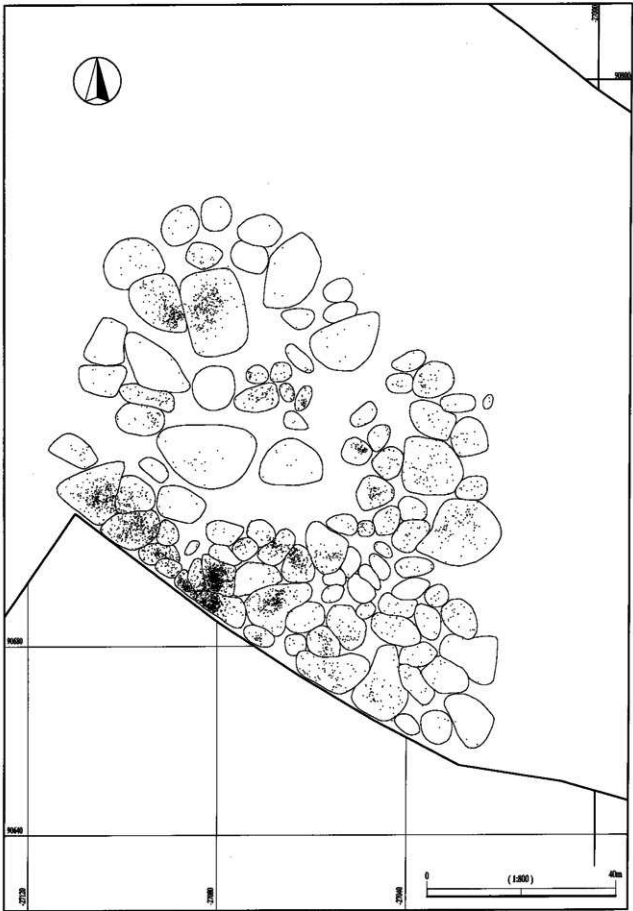
第27図 第2地点 石材別分布図1 (黒曜石全点)



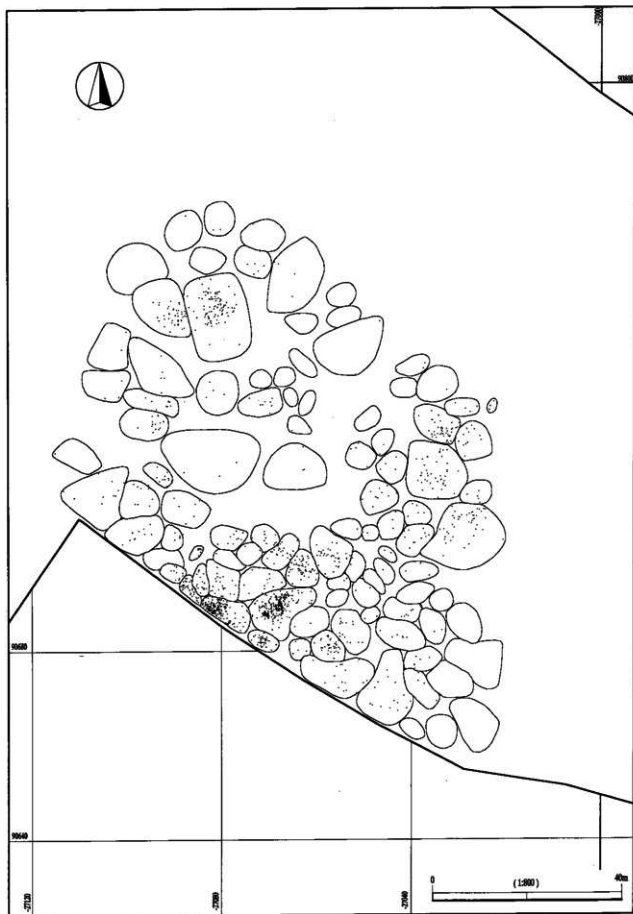
第28図 第2地点 石材別分布図2 (黒曜石原産地別1)



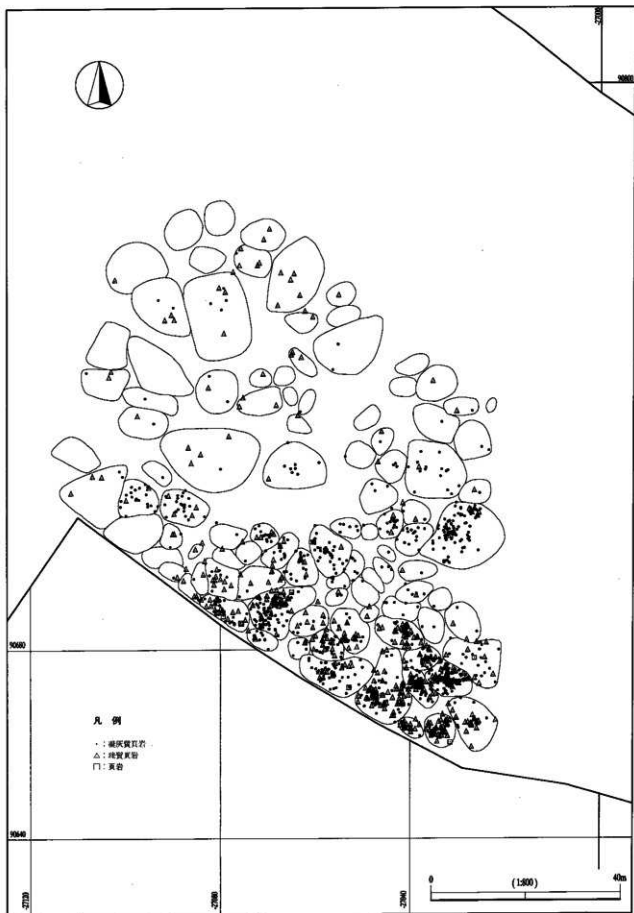
第29図 第2地点 石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)



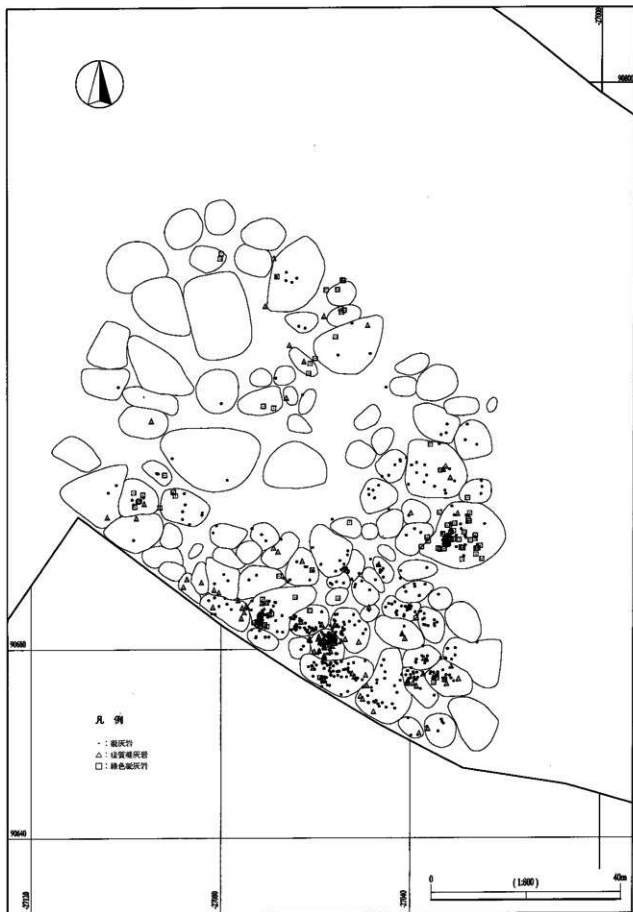
第30圖 第2地点 石材別分布圖4 (無斑晶質安山岩)



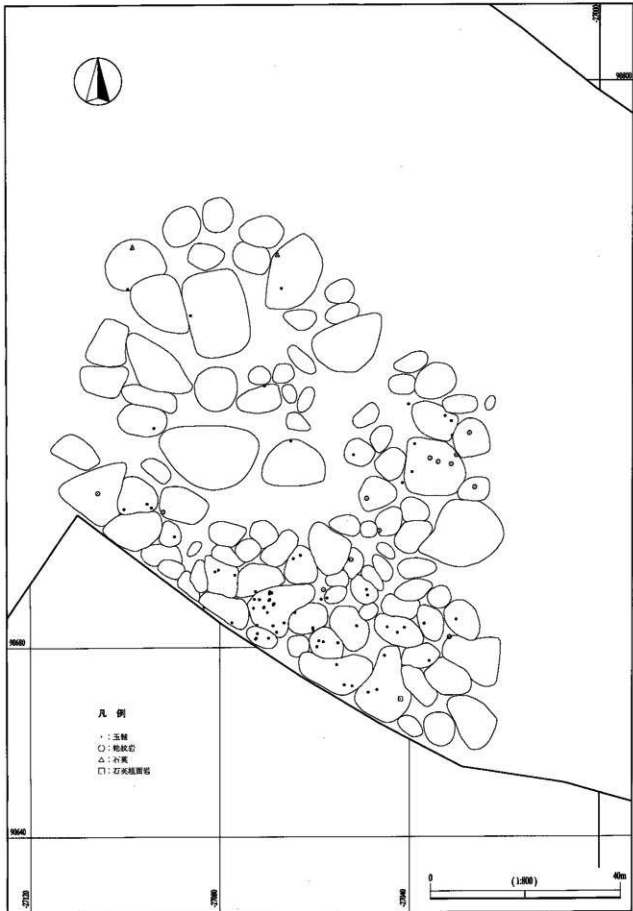
第31図 第2地点 石材別分布図5 (チャート)



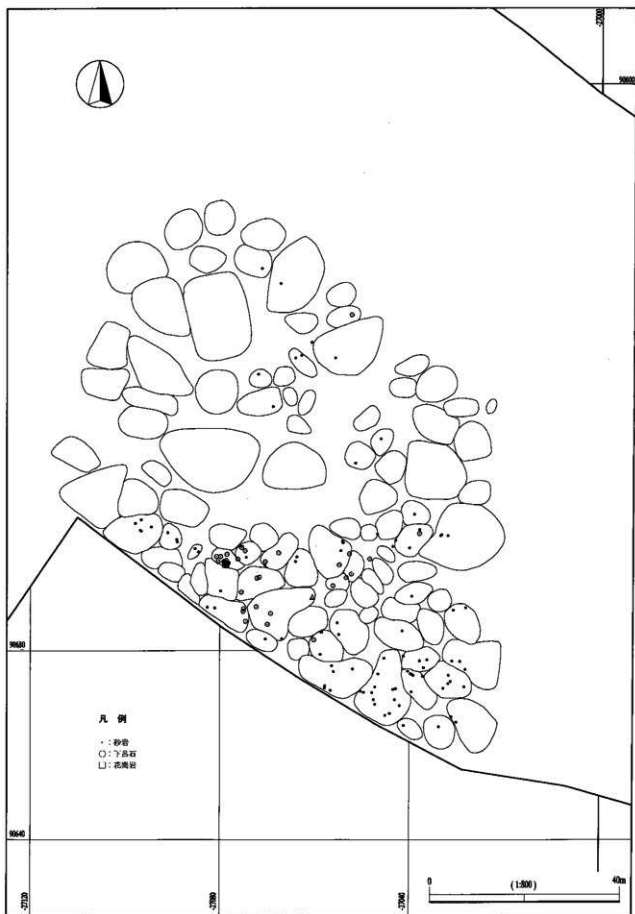
第32圖 第2地点 石材別分布図6 (頁岩系)



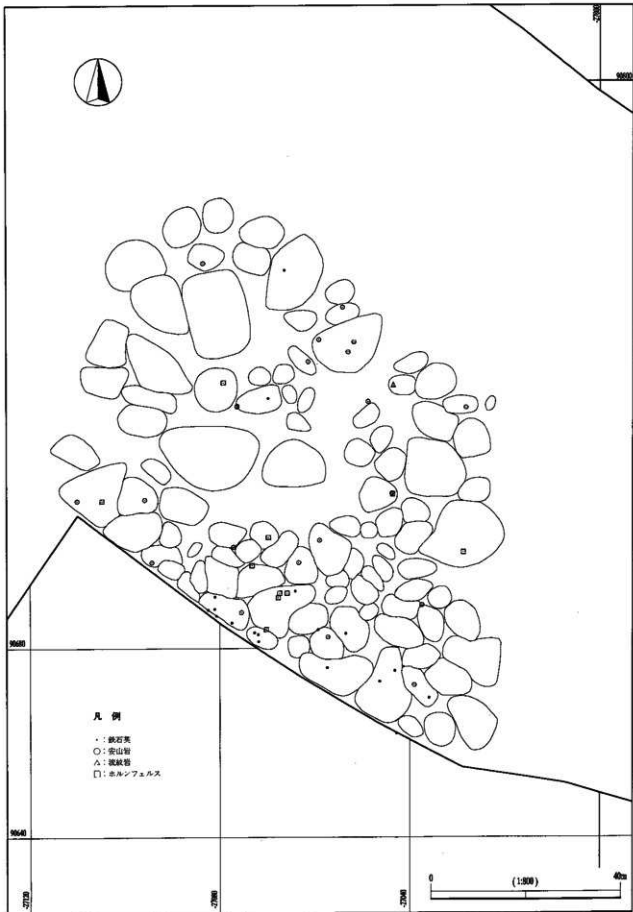
第33図 第2地点 石材別分布図7 (凝灰岩系)



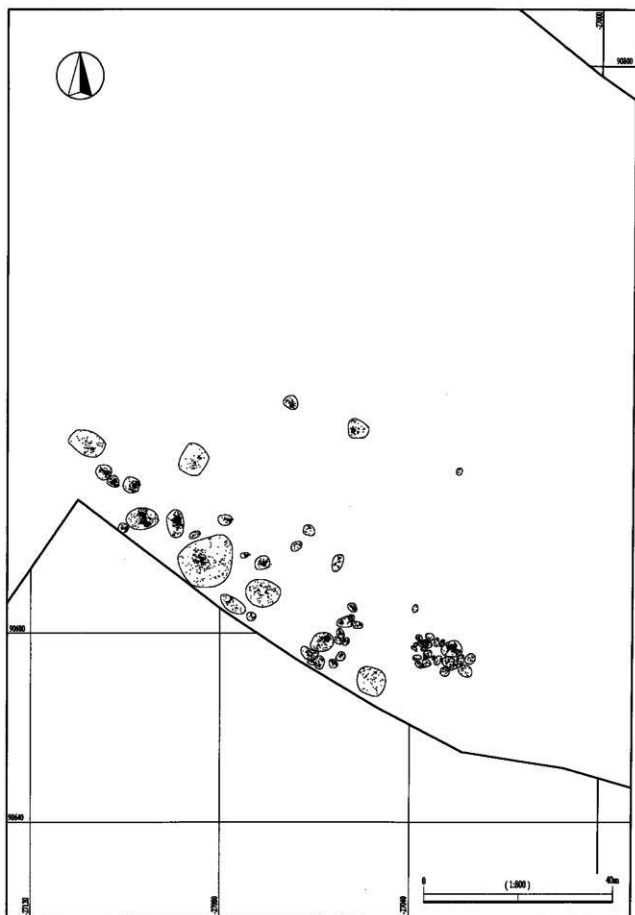
第34図 第2地点 石材別分布図8 (その他石材1)



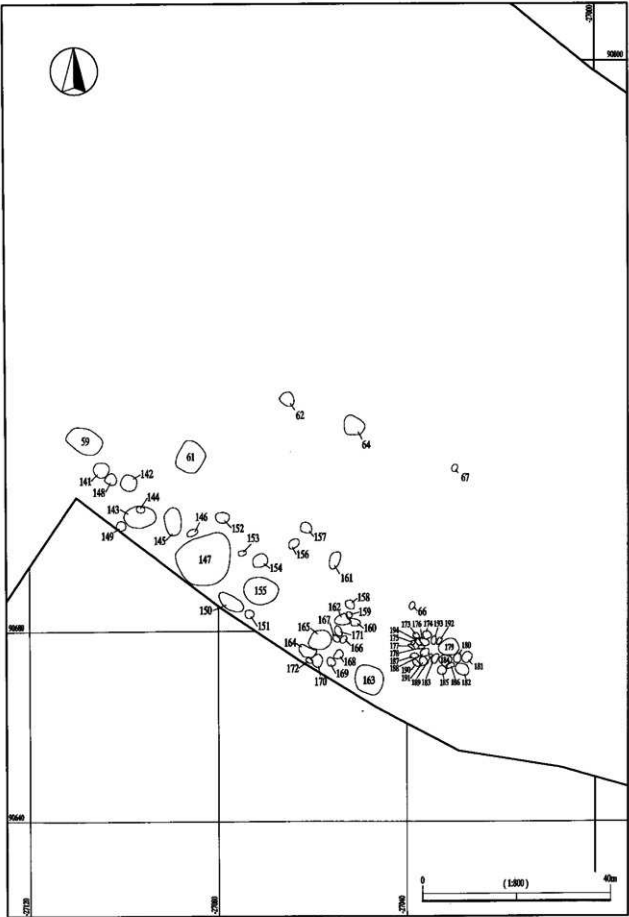
第35図 第2地点 石材別分布図9 (その他石材2)



第36図 第2地点 石材別分布図10 (その他石材3)



第37図 第2地点 礎群 (礎群範囲入り)



第38圖 第2地点 観音配置図

2 遺構

(1) ブロック

第2001号ブロック (図版56)

本ブロックはX CL20グリッドを中心に東西12.8×南北11.2mの平面的広がりをもつ。分布密度は希薄である。第2019号ブロックが接する。遺物は、石器が19点、礫が3点、総数が22点である。出土層位はⅢ・Ⅳ層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、剥片13点、砕片4点、原石1点が出土した。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第2002号ブロック (図版56)

本ブロックはX CR16グリッドを中心に、直径約8mの平面的広がりをもつ。分布密度は希薄である。第2003・2004号ブロックが近接する。遺物は、石器が16点、礫が3点、総数が19点である。出土層位はⅢ層～Ⅴa層だが、各層とも平均に出土する。器種組成は、ナイフ形石器、2次加工のある剥片、微細剝離痕のある剥片、折断剥片が各1点、剥片11点、砕片1点が出土した。石材は、無斑晶質安山岩が主体、次いで黒曜石が多い。

第2003号ブロック (図版56)

本ブロックはX DA15グリッドを中心に、南北7.2×東西8mの平面的広がりをもつ。第2002号ブロックが近接する。遺物は、石器が5点、礫が2点、総数が7点である。出土層位はⅢ層・Ⅳ層から出土している。器種組成は、台形石器、敲石各1点、剥片3点が出土した。各種石材を使用している。

第2004号ブロック (図版57)

本ブロックはX CS19グリッドを中心に、東西8×南北5.6mの平面的広がりをもつ。第2002・2020号ブロックが近接する。遺物は、石器が28点、礫が4点、総数が32点である。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅴa層までだが、Ⅲ層が主体となる。器種組成は、ナイフ形石器、微細剝離痕のある剥片、敲石が各1点、剥片23点、砕片1点、石核1点が出土した。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第2005号ブロック (図版57)

本ブロックはX DF17グリッドを中心に、東西8.8×南北7.2mの平面的広がりをもつ。第2006号ブロックが接する。第2007号ブロックが近接する。遺物は、石器が12点、礫が7点、総数が19点である。出土層位はⅢ層～Ⅴc層で、Ⅲ層が多いが、各層ともに一定量は出土しており、複数石器文化が重複する可能性がある。器種組成は、ナイフ形石器3点、剥片7点、砕片2点が出土。石材は、黒曜石が多い。

第2007・4028号ブロックと接合資料を共有している。

第2006号ブロック (図版57)

本ブロックはX DD20グリッドを中心に、東西8×南北7.2mの平面的広がりをもつ。第2005・2007号ブロックが接する。遺物は、石器が28点、礫が2点、総数が30点である。出土層位はⅢ層～Ⅴc層までみられるが、Ⅲ層とⅤa層に2つのピークがあり、複数石器文化が重複している可能性がある。器種組成は、ナイフ形石器、貝殻状刃器、彫器、搔器、敲石が各1点、微細剝離痕のある剥片が2点、剥片15点、砕片4点、石核2点が出土。石材は、黒曜石が主体で、次いでチャート、珪質頁岩がみられる。

第2007・2019号ブロックと接合資料を共有している。

第2007号ブロック (図版58)

本ブロックはX II01グリッドを中心に、南北16×東西12mの平面的広がりをもつ。第2006号ブロックが接する。第2005号ブロックが近接する。遺物は、石器が70点、礫が16点、総数が86点である。出土層位はⅢ層～Ⅴc層までみられるが、Ⅲ・Ⅳ層が主体で、下層になるにしたがって、遺物量は減少する。器種組

成は、ナイフ形石器3点、貝殻状刃器1点、搔器1点、削器2点、楔形石器2点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片8点、剥片36点、砕片11点、石核4点が出土した。石材は、黒曜石が主体を占めるが、その他1～5点までさまざまな石材が使用されている。

第2005・2006・2011・2020・4028号ブロックと接合資料を共有している。

第2008号ブロック (図版58)

本ブロックはX IM03グリッドを中心に、東西6.4×南北5.6mの平面的広がりをもつ。第2009号ブロックが接する。遺物は、石器が12点、礫が18点、総数が30点である。出土層位はⅢ層～V c層までみられ、Ⅲ層が多く、下層になるにつれ遺物は減少する。器種組成は、ナイフ形石器2点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片7点、砕片1点、石核1点である。石材は、黒曜石、緑色凝灰岩が主体となる。

第2010・2020号ブロックと接合資料を共有している。

第2009号ブロック (図版58)

本ブロックはX IN06グリッドを中心に、東西7.2×南北4.8mの平面的広がりをもつ。第2008・2011号ブロックが接する。遺物は、石器が11点、礫が3点、総数が14点である。出土層位はⅢ層～V c層までみられるが、Ⅲ層が多く、下層になるにつれ遺物は減少する。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器2点、石刃1点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石1点、剥片1点、砕片4点である。製品が多いブロックである。石材は、黒曜石、緑色凝灰岩を主体とするが、その他の石材も種類が多い。

第2010号ブロック (図版59)

本ブロックはX IJ06グリッドを中心に、東西7.2×南北4.8mの平面的広がりをもつ。第2007号ブロックが近接する。遺物は、石器が23点、礫が2点、総数が25点である。出土層位はⅢ層～V b層までみられるが、Ⅲ・Ⅳ層が多い。器種組成は、楔形石器4点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片10点、砕片2点、石核2点、原石1点である。石材は、黒曜石が主体である。

第2008号ブロックと接合資料を共有している。

第2011号ブロック (図版59)

本ブロックはX IO08グリッドを中心に、南北16×東西12.8mの平面的広がりをもつ。第2009号ブロックが接する。第2012号ブロックが近接する。遺物は、石器が39点、礫が36点、総数が75点である。出土層位はⅢ層～V c層まで出土、Ⅲ・Ⅳ層が主体で、V層になると大幅に減少する。器種組成は、ナイフ形石器2点、斧形石器2点、石刃3点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石5点、磨石1点、剥片18点、砕片4点、石核1点、原石1点が出土した。石材は、黒曜石が主体、ついで無斑晶質安山岩である。

斧形石器と基部加工のナイフ形石器は各1点、V b層から出土しており、それらを伴うことで特徴的な貫ノ木I石器文化と考えられるが、出土層位はⅢ・Ⅳ層が多い。斜面に近いことから、遺物の浮き上がりが大きいことも考えられるが、I石器文化のなかでも後出的であるととらえることも可能である。そのように考えた時、斧形石器が2点とも蛇紋岩ではなく、凝灰質頁岩である点も興味深い。

第2007号ブロックと接合資料を共有している。

第2012号ブロック (図版59)

本ブロックはX IJ10グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸として7.0×3.2mの平面的広がりをもつ。第2011・2013号ブロックが近接する。遺物は、石器が17点、礫が3点、総数が20点である。出土層位はⅢ層～V a層であるが、Ⅲ層がほとんどを占める。器種組成は、削器1点、石刃3点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石2点、磨石1点、剥片8点、砕片1点である。石材は、無斑晶質安山岩と珪質岩系で構成される。

第2013号ブロック (図版60)

本ブロックはX IH12グリッドを中心に、東西4.8×南北4 mの平面的広がりをもつ。第2012・2014・2015・2016号ブロックが近接する。遺物は、石器が13点、礫が4点、総数が17点である。出土層位はⅢ層～V b層であるが、IV層が最も多い。器種組成は、削器1点、剥片10点、石核2点が出土した。石材は、無斑品質安山岩が主体を占める。

第2014号ブロック (図版60)

本ブロックはX IE12グリッドを中心に、東西方向4.8×4 mの平面的広がりをもつ。第2015号ブロックが接する。第2013号ブロックが近接する。遺物は、石器が21点、礫が6点、総数が27点である。出土層位はⅢ層～V a層まで出土。Ⅲ・IV層が多く、V層に入ると遺物は減少する。器種組成は、剥片18点、石核3点が出土で、道具類がない。石材は、無斑品質安山岩を主体とする。

第2015号ブロック (図版60)

本ブロックはX IE15グリッドを中心に、東西方向9.6×6.4 mの平面的広がりをもつ。第2014号ブロックが接する。第2013・2016・2098号ブロックが近接する。遺物は、石器が75点、礫が13点、総数が88点である。出土層位はⅢ層～V c層まで出土。Ⅲ層が最も多く、下層になるにつれ、遺物量も減るが、特にV層になると、激減する。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器1点、楔形石器2点、2次加工のある剥片2点、微細刺痕のある剥片1点、敲石1点、磨石1点、磨石破片1点、剥片53点、砕片3点、石核9点が出土した。石材は、無斑品質安山岩を主体とする。

第2016・2040・2043号ブロックと接合資料を共有している。

第2016号ブロック (図版60)

本ブロックはX IH14グリッドを中心に、東西方向4×3.2 mの平面的広がりをもつ。第2013・2015・2017号ブロックが近接する。遺物は、石器が19点、礫が4点、総数が23点である。出土層位はⅢ層～V a層、IV層が主体である。器種組成は、削器2点、2次加工のある剥片1点、磨石1点、剥片14点、砕片1点が出土。石材は、無斑品質安山岩を主体とする。

第2015・2040・2043・4040・4042号ブロックと接合資料を共有している。

第2017号ブロック (図版60)

本ブロックはX IJ15グリッドを中心に、北東—南西方向5.6×3.2 mの平面的広がりをもつ。第2016・2018号ブロックが近接する。遺物は、石器が37点、礫が23点、総数が60点である。出土層位はⅢ層～V c層までだが、Ⅲ・IV層が主体で、V層の遺物は少ない。器種組成は、斧形石器1点、削器2点、敲石1点、剥片31点、砕片2点が出土。斧形石器はIV層からの出土。無斑品質安山岩製で、長さ×幅の差があまりなく、V層から出土する蛇紋岩製の斧形石器とは、特徴が違う。また、無斑品質安山岩も多用されているものとは違う。石材は、無斑品質安山岩を主体とする。

斧形石器を伴うが、出土層位を考慮すると時期的には新しい石器文化の可能性が高い。

第2052号ブロックと接合資料を共有している。

第2018号ブロック (図版60)

本ブロックはX II17グリッドを中心に、東西方向5.6×4 mの平面的広がりをもつ。第2017号ブロックが近接する。遺物は、石器が7点、礫が5点、総数が12点である。出土層位はⅢ・IV層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、敲石1点、剥片4点が出土。多様な石材を使用。

Ⅲ層主体の第62号礫群と重複する。

第2019号ブロック (図版61)

本ブロックはX HO04グリッドを中心に、北西—南東方向13.6×10.4 mの平面的広がりをもつ。第

2001・2020号ブロックが接する。遺物は、石器が284点、礫が18点、総数が302点である。出土層位はⅢ層～Ⅴc層まで出土しているが、Ⅴa層が最も多く、次いでⅣ層で、あとの層は少ない。器種組成は、ナイフ形石器2点、貝殻状刃器1点、搔器9点、削器5点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片174点、砕片74点、石核16点が出土している。黒曜石製の裏面基部加工のナイフ形石器が出土している。大形の粗製円形搔器も特徴的である。石材は、無斑品質安山岩が主体、次いでチャート、器種組成からみて、ひとつの特徴的な石器文化を導き出せるブロックになりそうである。

第2006・2020・2023・2024・2025号ブロックと接合資料を共有している。

第2020号ブロック (図版62)

本ブロックはX IA05グリッドを中心に、南北方向18.4×12.8mの平面的広がりをもつ。第2019号ブロックが接する。第2004号ブロックが近接する。遺物は、石器が413点、礫が43点、総数が456点である。出土層位はⅢ層～Ⅴc層まで出土しているが、Ⅳ層が最も多く、次いでⅤa層、Ⅲ層で、あとの層は少ない。隣接する第2019よりも上層にピークがくることから、時期差としてとらえられよう。器種組成は、ナイフ形石器5点、搔器3点、削器5点、楔形石器7点、石刃1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片15点、折断剥片1点、敲石2点、剥片267点、砕片71点、石核32点が出土。遺物総数も多いが、石核の数が非常に多い。石材は、無斑品質安山岩が主体となる。次いでチャート、黒曜石の順。他の石材は少ない。第2019号ブロック同様、石器文化の認定基準になりうる。

第2007・2008・2019・2024・2025・4033号ブロックと接合資料を共有している。

第2021号ブロック (図版63)

本ブロックはX HI09グリッドを中心に、北東—南西方向10.4×8.8mの平面的広がりをもつ。第2022・2023号ブロックが接する。遺物は、石器が16点、礫が3点、総数が19点である。出土層位はⅢ・Ⅳ層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器、貝殻状刃器、削器、2次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片が各1点、剥片9点、砕片1点、原石1点が出土。石材は、黒曜石が主体である。

第2022号ブロック (図版63)

本ブロックはX HI13グリッドを中心に、東西方向10.4×7.2mの平面的広がりをもつ。第2021・2024号ブロックが接する。遺物は、石器が26点、礫が1点、総数が27点である。出土層位はⅢ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器1点、削器1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片14点、砕片1点、石核3点、原石1点が出土。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が主体である。

第2023号ブロック (図版64)

本ブロックはX HN11グリッドを中心に、北西—南東方向17.6×9.6mの平面的広がりをもつ。第2021・2024号ブロックが接する。第2098号ブロックが近接する。遺物は、石器が39点、礫が6点、総数が45点である。出土層位はⅢ層～Ⅴb層、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器、貝殻状刃器、搔器状石器、楔形石器、2次加工のある剥片が各1点、微細剥離痕のある剥片9点、剥片20点、砕片2点、石核3点が出土。石材は、黒曜石が主体である。

第2019・4042号ブロックと接合資料を共有している。

第2024号ブロック (図版64)

本ブロックはX HN15グリッドを中心に、東西方向を長軸として12×4.4mの平面的広がりをもつ。第2022・2023・2025号ブロックが接する。遺物は、石器が54点、礫が6点、総数が60点である。出土層位はⅢ層～Ⅴb層、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器4点、削器2点、剥片42点、砕片3点、石核2点が出土。大形厚手の粗製円形搔器は無斑品質安山岩が主体である。

第2019・2020・2025号ブロックと接合資料を共有している。

第2025号ブロック (図版65)

本ブロックはX HM17グリッドを中心に、東西方向11.2×7.2mの平面的広がりをもつ。第2024号ブロックが接する。第2099号ブロックが近接する。遺物は、石器が56点、礫が4点、総数が60点である。出土層位はⅢ層～V c層、Ⅳ層からV a層が主体である。器種組成は、搔器9点、削器3点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片30点、碎片5点、石核3点が出土。大形厚手粗製円形搔器が集中して出土している。石材は無斑晶質安山岩が主体、次いでチャート。

第2019・2020・2024号ブロックと接合資料を共有している。

第2026号ブロック (図版66)

本ブロックはX HF20グリッドを中心に、北西—南東方向10.4×6mの平面的広がりをもつ。第2027号ブロックが近接する。遺物は、石器が21点、礫が1点、総数が22点である。出土層位はⅢ層～V b層、Ⅳ層が主体である。器種組成は、削器3点、剥片15点、碎片2点、石核1点が出土。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

Ⅳ層主体の第59号礫群と重複する。

第2027号ブロック (図版67)

本ブロックはX MH04グリッドを中心に、北西—南東方向14.4×12mの平面的広がりをもつ。第2028・2031号ブロックが接する。第2026号ブロックが近接する。遺物は、石器が343点、礫が40点、総数が383点である。出土層位はⅢ層～V c層、各層に分散しており、Ⅳ層、V a層、V b層それぞれに、100点近く出土している。器種組成は、ナイフ形石器、槍先形尖頭器、斧形石器、搔器が各1点、削器2点、石刃1点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片7点、敲石2点、剥片236点、碎片77点、石核12点が出土。石核が多く10点を超え、特徴的である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。V b層の遺物が多いことから、貫ノ木Ⅰ石器文化に属すると考えられる。ナイフ形石器はV b層出土、斧形石器はⅢ層出土であるが蛇紋岩製でⅠ石器文化に属すると考えられ、槍先形尖頭器は混入しているとみられるべきであろう。

Ⅳ層主体の第141号礫群、Ⅳ・V a層主体の第148号礫群と重複する。第2028号ブロックと接合資料を共有している。

第2028号ブロック (図版66)

本ブロックはX ML05グリッドを中心に、東西方向8.8×8mの平面的広がりをもつ。第2027・2031号ブロックが接する。第2030号ブロックが近接する。遺物は、石器が149点、礫が20点、総数が169点である。出土層位はⅢ層～V c層まで出土するが、Ⅳ層、V a層に集中する。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器3点、楔形石器3点、2次加工のある剥片2点、敲石1点、剥片112点、碎片19点、石核8点が出土。石材は、無斑晶質安山岩が主体を占めるが、次いで、凝灰質頁岩が21点と、ややまとまってある。

Ⅳ層主体の第142号礫群と重複する。第2027・2031号ブロックと接合資料を共有している。

第2029号ブロック (図版68)

本ブロックはX MN02グリッドを中心に、北西—南東方向6.4×4mの平面的広がりをもつ。第2099号ブロックが近接する。遺物は、石器が21点、礫が3点、総数が24点である。出土層位はⅢ層～V c層まで出土するが、V a層に集中する。器種組成は、ナイフ形石器2点、敲石3点、剥片15点、碎片1点が出土。3点の敲石は、球状の凝灰岩礫を用い、筋状の打痕をもつという共通した特徴がある。2点のナイフ形石器は先端部の破片である。石材は、チャートが主体である。

第2030号ブロックと接合資料を共有している。

第2030号ブロック (図版68)

本ブロックはX MQ06グリッドを中心に、東西方向11.2×8mの平面的広がりをもつ。第2028・2029・2031・2032号ブロックが近接する。遺物は、石器が55点、礫が23点、総数が78点である。出土層位は、III層～Vb層まで出土するが、下層になるにつれ増加傾向があり、Vb層が最も多い。器種組成は、台形石器、斧形石器、削器、楔形石器が各1点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石2点、剥片41点、砕片2点、石核2点が出土。石材は凝灰質頁岩が最も多い。礫が23点出土しているが、Vb層が多い。10cmをこえる大形のもの多く、ブロックの外縁部を1～2mの間隔でめぐる配石と考えられる。貫ノ木I石器文化。

第2029号ブロックと接合資料を共有している。

第2031号ブロック (図版69)

本ブロックはX ML08グリッドを中心に、東西方向12×8mの平面的広がりをもつ。第2027・2028・2032・2034号ブロックが接する。第2030号ブロックが近接する。遺物は、石器が382点、礫が28点、総数が410点である。出土層位は、III層～Vc層まで出土するが、IV層とVa層が最も多い。器種組成は、貝殻状刃器3点、槍先形尖頭器1点、削器1点、2次加工のある剥片6点、微細剥離痕のある剥片5点、折断剥片1点、敲石4点、剥片281点、砕片65点、石核15点が出土。石材は、無斑晶質安山岩が主体、ついで黒曜石。

IV層主体の第143・144号礫群、III・IV層主体の第149号礫群と重複する。第2028・2032号ブロックと接合資料を共有している。

第2032号ブロック (図版69)

本ブロックはX MP09グリッドを中心に、南北方向5.6×4.8mの平面的広がりをもつ。第2031・2034号ブロックが接する。第2030号ブロックが近接する。遺物は、石器が42点、礫が6点、総数が48点である。出土層位は、III層～Vc層まで出土するが、IV層にピークがくる。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片3点、敲石1点、剥片24点、砕片6点、石核2点が出土。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

IV層主体の第145号礫群と重複する。第2031・2034号ブロックと接合資料を共有している。

第2033号ブロック (図版69)

本ブロックはX MR10グリッドを中心に、北東—南西方向4×1.9mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が17点、礫が5点、総数が22点である。出土層位はIII～IV下層で、III層主体である。器種組成は、揉錘器、搔器、微細剥離痕のある剥片が各1点、剥片10点、砕片2点、石核2点が出土。石材は、チャートが最も多く用いられている。

III層主体の第146号礫群と重複する。

第2034号ブロック (図版70)

本ブロックはX MO11グリッドを中心に、東西方向8.8×4.8mの平面的広がりをもつ。第2031・2032・2035号ブロックが接する。遺物は、石器が129点、礫が33点、総数が162点である。出土層位は、III層～Vb層まで出土、IV層が主体、次いでIII層、V層は少ないが、20点ほどはある。器種組成は、削器、石刃が各1点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片96点、砕片22点、石核5点が出土。石材は、無斑晶質安山岩以外は、黒曜石と安山岩が各1点のみ。

第2032号ブロックと接合資料を共有している。

第2035号ブロック (図版70)

本ブロックはX MO12グリッドを中心に、北西—南東方向5.6×4mの平面的広がりをもつ。第2034・

2036号ブロックが接する。遺物は、石器が58点、礫が12点、総数が70点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層まで出土、Ⅳ層が主体である。器種組成は、搔器、微細剥離痕のある剥片が各1点、剥片40点、碎片12点、石核4点が出土。石材は、無斑品質安山岩が主体、次いでチャート。

第2036号ブロックと接合資料を共有している。

第2038号ブロック (図版71)

本ブロックはX MQ14グリッドを中心に、南北方向6.4×3.2mの平面的広がりをもつ。第2035・2037・2046号ブロックが接する。遺物は、石器が227点、礫が2点、総数が229点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴc層まで出土、Ⅳ層・Ⅴa層が主体である。器種組成は、搔器6点、削器4点、楔形石器1点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片145点、碎片59点、石核9点が出土。大形厚手円形搔器が特徴。石材は、無斑品質安山岩が主体、次いでチャート。

Ⅲ・Ⅳ層主体の第147号礫群と重複する。第2035号ブロックと接合資料を共有している。

第2037号ブロック (図版71)

本ブロックはX MS13グリッドを中心に、南北方向7.2×4mの平面的広がりをもつ。第2036・2045・号ブロックが接する。第2046号ブロックが近接する。遺物は、石器総数が194点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層まで出土、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器5点、搔器2点、削器1点、石刃2点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片78点、削片6点、碎片96点、石核2点が出土。碎片が多いのが特徴的。削片が6点出土しているが、うち5点が黒曜石製で槍先形尖頭器の石材と共通する。槍先形尖頭器には極状剥離が認められるものがあるため、その時に剥離された削片と考えられる。5点の槍先形尖頭器も、チャート製の完形品1点を除き、他は黒曜石製の破損品で本ブロックでは黒曜石製の槍先形尖頭器製作作業が主に行われたと考えられる。石材は、黒曜石と無斑品質安山岩が主体である。剥片の長幅比をみると黒曜石は1:1よりやや縦長、それとは対照的に無斑品質安山岩はやや横長である。

Ⅲ・Ⅳ層主体の第147号礫群と重複する。

第2038号ブロック (図版72)

本ブロックはX NA09グリッドを中心に、東西方向7.2×5.6mの平面的広がりをもつ。第2039・2040号ブロックが接する。第2041号ブロックが近接する。遺物は、石器が29点、礫が7点、総数が36点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴa層、Ⅲ層が最も多く、下層になるにしたがい、減少する。器種組成は、楔形石器、石刃が各1点、剥片21点、碎片5点、石核1点が出土。石材は、無斑品質安山岩とチャートが10点ずつ出土。

Ⅲ・Ⅳ層主体の第152号礫群と重複する。

第2039号ブロック (図版72)

本ブロックはX NA11グリッドを中心に、東西方向7.2×4.8mの平面的広がりをもつ。第2038・2040・2045号ブロックが接する。第2044号ブロックが近接する。遺物は、石器が29点、礫が7点、総数が36点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層まで出土、Ⅳ層を中心に上下に分散する。器種組成は、ナイフ形石器、槍先形尖頭器、楔形石器が各1点、剥片が18点、碎片6点、石核2点が出土。石材は、下呂石、黒曜石が主体。槍先形尖頭器は極状剥離を有するものである。

第2046・2048号ブロックと接合資料を共有している。

第2040号ブロック (図版72)

本ブロックはX NC10グリッドを中心に、東西方向5.6×4.8mの平面的広がりをもつ。第2038・2039・2041号ブロックが接する。第2042・2044号ブロックが近接する。遺物は、石器が40点、礫が13点、総数が

53点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層まで出土、Ⅳ層を中心に上下に分散する。器種組成は、削器2点、石刃1点、敲石2点、磨石1点、剥片25点、砕片7点、石核2点が出土。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第2015・2016・2043・2048・2075・4032・4074号ブロックと接合資料を共有している。

第2041号ブロック (図版73)

本ブロックはX NF09グリッドを中心に、南北方向6.4×5.6mの平面的広がりをもつ。第2040・2042号ブロックが接する。第2038号ブロックが近接する。遺物は、石器が51点、礫が5点、総数が56点である。出土層位はⅢ層～Ⅴb層まで出土するが、Ⅳ層にピークがくる。器種組成は槍先形尖頭器、削器が各1点、楔形石器3点、敲石1点、剥片30点、砕片5点、石核10点が出土。石材は無斑品質安山岩が最も多いが、ついで凝灰質頁岩、チャートも10点をこす。

第2042・2043号ブロックと接合資料を共有している。

第2042号ブロック (図版73)

本ブロックはX NG10グリッドを中心に、北東-南西方向を長軸とする約9.6×5.2mの楕円形の範囲に平面的広がりをもつ。第2041・2043・2044号ブロックが接する。第2040号ブロックが近接する。遺物は、石器が136点、礫が17点、総数が153点である。出土層位はⅢ層～Ⅴb層まで出土するが、Ⅳ層にピークがくる。器種組成はナイフ形石器1点、搔器2点、削器3点、楔形石器3点、2次加工のある剥片6点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片91点、削片1点、砕片17点、石核9点が出土。石材は無斑品質安山岩が主体、次いでチャート、凝灰質頁岩も10点をこす。

第2041・2043・2063号ブロックと接合資料を共有している。

第2043号ブロック (図版74)

本ブロックはX NI12グリッドを中心に、南北方向を長軸に8×7.2mの楕円形の範囲に平面的広がりをもつ。第2042・2044・2048・2076号ブロックが接する。遺物は、石器が242点、礫が35点、総数が277点である。出土層位はⅢ層～Ⅴb層まで出土するが、Ⅳ層にピークがくる。器種組成はナイフ形石器1点、槍先形尖頭器1点、搔器1点、削器5点、楔形石器4点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石4点、槍先形尖頭器破片1点、剥片173点、削片1点、砕片31点、石核17点が出土。石材は無斑品質安山岩が主体で140点を数え、ついでチャートが56点出土。

Ⅲ層主体の第156号礫群と重複する。第2015・2016・2040・2041・2042・2047・2076号ブロックと接合資料を共有している。

第2044号ブロック (図版74)

本ブロックはX NE14グリッドを中心に、東西方向を長軸に9.6×7.2mの楕円形の範囲に散漫な平面的広がりをもつ。第2042・2043・2045・2048号ブロックが接する。第2039・2040・2046号ブロックが近接する。遺物は、石器が68点、礫が69点、総数が137点である。出土層位はⅢ層～Ⅴb層まで出土するが、Ⅲ層が最も多く、次いでⅣ層で、Ⅴ層の遺物量は少ない。器種組成はナイフ形石器4点、槍先形尖頭器4点、削器1点、楔形石器2点、石刃3点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片35点、削片2点、砕片8点、石核3点が出土。石材は黒曜石、無斑品質安山岩、チャートの3種が多用されている。

Ⅲ層主体の第153号礫群、Ⅳ層主体の第154号礫群と重複する。第2048号ブロックと接合資料を共有している。

第2045号ブロック (図版75)

本ブロックはX NA13グリッドを中心に、南北方向を長軸に8.8×7.2mの楕円形の範囲に平面的な広が

りをもつ。第2037・2039・2044・2046号ブロックが接する。遺物は、石器が699点、礫が12点、総数が711点である。出土層位はⅢ層～Vc層まで出土するが、Ⅲ・Ⅳ層が多く、V層の遺物量は少ない。器種組成はナイフ形石器6点、台形石器2点、槍先形尖頭器3点、搔器13点、削器10点、石刃2点、2次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石1点、槍先形尖頭器破片1点、剥片451点、削片2点、碎片186点、石核14点が出土。石材は、無斑品質安山岩が主体をなす。

Ⅲ・Ⅳ層主体の第147号礫群と重複する。第2046号ブロックと接合資料を共有している。

第2046号ブロック (図版76)

本ブロックはX NA17グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に11.2×5.6mの楕円形の範囲に平面的な広がりをもつ。第2036・2045・2048号ブロックが接する。第2037・2044・2047号ブロックが近接する。遺物は、石器が715点、礫が45点、総数が760点である。出土層位は、Ⅲ層～Vc層までだが、Ⅳ層が主体となる。ブロック範囲は南西方向にまで広がる。北西群と南東群の2群に分かれそうであるが、境界は明確でない。垂直分布では、南東群のほうが、北西群より深度が浅めである。器種組成は、ナイフ形石器4点、台形石器4点、槍先形尖頭器3点、彫器1点、搔器2点、削器3点、楔形石器8点、2次加工のある剥片6点、微細剥離痕のある剥片7点、折断剥片1点、磨石1点、台石1点、剥片480点、削片1点、碎片164点、石核28点、原石1点が出土。石材は、無斑品質安山岩を主体とし、ついでチャート。

Ⅲ・Ⅳ層主体の第150号礫群と重複する。第2039・2045・2048・2051号ブロックと接合資料を共有している。

チャート製石核にみる剥片剥離技術には2者がみられる。ひとつには打面を作出し、ある程度打面固定を意識して縦長剥片をとる。もうひとつには小円礫を打削し、砕いてしまいか、方形の剥片をとるものである。後者は、前者の石核調整と捉えられることも可能であるが、平面分布をみると、前者が南東群、後者が北西群と分かれる。

第2047号ブロック (図版77)

本ブロックはX NE20グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に7.2×4mの楕円形の範囲にやや散漫な平面的広がりをもつ。第2048号ブロックが接する。第2046号ブロックが近接する。遺物は、石器が101点、礫が16点、総数が117点である。出土層位はⅢ～Ⅳ層が主体をなす。器種組成は、ナイフ形石器2点、斧形石器1点、楔形石器4点、2次加工のある剥片2点、敲石2点、剥片68点、碎片15点、石核7点が出土している。石材は、チャートが主体をなし、次いで無斑品質安山岩が多い。剥片、石核もこの2種の石材が卓越する。チャート・無斑品質安山岩の剥離作業が主体をなしたブロックで、隣接するブロックにも同様な傾向があり、ブロック群をなすと思われる。

Ⅲ層主体の第151号礫群と重複する。第2043・2048号ブロックと接合資料を共有している。

第2048号ブロック (図版77)

本ブロックはX NG16グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に15.2×10.4mの楕円形の範囲に平面的な広がりをもつ。第2043・2044・2046・2047・2053号ブロックが接する。遺物は、石器が764点、礫が52点、総数が816点である。出土層位は、Ⅲ～Vc層まで出土しているが、Ⅲ・Ⅳ層が主体だが、V層からの出土数もかなりある。器種組成は、ナイフ形石器11点、台形石器3点、槍先形尖頭器2点、彫器1点、搔器5点、削器7点、楔形石器14点、石刃4点、2次加工のある剥片6点、微細剥離痕のある剥片13点、敲石1点、剥片484点、削片4点、碎片175点、石核33点、原石1点が出土している。ナイフ形石器をはじめ、器種が豊富であるのが特徴である。石材は、チャートと無斑品質安山岩が主体となる。

Ⅳ層主体の第155号礫群と重複する。第2039・2040・2044・2046・2047・2051号ブロックと接合資料を共有している。

第2049号ブロック (図版78)

本ブロックはX NI20グリッドを中心に、南北方向を長軸に4.8×4.8mの楕円形の範囲に散漫な平面的広がりをもつ。第2050・2051・2053号ブロックが接する。遺物は、石器が17点、礫が21点、総数が38点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層まで出土しているが、Ⅲ・Ⅳ層が主体となる。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器2点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片13点である。石材は、チャートと無斑晶質安山岩が主体となる。

第2050号ブロック (図版78)

本ブロックはX SM03グリッドを中心に、東西方向を長軸に16×8.8mの楕円形の範囲にやや散漫な平面的広がりをもつ。第2049・2051・2055号ブロックが接する。第2052号ブロックが近接する。遺物は、石器が233点、礫が89点、総数が322点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層まで出土しているが、Ⅲ層が主体となる。器種組成は、ナイフ形石器7点、槍先形尖頭器2点、彫器2点、削器3点、石刃5点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片174点、砕片30点、石核5点が出土している。ナイフ形石器が多いのが特徴である。石材は、無斑晶質安山岩と凝灰質頁岩、凝灰岩が主体をなす。石材の種類は豊富である。

Ⅲ層主体の第164・166・168・169・170号礫群、Ⅳ層主体の第172号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第165号礫群と重複する。第2051・2052・2055・2063号ブロックと接合資料を共有している。

第2051号ブロック (図版79)

本ブロックはX NL20グリッドを中心に、東西方向を長軸に7.2×6.4mの楕円形の範囲に平面的広がりをもつ。第2049・2050・2052・2053号ブロックが接する。遺物は、石器が231点、礫が38点、総数が269点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層まで出土しているが、Ⅲ・Ⅳ層が主体となる。器種組成は、ナイフ形石器4点、台形石器1点、搔器3点、搔器状石器1点、削器4点、石刃2点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片4点、敲石5点、剥片171点、砕片25点、石核7点が出土した。石材は、無斑晶質安山岩が一番多いが、チャート、珪質凝灰岩、凝灰質頁岩、凝灰岩なども多用している。

Ⅲ・Ⅳ・Ⅴa層主体の第167号礫群、Ⅳ層主体の第171号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第165号礫群と重複する。第2046・2048・2050・2052号ブロックと接合資料を共有している。

第2052号ブロック (図版79)

本ブロックはX NN18グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に9.6×6.4mの楕円形の範囲にやや散漫な平面的広がりをもつ。第2051・2054号ブロックが接する。第2050・2053・2074号ブロックが近接する。遺物は、石器が144点、礫が69点、総数が213点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層まで出土しているが、Ⅲ層とⅤa層の2カ所にピークがくる。複数の石器群が重複していると思われる。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、槍先形尖頭器1点、搔器2点、削器2点、石刃2点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片106点、砕片18点、石核4点が出土した。石材は、無斑晶質安山岩が一番多いが、次いで凝灰岩を多用している。

Ⅳ層主体の第158・160・162号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第159号礫群と重複する。第2017・2050・2051号ブロックと接合資料を共有している。

第2053号ブロック (図版80)

本ブロックはX NJ18グリッドを中心に、東西方向を長軸に8.8×6.4mの楕円形の範囲に散漫な平面的広がりをもつ。第2048・2049・2051号ブロックが接する。第2052・2074号ブロックが近接する。遺物は、石器が70点、礫が16点、総数が86点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層まで出土しているが、Ⅲ・Ⅳ層が主体となる。器種組成は、ナイフ形石器、彫器が各1点、搔器、削器が各2点、微細剥離痕のある剥片3点、

剥片49点、砕片8点、石核4点が出土した。石材は、凝灰岩が主体を占める。第1石材である凝灰岩は剥片と石核、微細剝離痕のある剥片が1点で構成される。

第2054号ブロック (図版80)

本ブロックはX NQ17グリッドを中心に、東西方向を長軸に4×3.2mの楕円形の範囲に散漫な平面的広がりをもつ。第2052・2063・2073号ブロックが接する。第2064号ブロックが近接する。遺物は、石器が14点、礫が14点、総数が28点である。出土層位は、Ⅲ～V b層まで出土しているが、総点数が少ないため特にピークを認めることはできない。器種組成は、ナイフ形石器、搔器が各1点、微細剝離痕のある剥片2点、剥片9点、砕片1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体を占める。

第2055号ブロック (図版81)

本ブロックはX SR05グリッドを中心に、南北方向を長軸に16×12mの楕円形の範囲に平面的広がりをもつ。第2050・2056・2061・2062・2063号ブロックが接する。遺物は、石器が250点、礫が92点、総数が342点である。出土層位は、Ⅲ層～V c層までだが、Ⅲ層が主体となる。器種組成は、ナイフ形石器4点、台形石器1点、槍先形尖頭器1点、彫器13点、揉雑器1点、搔器4点、搔器状石器1点、削器7点、楔形石器4点、石刃10点、細石刃1点、2次加工のある剥片7点、微細剝離痕のある剥片11点、敲石1点、台石1点、剥片149点、削片6点、砕片14点、石核14点が出土した。彫器、石刃が特徴のブロックである。石材は、珪質頁岩をはじめとする頁岩・凝灰岩系の石材が主体を占める。ついで無斑晶質安山岩、黒曜石を使用している。

Ⅲ層主体の第163号礫群と重複する。第2050・2061・2071号ブロックと接合資料を共有している。

第2056号ブロック (図版80)

本ブロックはX TA09グリッドを中心に、北西一南東方向6.4×4 mの平面的広がりをもつ。第2055号ブロックが接する。第2057号ブロックが近接する。遺物は、石器が25点、礫が5点、総数が30点である。出土層位は、Ⅲ～V a層だが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、槍先形尖頭器1点、彫器2点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片1点、剥片15点、削片1点、砕片1点、石核1点である。石材は、珪質頁岩を主体とする頁岩・凝灰岩系が、80%を占める。

第2057号ブロック (図版80)

本ブロックはX TD09グリッドを中心に、南北方向7.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第2058号ブロックが接する。第2056号ブロックが近接する。遺物は、石器が63点、礫が26点、総数が89点である。出土層位は、Ⅲ～V b層だが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、彫器3点、揉雑器1点、削器1点、楔形石器1点、石刃3点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片2点、剥片34点、削片4点、砕片9点、石核2点である。石材は、珪質頁岩が主体を占める。彫器が特徴のブロックである。

第2058号ブロック (図版82)

本ブロックはX TH09グリッドを中心に、東西方向12.8×8.8mの平面的広がりをもつ。第2057・2060号ブロックが接する。遺物は、石器が49点、礫が86点、総数が135点である。出土層位は、Ⅲ～V b層だが、Ⅲ層が主体である。V a層にも小さなピークがあり、Ⅲ層とV a層の2つの石器文化が混在している可能性がある。器種組成は、ナイフ形石器2点、彫器5点、削器2点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片8点、敲石2点、剥片25点、削片2点、石核2点である。石材は、珪質頁岩、黒曜石が主体である。彫器が特徴のブロックである。

第2059号ブロック (図版82)

本ブロックはX TH02グリッドを中心に、東西方向12.8×10.4mの平面的広がりをもつ。第2060・2066号ブロックが接する。第2062号ブロックが近接する。遺物は、石器が45点、礫が83点、総数が128点であ

る。出土層位は、Ⅲ～Ⅴa層だが、Ⅲ層が主体である。Ⅴa層の遺物が平面的に北西隅に偏ることから、Ⅲ層とⅤa層の2つの石器文化が混在している可能性がある。器種組成は、斧形石器1点、彫器4点、搔器2点、石刃4点、微細剝離痕のある剥片1点、剥片26点、削片2点、砕片2点、石核3点である。石材は、凝灰岩・頁岩系が主体をなす。ブロックの主体は彫器を主体とした石器文化であると考えられるが、分布の北西隅にⅤa層を主体とし、斧形石器を伴う石器文化がある。

Ⅲ層主体の第181号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第179号礫群と重複する。第2060号ブロックと接合資料を共有している。

第2060号ブロック (図版83)

本ブロックはX TE04グリッドを中心に、東西方向9.6×5.6mの平面的広がりをもつ。第2058・2059・2061・2062号ブロックが接する。遺物は、石器が190点、礫が25点、総数が215点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層だが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器8点、彫器20点、削器2点、石刃15点、2次加工のある剥片6点、微細剝離痕のある剥片6点、敲石1点、磨石1点、剥片102点、削片8点、砕片17点、石核4点である。石材は、凝灰岩・頁岩系が主体をなす。彫器が特徴のブロックである。

Ⅲ層主体の第180・182・184・186号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第179・183・185・191号礫群、Ⅳ層主体の第188・189号礫群、Ⅳ・Ⅴa層主体の第192号礫群と重複する。第2059・2061号ブロックと接合資料を共有している。

第2061号ブロック (図版84)

本ブロックはX TB05グリッドを中心に、北西～南東方向10.4×4.8mの平面的広がりをもつ。第2055・2060・2062号ブロックが接する。遺物は、石器が139点、礫が30点、総数が169点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層だが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器5点、彫器5点、搔器2点、石刃3点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片6点、敲石2点、剥片85点、削片4点、砕片22点、石核3点である。石材は、凝灰岩・頁岩系が主体をなす。本ブロックも彫器の出土数が多い。

Ⅳ層主体の第187・190号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第191号礫群と重複する。第2055・2060号ブロックと接合資料を共有している。

第2062号ブロック (図版84)

本ブロックはX TB02グリッドを中心に、東西方向8×4.8mの平面的広がりをもつ。第2055・2060・2061・2063号ブロックが接する。第2059・2065号ブロックが近接する。遺物は、石器が75点、礫が32点、総数が107点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴc層だが、Ⅲ層が主体で、下層になるにしたがって遺物量は減少していく。器種組成は、ナイフ形石器3点、彫器5点、搔器1点、削器2点、楔形石器1点、石刃2点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片3点、剥片46点、削片1点、砕片6点、石核4点である。石材は、凝灰岩・頁岩系が主体をなす。彫器が特徴的なブロックである。

Ⅳ層主体の第173・175・177・188・194号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第174・176・178・193号礫群と重複する。

第2063号ブロック (図版85)

本ブロックはX NS19グリッドを中心に、北西～南東方向11.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第2054・2055・2062・2064・2065号ブロックが接する。遺物は、石器が99点、礫が48点、総数が147点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層だが、Ⅲ・Ⅳ層が主体で、Ⅴ層になると遺物量は激減する。器種組成は、ナイフ形石器5点、槍先形尖頭器2点、彫器2点、搔器1点、石刃3点、2次加工のある剥片3点、微細剝離痕のある剥片6点、削片60点、砕片12点、石核4点、原石1点である。石材は、凝灰岩・頁岩系が主体をなすが、黒曜石、無珪品質安山岩も一定量含まれる。ナイフ形石器、槍先形尖頭器、彫器が特徴的なブロックだが、

槍先形尖頭器とナイフ形石器・彫器は平面的な分布を異にしている。

第2042・2050号ブロックと接合資料を共有している。

第2064号ブロック (図版85)

本ブロックはX NT17グリッドを中心に、東西方向8×5.6mの平面的広がりをもつ。第2063・2065・2068号ブロックが接する。第2054号ブロックが近接する。遺物は、石器が62点、礫が23点、総数が85点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層だが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、削器1点、楔形石器2点、石刃2点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片45点、破片4点、石核2点である。石材で最も多いのは凝灰岩であるが、ついで黒曜石、無斑品質安山岩があり、使用石材にあまり偏りはない。ナイフ形石器を単純に組成するブロックで、Ⅳ層～Ⅴa層を本来の包含層とする石器文化としてとらえられるかもしれない。

Ⅲ層主体の第66号礫群と重複する。第2083号ブロックと接合資料を共有している。

第2065号ブロック (図版86)

本ブロックはX OC18グリッドを中心に、南北方向8×5.6mの平面的広がりをもつ。第2063・2064・2067号ブロックが接する。第2062・2066号ブロックが近接する。遺物は、石器が31点、礫が24点、総数が55点である。出土層位は、Ⅲ～Ⅴc層だが、Ⅲ層が主体で、下層になるにしたがって減少する。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、敲石2点、剥片24点、破片1点、石核2点である。石材は、凝灰岩が主体である。

第2066号ブロック (図版86)

本ブロックはX OF18グリッドを中心に、北西-南東方向9.6×6.4mの平面的広がりをもつ。第2059・2067号ブロックが接する。第2065号ブロックが近接する。遺物は、石器が34点、礫が14点、総数が48点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体であるが、一部Ⅴ層中でも出土している。器種組成は、台形石器1点、削器1点、2次加工のある剥片1点、敲石2点、剥片24点、破片2点、石核3点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第2067号ブロック (図版86)

本ブロックはX OD15グリッドを中心に、東西方向5.6×4.8mの平面的広がりをもつ。第2065・2066・2068号ブロックが接する。遺物は、石器が12点、礫が9点、総数が21点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴa層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片9点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第2068号ブロック (図版86)

本ブロックはX OA15グリッドを中心に、東西方向8×4.8mの平面的広がりをもつ。第2064・2067号ブロックが接する。第2069号ブロックが近接する。遺物は、石器が30点、礫が16点、総数が46点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴc層までだが、各層に出土がみられ、特にピークは認めにくい。器種組成は、台形石器1点、削器1点、微細剥離痕のある剥片2点、折断剥片1点、敲石1点、剥片19点、破片2点、石核3点である。石材は、黒曜石が主体となる。

第2069号ブロック (図版87)

本ブロックはX OB12グリッドを中心に、東西方向8×4mの平面的広がりをもつ。第2068・2071・2081・2083号ブロックが近接する。遺物は、石器が22点、礫が16点、総数が38点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体であるが、一部Ⅴ層中でも出土している。器種組成は、ナイフ形石器1点、挿器1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片12点、破片3点、石核3点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第2070号ブロック (図版87)

本ブロックはX NR10グリッドを中心に、北西-南東方向4.8×2.4mの平面的広がりをもつ。第2071・2081号ブロックが近接する。遺物は、石器が8点、礫が5点、総数が13点である。出土層位は、Ⅲ層～V b層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体であるが、一部V層中でも出土している。器種組成は、剥片8点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第2071号ブロック (図版87)

本ブロックはX NR12グリッドを中心に、北西-南東方向6.4×3.2mの平面的広がりをもつ。第2072号ブロックが接する。第2069・2070号ブロックが近接する。遺物は、石器が33点、礫が7点、総数が40点である。出土層位は、Ⅲ層～V c層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細刻離痕のある剥片2点、剥片24点、碎片5点である。石材は、黒曜石が主体で、ついで凝灰岩・頁岩系が多い。

第2055・2072号ブロックと接合資料を共有している。

第2072号ブロック (図版87)

本ブロックはX NQ13グリッドを中心に、北西-南東方向6.4×3.2mの平面的広がりをもつ。第2071・2073・2077号ブロックが接する。遺物は、石器が15点、礫が5点、総数が20点である。出土層位は、Ⅲ層～V c層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、台形石器1点、槍先形尖頭器1点、微細刻離痕のある剥片1点、剥片5点、碎片6点、石核1点である。石材は、黒曜石が主体である。

第2071号ブロックと接合資料を共有している。

第2073号ブロック (図版88)

本ブロックはX NP15グリッドを中心に、北西-南東方向7.2×4.8mの平面的広がりをもつ。第2054・2072・2077号ブロックが接する。第2074・2075号ブロックが近接する。遺物は、石器が38点、礫が18点、総数が56点である。出土層位は、Ⅲ層～V b層までだが、Ⅳ層が主体であるが、V層中にも一定量の遺物がみられる。器種組成は、台形石器5点、搔器1点、削器1点、微細刻離痕のある剥片3点、剥片22点、碎片3点、石核3点である。石材は、黒曜石が主体である。台形石器を多く出土している。AT降灰以前の石器文化と考えられる。

第2077号ブロックと接合資料を共有している。

第2074号ブロック (図版88)

本ブロックはX NM15グリッドを中心に、北東-南西方向4.8×4mの平面的広がりをもつ。第2075号ブロックが接する。第2052・2053・2073号ブロックが近接する。遺物は、石器が19点、礫が5点、総数が24点である。出土層位は、Ⅲ層～V b層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、斧形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細刻離痕のある剥片1点、剥片12点、碎片2点、石核2点である。石材は、黒曜石が主体である。

第2083号ブロックと接合資料を共有している。

第2075号ブロック (図版88)

本ブロックはX NM14グリッドを中心に、東西方向4.8×3.2mの平面的広がりをもつ。第2076・2077号ブロックが接する。第2073号ブロックが近接する。遺物は、石器が34点、礫が2点、総数が36点である。出土層位は、Ⅲ層～V b層までだが、V b層が主体である。器種組成は、台形石器1点、槍先形尖頭器1点、微細刻離痕のある剥片1点、剥片25点、碎片5点、石核1点である。石材は、黒曜石が主体である。Ⅳ層主体の第161号礫群と重複する。第2040・4032号ブロックと接合資料を共有している。

第2076号ブロック (図版89)

本ブロックはX NL10グリッドを中心に、北西—南東方向12×8.8mの平面的広がりをもつ。第2043・2075・2077・2078号ブロックが接する。遺物は、石器が155点、礫が26点、総数が181点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層まで、各層に分散している。下層になるにしたがって徐々に出土量が増える傾向にあり、Ⅴb層が最も多いが、ピークといえるほどではない。器種組成は、貝殻状刃器1点、搔器1点、削器1点、楔形石器3点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石2点、剥片127点、砕片13点、石核5点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体で、ついでチャート、凝灰質頁岩が多い。

Ⅲ層主体の第157号礫群と重複する。第2043・2077号ブロックと接合資料を共有している。

第2077号ブロック (図版89)

本ブロックはX NN11グリッドを中心に、南北方向6.4×4.8mの平面的広がりをもつ。第2072・2073・2075・2076号ブロックが接する。遺物は、石器が59点、礫が17点、総数が76点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層まで、各層に分散している。下層になるにしたがって徐々に出土量が増える傾向にあり、Ⅴb層が最も多いが、ピークといえるほどではない。器種組成は、削器1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片42点、砕片5点、石核7点である。石材は、黒曜石が主体で、ついで凝灰岩・頁岩系が多い。

第2073・2076号ブロックと接合資料を共有している。

第2078号ブロック (図版90)

本ブロックはX NN08グリッドを中心に、東西方向7.2×4.8mの平面的広がりをもつ。第2076・2079号ブロックが接する。遺物は、石器が18点、礫が10点、総数が28点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層まで、各層に分散している。Ⅲ層からⅤa層にかけて遺物は減少するが、またⅤb層で増加する。複数の石器文化の存在も考えられる。器種組成は、石刃1点、2次加工のある剥片2点、剥片14点、石核1点である。石材は、無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩が主体をなす。

第2083・2089号ブロックと接合資料を共有している。

第2079号ブロック (図版90)

本ブロックはX NP08グリッドを中心に、東西方向4×3.2mの平面的広がりをもつ。第2078・2080号ブロックが接する。遺物は、石器が24点、礫が20点、総数が44点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴa層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、剥片18点、砕片6点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体をなす。

第2080号ブロック (図版90)

本ブロックはX NR07グリッドを中心に、北東—南西方向7.2×5.6mの平面的広がりをもつ。第2079・2081・2082号ブロックが接する。第2100号ブロックが近接する。遺物は、石器が39点、礫が13点、総数が52点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、斧形石器1点、搔器2点、2次加工のある剥片1点、敲石2点、剥片30点、砕片3点である。石材は、無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩が主体をなす。

第2081号ブロックと接合資料を共有している。

第2081号ブロック (図版91)

本ブロックはX OA09グリッドを中心に、北東—南西方向8.8×6.4mの平面的広がりをもつ。第2080・2082・2083号ブロックが接する。第2069・2070号ブロックが近接する。遺物は、石器が57点、礫が10点、総数が67点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石4点、剥片45点、石核2点である。石材は、無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩、チャートが主体をなす。

第2080・2100号ブロックと接合資料を共有している。

第2082号ブロック (図版91)

本ブロックはX OA06グリッドを中心に、北西—南東方向6.4×5.6mの平面的広がりをもつ。第2080・2081号ブロックが接する。遺物は、石器が21点、礫が7点、総数が28点である。出土層位は、Ⅲ層～V b層までだが、Ⅲ層とV a層の2カ所にピークがくる。器種組成は、削器1点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石1点、剥片14点、砕片1点、石核3点である。石材は、無斑品質安山岩、チャートが主体をなす。

第2083号ブロック (図版92)

本ブロックはX OF08グリッドを中心に、北東—南西方向18.4×14.4mの平面的広がりをもつ。第2081・2090号ブロックが接する。第2069号ブロックが近接する。遺物は、石器が323点、礫が87点、総数が410点である。出土層位は、Ⅲ層～V c層までだが、Ⅲ層が主体で下層になるにつれ遺物量は減少するが、V b層でも28点と、比較的多い点数であることから、複数石器文化の可能性もある。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、斧形石器1点、削器10点、楔形石器7点、石刃1点、2次加工のある剥片9点、微細剥離痕のある剥片4点、折断剥片1点、敲石4点、剥片242点、砕片19点、石核22点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩、凝灰質頁岩が多く各90点前後、次に多いのがチャート、緑色凝灰岩で各40点強、次に凝灰岩、黒曜石で、20点前後、その他石材が数点ずつである。

第2064・2074・2078・2089号ブロックと接合資料を共有している。

第2084号ブロック (図版92)

本ブロックはX NI01グリッドを中心に、北西—南東方向13.6×9.6mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が26点、礫が13点、総数が39点である。出土層位はⅢ層～V c層までだが、Ⅲ層が主体で、以下の層では激減する。器種組成は、台形石器1点、剥片17点、削片1点、砕片2点、石核4点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩が主体、次いで凝灰質頁岩が多い。

第2085号ブロック (図版93)

本ブロックはX IP16グリッドを中心に、北東—南西方向6.4×4mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が6点、礫が6点、総数が12点である。出土層位は、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器2点、敲石1点、剥片2点である。石材は、無斑品質安山岩が主体をなす。

第2086号ブロック (図版93)

本ブロックはX IP20グリッドを中心に、北西—南東方向6.4×5.6mの平面的広がりをもつ。第2087号ブロックが接する。第2088号ブロックが近接する。遺物は、石器が70点、礫が7点、総数が77点である。出土層位は、Ⅲ層～V b層までだが、V a層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、削器2点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石1点、剥片13点、砕片50点、石核2点である。石材は、無斑品質安山岩が主体をなす。

Ⅳ層主体の第64号礫群と重複する。

第2087号ブロック (図版93)

本ブロックはX IR19グリッドを中心に、北東—南西方向6.4×4mの平面的広がりをもつ。第2086号ブロックが接する。第2088号ブロックが近接する。遺物は、石器が16点、礫が21点、総数が37点である。出土層位は、Ⅲ層～V a層までだが、Ⅲ層とV a層の二つのピークがある。器種組成は、削器2点、敲石1点、剥片8点、砕片1点、石核4点である。石材は、無斑品質安山岩が主体をなす。

第2088号ブロック (図版93)

本ブロックはX NS01グリッドを中心に、南北方向7.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第2089・2100号ブロックが接する。第2086・2087号ブロックが近接する。遺物は、石器が46点、礫が12点、総数が58点で

ある。出土層位は、Ⅲ～Ⅴb層。Ⅲ層が多く、下層になるにしたがって、遺物は減少する。器種組成は、石刃2点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片2点、剥片37点、砕片1点、石核3点である。石材は、無斑品質安山岩が主体をなす。

第2089号ブロックと接合資料を共有している。

第2089号ブロック (図版94)

本ブロックはX OCO2グリッドを中心に、北西—南東方向15.2×12.8mの平面的広がりをもつ。第2088・2090・2091・2092号ブロックが接する。遺物は、石器が187点、礫が54点、総数が241点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴc層までだが、Ⅳ層にピークをもつ曲線をもつ。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、槍先形尖頭器1点、削器3点、楔形石器1点、微細剝離痕のある剥片7点、剥片143点、砕片13点、石核16点である。石材は、無斑品質安山岩が主体をなすが、次いでチャート、黒曜石も多い。

Ⅲ層主体の第67号礫群と重複する。第2078・2083・2088号ブロックと接合資料を共有している。

第2090号ブロック (図版95)

本ブロックはX OH04グリッドを中心に、東西方向6.4×4.8mの平面的広がりをもつ。第2083・2089号ブロックが接する。遺物は、石器が32点、礫が20点、総数が52点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、剥片24点、砕片7点である。石材は、無斑品質安山岩が主体をなす。

第2091号ブロック (図版95)

本ブロックはX JH19グリッドを中心に、南北方向8.8×8mの平面的広がりをもつ。第2089・2092号ブロックが接する。遺物は、石器が43点、礫が3点、総数が46点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴc層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、台形石器1点、削器1点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片1点、剥片33点、砕片4点、石核2点である。石材は、無斑品質安山岩、チャートが主体をなす。

第2092号ブロック (図版96)

本ブロックはX JD17グリッドを中心に、北西—南東方向10.4×7.2mの平面的広がりをもつ。第2089・2091・2093号ブロックが接する。第2095号ブロックが近接する。遺物は、石器が71点、礫が9点、総数が80点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、台形石器1点、搔器1点、削器1点、楔形石器2点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、剥片55点、砕片6点、石核3点である。石材は、チャートが主体である。

第2094号ブロックと接合資料を共有している。

第2093号ブロック (図版96)

本ブロックはX JG15グリッドを中心に、東西方向7.2×4mの平面的広がりをもつ。第2092号ブロックが接する。第2095号ブロックが近接する。遺物は、石器が12点、礫が1点、総数が13点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴa層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、敲石1点、剥片9点である。石材は、無斑品質安山岩、チャートが多い。

第2094号ブロック (図版96)

本ブロックはX JI14グリッドを中心に、北東—南西方向3.2×2.4mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器総数が5点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ層である。器種組成は、剥片5点のみである。石材は、チャートと無斑品質安山岩である。

第2092号ブロックと接合資料を共有している。

第2095号ブロック (図版97)

本ブロックはX JD12グリッドを中心に、北東—南西方向8.8×8mの平面的広がりをもつ。第2096・

2097号ブロックが接する。第2092・2093号ブロックが近接する。遺物は、石器が36点、礫が1点、総数が37点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴc層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器1点、剥片30点、砕片2点、石核2点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体をなす。

第2096号ブロック (図版97)

本ブロックはX IT13グリッドを中心に、東西方向5.6×4mの平面的広がりをもつ。第2095号ブロックが接する。第2097号ブロックが近接する。遺物は、石器が10点、礫が1点、総数が11点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、敲石1点、剥片8点、砕片1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体をなす。

第2097号ブロック (図版97)

本ブロックはX JA11グリッドを中心に、北東-南西方向8×4.8mの平面的広がりをもつ。第2095号ブロックが接する。第2096号ブロックが近接する。遺物は、石器総数が7点である。出土層位は、Ⅲ・Ⅳ層だが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、搔器1点、剥片5点、砕片1点である。石材は、無斑晶質安山岩とチャートである。

第2098号ブロック (図版98)

本ブロックはX HT13グリッドを中心に、南北方向9.6×8.8mの平面的広がりをもつ。第2015・2023号ブロックが近接する。遺物は、石器が10点、礫が36点、総数が46点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、石刃1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片7点である。石材は、チャートが主体、次いで凝灰質頁岩が多い。

第2099号ブロック (図版98)

本ブロックはX MS01グリッドを中心に、東西方向20.8×14.4mの平面的広がりをもつ。第2025・2029号ブロックが近接する。遺物は、石器が32点、礫が30点、総数が62点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、楔形石器1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片24点、削片1点、砕片2点、石核2点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体をなす。

Ⅳ層主体の第61号礫群と重複する。

第2100号ブロック (図版99)

本ブロックはX NQ04グリッドを中心に、東西方向8×7.2mの平面的広がりをもつ。第2088号ブロックが接する。第2080号ブロックが近接する。遺物は、石器が90点、礫が29点、総数が119点である。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb層までだが、Ⅳ・Ⅴa層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、斧形石器1点、削器1点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石2点、剥片74点、砕片5点、石核4点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体、次いでチャートが多い。

第2081・4049・4081号ブロックと接合資料を共有している。

(2) 礫群 (図版100～112 第21表)

第2地点で検出された礫群は60基である。属性は第21表に示した。それらは、地点南側に集中する傾向にある。

遺存度類型は、礫の完形率を示すが、類型aは50%以上が完形、類型bは50%以上が遺存度25%以下の礫、類型cはaとbの中間を示す。60基のうち、類型aはSH153の1基だけで、第2地点全体では遺存度の低い、つまり破損礫の頻度が高いといえよう。

層位類型では、上層から下層へ、類型1～9まで分けた。類型1(Ⅲ層)が14基、類型2(Ⅲ層主体、一部Ⅳ層)が5基、類型3(Ⅲ・Ⅳ層)が15基、類型4(Ⅳ層主体、一部Ⅲ層)が6基、類型5(Ⅳ層)が17基、類型6(Ⅳ層主体、一部Ⅴ層)が1基、類型7(Ⅳ・Ⅴ層)が2基と、多くがⅢ・Ⅳ層出土であ

り、V b層出土の礫群は明確にはとらえられなかった。

本地点の礫群は、接合関係を加味して考えると、4つのグループにまとめられる。地点西からSH141～149までグループ、SH150～157までのグループ、SH158～172までのグループ、SH173～194までのグループである。前2者の方が、礫群間に空間があり、密集度が低い。

各礫群の平面分布をみると、礫が環状に並び、礫群の中央部に認められるものや、弧状の配列をもつものが、いくつか注目される。顕著だと思われる礫群を列挙しておく。SH64・142・143・147・148・151・164・166。

遺構名	点数	方位	規模	重複BL	出土層位	重量gの 平均	重量gの 合計	遺存度(%)				遺存度 類型	層位 類型		
								不明	0	25	50			75	100
SH146	21	NE	3.4×2.4	2033	Ⅲ	169	3,550			13	2		6	b	1
SH151	25	NW	2.1×2.4	2047	Ⅲ	132	3,310			15	8	1	1	b	1
SH156	23	NE	3.5×2.6	2043	Ⅲ	192	4,410		2	10	3	1	7	c	1
SH157	20	NW	3.1×2.2	2076	Ⅲ	1,762	35,230		1	7	2	3	7	c	1
SH163	66	NW	8.6×7.4	2055	Ⅲ	377	24,890			27	15	6	18	c	1
SH166	23	NE	2.4×1.2	2050	Ⅲ	235	5,410			7	8	4	4	c	1
SH168	27	NE	2.7×2.2	2050	Ⅲ	163	4,390			8	12	3	4	c	1
SH180	23	NE	2.7×1.7	2060	Ⅲ	208	4,774			7	9		7	c	1
SH181	26	NE	3.3×2.5	2059	Ⅲ	159	4,130			10	5	1	10	c	1
SH182	24	NW	3.6×2.7	2060	Ⅲ	318	7,630			7	7	4	6	c	1
SH186	16	NE	2.2×1.1	2060	Ⅲ	426	6,810			3	4	2	7	c	1
SH62	62	NW	4.8×3.5	2018	Ⅲ	167	10,340			37	6	5	14	b	1
SH66	10	NS	1.7×1.5	2064	Ⅲ	555	5,550			5		1	4	b	1
SH167	14	NS	2.1×1.6	2089	Ⅲ	289	4,040			6	2	1	5	c	1
SH153	39	EW	2.1×1.3	2044	Ⅲ>Ⅳ	252	9,830			7	3	9	20	a	2
SH164	65	NW	4.6×3.6	2050	Ⅲ>Ⅳ	142	9,240			28	7	8	22	c	2
SH169	34	NW	2.5×2.1	2050	Ⅲ>Ⅳ	191	6,505			10	9		15	c	2
SH170	45	NS	3.5×2.5	2050	Ⅲ>Ⅳ	115	5,180		1	15	6	7	16	c	2
SH184	44	EW	3.8×3.4	2060	Ⅲ>Ⅳ	309	13,285		1	24	5	4	10	b	2
SH143	256	EW	5.7×8.5	2031	Ⅲ・Ⅳ	112	28,550			141	46	23	46	b	3
SH147	304	NE	14.1	2045	Ⅲ・Ⅳ	217	66,015		1	163	60	23	57	b	3
SH149	44	EW	2.3×2.6	2031	Ⅲ・Ⅳ	147	6,458			30	3	2	9	b	3
SH150	64	NW	7.5×3.6	2046	Ⅲ・Ⅳ	195	12,490		2	23	17	1	21	c	3
SH152	65	EW	3.8×2.6	2038	Ⅲ・Ⅳ	191	12,385			31	10	7	17	c	3
SH159	32	NS	1.5×1.5	2052	Ⅲ・Ⅳ	253	8,090			19	2	1	10	b	3
SH165	168	NE	6.3×5	2050・2051	Ⅲ・Ⅳ	318	53,385		1	69	50	21	27	c	3
SH174	15	NS	2×2	2062	Ⅲ・Ⅳ	495	7,420			7	5	1	2	c	3
SH176	57	NW	2.9×1.6	2062	Ⅲ・Ⅳ	316	18,010			29	11	1	16	b	3
SH178	10	EW	2×0.7	2062	Ⅲ・Ⅳ	260	2,600			5	2		3	b	3
SH179	200	EW	6.5×4.1	2059・2060	Ⅲ・Ⅳ	231	46,285			62	34	30	74	c	3
SH183	9	NE	2.9×2	2060	Ⅲ・Ⅳ	151	1,360			3	2	1	3	c	3
SH185	24	NS	2.4×2.4	2060	Ⅲ・Ⅳ	398	9,545			10	6	1	7	c	3
SH191	22	NS	2.3×2.2	2060・2061	Ⅲ・Ⅳ	274	6,018			10	5	2	5	c	3
SH193	9	NS	2.2×1.5	2062	Ⅲ・Ⅳ	178	1,600			5	1		3	b	3
SH154	86	EW	4.3×3.5	2044	Ⅳ>Ⅲ	344	29,620			45	14	15	12	b	4
SH155	117	EW	9.3×7.2	2048	Ⅳ>Ⅲ	258	30,220		2	52	32	16	15	c	4
SH162	57	NE	4.3×2.7	2052	Ⅳ>Ⅲ	212	12,060			39	9	5	4	b	4
SH187	9	EW	2.3×1.1	2061	Ⅳ>Ⅲ	120	1,080			8			1	b	4
SH188	26	NE	2.6×2.1	2060・2062	Ⅳ>Ⅲ	208	5,410			9	4	5	8	c	4
SH190	28	NW	2.3×1.5	2061	Ⅳ>Ⅲ	405	11,330			15	6	4	3	b	4
SH141	97	NS	4.1×4.4	2027	Ⅳ	141	13,680			65	16	11	5	b	5
SH142	140	NS	4.4×4.7	2028	Ⅳ	180	25,185			79	19	10	32	b	5
SH144	13	EW	2.5×1.5	2031	Ⅳ	157	2,040			4	6		3	c	5
SH145	269	NS	7.3×4.6	2032	Ⅳ	107	28,775		1	124	66	22	56	c	5
SH158	48	NW	2.8×2.3	2052	Ⅳ	543	26,045			26	6	6	10	b	5
SH160	34	NW	3.6×1.7	2052	Ⅳ	261	8,870		1	12	6	5	10	c	5
SH161	44	NS	4.7×2.7	2075	Ⅳ	318	13,970		1	16	11	5	11	c	5
SH167	10	NW	2.4×1.2	2051	Ⅳ	178	1,780			7	3			b	5
SH171	43	NW	2.7×1.7	2051	Ⅳ	191	8,205			19	16	1	7	c	5
SH172	18	NW	1.7×1.3	2050	Ⅳ	83	1,490			8	2	4	4	c	5
SH173	22	NW	1.4×1.1	2062	Ⅳ	233	5,120			4	8	3	7	c	5
SH175	6	NE	1.1×0.6	2062	Ⅳ	140	840			6				b	5
SH177	9	NW	2×0.3	2062	Ⅳ	488	4,390			2	3	3	1	c	5
SH189	8	NS	0.6×0.5	2060	Ⅳ	99	790			3	2		3	c	5
SH194	26	NW	2×1.2	2062	Ⅳ>Ⅲ	267	6,950			14	6	1	5	b	5
SH61	59	NS	8.4×6.7	2099	Ⅳ	390	23,020			23	8	13	15	c	5
SH64	83	NW	5.9×5.2	2086	Ⅳ	330	27,420			40	8	14	21	c	5
SH59	80	NW	9×6.1	2026	Ⅳ>Ⅴa	176	14,070		1	54	10	5	10	b	6
SH148	143	NW	3.2×3.1	2027	Ⅳ・Ⅴa	191	27,295		1	87	25	7	23	b	7
SH192	22	NE	2.1×1.1	2060	Ⅳ・Ⅴa	192	4,230			12	4	4	2	b	7

第21表 貫ノ木遺跡 第2地点群

3 遺物

(1) ナイフ形石器 (図版113~128・報告番号201~325・写真図版19~24)

ナイフ形石器は127点出土した。出土が多かったブロックはBL2020の5点、BL2045の6点、BL2048の11点、BL2050の7点、BL2060の8点、BL2063の5点である。

201は無斑品質安山岩製の大形品である。細部加工は右側縁基部と左側縁先端部にやや大きめの鋸歯状剥離がみられる。

203は主に背面側からの調整により鋭な基部を作り出している。加工はやや平坦な加工に近い。剥片剥離軸と石器主軸は一致する。IV層からV層にかけて多く出土する。同様な特徴をもつ石器は218・222・233・237である。

220~224はBL2020出土。220は基部・先端加工のナイフ形石器。石刃状の縦長剥片を用い、打面を基部側に設け、調整により鋭な基部を作り出している。剥片剥離軸と石器主軸は一致する。調整加工は、大きさが不ぞろいで、やや大きめの剥離と細かい剥離の組み合わせで構成されている。同じ特徴をもつナイフ形石器は204 (BL2005) である。

225は、黒曜石製で長さ9cmを測る大形品である。厚手でやや反りのある縦長剥片を素材として基部と先端部に調整加工を施している。調整加工は通常の剥離と微細な剥離が組み合わせられている。左側縁先端部側に断続的な微細剥離痕がみられる。

226~228は無斑品質安山岩製のナイフ形石器で、第2地点西端部よりのブロックから出土している。226は断面三角形で厚手大形剥片の一端縁に粗い大きな鋸歯状の調整加工が施されている。227・228細削りの縦長剥片の基端に調整加工を施した基部加工のナイフ形石器である。調整剥離は基部を整える程度の通常剥離である。

230は黒曜石製の縦長剥片を素材とし、打面を基部側に設け、急斜な調整加工を二側縁に施したナイフ形石器である。剥片剥離軸と石器主軸は一致する。二側縁加工だが、基部側の調整が大きく、右側縁先端部はやや小さくなる。刃部側の調整加工は微細である。先端部は折れている。V層から出土している。AT降灰以前の石器群に属すると思われる。

236~239はBL2044から出土。236は石刃状の縦長剥片を素材とし、打面は先端部側に設け除去される。剥片剥離軸と石器主軸は一致する。調整剥離の構成は通常剥離と微細剥離で構成されるが、通常剥離の大きさにバラツキがあり両者が区別しづらい。237~239も、236と石材は異なるが同様の素材を用い剥片剥離軸と石器主軸が一致するナイフ形石器である。

240~245はBL2045出土、240の先端部の剥離痕は折れと考えられる。241・244は横長剥片を素材に、242は寸詰まりの縦長剥片を素材としたナイフ形石器である。素材の打面が基部から側縁側にややずれる設け方をしている。無斑品質安山岩製の2点は調整加工がやや鋸歯状剥離を呈する。241・242・244は長野県和田村男女倉遺跡B・J地点にみられるナイフ形石器の特徴に類似する (和田村教委1974)。

252~262はBL2048出土のナイフ形石器である。252~253は欠損しているため全体形状は不明だが基部加工のナイフ形石器で、基部が鋭くなるように調整されている。255は剥片の打面を側縁に置き、背面からの調整加工で打面を除去し、側縁部を形成している。基端側の側縁も同様に背面からの調整による。ただ左側縁は正方向の調整剥離もあり、側縁の形成には対向剥離がみられる。これにより側縁は急斜になる。256~258・260・262は二側縁加工のナイフ形石器だが、前者同様、急斜で対向調整加工がみられるという特徴がある。また基部側に打面を置き、剥片剥離軸と石器主軸が一致する。IV層を主体に出土している。259・261は弧状に側縁を調整する一端縁加工のナイフ形石器である。

264～274はBL2050・2051出土のナイフ形石器で、中～小形で二側縁加工のものが特徴的にみられる(265・267・271・272～274)。剥片剥離軸と石器主軸は一致しない。また先端部側に打面を設けることが多い。Ⅲ層を主体に出土し、同じ二側縁加工のナイフ形石器ではあるが、前出のBL2048よりも上層から出土する傾向にある。

278・280はBL2055出土で素材剥片を横に使うタイプである。

286～306はBL2060～2063からの出土である。尖鋭な基部を作り出す基部加工のものが特徴的で、長さ5cm以下の小形品(287・290・291・293・297・299・300)と5cm以上の中形品(292・294～296・302～304)の2者がみられる。286と289は二側縁加工であるが、剥片剥離軸と石器主軸がほぼ一致する点が基部加工のもの共通するところから、同類とみてよいと考えられる。

(2) 台形石器 (図版128～131・報告番号326～357・写真図版24～26)

台形石器は33点出土した。出土が多かったブロックはBL2046の4点、BL2048の3点、BL2073の5点である。調整剥離をみると通常剥離で構成されている例と平坦剥離や微細剥離がみられる例の2者がある。

329～337は、比較的急斜な調整剥離によって作られている。出土ブロックはBL2045・2046・2048と隣接している。Ⅲ～Ⅳ層の出土が多く、AT降灰以降で従来とらえられていた「切出形石器」や「台形石器」の仲間と考えられる。357も同類としてとらえられる。

326～328・338～356の台形石器には、平坦剥離や微細剥離が顕著に認められ、いわゆる「台形椽石器」の範疇に入ろうか。BL2073から5点出土した例を除くと、単発ないし2点ほどの出土状況で、すべてがAT降灰以前の石器としてとらえられるかは疑問である。出土層位もⅣ～Ⅴ層がみられるが、Ⅲ層出土も決して少なくはない。

(3) 貝殻状刃器 (図版132・報告番号358～365・写真図版26)

貝殻状刃器は9点出土した。

(4) 槍先形尖頭器 (図版133～137・報告番号366～393・写真図版26～28)

槍先形尖頭器は36点出土した。出土層位はⅢ層が18点、Ⅳ層が13点とⅢ・Ⅳ層で8割以上となる。他にはⅤa層で3点とⅤb層で1点、縄文時代の遺構覆土から1点である。Ⅴb層の1点はBL2044出土で、同ブロックの他の槍先形尖頭器の出土層位から本来の包含層は上層であったと考えられる。出土が多かったブロックは、BL2037の5点と、BL2044～2046のブロック群でそれぞれ4点、3点、3点みられた。この4ブロックは隣接しており、その周囲のBL2039・2041・2043・2048でも出土がみられ、第2地点最高地点付近に槍先形尖頭器を伴うブロック群がとらえられそうである。

368～381が上述のブロック群出土の槍先形尖頭器である。欠損品や未製品が目立つ。BL2037・2044では槍先形尖頭器製作時に特徴的にみられるいわゆる「ポイント・フレイク」が顕著に認められたことから、このブロック群で槍先形尖頭器の製作がなされていたことは間違いない。

極状剥離が認められるものが多い(369・371・372・374・376～379)。369は左縁側に3回の極状剥離痕がみとめられる。左側縁先端に近いところに刃こぼれ状の微細剥離が認められる。371は先端部と基部の両方に極状剥離がみられる。極状剥離の後に器体を調整したような加工はない。両方の極状剥離面のエッジには刃こぼれ状の微細剥離がみられるが、基部側のほうが顕著である。

380・381は小形で菱形を呈する特異な形態である。やや分厚なところは角錐状石器にその類似性を求めた方がよいのかもしれない。

385はBL2055出土の黒曜石製両面調整槍先形尖頭器で、Ⅴa層出土。本ブロックは彫器を多く出土するブロックで、Ⅲ層～Ⅳ層上部が包含層となることが想定されるので、槍先形尖頭器は単独の混入と考えたい。

386・387・389の3点は片面に剥片の主要剥離面を大きく残す片面調整の槍先形尖頭器で、これらが彫器に伴う槍先形尖頭器だと考えられる。

(5) 斧形石器 (図版137~140・報告番号394~402・写真図版28~30)

斧形石器は11点出土した。BL2011で2点出土した以外は各ブロック1点ずつの出土である。394は凝灰質頁岩の扁平な礫を素材として刃部から左側縁にかけて調整がみられる。素材つまり礫の形状をあまり変えていない。400も扁平礫をそのまま用いている同類のものである。398も表面と裏面の一部に自然面が認められることから、素材の礫は、やはり扁平なものを利用していただと考えられる。

395は無斑晶質安山岩製だが、白色の結晶?がある玄武岩に近い石で、同一母岩は他に1点(BL2052出土の削器)があるだけである。両面調整であるが、刃部の研磨痕は認められない。幅広い形態をもち、蛇紋岩製の斧形石器とは特徴が違う。

396は表面に平坦な剥離がおよび素材の礫面を残さない。刃部の研磨面にみられる線状痕の方向は、石器主軸に対し、やや斜めである。

397は凝灰質頁岩製で風化が著しく稜線が明瞭でない。図のトーンは磨耗で稜線が明瞭でない部分を示している。Ⅲ層出土のため縄文時代の所産である可能性もある。

401は、接合資料GT-4に含まれる。側縁の調整が顕著であったため斧形石器とした。刃部の研磨等も認められない。製作初期の段階で遺棄されたものと考えられる。

(6) 彫器 (図版140~149・報告番号403~455・写真図版31~33)

彫器は65点出土した。出土層位はⅢ層が36点、Ⅳ層が25点とⅢ・Ⅳ層主体である。Ⅴa層になると4点で、以下の層序では検出されなかった。出土が多かったブロックは、BL2055~2063に集中する。なかでもBL2055とBL2060は多く、それぞれ13点、20点と出土した。両ブロックともⅢ層出土数がⅣ層出土数をしのぐ。おそらく本来の包含層はⅣ層上部にあったと考えられる。

408~420はBL2055出土。石刃状の縦長剥片を素材としている。

(7) 揉錐器 (図版150・報告番号456・写真図版33)

揉錐器は3点出土した。

(8) 播器 (図版150~162・報告番号457~504・写真図版33~36)

播器は86点出土した。出土層位はⅢ層38点、Ⅳ層36点、Ⅴa層9点、Ⅴb層3点であった。出土が多かったブロックは、BL2019の9点、BL2025の9点、BL2036の6点、BL2045の13点であった。それらブロックからの播器の主体となる出土層位はⅣ層~Ⅴa層であった。BL2025とBL2036は播器・削器が多く、ナイフ形石器や槍先形尖頭器などの狩猟具と推定されるような石器は出土をみなかった。また、彫器との出土ブロックは対照的で、彫器の多いブロックには播器は少ないという傾向がある。

459~461はBL2019出土である。459は板状の剥片の2ヵ所に刃部が認められる。調整加工は素材のあまり厚くない部分に、弦長が3cmほどの外湾刃剥離の種類は通常である。460は厚手の剥片を素材としている。下縁部が比較的粗い鋸歯状剥離で構成されているのに対し、右側縁は細かい剥離が観察され、この2縁は調整剥離の特徴が大きく異なる。461は剥片の薄くなる部分に小さいながらやや鋸歯状の剥離がみられる。図示できなかった6点も上記のどれかの特徴にあてはまる。石材は無斑晶質安山岩製が多い。これら9点は一見するとあまり共通性がないように思われるが、あまり素材剥片にはこだわらず、刃長3cm程度の外湾する刃部をひとつの単位としてひとつの個体に数ヵ所の刃部を設けた点は共通性がみとれる。

466~471はBL2025出土。一見すると刃部が全周するラウンドスクレイパーのようである。ただ刃部形成の単位は上述したBL2019の播器と基本的には変わらない。刃部の剥離を観察すると、大・中・小(微細)の剥離が組み合わさっているが、その組み合わせり方が側縁によって異なっている。469では下縁部

は大～小の剥離が組み合わさっているが、右側縁は大きなやや鋸歯状の剥離で構成されているといった状況で、剥離の組み合わさり方ごとにみていくと、全周するような刃部をもつものもいくつかの単位に分割される。したがってBL2019とBL2025の掻器を比べた場合、単位はほぼ同じであるが、違いはその単位となる刃部が単発もしくは断続的にみられるか、連続してしまうかだけの違いなのかもしれない。

(9) 掻器状石器

掻器状石器は3点出土した。

⑩ 削器 (図版163～164・報告番号505～514・写真図版36)

削器は135点出土した。出土数の多かったブロックは、BL2045・2083の10点、BL2048・2055の7点、BL2019・2020・2043の5点である。出土層位はⅢ～Ⅳ層が多く、Ⅴ層出土のものは31点であった。またⅤ層出土の削器はブロック内で複数個出土することがきわめて少なく、ブロックに1点ずつしか組成しないという傾向がある。石材は無斑品質安山岩が最も多く63点とほぼ半数をなす。ついで多いのが黒曜石の23点、チャートの18点である。

⑪ 楔形石器 (図版165～166・報告番号515～526・写真図版37)

楔形石器は85点出土した。出土数の多かったブロックは、BL2048の14点、BL2046の8点、BL2020・2083の7点である。出土層位はⅣ層が最も多く35点、以下Ⅲ層26点、Ⅴa層14点、Ⅴb層9点と続く。Ⅳ～Ⅴa層にかけてピークがありそうである。石材は、チャートが最も多く34点、以下無斑品質安山岩が25点、黒曜石が17点と続く。

⑫ 石刃 (報告番号606～615・写真図版48)

石刃は84点出土した。出土層位はⅢ層53点、Ⅳ層24点、Ⅴa層7点で、Ⅴb層からの出土はなかった。多く出土したブロックは彫器を多く出土したブロックと同じである。打面が観察された55点のうち、打面形態の内訳は、単剥離打面が20点、調整打面が17点、複数打面が15点であった。単剥離打面が最も多かったものの、調整・複数打面とあまり差がない点は、後述する第3・4地点とは異なっている。第3・4地点は、調整・複数打面が少なく、より下層の出土例が目立つ。本地点の石刃は、Ⅲ・Ⅳ層の石刃の特徴を示しているといえよう。

⑬ 細石刃 (図版166・報告番号527)

細石刃として認定したものが1点ある。

⑭ 2次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・折断剥片

2次加工のある剥片は124点、微細剥離痕のある剥片は203点、折断剥片は6点出土した。

⑮ 敲石 (図版167～170・報告番号528～552・写真図版38～40)

敲石は82点出土した。出土層位はⅢ層24点、Ⅳ層25点、Ⅴa層23点、Ⅴb層10点で、ほぼ各層から同数出土している。出土に大きな偏りはありません。4点出土したのがBL2011・2043、3点出土したのがBL2029・2051・2081・2083であった。石材は多様であるが、主なものは、砂岩が41点、安山岩が15点、凝灰岩が15点であった。

⑯ 磨石 (図版171・報告番号553～557・写真図版40)

磨石は7点出土した。

⑰ 台石

台石は2点出土した。

⑱ 削片

削片は50点出土した。

① 剥片・碎片

剥片は6175点、碎片は1526点出土した。

② 石核 (図版172~183・報告番号558~605・写真図版41~47)

石核は431点出土した。出土層位はⅢ層130点、Ⅳ層174点、Ⅴa層80点、Ⅴb層47点であった。各層ともに石材は無斑品質安山岩が最も多い。Ⅲ・Ⅳ層ではチャートがついで多いが、Ⅴb層では黒曜石の比率が高くなる。出土数が多かったブロックは、BL2048が33点、BL2020が32点、BL2046が28点、BL2083が22点などである。

③ 原石

原石は12点である。チャートが10点、他に黒曜石と石英が1点ずつであった。特に集中して出土する傾向はみられなかった。

4 接合資料 (図版184~190)

第2地点の接合例は195例あった。

本地点では第4地点との接合例がみられた。地点間を越えて接合したのは以下である。

An-10 : 剥片、石核の接合、BL2016・4040・4042

An-22 : 剥片、搔器の接合、BL2040・4074

An-112 : 剥片、搔器、削器の接合、BL2100・4049・4081

Ob-9 : 剥片、微細剥離痕のある剥片の接合、BL2023・4042

Ob-116 : 剥片、石核の接合、BL2020・4042

Ob-128 : 剥片、微細剥離痕のある剥片、石核の接合、BL2005・2007・4028

Ge-5 : 剥片、石核の接合、BL2040・2075・4032

Tu-4 : 剥片、石核の接合、BL2007・4028

図版187~190に接合資料を図示した。

図版187はチャートの接合例である。剥片、石核の剥離の進行とともに、分割されていく。図版188・189も分割されている例、斧形石器の未製品?を1点含む。図版190のOb-127は搔器と削片の接合例である。搔器は、極状剥離を有する尖頭器ともとれるが、先端の作り出しが明確でなかった。SS-20は数少ない縦長剥片の例である。単設打面石核で、打面調整、稜上調整が認められる。大きさはあまり大きくないが、石刃技法によるものである。Tu-15は貝殻状の剥片を剥離している例である。

第4節 第3地点

1 第3地点の概要

(1) 地形と遺物の分布

遺跡西端に位置し、西向き傾斜の狭いテラス状の台地。仲町丘陵の西南端にもあたり、テラスの下は20mの急傾斜地になる。第3地点ではブロックが38ヵ所、礫群が15基発見された。

遺跡最高部の第2地点から西側約20mの標高差をもつ南北約150m、東西幅約50mの西向きで南北に長い比較的狭いテラス範囲を調査した。調査範囲内の地形は南北で2分される。北半部は比較的傾斜も緩やかで平坦な面が広がったためブロックが密集して検出された。それに比べ南半部は地層が比較的不安定で地層は崖錐性の堆積物が混入しており、西向きの埋没谷が数ヵ所みられる。埋没谷はブロック群間に空間があるところに入る。BL3001とBL3002~3008の間、BL3007・3008とBL3009の間、BL3009とBL3010の間中央部に旧谷地形が認められる。

(2) 遺物の出土層位 (第22表)

遺物はⅠ・Ⅱ層~Ⅵ層まで出土している。遺物は平坦面に密集すると記したが、地点全体としては、西斜面であるため、地層の堆積は全体的に薄く、特にⅤ層の細分が困難であり、Ⅴ層一括で取り上げた遺物が本地点では多くなっている。

出土層位の点では、Ⅲ層を主体としても貫ノ木Ⅰ石器文化に属すると考えられるものが多い。このⅢ層主体となるブロックの共通した特徴は傾斜面に近いこと(3011・3015・3017)や緩斜面でも分布の範囲が広いもの(3009・3010など)で、後世の遺物の流れ等による移動の大きいものと考えられる。

(3) 器種組成 (第23表)

石器8795点、礫1764点が出土した。器種組成は、ナイフ形石器70点、台形石器89点、貝殻状刃器35点、槍先形尖頭器6点、角錐状石器1点、斧形石器20点、影器13点、錐器2点、搔器15点、搔器状石器15点、厚刃搔器11点、削器59点、楔形石器28点、石刃29点、細石刃2点、2次加工のある剥片154点、微細剥離痕のある剥片426点、折断剥片47点、砥石10点、敲石50点、台石1点、ナイフ形石器破片1点、斧形石器破片5点、剥片5674点、打面再生剥片5点、削片4点、砕片1658点、石核343点、原石22点である。

(4) 石材組成 (第24~30表)

石材構成の点では、無珉品質安山岩だけが卓越するブロックとしてBL3015・3017・3019・3020・3026・3027が、黒曜石が卓越するブロックとしてBL3023・3024・3025・3028などがあげられる。

一方、これらのブロックの北側に位置する北半部のブロック群の石材は多様である。特定石材にあまり偏らない傾向がみられる。南半部のブロックが1~3種類の石材が卓越するのと対照的である。この特定石材にこだわるグループとそうでないグループは時期差になりそうで、前者が古く、後者が新しい。

南半部に接して位置するBL3010~3032のブロック群は、多数のブロック間で接合資料を共有するタイプのブロック群で、日向林B遺跡の類例を考慮すると、上記のブロック群は、環状ブロック群のひとつの特徴をあらわしていると考えられ、調査範囲外の東側にさらに分布は拡張され、おそらく環状ブロック群が存在するものと思われる。

第2章 貫ノ木遺跡

ブロック	石器											礫																
	I・II	III	IV上	IV	IVF	V	Va	Vb	Vc	VI	不明	合計	I・II	III	III下	IV上	IV	IVF	V	Va	Vb	Vc	VI	不明	攪乱	合計		
3001	16	4										20	4	1													5	
3002		5										5															2	
3003		26		57		6						89		1					2								3	
3004		32		7		5						44		2		1		1									4	
3005		19		2								21							3								3	
3006		2		23		2						27		1		4											5	
3007		12		32		114						158						4									4	
3008		9				32						41							3								3	
3009	8	9		4		4				1		26		5													5	
3010	7	54		14		5	1					81	3	7													10	
3011		35		21		6						62	3	9			1										13	
3012	1	24		97		163				4		289		8		4		1									13	
3013		14		32		9						56		10			9		1								20	
3014	2	21		65		145				3		236		10			4		1								15	
3015	3	163		156		25				1		348	5	12			11										28	
3016	10	97		43		2						152		2			2										4	
3017		12		62		80						154		12		6		3									21	
3018	6	70		123		132		2		3		336	7	17			18		7								49	
3019		20		81		25	9					135		10			11		3								24	
3020	34	215		460		307					58	1074	4	57			27		9				1				98	
3021		13		119		218	3	20				373		2		5		3									10	
3022		53		172		39				5		269	3	5			3		4								15	
3023	1	9		74		123						207		1			1		4								6	
3024		2		28		330	2	1				363	2	3			10		5								20	
3025		18		40			19	31	2			110		3						4							7	
3026		66		108		22	19					215		19			5		2								26	
3027		121		104		151	11					387		36			4		16				1				57	
3028		65		149			59	164	2			439		40			4			5	18	1					68	
3029		7		6			5	15				33		2						4							6	
3030		153		56		53						262		8			2		4								14	
3031		189		385		168	277	68	3			1090		15			23		16	7	9						70	
3032		58		78		3	46	245	2			432		22			20			7	16	1					66	
3033		33		7		9	1					50																
3034		29		3		18						50		10					4									14
3035		103		66		48						217		15			14		19		1						49	
3036		63		26		40						129		10			4										14	
3037		80		81		80						241		12			11		11								34	
3038		207		130		192						529		17			8		23								48	
3外	7	27		7		5						46	40	43			1	16	3	1	5	1					110	

第22表 貫ノ木遺跡 第3地点ブロック別出土層位組成表

ブロック	ナイフ形石器	台形石器	楕円形尖頭器	具頸状刀器	角錐状石器	斧形石器	柱状器	槌器	槌器	厚刃棒器	槌器状石器	楔形石器	削器	磨石	石刃	石刃	2次加工のある剥片	微細剥片のある剥片	折断剥片	砥石	敲石	白石	ナイフ形石器破片	斧形石器破片	剥片	打面再生剥片	削片	砕片	石核	厚石	石器小計	礫	合計
3001					1						2						1	2							9		5			20	5	25	
3002														5												5			5	2	7		
3003	1										1	3					2								66		13	3	89	3	92		
3004											2					1									31		6	3	1	44	4	48	
3005					1											1									18		1		21	3	24		
3006								1		1						3			1						17		3	1	27	5	32		
3007	1							1		2	1	1				6			3						120		16	7	158	4	162		
3008																3									34		2	2	41	3	44		
3009	1									3					1	2	1								18				26	5	31		
3010											1					2	3		2						65		3	3	2	81	10	91	
3011	1															2	3	1							42		8	4	1	62	13	75	
3012	2	4			1	1	1			3	1				5	19	1								187		57	5	2	289	13	302	
3013	2	1								1	2	1			2	9			2						24		9	2	55	20	75		
3014	2	5	2						1	2					2	12	1								156	1	44	8	236	15	251		
3015	1							1		2	1	2				2			2						241		85	11	348	28	376		
3016	1	2			1			1		1					3	11									112		11	9	152	4	156		
3017	2								1							3									115		26	7	154	21	175		
3018	1				1			1	1			3			5	20	4	1					3	200		82	14	336	49	385			
3019	2	1			1	1				2	1				2	5		2							93		19	6	135	24	159		
3020	3	4	1		6		2	2	1	3	2				11	26		2	2						774		184	51	1074	98	1172		
3021	2	12	1		2				1	1					8	21	3	1					1	180		136	4	373	10	383			
3022	3	1			2				1	1	2				2	21		1	1				1	184		37	10	2	369	15	384		
3023	5	7	1							2	1	1			8	27		1	1						90		61	2	297	6	303		
3024	3	3	1						2	1	2				10	33	3								125		177	3	363	20	383		
3025	6	6	4					1							4	14	1	1							53		15	4	1	110	7	117	
3026	2	2	1					1		1					4	5	2	1							153		31	12	215	26	241		
3027	5	2	2	2					1	2	3				9	17	2	3							269	1	52	15	2	387	57	444	
3028	10	11	4	1	2	2			1	5	4	1	4		11	37	6	2	1						247	1	73	14	2	439	68	507	
3029			1						1							2	1	1							20		6	1	33	6	39		
3030	3	1						2		4	1				4	5		2							189		42	8	1	262	14	276	
3031	6	6	5		1	1	1	1	1	3	1	1	2		22	41	4	1	8						725		209	36	5	1090	70	1160	
3032	6	6	9		2	1		2		2	1	1			8	37	7	4							225		106	15	432	66	498		
3033	2				1					2					2	4	2								36			1	50		50		
3034	1		1		2					1	2				1	3	1								32		2	4	50	14	64		
3035	1	5			1				1	1	3				2	18	5	2							139	1	23	14	1	217	49	266	
3036								2		2					2	1		4							102			7	9	129	14	143	
3037	2				1										1	4	5								170	2	29	26	1	241	34	275	
3038	3	3			1	3			1	3	8	1	8	4	5	3									383	3	71	29	529	48	577		
外	1		1												3	6		2							25		7		1	46	110	156	
合計	70	89	35	6	1	20	13	2	15	15	11	58	28	29	2	154	426	47	10	50	1	1	5	5674	5	4	1658	343	22	8795	963	9758	

第23表 貫ノ木遺跡 第3地点ブロック別器種組成表

第2章 貫ノ木遺跡

遺構番号	新井野山安山片	黒曜石	チャート	珪質頁岩	頁岩	凝灰質頁岩	珪質凝灰岩	凝灰片	緑色凝灰岩	鉄石英	五輪	乾紋石	下島石	水晶	石英	粘板石	凝灰片	玄武岩	ホルンフェルス	砂岩	変形岩	不明	合計	
3001	123.9	12.0	1.4	11.5	0.7	7.5						44.5								81.6			269.4	
3002												84.4												84.4
3003	519.4	5.8		30.8	156.1	428.6	45.0	225.8				10.5											1206.9	
3004	267.5		5.1	119.2	33.8	446.4	25.9																943.4	
3005	1.1	8.0	44.3		31.9	248.1		46.2												10.0			412.1	
3006	41.3		16.3		157.7	183.1	16.7	44.8												196.0			665.9	
3007	385.3	7.1	67.7	230.7	958.4	622.4	99.1	1246.2		5.3		77.8								45.5			3641.4	
3008	59.3		26.8	406.0	429.2	69.7	5.5													30.6			1053.0	
3009	123.4	33.3	3.9	5.1		167.8		31.8				13.6								9106.0			9479.9	
3010	171.2	6.1	165.9	12.0		351.7	76.0	159.2				74.9	1.9							2913.3			3551.1	
3011	14.6	134.0	67.9	5.6		97.1	160.1	2232.6															2705.8	
3012	19.4	1930.4	3.9	29.4	0.3	50.3	11.9	44.8		0.3													2206.5	
3013	47.6	179.4	39.1		20.3	63.4	12.0	150.9												940.0	189.0		1669.0	
3014	266.0	1266.2	3.3	1.4		4.9	9.6	380.6															2140.8	
3015	1817.1	60.8	153.2	20.6		332.1	3.2	351.8		23.5		1.1											2803.3	
3016	491.8	162.8	774.2	8.5	20.8	927.7	1.0	499.1						4.0		221.6	18.1						3130.7	
3017	121.1	38.8	41.1	11.7		25.4		115.2															1899.0	
3018	1599.0	418.9	117.3	2.3		396.1	1.3	406.3															3147.0	
3019	1441.7	102.2	129.5	63.8	42.6	16.0	0.7	114.0		25.4							292.9			51.6			2279.9	
3020	1445.0	119.0	440.0	10.0		29.2	29.2	1598.1		39.1	25.6	11.0	467.5		1.6					2475.1	1112.6		4687.6	
3021	1374.5	509.1	134.0	1.7		127.1	1.4	96.6		19.0		162.7	0.1							254.8	1980.0		3606.7	
3022	447.8	285.5	336.3	152.1	105.3	690.0	18.2	721.7		8.4		406.5								3165.8			6311.7	
3023	892.3	579.5	62.7			15.5	1.0	103.7													75.0		1727.3	
3024	259.2	916.5	21.0			1.2		124.2															1795.4	
3025	199.3	585.8	136.0																		4.5		925.7	
3026	2730.8	284.7	42.5	10.0		37.5		118.3		16.7										56.2			3296.3	
3027	1466.5	557.0	74.0	85.0		161.0		102.7		101.1											578.6		4127.7	
3028	1199.2	1173.6	87.8	36.7	11.2	506.5	7.5	416.2				30.6									170.9	71.0	3711.0	
3029	116.5	77.2				0.1	105.6														25.8		319.7	
3030	855.0	137.4	3.3	1.5	42.1	120.1		1.5		46.4										23.8			962.2	
3031	796.3	1232.9	274.5	92.3	3.5	153.8	12.3	520.0		1.6	14.3	3.4								358.7	317.7	128.2	1180.5	
3032	1111.4	1083.9	6.7	232.5		65.0	0.7	396.2		9.8	4.9	20.4								43.1			4240.0	
3033	315.4	278.2	4.6																				614.6	
3034	1636.3	57.2		290.0		276.1	0.2	22.5				2.0											2287.7	
3035	1242.2	424.3	267.8	34.2	5.6	377.3		163.4	131.5	17.7	5.4									35.4	56.8	51.0	2813.2	
3036	999.1	21.2	317.9	17.6	15.6	413.1	6.3	235.4					25.3								558.1	114.5	121.9	2343.7
3037	569.6	212.2	1161.6	22.8		68.6	36.2	664.6		3.2	3.6												2687.0	
3038	1564.6	210.0	1198.9	1159.0	7.2	654.2	5.2	330.5		17.3		7.7								40.3	1984.7	359.0	6936.4	
外	88.6	135.5	39.3	131.4		7.0	0.9	6.3		3.4		8.1											466.0	
合計	3421.0	2813.0	987.0	3062.0	75.0	666.0	128.5	561.0		61.0	8.0	30.0	4.0	4.0	2.0	221.0	1.0	354.0	1414.0	2356.0	7.0	679.0	161.0	41729.0

第24表 貫ノ木遺跡 第3地点ブロック別石材組成表 (上段: 点数、下段: 重量(g))

ブロック	材質	合計	ナイフ形石器	台形石器	貝殻状刃器	楕円形尖頭器	角錐状石器	斧形石器	形器	鏃	掘器	厚刃掘器	掘器状石器	鋸齒状削器	楔形石器	石刃	細石刃	2次加工のある剥片	微細刻離痕のある剥片	折断剥片	砥石	磨石	凹石	台石	礮器	斧形石器刃部破片	剥片	砂片	石核	原石
3001	Ob	7																								3	3			
	An	5																								3	1			
	Sa	2																								2				
	TS	2																								1				
	Ch	1																								1				
	Se	1					1																							
	Sh	1																									1			
	SS	1																												
3002	Se	5																								5				
	An	34																								24	9			
	TS	28																								25		1		
	Sh	9																								5		1		
	Tu	8																								5	2	1		
	ST	6																								5	1			
3003	SS	2																								1				
	Ob	1	1																							1				
	Se	1																								1				
	An	23																								15	6			
	TS	15									2															13		2		
	SS	3																								2		1		
	Ch	1																											1	
	Sh	1																												1
3004	ST	1																								1				
	TS	10																								9				
	Ch	3																								3				
	Tu	3																								3				
	An	2																										1		
	Ob	2																								1				
	Sa	1																								1				
	Se	1																								1				
3005	Sh	1																								1				
	TS	9																								7		1		
	An	7																								3	3			
	Sh	5																								3				
	Ch	2																								1				
	Tu	2																								2				
	Sa	1																								1				
	ST	1																								1				
3006	An	41																								34	5	1		
	TS	39																								34		2		
	Sh	27																								24		1		
	Tu	17																								11	8		3	
	SS	15																								6		2		
	ST	10																								4				
	Ch	4																								4				
	Ag	2			1																					4		1		
	Ob	1																								1				
	Sa	1																								1				
	Se	1																								1				
3007	TS	18																								18				
	Sh	11																								8			1	
	An	7																								5	1	1		
	Tu	2																								1				
	Sa	1																								1				
	SS	1																								1				
3008	ST	1																								1				
	Ob	10																								8				
	TS	6																								4				
	An	5																								3				
	Ch	1																								1				
3009	Ob	10																								8				
	TS	6																								4				
	An	5																								3				
	Ch	1																								1				

第25表 貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表1

第2章 貫ノ木遺跡

ブロック	材質	合計	ナイフ形石器	台形石器	貝殻状刃器	槍先形尖頭器	斧形石器	形器	投擲器	擲器状石器	厚刃掘器	削器	鋸歯状削器	楔形石器	石刃	細石刃	微細剥離痕のある剥片	2次加工のある剥片	折断剥片	砥石	敲石	磨石	凹石	白石	礫器	斧形石器刃部破片	剥片	砕片	石核	原石
3009	Ja	1																		1						1				
	Sa	1																								1				
	SS	1																												
	Tu	1								1																				
3010	TS	27										1					1	1								25				
	Ch	14													1		2									7	2		2	
	Tu	13															1									10		2		
	An	9																								9				
	Ag	5																								4		1		
	Ob	5																								4	1			
	Ja	2																								2				
	SS	2																								2				
	ST	2																								2				
	安山岩	2																				2				2				
3011	Ob	24															2	3								13	6			
	Tu	20																	1							17	1	1		
	ST	5																								4	1			
	TS	5																								3		2		
	An	4																								4				
	Ch	3																								1		1	1	
	SS	1																								1				
3012	Ob	247	2	3						1	1		3				5	16	1							161	49	5		
	An	19		1												1										15	2			
	Tu	6																2								3	1			
	Ch	5																								1	2		2	
	SS	3																	1							2				
	ST	3																								2	1			
	TS	3																								2				
	Ag	1																								1				
	Sh	1																								1				
	安山岩	1																								1				
	3013	Ob	27	1	1									2				2	7								10	3	1	
An		10																								5	5			
Tu		6																1								4	1			
Ch		4	1																							2		1		
TS		4										1														1				
Sa		1																								1				
Sh		1																								1				
ST		1																								1				
安山岩		1																								1				
3014		Ob	104	1	5	2												2	10	1							51	25	6	
	An	90	1										2					1								72	13	1		
	Tu	29																								27		1		
	ST	5																								1	4			
	Ch	3																								2				
	Sa	2																								1				
	TS	2																								1				
	SS	1																								1				
	3015	An	200		1																						131	57	7	
		Ch	35										1														24	7	3	
Ob		34																								24	8	1		
TS		32										1														31				
Tu		31																								25	4			
ST		7																								7				
SS		4																								3		1		
Sa		3																								1		1		
Ag		1																								1				
Ge		1																								1				
3016	TS	45		1																						39		1		
	Tu	32																4								21	3	5		

第26表 貫ノ木遺跡 第3地点石材料別器種組成表2

ブロック	材質	合計	ナイフ形石器	台形石器	貝殻状刃器	楯先形尖頭器	角錐状石器	斧形石器	形器	揉雑器	搔器状石器	厚刃搔器	鋸歯縁状削器	楔形石器	石刀	細石刃	2次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	折断剥片	礫石	磨石	凹石	台石	礫器	斧形石器刃部破片	剥片	砕片	石核	原石
3016	An	24															1								23				
	Ob	23										1					1	5							11	4	1		
	Ch	20	1																						15	2	2		
	ST	2																							2				
	Ag	1																							1				
	Cr	1			1																								
	Sh	1																	1										
	Sl	1						1																					
	SS	1																								1			
	玄武岩	1																								1			
3017	An	121	2															3							91	21	7		
	Ob	14																							6	5			
	Ch	8																							8				
	TS	4																							4				
	SS	3									1														2				
	Tu	2																							2				
	Ag	1																							1				
	Sa	1																							1				
	ST	1																											
	SS	2																								1			
3018	An	136								1							1								91	39	4		
	Ob	108	1								1						4	19	3						47	30	3		
	Ch	24												3				1							17	2	1		
	Tu	24																							17	5	2		
	TS	16																	1						13	2			
	Ag	12																							10		2		
	Sa	10																							4	1			
	ST	4					4																		4	1			
	SS	2																							1	1			
	玄武岩	2																								1			
3019	An	87	1				1	1																	67	14	3		
	Ob	22		1								2							4						9	4	2		
	Ch	8																							6		1		
	Ag	3																							3				
	SS	3		1											1											3			
	Tu	3																								3			
	Sa	2																								2			
	Sh	2																								2			
	TS	2																1								1			
	玄武岩	2																					2						
ST	1																										1		
3020	An	442		1						1	1			1			4	1							342	81	10		
	TS	157		2										1			2	6							132		13		
	Ch	140												1			1	1							103	21	13		
	Tu	120						1																	105	7	5		
	Ob	119	3		1						1	1	1					3	16						52	33	7		
	ST	30																							3	27			
	SS	26																							13	10	1		
	Se	12						5																	4	3			
	Ag	7		1																						7			
	Sa	7																								5			
Sh	6																								4		2		
Cr	3																								1	2			
安山岩	2																												
GT	1																								1				
Ja	1																								1				
Rh	1																								1				
3021	Ob	187	1	9	1						1						6	21	2						57	86	3		
	An	135	1	3													1								89	39	1		
	Ch	19																							12	6			
	Sa	9						2																	5	2			
	TS	7																							7	1			

第27表 質ノ木遺跡 第3地点石材利器種組成表3

第2章 賁ノ木遺跡

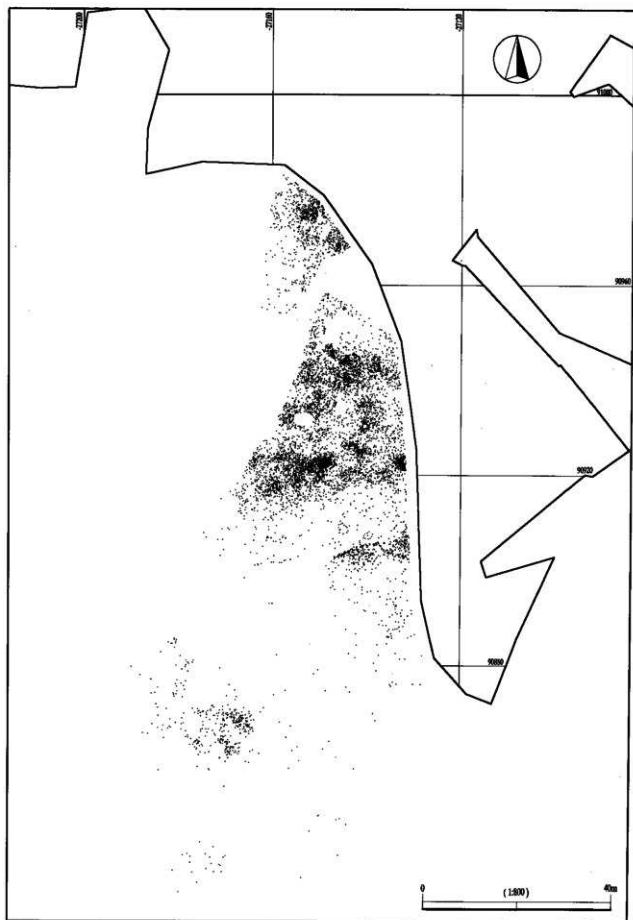
ブロック	材質	合計	ナイフ形石器	台形石器	貝殻状刃器	槍先形尖頭器	角錐状石器	斧形石器	形器	投擲器	擲器状石器	厚刃擲器	削器	鋸齒縁状刃器	楔形石器	石刃	細石刃	微細刻痕のある剥片 ?大加工のある剥片	折断剥片	底石	磨石	凹石	台石	礫器	斧形石器刃部破片	剥片	碎片	石核	原石
3021	ST	3																	1						2	1			
	Ag	1																											
	Ge	1																									1		
	Se	1					1																						
	SS	1																								1			
	安山岩	1																											
3022	Ob	67	2	1												2	16								26	18	2		
	An	50																							42	8			
	Tu	50			1													3			1				42	2	1		
	TS	45										1						1							41	2	2		
	Ch	24																1							17	1	3	1	
	SS	10																	1						7	1	2		
	ST	10																							2	8			
	Sa	5																								4			
	Se	4																											
	Sh	3						3																					
	Ag	1																	1										
3023	Ob	166	5	7	1												8	26							65	54			
	An	21										1													15	2	2		
	Ch	8														1									5	2			
	Tu	7																								5			
	ST	3																											
	Sa	1																									3		
3024	Ob	324	3	3	1					2		1				2	10	33	3						97	166	3		
	An	25																							16	9			
	Tu	7																							6	1			
	Ch	5																								4	1		
	Sa	1																								1			
	TS	1																								1			
3025	Ob	95	6	5	4					1							4	14	1						41	15	4		
	An	12			1																								
	Ch	2																											
	Sa	1																											
3026	An	146																							114	20	9		
	Ob	50	2		2	1				1															23	11	2		
	Ch	7																							7				
	Tu	6																								4		1	
	Sa	2																											
	SS	2																											
	Ag	1																											
	TS	1																											
3027	An	230																							177	43	5		
	Ob	101	3	2	2	1					1														55	9	10		
	SS	15																								7			
	Ch	10																											
	TS	10																											
	Ag	9																											
	Tu	8																											
3028	Ob	257	11	10	4																				117	51	8		
	An	105																								81	16	4	
	Tu	34			1																					30		1	
	TS	20																									13		
	Ch	7																											
	ST	6																								3	1	2	
	SS	5																											
	Sa	2																											
	Se	1																											
	Sh	1							1																				

第28表 賁ノ木遺跡 第3地点石材料器種組成表4

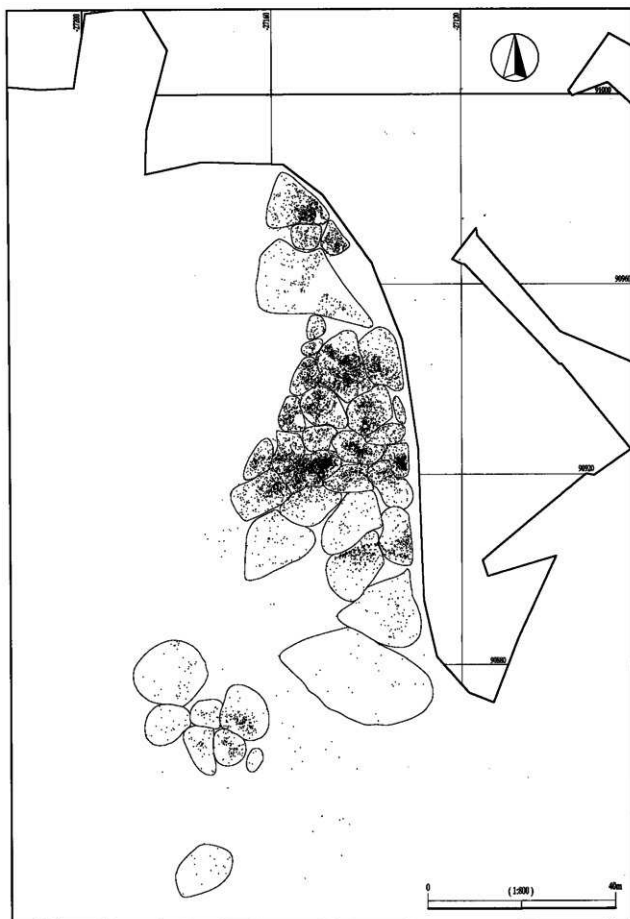
第2章 貫ノ木遺跡

ブロック	材質	合計	ナイフ形石器	臼状状刃器	台形石器	角錐状石器	斧形石器	形器	柱錐器	播器	播器状石器	厚刃播器	削器	鋸齒状削器	楔形石器	石刃	細石刃	微細剥離痕のある剥片	2次加工のある剥片	折断剥片	砥石	磨石	凹石	台石	礫器	斧形石器刃部破片	剥片	砕片	石核	原石	
3035	Ag	4																								4					
	Gt	4																								4					
	不明	2																								1					
	Ho	1																								1					
	Ja	1																								1					
	Sa	1																								1					
	Sh	1																								1					
3036	An	54								2																1	48	2	2		
	Ch	33												1				2	1							22	3	4			
	Tu	12																								12					
	TS	11																								8		3			
	Ob	8													1											6	1				
	Ge	2																								2					
	Sa	2																								2					
	SS	2																								2					
	ST	2																								1	1				
	Sh	1																								1					
	安山岩	1																								1					
	不明	1																								1					
	3037	Ch	84																								58	3	21	1	
Ob		56		2													1	2	5							30	14	2			
An		38																								33	4	1			
Tu		36																								34		2			
ST		11																1								2	8				
TS		5																								5					
Sa		4					1																			3					
SS		4																								4					
Ag		1																								1					
Gt		1																								1					
Ja		1																								1					
3038	Ch	162	1	1								1														121	25	9			
	An	149		1											1											121	10	8			
	SS	98						1																		71	13	3			
	Ob	46		2	1																					22	13	2			
	TS	35																								31		2			
	Tu	20																								13	2	5			
	ST	8																								8					
	Ag	4																								4					
	Ho	2																								2					
	Sa	2																								2					
	Se	1						1																							
	Sh	1																								1					
	安山岩	1																								1					
3外	Ob	19				1																				8	2				
	An	9																								7	2				
	Ch	7																								5	2				
	Ag	2																								2					
	SS	2		1																											
	Se	1																								1					
	Sc	1																								1					
	ST	1																										1			
	TS	1																								1					
	Tu	1																								1					
安山岩	1																								1						
不明	1																								1						

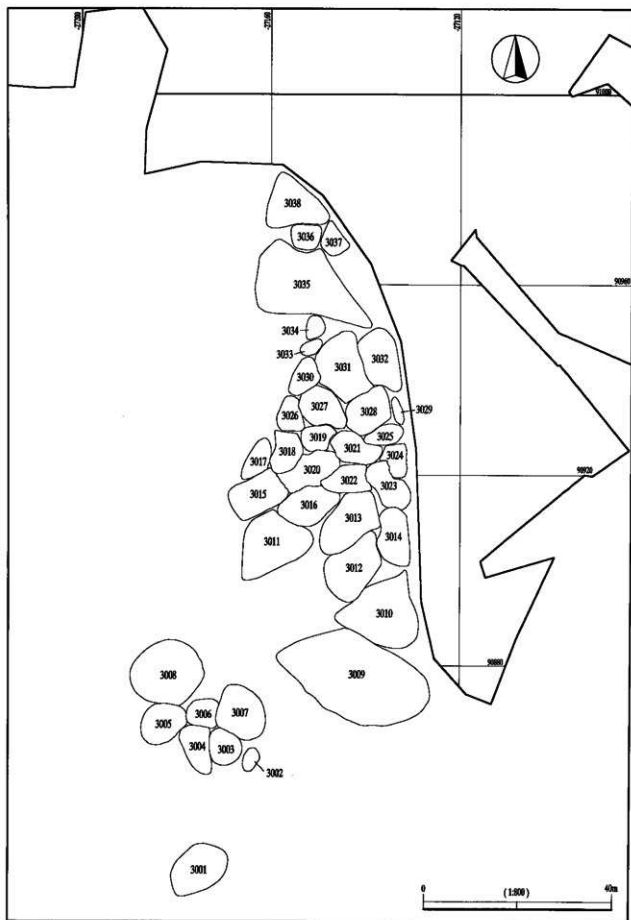
第30表 貫ノ木遺跡 第3地点石材別器種組成表6



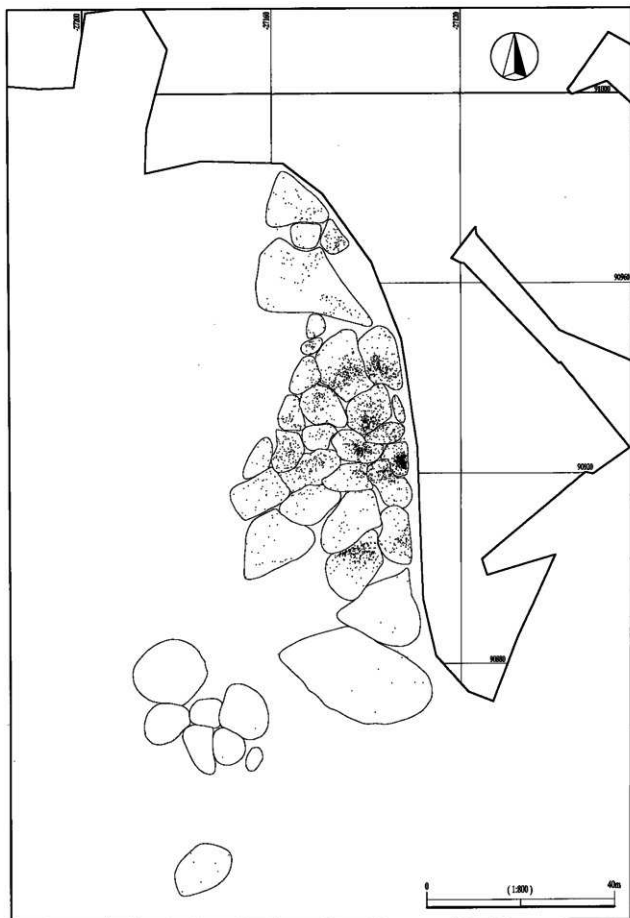
第39図 第3地点 石器全点



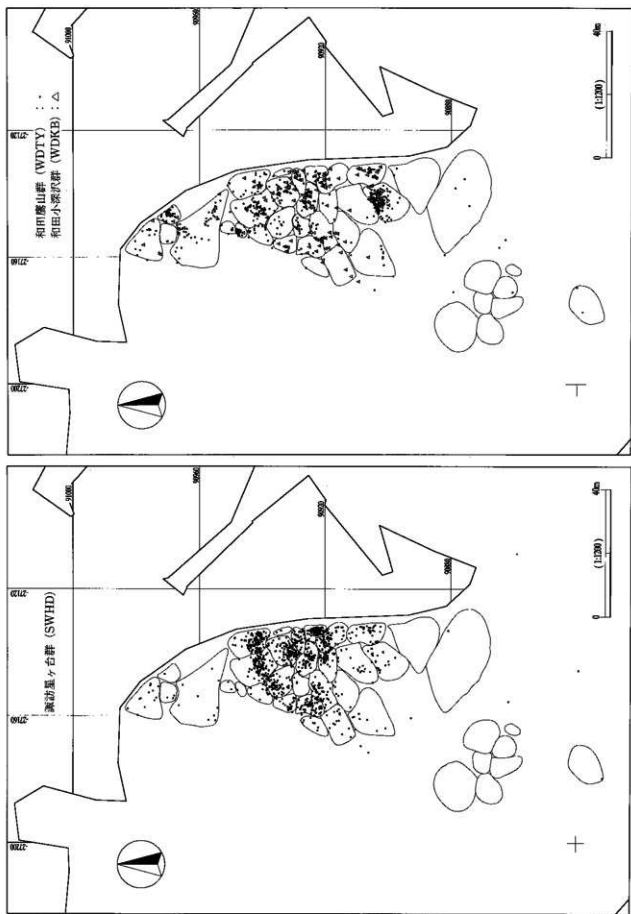
第40図 第3地点 石器全点 (BL 範囲入り)



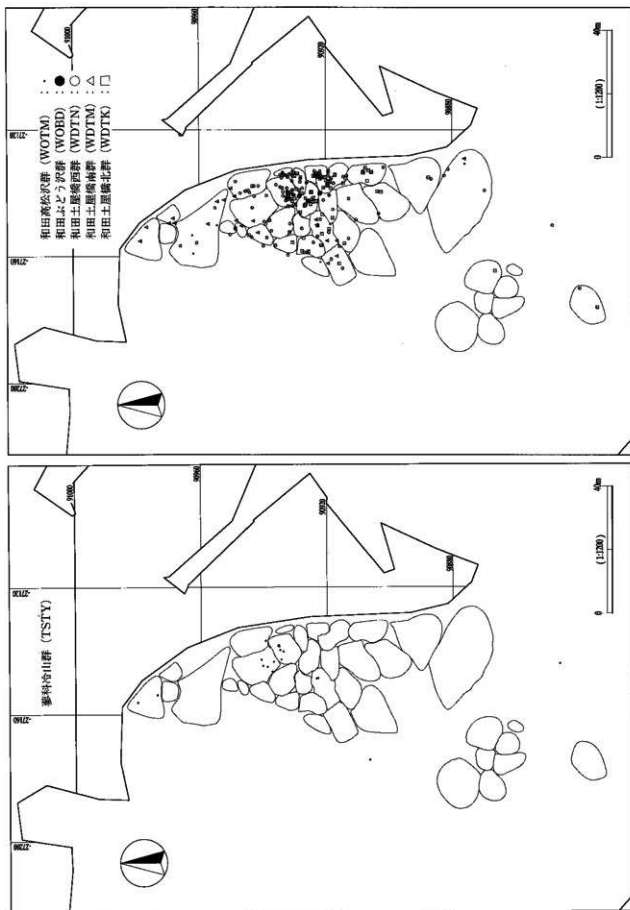
第41図 第3地点 ブロック配置図



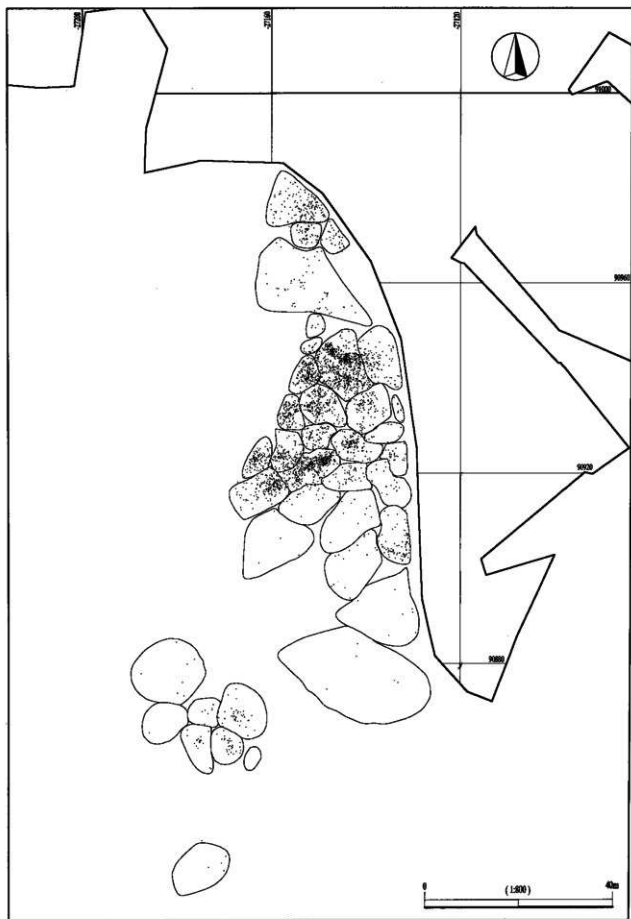
第42図 第3地点 石材別分布図1 (黒曜石全点)



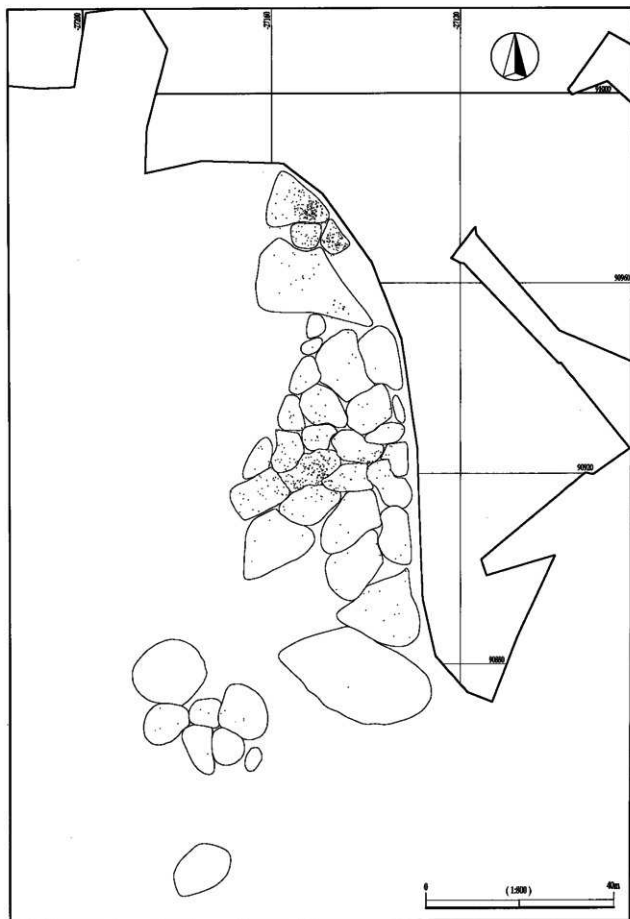
第43図 第3地点 石材別分布図2 (黒曜石原産地別1)



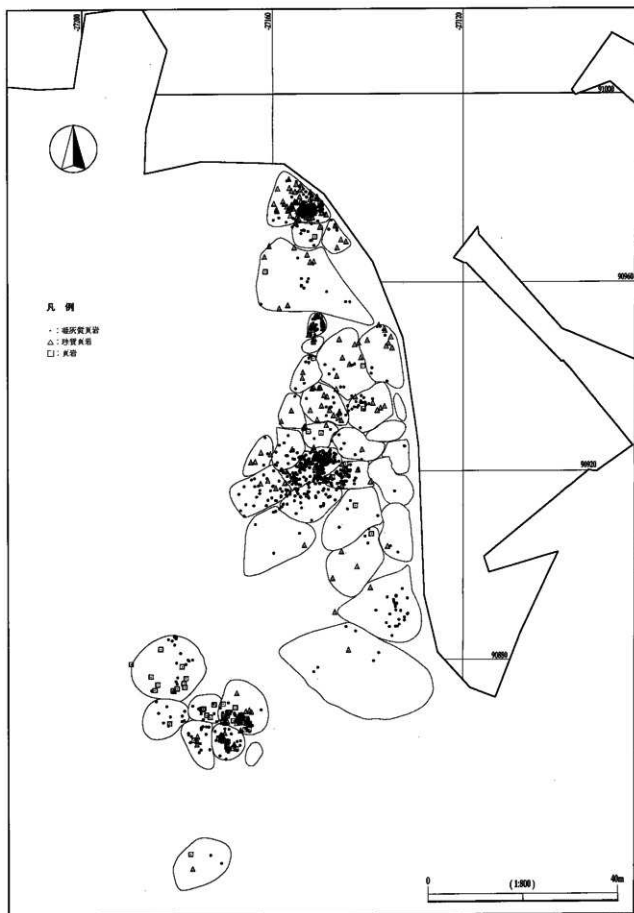
第44図 第3地点 石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)



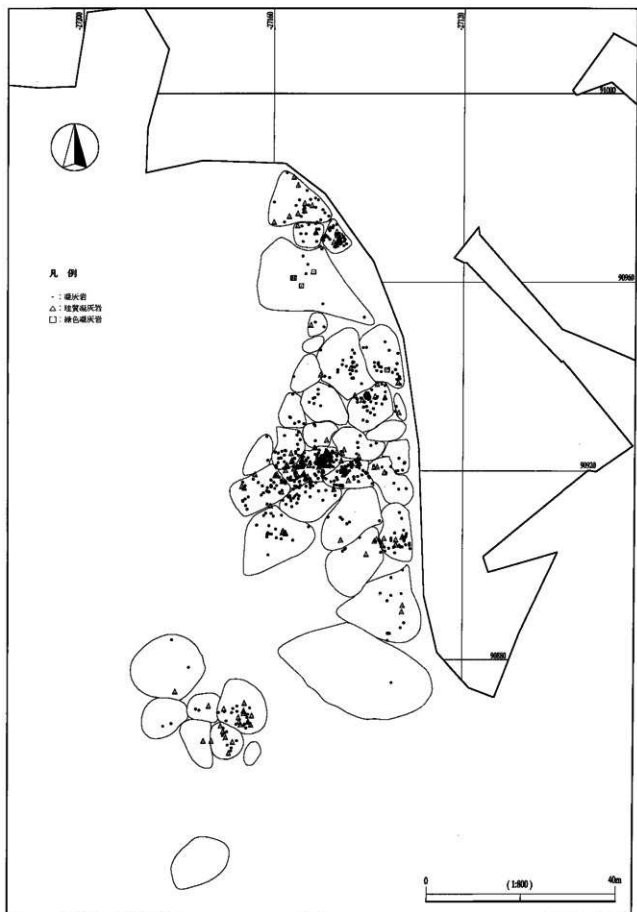
第45図 第3地点 石材別分布図4 (無斑品質安山岩)



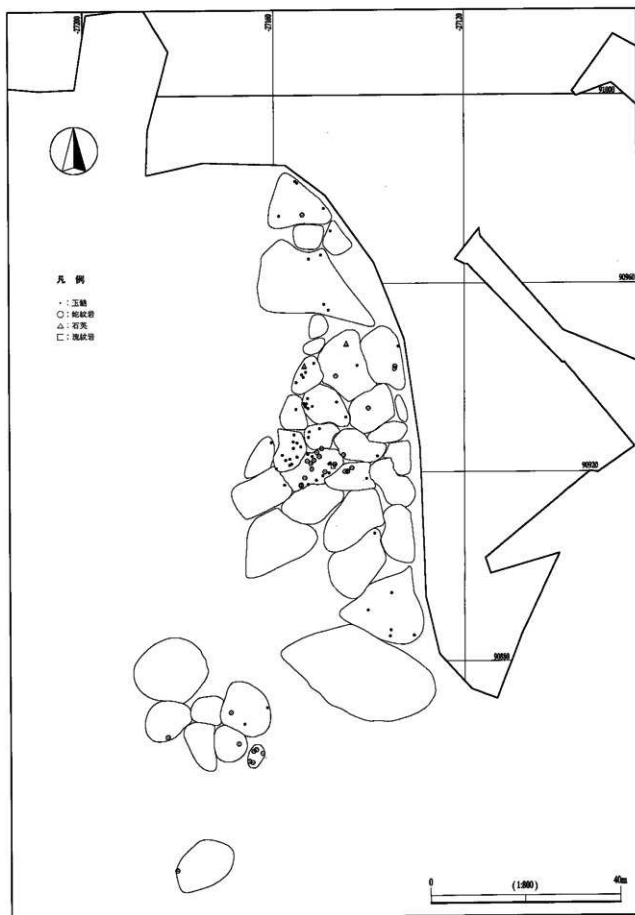
第46図 第3地点 石材別分布図5 (チャート)



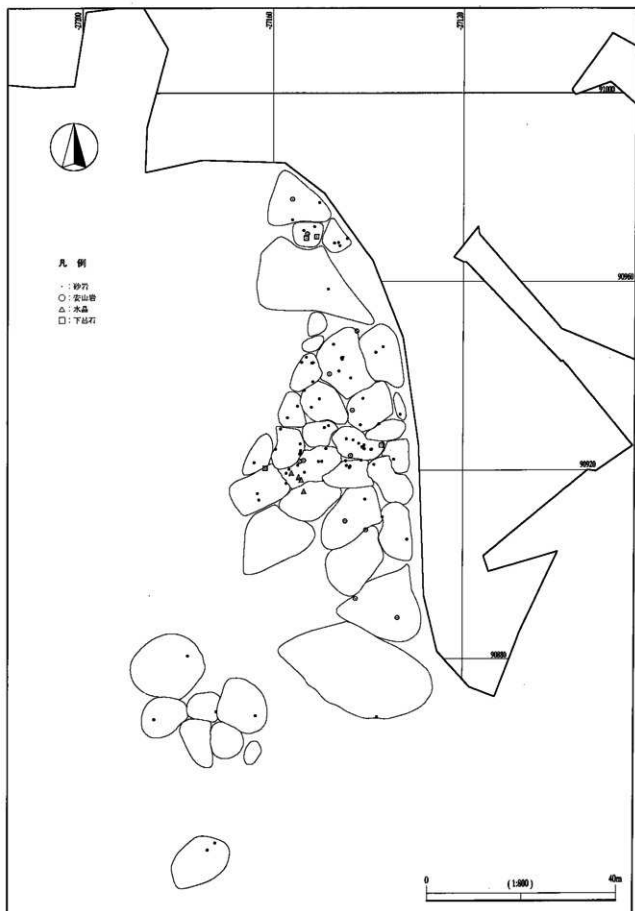
第47圖 第3地点 石材別分布図6 (頁岩系)



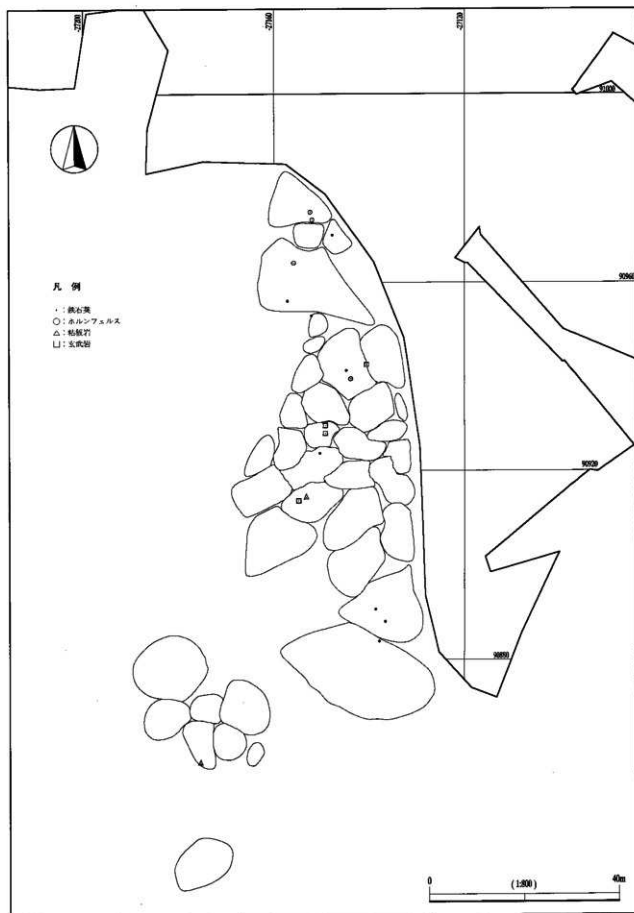
第48図 第3地点 石材別分布図7 (凝灰岩系)



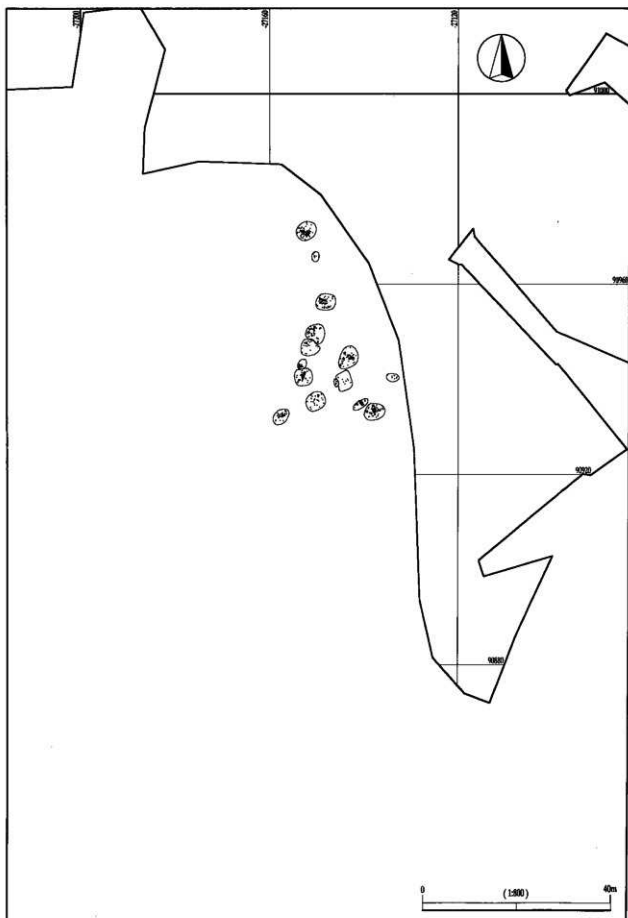
第49図 第3地点 石材別分布図8（その他石材1）



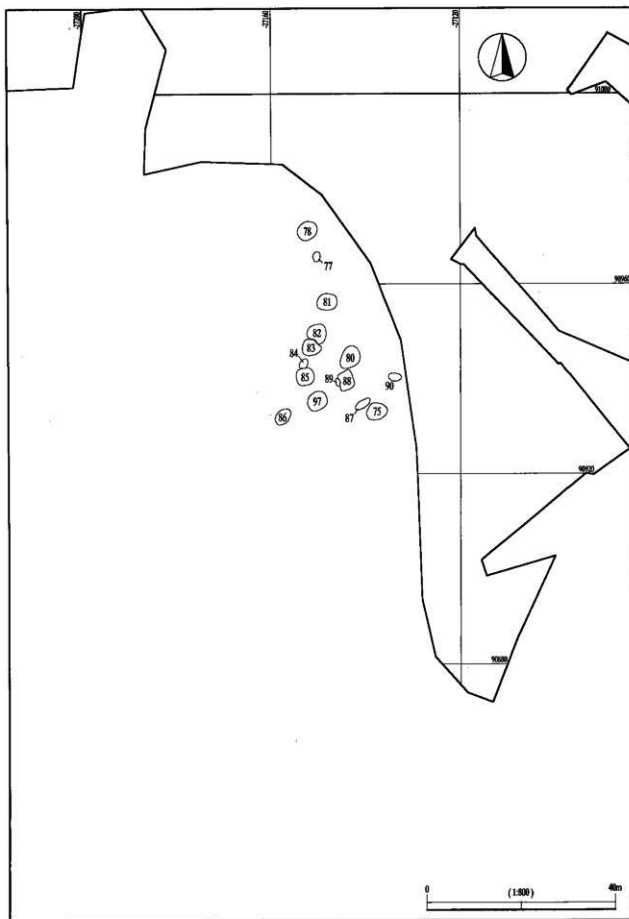
第50図 第3地点 石材別分布図9 (その他石材2)



第51図 第3地点 石材別分布図10 (その他石材3)



第52図 第3地点 礫群 (礫群範囲入り)



第53図 第3地点 標群配置図

2 遺構

(1) ブロック

第3001号ブロック (図版195)

本ブロックは、第3地点では最南端に位置し、VI UN02グリッドを中心に、北東-南西方向を長軸として14.4×9.6mの楕円形の平面的広がりをもつ。分布密度は希薄である。遺物は、石器が20点、礫が5点で総数25点となる。出土層位はI・II層～III層で、I・II層が主体である。器種組成は、斧形石器1点、削器2点、微細剥離痕のある剥片1点、砥石2点、剥片9点、碎片5点である。石材は、黒曜石と無斑晶質安山岩が多い。

第3002号ブロック (図版195)

本ブロックはVI PS11グリッドを中心に、北東-南西方向を長軸として4.8×4mの平面的広がりをもつ。分布密度は希薄である。第3003号ブロックが近接する。遺物は、石器が5点、礫が2点で総数7点となる。出土層位はIII層のみの出土である。器種組成は、剥片5点のみである。石材は、すべて蛇紋岩である。

第3007号ブロックと接合資料を共有している。

第3003号ブロック (図版195)

本ブロックはVI PP10グリッドを中心に、南北8×東西6.4mの平面的広がりをもつ。第3004・3007号ブロックが接し、第3002・3006号ブロックが近接する。遺物は、石器が89点、礫が3点で総数92点となる。出土層位はIII層～V層で、IV層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器1点、楔形石器3点、2次加工のある剥片2点、剥片66点、碎片13点、石核3点である。石材は、無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩が主体である。

第3004・3005・3006・3008号ブロックと接合資料を共有している。

第3004号ブロック (図版196)

本ブロックはVI PM10グリッドを中心に、北西10.4×南東6.4mの平面的広がりをもつ。第3003・3005・3006号ブロックが接する。遺物は、石器が44点、礫が4点で総数48点となる。出土層位はIII層～V層で、III層が主体である。器種組成は、削器2点、2次加工のある剥片1点、剥片31点、碎片6点、石核3点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩が主体である。

第3003・3008号ブロックと接合資料を共有している。

第3005号ブロック (図版196)

本ブロックはVI PJ08グリッドを中心に、直径約9mの円形の平面的広がりをもつ。分布密度は希薄である。第3004・3006・3008号ブロックが接する。遺物は、石器が21点、礫が3点で総数24点となる。出土層位はIII層～IV層だが、III層が主体である。器種組成は、斧形石器1点、2次加工のある剥片1点、剥片18点、碎片1点である。石材は、凝灰質頁岩が主体である。

第3003・3006・3008号ブロックと接合資料を共有している。

第3006号ブロック (図版196)

本ブロックはVI PN06グリッドを中心に、直径約7mの円形の平面的広がりをもつ。第3004・3005・3007号ブロックが接する。第3003号ブロックが近接する。遺物は、石器が27点、礫が5点で総数32点となる。出土層位はIII層～V層でIV層が主体である。器種組成は、擡器1点、削器1点、2次加工のある剥片3点、砥石1点、剥片17点、碎片3点、石核1点である。石材は、無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩、頁岩が多い。

第3003・3005・3007・3008号ブロックと接合資料を共有している。

第3007号ブロック (図版197)

本ブロックはVI PQ06グリッドを中心に、直径約12mの円形の平面的広がりをもつ。第3003・3006号ブロックが接する。遺物は、石器が158点、礫が4点で総数162点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴ層で、Ⅴ層が主体である。器種組成は、台形石器1点、搔器1点、削器2点、楔形石器1点、石刃1点、微細刺離痕のある剥片6点、敲石3点、剥片120点、碎片16点、石核7点である。石材は、無斑品質安山岩、凝灰質頁岩が多く、ついで頁岩が多い。

第3002・3006号ブロックと接合資料を共有している。

第3008号ブロック (図版197)

本ブロックはVI PI01グリッドを中心に、直径約14mの平面的広がりをもつ。第3005号ブロックが接する。遺物は、石器が41点、礫が3点で総数44点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴ層で、Ⅴ層が主体である。器種組成は、微細刺離痕のある剥片3点、剥片34点、碎片2点、石核2点である。石材は、凝灰質頁岩、頁岩が主体である。

第3003・3004・3005・3006号ブロックと接合資料を共有している。

第3009号ブロック (図版198)

本ブロックは、東西方向に走る浅い旧沢地形の南岸にあたり、VI QJ01グリッドを中心に、東西方向を長軸として33.6×17.6mの平面的広がりをもつ分布密度は散漫で、遺物の多くが沢地形の中に入ってしまう。その沢地形を挟んで対岸に第3010号ブロックが接する。遺物は、石器が26点、礫が5点で総数31点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅵ層で、Ⅲ層が最も多いが、特にピークとはいえない。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器3点、2次加工のある剥片1点、微細刺離痕のある剥片2点、砥石1点、剥片18点である。石材は、黒曜石、凝灰質頁岩、無斑品質安山岩の順が多い。

本ブロックからは、旧沢地形との境界あたりから、重さ約10kgの砂岩製砥石が出土している。砥面を上にしており、当時の原位置を保っているかもしれない。

第3010号ブロック (図版199)

本ブロックはVI LN15グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として16.8×15.2mの平面的広がりをもつ。第3009・3012号ブロックが接する。第3014号ブロックが近接する。遺物は、石器が81点、礫が10点で総数91点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅴa層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、楔形石器1点、2次加工のある剥片2点、微細刺離痕のある剥片3点、敲石2点、剥片65点、碎片3点、石核3点、原石2点である。石材は、凝灰質頁岩が主体である。

第3016・3020号ブロックと接合資料を共有している。

第3011号ブロック (図版199)

本ブロックはVI LB08グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として16.8×12.8mの平面的広がりをもつ。第3016号ブロックが接する。第3015号ブロックが近接する。遺物は、石器が62点、礫が13点で総数75点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴ層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、2次加工のある剥片2点、微細刺離痕のある剥片3点、砥石1点、剥片42点、碎片8点、石核4点、原石1点である。石材は、黒曜石、凝灰岩が主体である。

第3012号ブロックと接合資料を共有している。

第3012号ブロック (図版200)

本ブロックはVI LJ10グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として16×10.8mの平面的広がりをもつ。第3013・3014号ブロックが接する。遺物は、石器が289点、礫が13点で総数302点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅵ層で、Ⅴ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器4点、彫器1点、搔器

1点、搔器状石器1点、削器3点、石刃1点、2次加工のある剥片5点、微細刺離痕のある剥片19点、折断剥片1点、剥片187点、砕片57点、石核5点、原石2点である。石材は、黒曜石が主体である。

第3011・3014・3028・3032号ブロックと接合資料を共有している。

第3013号ブロック（図版201）

本ブロックはVI L106グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として16×9.6mの平面的広がりをもつ。第3012・3014・3016・3022号ブロックが接する。第3023号ブロックが近接する。遺物は、石器が55点、礫が20点で総数75点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴ層で、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器1点、削器1点、楔形石器2点、石刃1点、2次加工のある剥片2点、微細刺離痕のある剥片9点、敲石2点、剥片24点、砕片9点、石核2点である。石材は、黒曜石が主体である。

第3021・3022号ブロックと接合資料を共有している。

第3014号ブロック（図版202）

本ブロックはVI LN07グリッドを中心に、南北方向を長軸として12.8×7.2mの平面的広がりをもつが、東側は調査区外にも広がると思われる。第3012・3013・3023号ブロックが接する。第3010号ブロックが近接する。遺物は、石器が236点、礫が15点で総数251点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅵ層で、Ⅴ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器5点、貝殻状刃器2点、搔器状石器1点、削器2点、2次加工のある剥片2点、微細刺離痕のある剥片12点、折断剥片1点、剥片156点、削片1点、砕片44点、石核8点である。石材は、黒曜石、無斑晶質安山岩が主体である。

第3012・3020・3026・3028・3031号ブロックと接合資料を共有している。

貫ノ木Ⅰ石器文化に帰属する。

第3015号ブロック（図版203）

本ブロックはVI KT03グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として12.8×8mの平面的広がりをもつ。第3016・3017・3018・3020号ブロックが接する。第3011号ブロックが近接する。遺物は、石器が348点、礫が28点で総数376点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅵ層で、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器1点、削器2点、楔形石器1点、石刃2点、微細刺離痕のある剥片2点、敲石2点、剥片241点、砕片85点、石核11点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第3016・3019号ブロックと接合資料を共有している。

第3016号ブロック（図版204）

本ブロックはVI LF04グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として13.6×8mの平面的広がりをもつ。第3011・3013・3015・3020・3022号ブロックが接する。遺物は、石器が152点、礫が4点で総数156点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅴ層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、斧形石器1点、搔器1点、削器1点、2次加工のある剥片3点、微細刺離痕のある剥片11点、剥片112点、砕片11点、石核9点である。石材は、凝灰質頁岩、凝灰岩が多い。次いで無斑晶質安山岩、黒曜石、チャートが多い。

第3010・3015・3020・3022号ブロックと接合資料を共有している。

第3017号ブロック（図版205）

本ブロックはVI FT20グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として9.6×4.8mの平面的広がりをもつ。第3015・3018号ブロックが接する。遺物は、石器が154点、礫が21点で総数175点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴ層で、Ⅴ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、厚刃搔器1点、微細刺離痕のある剥片3点、剥片115点、砕片26点、石核7点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第3018号ブロックと接合資料を共有している。

第3018号ブロック (図版205)

本ブロックはVI GB19グリッドを中心に、南北方向を長軸として8.8×6.4mの平面的広がりをもつ。第3015・3017・3019・3020・3026号ブロックが接する。遺物は、石器が336点、礫が49点で総数385点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅶ層で、Ⅳ・Ⅴ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、斧形石器1点、搔器1点、搔器状石器1点、楔形石器3点、2次加工のある剥片5点、微細剝離痕のある剥片20点、折断剥片4点、敲石1点、斧形石器破片3点、剥片200点、碎片82点、石核14点である。石材は、無斑晶質安山岩、黒曜石が主体である。

Ⅳ層主体の第86号礫群と重複する。第3017・3019・3020・3021・3022・3024・3025・3028・3034・3035・3037号ブロックと接合資料を共有している。

第3019号ブロック (図版206)

本ブロックはVI GF17グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として7.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第3018・3020・3021・3026・3027号ブロックが接する。遺物は、石器が135点、礫が24点で総数159点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴa層でⅣ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器1点、彫器1点、搔器1点、削器2点、石刃1点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片5点、敲石2点、剥片93点、碎片19点、石核6点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

Ⅲ層主体の第97号礫群と重複する。第3015・3018号ブロックと接合資料を共有している。

第3020号ブロック (図版206)

本ブロックはVI LE01グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として12.8×6.4mの平面的広がりをもつ。東群と西群に細分されそうであるが、境界線が引けず、一括した。遺物分布の密度は高い。第3015・3016・3018・3019・3021・3022号ブロックが接する。遺物は、石器が1074点、礫が98点で総数1172点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅵ層で、Ⅳ・Ⅴ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、台形石器4点、貝殻状刃器1点、斧形石器6点、搔器2点、搔器状石器2点、厚刃搔器1点、削器3点、楔形石器2点、2次加工のある剥片11点、微細剝離痕のある剥片26点、砥石2点、敲石2点、剥片774点、碎片184点、石核51点である。石材は、無斑晶質安山岩主体で400点を越える、ついで100点を越える石材が、凝灰質頁岩、チャート、凝灰岩、黒曜石である。

第3010・3014・3016・3018・3022・3028号ブロックと接合資料を共有している。

第3021号ブロック (図版207)

本ブロックはVI GI18グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸として12×6.4mの平面的広がりをもつ。第3019・3020・3022・3023・3024・3025・3028号ブロックが接する。第3027号ブロックが近接する。遺物は、石器が373点、礫が10点で総数383点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴb層で、Ⅴ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器12点、貝殻状刃器1点、斧形石器2点、厚刃搔器1点、削器1点、2次加工のある剥片8点、微細剝離痕のある剥片21点、折断剥片3点、敲石1点、斧形石器破片1点、剥片180点、碎片136点、石核4点である。石材は、黒曜石、無斑晶質安山岩が主体である。

Ⅲ層主体の第75号礫群、Ⅳ層主体の第87号礫群と重複する。第3013・3018・3022・3024・3025・3027・3032号ブロックと接合資料を共有している。

第3022号ブロック (図版208)

本ブロックはVI LI01グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として10.4×6.4mの平面的広がりをもつ。第3013・3016・3020・3021・3023号ブロックが接する。遺物は、石器が269点、礫が15点で総数284点となる。出土層位はⅢ層～Ⅵ層で、Ⅳ層が主体である。器種組成は、台形石器3点、貝殻状刃器1点、斧形石器2点、削器1点、楔形石器1点、石刃2点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片21点、

砥石1点、敲石1点、斧形石器破片1点、剥片184点、砕片37点、石核10点、原石2点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩、凝灰岩、凝灰質頁岩が多い。

第3013・3016・3018・3020・3021・3024・3032・3035号ブロックと接合資料を共有している。

第3023号ブロック (図版208)

本ブロックはVI LMO2グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸として12×6.4mの平面的広がりをもつ。第3014・3021・3022・3024号ブロックが接する。第3013号ブロックが近接する。遺物は、石器が207点、礫が6点で総数213点となる。出土層位はI・II層-V層で、V層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器5点、台形石器7点、貝殻状刃器1点、削器2点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片27点、砥石1点、台石1点、剥片90点、砕片61点、石核2点である。石材は、黒曜石が主体である。

第3032号ブロックと接合資料を共有している。

第3024号ブロック (図版209)

本ブロックはVI GN19グリッドを中心に、直径7.2mの平面的広がりをもつ。第3021・3023・3025号ブロックが接する。遺物は、石器が363点、礫が20点で総数383点となる。出土層位はIII層-V層で、V層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、台形石器3点、貝殻状刃器1点、搔器状石器2点、削器1点、石刃2点、2次加工のある剥片10点、微細剥離痕のある剥片33点、折断剥片3点、剥片125点、砕片177点、石核3点である。石材は、黒曜石が主体である。

第3018・3021・3022・3025・3026・3027・3028・3032号ブロックと接合資料を共有している。

第3025号ブロック (図版209)

本ブロックはVI GM17グリッドを中心に、北東-南西方向を長軸として8.8×4.8mの平面的広がりをもつ。第3021・3024・3028号ブロックが接する。第3029号ブロックが近接する。遺物は、石器が110点、礫が7点で総数117点となる。出土層位はIII層-V層で、IV層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器6点、台形石器6点、貝殻状刃器4点、搔器状石器1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片14点、折断剥片1点、敲石1点、剥片53点、砕片15点、石核4点、原石1点である。石材は、黒曜石が主体である。

第3018・3021・3024・3026・3027・3028号ブロックと接合資料を共有している。

第3026号ブロック (図版210)

本ブロックはVI GC15グリッドを中心に、南北方向を長軸として7.2×5.6mの平面的広がりをもつ。第3018・3019・3027号ブロックが接する。第3030号ブロックが近接する。遺物は、石器が215点、礫が26点で総数241点となる。出土層位はIII層-V層で、IV層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、貝殻状刃器2点、槍先形尖頭器1点、搔器1点、削器1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片5点、折断剥片2点、敲石1点、剥片153点、砕片31点、石核12点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

IV層主体の第86号礫群と重複する。第3014・3024・3025・3027・3028・3030号ブロックと接合資料を共有している。

第3027号ブロック (図版210)

本ブロックはVI GF14グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸として11.2×8mの平面的広がりをもつ。第3019・3026・3028・3030・3031号ブロックが接する。第3021号ブロックが近接する。遺物は、石器が387点、礫が57点で総数444点となる。出土層位はIII層-V層で、V層が主体であるが、III・IV層も100点以上の出土がある。器種組成は、ナイフ形石器5点、台形石器2点、貝殻状刃器2点、槍先形尖頭

器2点、厚刃搔器1点、削器2点、石刃3点、2次加工のある剥片9点、微細剥離痕のある剥片17点、折断剥片2点、敲石3点、剥片269点、削片1点、砕片52点、石核15点、原石2点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

Ⅲ層主体の第97号礫群と重複する。第3021・3024・3025・3026・3031号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックは、2時期の礫群と重複することや、ナイフ形石器、台形石器、槍先形尖頭器といった一部時期の異なる可能性のある器種があることから複数の石器文化が重複していると考えられる。

第3028号ブロック (図版211)

本ブロックはVI GK15グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として11.2×8mの平面的広がりをもつ。第3021・3025・3027・3031・3032号ブロックが接する。第3029号ブロックが近接する。遺物は、石器が439点、礫が68点で総数507点となる。出土層位はⅢ層～V c層で、Ⅳ・V b層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器10点、台形石器11点、貝殻状刃器4点、槍先形尖頭器1点、斧形石器2点、彫器2点、搔器状石器1点、厚刃搔器5点、削器4点、楔形石器1点、石刃4点、2次加工のある剥片11点、微細剥離痕のある剥片37点、折断剥片6点、敲石2点、ナイフ形石器破片1点、剥片247点、削片1点、砕片73点、石核14点、原石2点である。石材は、黒曜石が主体で、ついで無斑品質安山岩が多い。

Ⅲ層主体の第75号礫群、Ⅳ層主体の第87号礫群と重複する。第3012・3014・3018・3020・3024・3025・3026・3031・3032号ブロックと接合資料を共有している。

第3029号ブロック (図版212)

本ブロックはVI GN15グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸として5.6×2.4mの平面的広がりをもつ。第3025・3028号ブロックが近接する。遺物は、石器が33点、礫が6点で総数39点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V b層が主体である。器種組成は、貝殻状刃器1点、厚刃搔器1点、微細剥離痕のある剥片2点、砥石1点、敲石1点、剥片20点、砕片6点、石核1点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が多い。

V b層主体の第90号礫群と重複する。

第3030号ブロック (図版212)

本ブロックはVI GE11グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として8.8×5.6mの平面的広がりをもつ。第3027・3031号ブロックが接する。第3026・3033号ブロックが近接する。遺物は、石器が262点、礫が14点で総数276点となる。出土層位はⅢ層～V層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、台形石器3点、貝殻状刃器1点、搔器2点、削器4点、楔形石器1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片5点、敲石2点、剥片189点、砕片42点、石核8点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

Ⅳ層主体の第84号礫群、Ⅲ・Ⅳ層主体の第85号礫群と重複する。第3026・3033号ブロックと接合資料を共有している。

第3031号ブロック (図版213)

本ブロックはVI GI10グリッドを中心に、南北方向を長軸として15.2×12mの平面的広がりをもつ。第3027・3028・3030・3032・3033号ブロックが接する。遺物は、石器が1090点、礫が70点で総数1160点となる。出土層位はⅢ層～V c層で、V層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器6点、台形石器6点、貝殻状刃器5点、角錐状石器1点、斧形石器1点、彫器1点、揉鉢器1点、搔器1点、搔器状石器3点、厚刃搔器1点、削器11点、楔形石器2点、2次加工のある剥片22点、微細剥離痕のある剥片41点、折断剥片4点、砥石1点、敲石8点、剥片725点、砕片209点、石核36点、原石5点である。石材は、無斑品質安山

岩770点と卓越し、ついで黒曜石257点で、この2種の石材で1000点を越える。

IV層主体の第80号礫群、V層主体の第88・89号礫群と重複する。第3014・3027・3028・3032号ブロックと接合資料を共有している。

第3032号ブロック (図版214)

本ブロックはVI GM09グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸として13.6×8mの平面的広がりをもつ。第3028・3031号ブロックが接する。第3035号ブロックが近接する。遺物は、石器が432点、礫が66点で総数498点となる。出土層位はIII層～Vc層でVb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器6点、台形石器6点、貝殻状刃器9点、彫器2点、揉錐器1点、搔器状石器2点、削器2点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片37点、折断剥片7点、敲石4点、剥片225点、碎片106点、石核15点である。石材は、黒曜石が主体で、ついで無斑品質安山岩、その他の石材は少数である。

Vb層主体の第90号礫群と重複する。第3012・3021・3022・3023・3024・3028・3031号ブロックと接合資料を共有している。

第3033号ブロック (図版215)

本ブロックはVI GE08グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸として4.8×3.2mの平面的広がりをもつ。第3031・3034号ブロックが接する。第3030号ブロックが近接する。遺物は、石器総数50点となる。出土層位はIII層～Va層で、III層が主体である。器種組成は、台形石器2点、彫器1点、削器2点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片4点、折断剥片2点、剥片36点、石核1点である。石材は、無斑品質安山岩と黒曜石が多い。

III層主体の第83号礫群と重複する。第3030号ブロックと接合資料を共有している。

第3034号ブロック (図版215)

本ブロックはVI GF06グリッドを中心に、南北5.6×東西4mの平面的広がりをもつ。第3033・3035号ブロックが接する。遺物は、石器が50点、礫が14点で総数64点となる。出土層位はIII層～V層で、III層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、槍先形尖頭器1点、彫器2点、削器1点、石刃2点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片3点、折断剥片1点、剥片32点、碎片2点、石核4点である。石材は、珪質頁岩、凝灰質頁岩、黒曜石が多い。

III層主体の第82・83号礫群と重複する。第3018・3037号ブロックと接合資料を共有している。

第3035号ブロック (図版215)

本ブロックはVI GE01グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸として28×18.4mの平面的広がりをもつ。第3034号ブロックが接する。第3032・3036・3037号ブロックが近接する。遺物は、石器が217点、礫が49点で総数266点となる。出土層位はIII層～V層で、III層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器5点、斧形石器1点、搔器状石器1点、削器1点、楔形石器3点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片18点、折断剥片5点、敲石2点、剥片139点、削片1点、碎片23点、石核14点、原石1点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が主体である。

III下層主体の第77号礫群、IV層主体の第81号礫群と重複する。第3018・3022・3037号ブロックと接合資料を共有している。

第3036号ブロック (図版216)

本ブロックはVI BE16グリッドを中心に、東西方向を長軸として6.4×5.6mの平面的広がりをもつ。第3037・3038号ブロックが接する。第3035号ブロックが近接する。遺物は、石器が129点、礫が14点で総数143点となる。出土層位はIII層～V層で、III層が主体である。器種組成は、搔器2点、楔形石器2点、2

次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石4点、剥片102点、碎片7点、石核9点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

IV層主体の第78号礫群と重複する。第3037号ブロックと接合資料を共有している。

第3037号ブロック (図版216)

本ブロックはVI BG16グリッドを中心に、南北方向を長軸として7.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第3036号ブロックが接する。第3035・3038号ブロックが近接する。遺物は、石器が241点、礫が34点で総数275点となる。出土層位はIII層～V層で、各層ともほぼ同数の出土である。器種組成は、台形石器2点、斧形石器1点、細石刃1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片5点、剥片170点、打面再生剥片2点、碎片29点、石核26点、原石1点である。石材は、チャート、黒曜石、無斑晶質安山岩、凝灰岩が多い。

第3018・3034・3035・3036・3038号ブロックと接合資料を共有している。

第3038号ブロック (図版217)

本ブロックはVI BC13グリッドを中心に、北西～南東方向を長軸として14.4×12mの平面的広がりをもつ。第3036号ブロックが接する。第3037号ブロックが近接する。遺物は、石器が529点、礫が48点で総数577点となる。出土層位はIII層～V層で、各層ともほぼ同数の出土である。器種組成は、ナイフ形石器3点、台形石器3点、斧形石器1点、彫器3点、削器1点、楔形石器3点、石刃8点、細石刃1点、2次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片4点、折断剥片5点、敲石3点、剥片383点、打面再生剥片3点、碎片71点、石核29点である。石材は、チャート、無斑晶質安山岩、珪質頁岩が多く、黒曜石、凝灰質頁岩がこれに続く。

IV層主体の第78号礫群と重複する。第3037号ブロックと接合資料を共有している。

(2) 礫群 (図版218～222・第31表)

第3地点では、15基の礫群が検出された。遺存度類型、層位類型の設定については第3節第2地点の礫群の項を参照されたい。ただ層位類型で、第2地点には類型8(VもしくはVa層)、類型9(VbもしくはVc層)がなかったが、本地点ではやはりV層を主体とする礫群がみられる。SH88・89・90は完形礫が多く、あまり点数も多くない。下層石器群に伴う礫群に多いタイプである。SH90は配石か。上層の礫群は、完形率が低い点は第2地点と共通する。

遺構名	点数	方位	規模	重複BL	出土層位	重量gの平均	重量gの合計	遺存度(%)					遺存度 類型	層位 類型	
								不明	0	25	50	75			100
SH82	73	NS	5.1×5.1	3034	III	285	20,780			25	11	10	27	c	1
SH75	101	NE	5.5×4.2	3028	III>IV	411	40,681	2		29	13	18	39	c	2
SH77	11	NS	2.5×1.7	3035	III下	442	4,860			5	1	2	3	c	2
SH83	25	EW	4.4×5.8	3034	III>IV	393	9,830			6	4	2	13	a	2
SH97	43	NS	5.3×5.4	3027	III>IV	441	18,954			13	3	12	15	c	2
SH85	78	EW	4.7×4.4	3030	III・IV	307	23,940			18	13	11	36	c	3
SH78	107	NS	5.2×5	3038	IV	201	21,260	1		9	6	12	79	a	5
SH80	104	NS	6×5.3	3031	IV	450	46,840			27	13	24	40	c	5
SH81	86	EW	4.2×5.5	3035	IV	284	24,460			15	9	14	48	a	5
SH84	36	NS	2.4×2.3	3030	IV	246	8,850			13	4		19	a	5
SH87	41	NE	4.7×2.1	3028	IV	485	19,870			15	8	3	15	c	5
SH86	59	NE	5.1×3.5	3026	IV>V	407	23,990			17	6	12	24	c	6
SH88	13	NS	5.3×4.6	3031	V	651	8,460			2	3		8	a	8
SH89	15	NS	2.1×1.3	3031	V	325	4,880			2		3	10	a	8
SH90	8	EW	3.4×2.2	3032	Vb	2,668	21,340			1	1		6	a	9

第31表 貫ノ木遺跡 第3地点礫群

3 遺物

(1) ナイフ形石器 (図版223~231・報告番号701~769・写真図版49~53)

ナイフ形石器は70点出土した。出土層位はⅢ層9点、Ⅳ層18点、Ⅴ層全体で42点(うち層序細分ができたものではⅤa層8点、Ⅴb層10点、Ⅴc層1点)であった。圧倒的にⅤ層出土のナイフ形石器が多い傾向を示す。出土の多いブロックはBL3023~3032の第3地点中央のブロック密集部で、5~10点の出土量であった。石材は、黒曜石が51点で最も多い。

特徴的な類型は、縦長剥片、寸詰まりの縦長剥片を素材とし、打面を基部側に設け、基部付近をやや挟るように調整加工を施すもので、先端にはほとんど加工を施さないが、尖るような素材を選択していたと考えられる。調整剥離の方向には正方向剥離・反方向剥離・錯向剥離などバラエティーがある。調整剥離の種類は、平坦剥離と微細剥離がみられる。平坦剥離を用いるものは、704・719・721・723・726・731~735・739・744・745・747・749・750・754・756・761。微細剥離を用いるものは716・722・724・725・727~730・742・743・746・748・757・758・760・762。これらのナイフ形石器は、佐藤宏之氏によれば台形様石器Ⅱ類に相当し(佐藤1989)、後期旧石器時代前半期に特徴的な石器といえよう。また、出土するブロックは、BL3020~3028・3031・3032の環状ブロック群内である。

706~708・752は上記のナイフ形石器よりも縦長の素材を用いたもので、調整加工は基部に施す。分布がBL3013・3014・3031と、環状ブロック群の外縁側のブロックに出土する傾向にある。

703・709・712・715・737・738・764・765は二側縁加工のナイフ形石器であるが、剥片剥離軸と石器主軸が一致するタイプである。分布は環状ブロック群の外縁側のブロックにみられる。

(2) 台形石器 (図版231~240・報告番号770~854・写真図版53~59)

台形石器は89点出土した。出土層位はⅢ層20点、Ⅳ層30点、Ⅴ層全体で49点(うち層序細分ができたものではⅤa層4点、Ⅴb層7点)であった。Ⅴ層出土の台形石器が多い傾向を示す。出土の多いブロックは第3地点中央のブロック密集部で、5点を越えるブロックが多いが、特にBL3021とBL3028は10点を越える数が出土している。石材は、黒曜石が67点で最も多く、ついで無垢品質安山岩が11点であった。

本地点の台形石器は、素材剥片の特徴とその用い方、調整剥離の種類から6類に分けられる。

1類: 剥片もしくは横長の剥片を用い、打面は側縁に置き、調整加工は通常剥離を施す。14点みられた。770・773・784~787・798・800・827・834~836・845・854が相当する。分布は770・773・845・854の4点を除き環状ブロック群からの出土である。

2類: 剥片もしくは横長の剥片を用い、打面は側縁に置き、調整加工は平坦剥離を施す。23点みられた。772・774・775・778・779・781・782・795~797・801・805・806・805・806・825・831・841・847・848・849・851・853が相当する。

3類: 剥片もしくは横長の剥片を用い、打面は側縁に置き、調整加工は微細剥離を施す。7点みられた。780・809・810・814・826・828・829・846が相当する。

4類: 寸詰まりの縦長剥片を用い、打面を基部側に置き、基部を中心に加工を施す。先端部は開き、台形状を呈す。調整加工は通常剥離を施す。本例は例外的で、846の1点のみであった。同様な素材の用い方をするのは以下の2類に多い。

5類: 寸詰まりの縦長剥片を用い、打面を基部側に置き、基部を中心に加工を施す。先端部は開き、台形状を呈す。調整加工は平坦剥離を施す。23点みられた。789~792・799・802~804・808・811・812・817・818・820・821~824・842・850・852が相当する。

6類: 寸詰まりの縦長剥片を用い、打面を基部側に置き、基部を中心に加工を施す。先端部は開き、台形

状を呈す。調整加工は微細剥離を施す。16点みられた。771・776・788・793・794・807・813・819・830・832・837～840・843・844が相当する。

(3) 貝殻状刃器 (図版241～244・報告番号855～888・写真図版59～60)

貝殻状刃器は35点出土した。出土層位はⅢ層2点、Ⅳ層9点、Ⅴ層全体で24点(うち層序細分ができたものではⅤa層4点、Ⅴb層15点)であった。Ⅴ層のうちでもⅤb層出土のものが多い傾向を示す。出土するブロックはBL3020～3032の第3地点中央のブロック密集部にほとんど限られる。他には隣接するBL3014で2点出土したのみである。

(4) 槍先形尖頭器 (図版244～245・報告番号889～893・写真図版60)

槍先形尖頭器は6点出土した。出土層位はすべてⅢ層であった。出土ブロックも特に集中することがない。本地点では製作を伴うようなブロックは形成されなかったと考えられる。

(5) 角錐状石器

BL3031のⅢ層から黒曜石製の角錐状石器が1点出土したのみである。

(6) 斧形石器 (図版245～252・報告番号894～911・写真図版61～64)

斧形石器は20点出土した。うち1点は粘板岩製の片刃石斧でその特徴から種子梨型石斧と考えられる(897)。出土層位もⅢ層であった。したがってその1点を除いた19点が後期旧石器前半期の斧形石器と認定した。出土層位はⅢ層4点、Ⅳ層5点、Ⅴ層全体で9点(うち層序細分ができたものではⅤa層1点、Ⅴb層1点)であった。Ⅲ・Ⅳ層の出土もあるが、それらは本来Ⅴ層のものが浮き上がったと思われる。BL3020では6点もの斧形石器が集中して出土しているが、他はブロックに1～2点である。

大きさは894～896・901に小形の一群があり、それ以外の通常から大形品と分けられよう。小形の一群については、大形品の再生品という考え方もできるが、894や901にみられる自然面の残存状況から扁平で小形の礫であったことが推察されることから、当初から小形品を製作する意図があったといえよう。

野尻湖全体で斧形石器はほとんどが蛇紋岩製であるが本地点では非蛇紋岩製のものが目立つ。898・905・910・911は砂岩製、903は凝灰岩製、908は凝灰質決頁岩製である。特に、903・905は同一母岩の剥片がみられ、接合もしている。

(7) 彫器 (図版253～255・報告番号912～922・写真図版64～65)

彫器は13点出土した。出土層位はⅢ層8点、Ⅳ層5点とすべてⅢ・Ⅳ層に限られる。第3地点では北半部側の3030番台のブロックから出土する傾向がある。

(8) 挿錐器

挿錐器は2点出土した。BL3031はⅣ層から黒曜石製のものが、BL3032はⅢ層から珪質頁岩製のものがそれぞれ出土した。

(9) 搔器 (図版256～258・報告番号923～933・写真図版65)

搔器は15点出土した。出土層位はⅢ層8点、Ⅳ層2点、Ⅴ層5点であった。石材はⅢ・Ⅳ層が凝灰岩・黒曜石・凝灰質頁岩・無斑晶質安山岩といった多様な石材を用いるのに対し、Ⅴ層では無斑晶質安山岩が主体となっている。石材により搔器には特徴に違いがありそうである。

923・924・927～929は通常の厚さの剥片を用い、通常から微細な剥離で刃部を形成している。無斑晶質安山岩以外の石材を使用している。

926・930・933は無斑晶質安山岩の厚手の剥片を素材としている。925・931・932はⅤ層出土のもので、やや鋸歯状になる強い剥離で部分的かつやや直線的な刃部を形成している。第2地点に特徴的にみられた搔器に類似する。

(10) 掻器状石器 (図版259~260・報告番号934~945・写真図版65~66)

掻器状石器は15点出土した。出土層位はⅢ層1点、Ⅳ層5点、Ⅴ層全体で9点(うち層序細分ができたものではⅤa層1点、Ⅴb層2点)であった。Ⅴ層の出土数が多い。出土するブロックはBL3020~3032の第3地点中央のブロック密集部とその外周部である。石材は、1点だけ無斑品質安山岩を用いているが、他はすべて黒曜石である。

(11) 厚刃掻器 (図版260~261・報告番号946~955・写真図版66)

厚刃掻器は11点出土した。出土層位はⅢ層2点、Ⅳ層3点、Ⅴ層全体で6点(うち層序細分ができたものではⅤa層2点、Ⅴb層4点)であった。Ⅴ層の出土数が多い。出土するブロックはBL3020~3032の第3地点中央のブロック密集部とその外周部である。石材は、1点だけ珪質頁岩を用いているが、他はすべて黒曜石である。

(12) 削器 (図版262~266・報告番号956~969・写真図版66)

削器は59点出土した。出土層位はⅢ層20点、Ⅳ層23点、Ⅴ層全体で13点(うち層序細分ができたものではⅤa層5点、Ⅴb層1点)であった。Ⅲ・Ⅳ層が多い。各ブロックから1~3点出土している。BL3031で11点出土しているが、本ブロックは総点数も多く、特に削器だけを多く出すということではないようだ。石材は、無斑品質安山岩が24点、黒曜石が18点でこの2種の石材が主体をなす。

(13) 楔形石器 (図版266~268・報告番号970~982・写真図版66)

楔形石器は28点出土した。出土層位はⅢ層8点、Ⅳ層8点、Ⅴ層全体で11点であった。第3地点の各ブロックから出土数に偏ることなく(各ブロックとも1~2点)みられる。使用石材の主なもの、黒曜石10点、チャート9点、無斑品質安山岩5点である。

(14) 石刃 (報告番号1099~1105・写真図版82)

石刃は29点出土した。出土層位はⅢ層6点、Ⅳ層13点、Ⅴ層全体で10点であった。Ⅳ層からⅤ層にかけてピークがありそうである。BL3038から8点出土している。Ⅳ・Ⅴ層からの出土である。打面形態が観察されたものは21点あり、調整もしくは複数打面は5点中4点がBL3027・3028・3032・3034のⅢ・Ⅳ層出土石刃にみられ、単剝離打面は15点がそれ以外のブロックで主にⅤ層から出土している傾向がみられる。

(15) 細石刃 (図版268・報告番号983~984・写真図版66)

細石刃として認定したものが2点ある。BL3037・BL3038からの出土で、2点とも黒曜石製である。ただ出土層位はⅤ層である。

(16) 2次加工のある剥片・微細剝離痕のある剥片・折断剥片

2次加工のある剥片は154点、微細剝離痕のある剥片は426点、折断剥片は47点出土した。

2次加工のある剥片は、他の地点と同様に、出土層位、ブロック、石材に際立った偏りはなく、地点の全体的傾向に比例する。

微細剝離痕のある剥片の主な出土層位は、Ⅲ層94点、Ⅳ層113点、Ⅴ層全体で214点(うち層序細分ができたものではⅤa層52点、Ⅴb層2点)で、Ⅴ層に多い傾向がある。石材は黒曜石が363点と、圧倒的に多い。各ブロックから出土しているものの、やはりBL3020~3032の地点中央ブロック密集部より数多く出土している。

折断剥片の出土層位は、Ⅲ層6点、Ⅳ層11点、Ⅴ層全体で30点(うち層序細分ができたものではⅤa層5点、Ⅴb層8点)で、微細剝離痕のある剥片と同様、Ⅴ層に多い傾向がある。石材も黒曜石が多い。

(17) 砥石 (図版269~271・報告番号985~989・写真図版67)

砥石は組成表上では10点出土しているが、全体形状が把握できるのは5点で、それらを図示した。図示できなかった5点はⅡ・Ⅲ層の出土で、小破片のため特徴がとらえづかった。赤化しているものあり、

礫群等に転用されていることも考えられる資料である。これらの状況から図示できなかった5点は縄文時代以降のものを含む可能性があることも指摘しておく。

985は、BL3009出土、重量9100gの大形砥石である。研磨面は表面の1面だけである。縦断面形は中央部の方がややくぼむ形態をもつ。986・987・989は上下縁辺部の方が減る形態とは対照的である。一見すると石皿と形態が似ている。また研磨面は部分的ではあるが、赤褐色に変色している箇所が観察される。

986は凝灰岩製で、他の砥石と石材が違う。BL3011のかなり傾斜のある面で、Ⅲ層から出土している。破片が周岡から出土しており、接合したが、完全な形にまでは戻らなかった。他の砥石とくらべて出土層位も浅いことから旧石器時代終末期以降の所産である可能性もある。

987は表裏両面に研磨面をもつ。磨り減り方が著しい。988はあまり磨り減っていないが研磨範囲は明瞭に区別できる。989もまだあまり磨り減っていないが、988と比べ局所的に磨り減っており、これらの違いは対象物の違いを反映しているものかもしれない。

⑩ 砥石 (図版271～273・報告番号990～999・写真図版68)

砥石は50点出土した。主な出土層位は、Ⅲ層8点、Ⅳ層13点、Ⅴ層全体で27点(うち層序細分ができたものではⅤa層5点、Ⅴb層8点、Ⅴc層1点)であった。出土数が多かったブロックはBL3031で8点、BL3032で4点と隣り合う2つのブロックでまとまった出土をみた。

⑪ 台石

台石はBL3023より1点出土した。

⑫ 削片

削片と認定したものは4点出土した。

⑬ 剥片・砕片

剥片は5674点、砕片は1658点出土した。

⑭ 石核 (図版273～294・報告番号1000～1098・写真図版69～82)

石核は343点出土した。主な出土層位は、Ⅲ層71点、Ⅳ層112点、Ⅴ層全体で156点(うち層序細分ができたものではⅤa層16点、Ⅴb層27点)、Ⅵ層2点であった。主な石材は多い順に、無斑晶質安山岩100点、黒曜石93点、チャート64点、凝灰質頁岩33点、凝灰岩30点であった。出土数の多かったブロックは、第3地点中央ブロック密集部のBL3020で51点、BL3031で36点と非常に多い。石材はBL3020ではチャート、凝灰質頁岩が13点、無斑晶質安山岩が10点で黒曜石が7点であまり多くない。BL3031は無斑晶質安山岩21点、黒曜石12点であった。地点北隅のブロックでも多数出土したブロックがある。BL3038で29点、BL3037で26点である。

⑮ 原石

原石は22点である。

4 接合資料 (図版295～305)

第3地点の接合資料は183例525点あった。図版295の全石材分布図をみるとBL3012～3032の地点中央部に密集するブロック群(環状ブロック群)内での接合が多い。石材別には黒曜石と頁岩・凝灰岩系の石材が離れたブロック間で顕著に接合している。

Ch-113は、剥片と石核の接合例。残核の形状はチョッピング・トゥール状であるが、接合状態からは、交互剝離ではなく、一定程度打面を固定して横方向に並列剝離(竹岡1989)が行われている。

Ob-26・15・34・150・151・45・56・152は環状ブロック群を中心とした接合例。一定程度打面を固定して並列剝離を行い、縦長もしくは寸詰まりの縦長剥片をとっている。

SS-50は、剥片と石核の接合例。円礫を素材として、打面を作出、打面は固定され縦長の剥片を剥いている。打面再生が行われている。

TS-14は、縦長剥片の接合例。打面調整はみられない。

第5節 第4地点

1 第4地点の概要

(1) 地形と遺物の分布

第2地点北端から比高10mほどの傾斜地をへて、北向きの平坦面が本地点である。高速道本線部分に接しバイパス用地が続き、発掘調査も同時に行われた。南北約160mにわたって、連続とい遺物が確認された。検出された遺構は、ブロックが100カ所、礫群が50基みられた。他に本地点では、炭化物集中が約10カ所検出された。

第4地点が緩やかな北斜面であることは先にも記述したが、北端部分は急激に傾斜して低地部にいたる。その急斜面を下ったところに残されたブロックがBL4005とBL4100である。他のブロック台地上である。それらは座標90880付近を境に北半部と南半部のブロック群に大きく分けられる。北群と南群(BL4026~4030以南)ということで比較してみる。遺物の密集度では北群は全体的に希薄なブロックが多かった。接合関係は、北群はほとんどブロック間の接合資料の共有がないのに対し、南群は接合関係が著しかった。礫群との重複では、北群が重複することが多かった。

(2) 遺物の出土層位 (第32表)

遺物はI・II層~Vc層まで出土している。全体的な石器の出土数は、III層が1927点、IV層が3349点、Va層が3151点、Vb層が3335点、Vc層が372点、V層一括が1041点と、IV~V層の各層ともに3000点以上出土している。この第4地点は南に控える頂上部(第2地点)からの土の流入が多かったことが推定され、各土層ともに堆積は厚かった。Vc層の遺物数が多いのが本地点で目立つところであるが、BL4016にまとまっている。

(3) 器種組成 (第33・34表)

石器13206点、礫3107点が出土した。

ナイフ形石器74点、台形石器58点、貝殻状刃器30点、槍先形尖頭器9点、斧形石器22点、彫器9点、槌錐器3点、搔器52点、搔器状石器30点、厚刃搔器6点、削器123点、鋸歯縁状削器5点、楔形石器135点、石刃61点、2次加工のある剥片325点、微細剥離痕のある剥片270点、折断剥片75点、砥石13点、敲石104点、磨石4点、凹石1点、台石14点、礫器1点、ナイフ形石器破片1点、斧形石器破片1点、斧形石器刃部破片2点、搔器破片1点、削器破片1点、折断剥片破片1点、楔形石器破片1点、砥石破片4点、剥片7515点、削片7点、砕片3568点、石核635点、石核破片5点、原石40点である。

(4) 石材組成 (第35~46表)

13200点余の遺物総重量は261kg以上になる。その主要な石材は、無珪晶質安山岩が6853点で96.4kgであった。次いで多かったのは、黒曜石が2682点で13kg、チャートが1777点で23.43kg。凝灰質頁岩、頁岩は点数的には、それぞれ372点と342点で前記の石材に比べ少ないが、総重量は10kgを越えている。これは第2地点と同じ傾向にある。

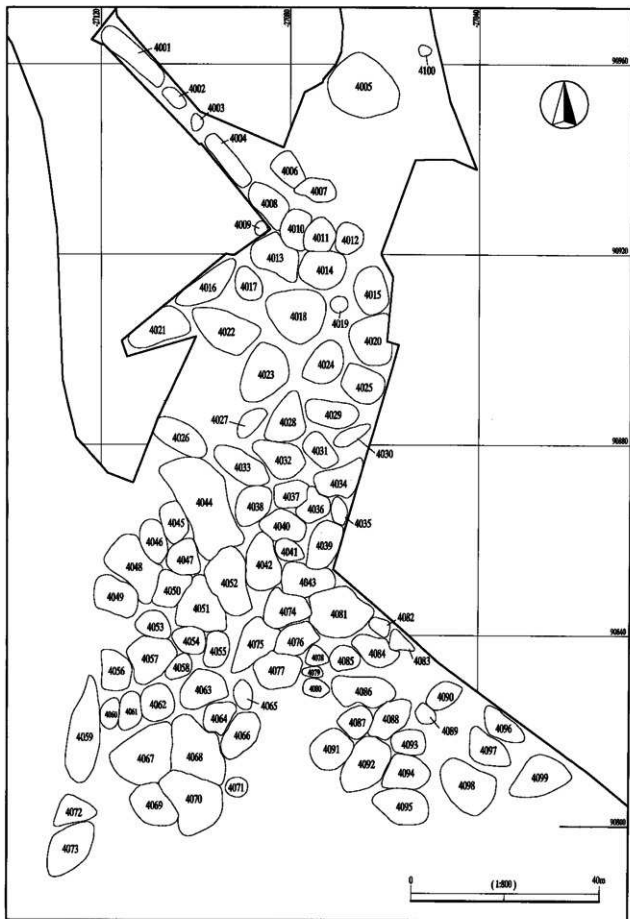
分布上の偏りは、無珪晶質安山岩にはあまりみられない。黒曜石は地点の南群のさらに東寄りに、やや偏るのに対し、チャート、頁岩・凝灰岩系の石材は西寄りに多い。



第54図 第4地点 石器全点



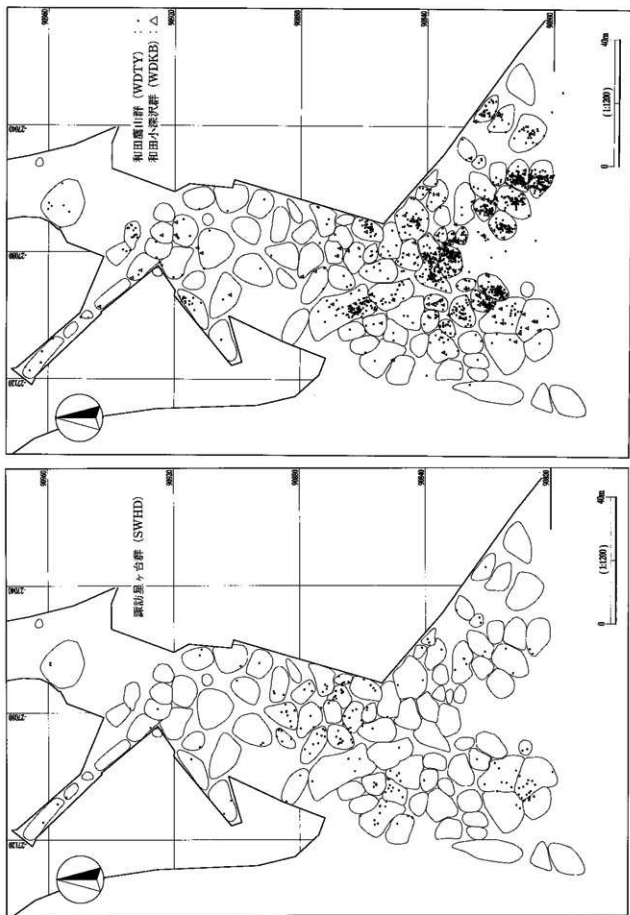
第55圖 第4地点石器全点 (BL 範囲入り)



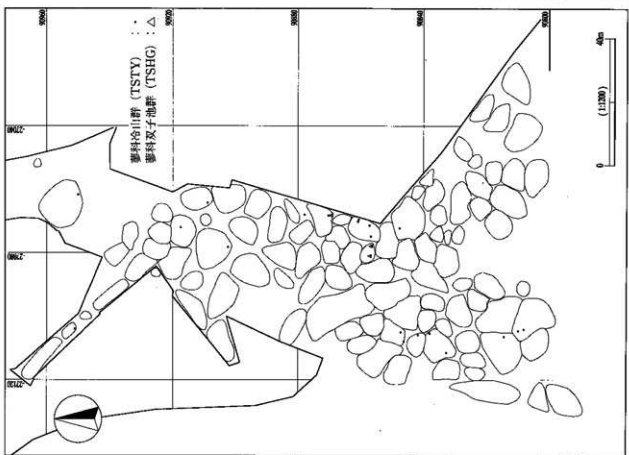
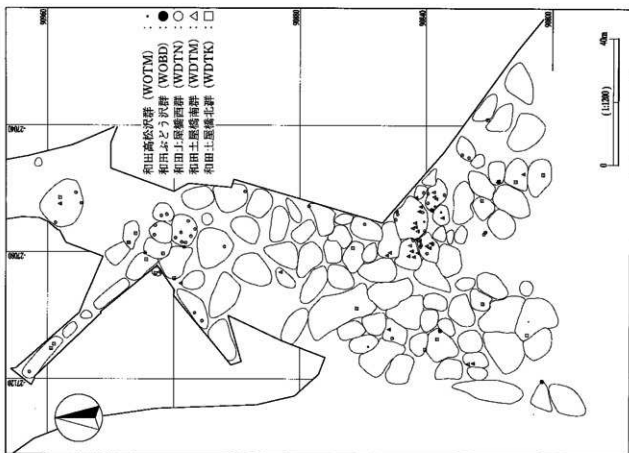
第56図 第4地点 ブロック配置図



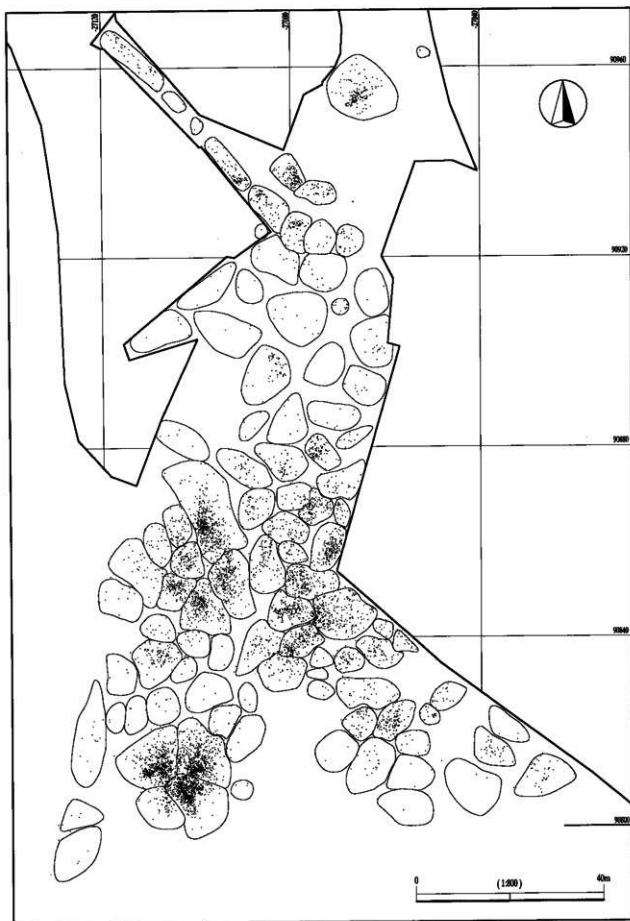
第57図 第4地点 石材別分布図1 (黒曜石全点)



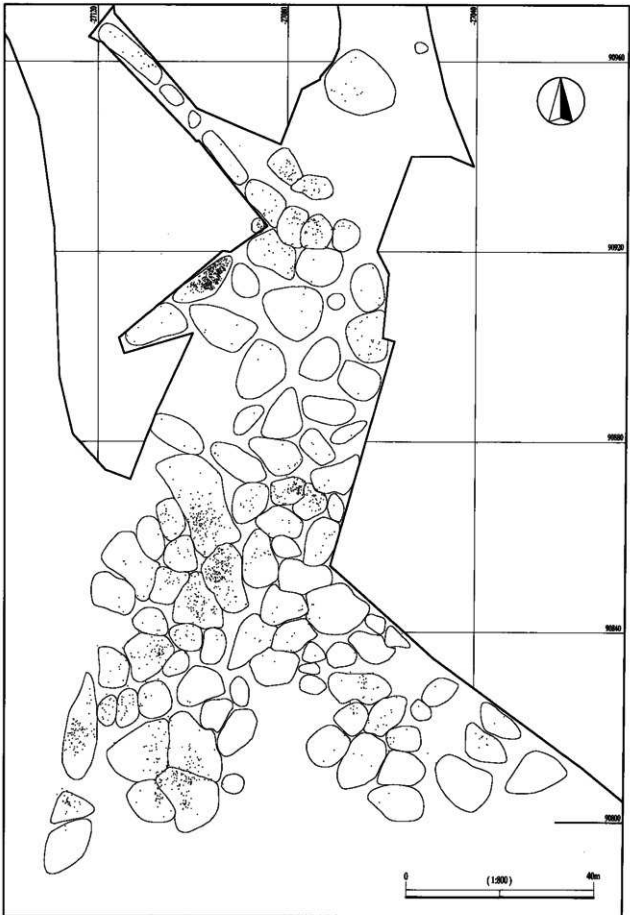
第58図 第4地点 石材別分布図2 (黒曜石原産地別)



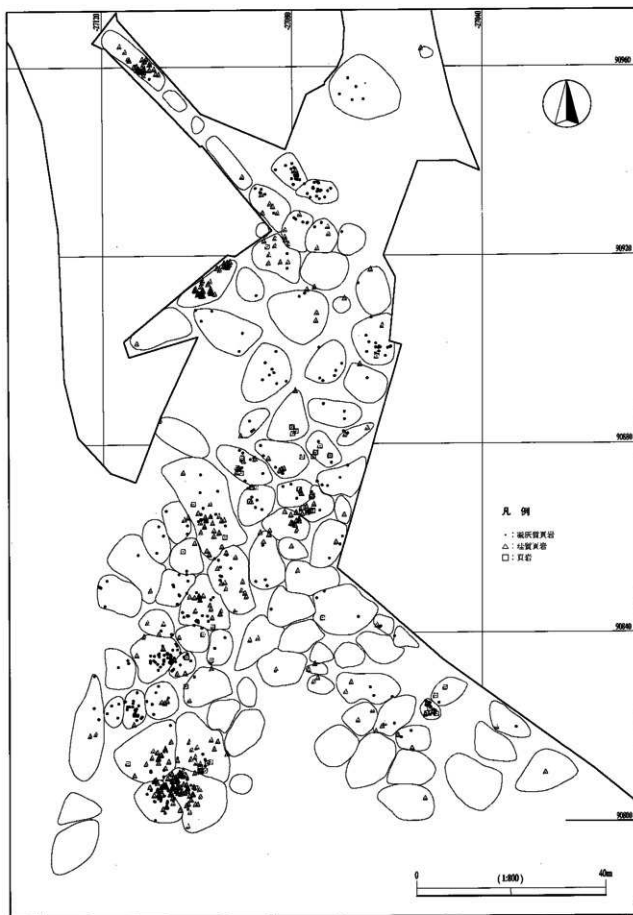
第59図 第4地点 石材別分布図3 (黒曜石原産地別2)



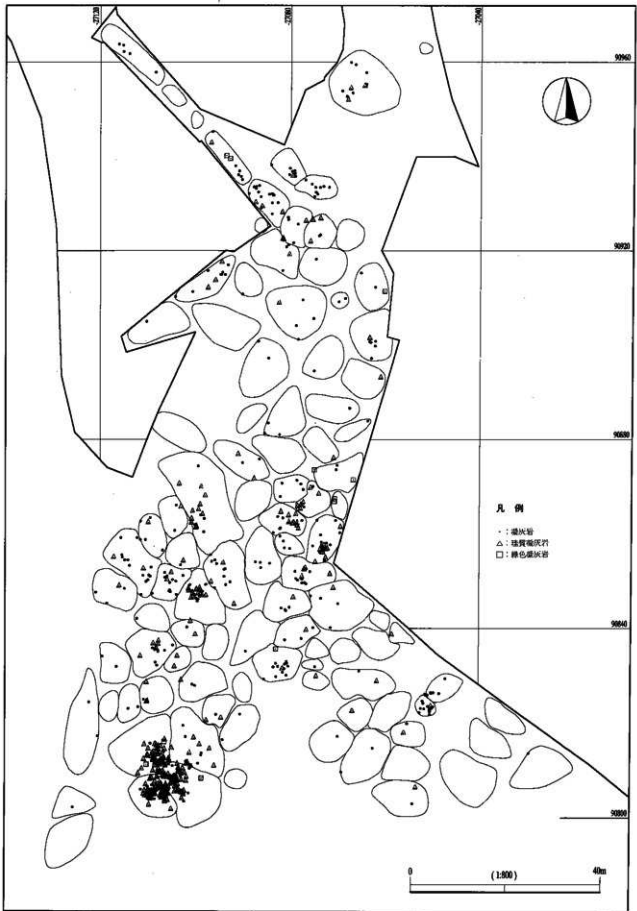
第60図 第4地点 石材別分布図4 (無斑晶質安山岩)



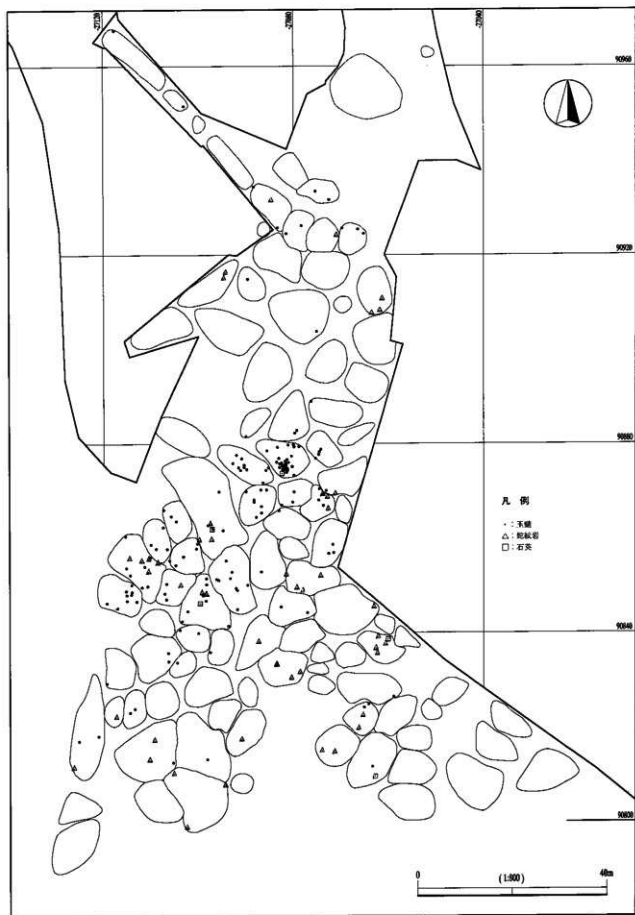
第61図 第4地点 石材別分布図5 (チャート)



第62図 第4地点 石材別分布図6 (頁岩系)



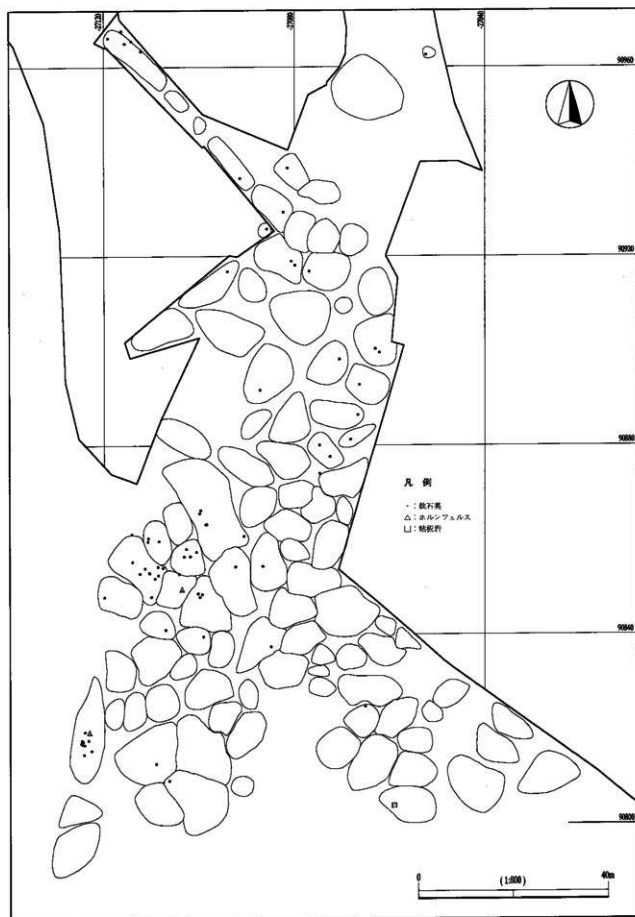
第63圖 第4地点 石材別分布圖7 (凝灰岩系)



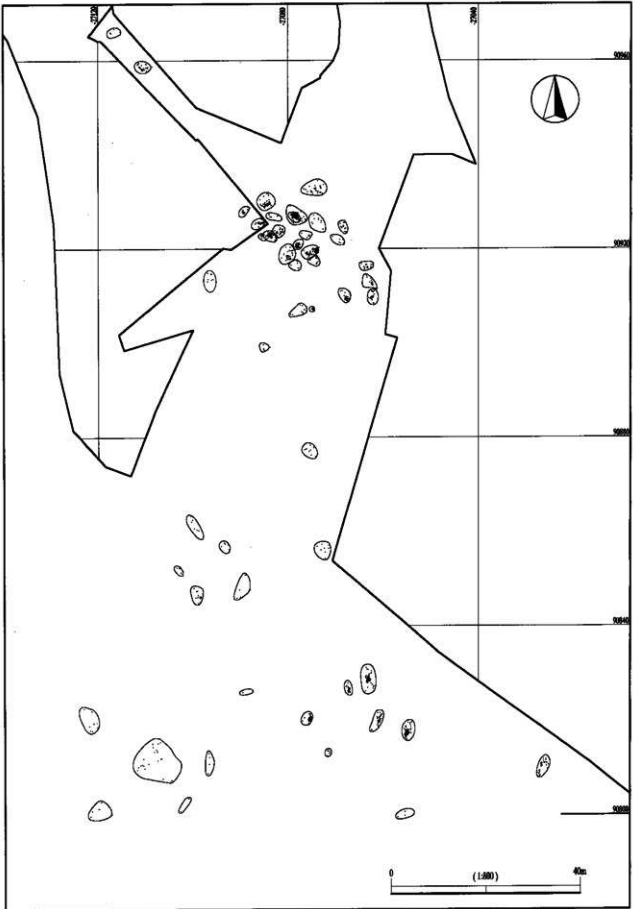
第64図 第4地点 石材別分布図8 (その他石材1)



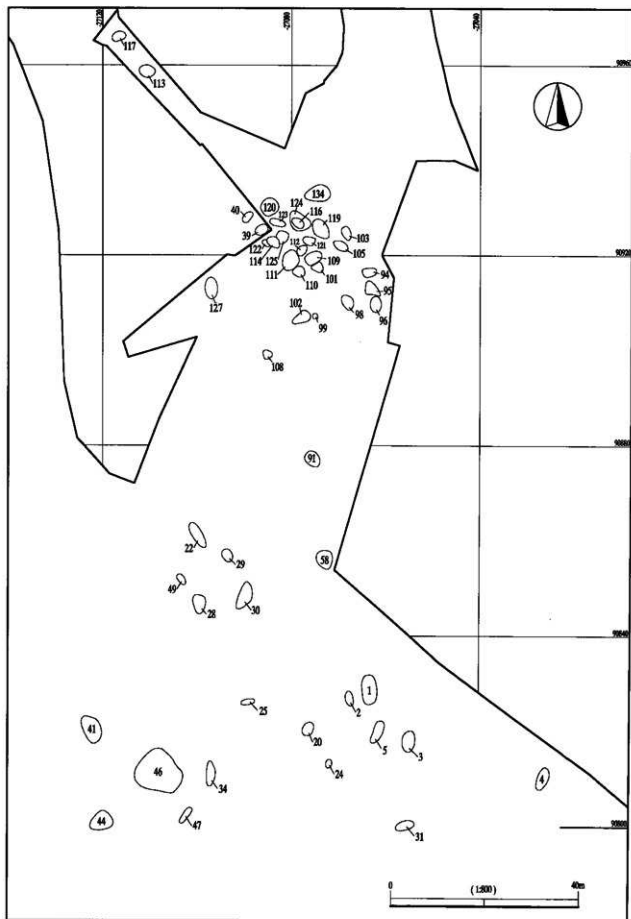
第65図 第4地点 石材別分布図9（その他石材2）



第66図 第4地点 石材別分布図10 (その他石材3)



第67図 第4地点 礁群 (礁群範圍入り)



第68図 第4地点 礫群配置図

2 遺構

(1) ブロック

第4001号ブロック (図版310)

本ブロックはVI CD20グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に16.8×4.8mの平面的広がりをもつが、調査範囲が限定されているため、本来的なブロックの規模は不明である。第4002号ブロックが近接する。遺物は、石器が122点、礫が21点で総数143点となる。出土層位はI・II層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、台形石器1点、彫器4点、搔器状石器1点、削器2点、楔形石器6点、石刃7点、2次加工のある剥片3点、微細剝離痕のある剥片2点、敲石2点、剥片61点、削片1点、砕片23点、石核6点である。石材は、無斑晶質安山岩、珪質頁岩、チャート、黒曜石の順が多い。

IV層主体の第113号礫群、Vb層主体の第117号礫群と重複する。第4008号ブロックと接合資料を共有している。

第4002号ブロック (図版310)

本ブロックはVI HI05グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に5.6×2.4mの平面的広がりをもつが、調査範囲が限定されているため、本来的なブロックの規模は不明である。第4001号ブロックが近接する。遺物は、石器が6点、礫が3点で総数9点となる。出土層位はI・II層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、楔形石器1点、敲石1点、剥片1点、砕片3点である。石材は、黒曜石が多い。

第4003号ブロック (図版310)

本ブロックはVI HJ07グリッドを中心に、直径約3mの円形の平面的広がりをもつ。遺物密度は希薄である。遺物は、石器が5点、礫が1点で総数6点となる。出土層位はI・II層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器1点、剥片3点である。石材は、無斑晶質安山岩、黒曜石である。

第4004号ブロック (図版311)

本ブロックはVI HN11グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に13.6×4.4mの平面的広がりをもつが、調査範囲が限定されているため、本来的なブロックの規模は不明である。第4008号ブロックが近接する。遺物は、石器が92点、礫が9点で総数101点となる。出土層位はIII層～Vc層で、III層が主体である。器種組成は、台形石器1点、削器1点、2次加工のある剥片1点、敲石1点、剥片64点、砕片15点、石核9点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

本ブロックでは、無斑晶質安山岩製の石核が集中して出土している。

第4005号ブロック (図版311)

本ブロックは第4地点の主体をなすテラスより3mほど一段低い北向きのテラスに位置する。VI IH02グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に15.2×12.8mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が190点、礫が8点で総数198点となる。出土層位はI・II層～V層で、特にピークは認められず、III・IV・V層ともに50点前後の出土量である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、搔器状石器1点、削器2点、楔形石器1点、2次加工のある剥片6点、微細剝離痕のある剥片5点、折断剥片1点、剥片122点、砕片41点、石核10点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4006号ブロック (図版312)

本ブロックはVI IA12グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に8×5.6mの平面的広がりをもつ。第4007号ブロックが接する。遺物は、石器が188点、礫が58点で総数246点となる。出土層位はIII層～IV層で、IV層が主体である。器種組成は、削器5点、楔形石器4点、2次加工のある剥片11点、微細剝離痕のある

剥片11点、砥石3点、敲石2点、台石1点、礪器1点、剥片115点、碎片7点、石核26点、原石2点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

本ブロックでは、無斑品質安山岩製の石核が集中して出土している。

第4007号ブロック (図版312)

本ブロックはVI ID14グリッドを中心に、東西方向を長軸に8.8×4.8mの平面的広がりをもつ。第4006号ブロックが接する。遺物は、石器が118点、礪が7点で総数125点となる。出土層位はⅢ層～Ⅳ層で、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、削器1点、2次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片3点、敲石2点、剥片83点、碎片10点、石核7点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

Ⅲ・Ⅳ層主体の第134号礪群と重複する。第4010号ブロックと接合資料を共有している。

第4008号ブロック (図版313)

本ブロックはVI HR15グリッドを中心に、北西―南東方向を長軸に11.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第4010号ブロックが接し、第4004・4009・4013号ブロックが近接する。遺物は、石器が139点、礪が15点で総数154点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴc層で、Ⅴa層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、貝殻状刃器1点、斧形石器1点、搔器1点、削器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片3点、敲石2点、剥片82点、削片1点、碎片22点、石核16点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

Ⅳ層主体の第120号礪群、Ⅴb層主体の第123号礪群と重複する。第4001・4009・4010号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックでは、無斑品質安山岩製の石核が集中して出土している。

第4009号ブロック (図版313)

本ブロックはVI HR18グリッドを中心に、南北方向を長軸に3.2×3.2mの平面的広がりをもつが、調査範囲が限定されているため、本来的なブロックの規模は不明である。第4008・4013号ブロックが近接する。遺物は、石器総数14点である。出土層位はⅢ層～Ⅴb層で、Ⅴa層が主体である。器種組成は、剥片10点、碎片4点である。石材は、チャートが多い。

Ⅳ層主体の第39号礪群と重複する。第4008号ブロックと接合資料を共有している。

第4010号ブロック (図版314)

本ブロックはVIIA18グリッドを中心に、南北方向を長軸に8.8×6.4mの平面的広がりをもつ。第4008・4011・4013号ブロックが接する。遺物は、石器が160点、礪が4点で総数174点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅴc層で、Ⅴb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片95点、碎片48点、石核7点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

Ⅳ層主体の第112・116号礪群、Ⅴb層主体の第124・125号礪群と重複する。第4007・4008号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックでは、砂岩の接合資料が一括して出土している。

第4011号ブロック (図版314)

本ブロックはVIC18グリッドを中心に、直径7.2mの円形の平面的広がりをもつ。第4010・4012・4013・4014号ブロックが接する。遺物は、石器が67点、礪が26点で総数93点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴc層で、Ⅴb層が主体である。器種組成は、斧形石器1点、削器1点、楔形石器4点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片5点、敲石2点、剥片29点、碎片17点、石核4点、原石1点である。石材は、チャ

トが主体である。

V b層主体の第119・121号礫群と重複する。

第4012号ブロック (図版315)

本ブロックはVI IG19グリッドを中心に、南北方向を長軸に6.4×5.6mの平面的広がりをもつ。第4011・4014号ブロックが接する。遺物は、石器が40点、礫が6点で総数46点となる。出土層位はIII層～V a層で、IV層が主体である。器種組成は、楔形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片3点、剥片24点、砕片5点、石核6点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

V a層主体の第103号礫群、V層主体の第105号礫群と重複する。

第4013号ブロック (図版315)

本ブロックはVI MS01グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に12×9.6mの平面的広がりをもつ。分布は比較的希薄である。第4010・4014号ブロックが接し、第4008・4009号ブロックが近接する。遺物は、石器が58点、礫が22点で総数80点となる。出土層位はI・II層～V b層で、遺物は各層に分散している。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器1点、槍先形尖頭器2点、掻器3点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片5点、微細剝離痕のある剥片2点、砥石1点、敲石2点、剥片22点、削片1点、砕片11点、石核4点である。製品の比率が3割を超え高い。石材は、チャート、無斑品質安山岩が多い。

IV層主体の第111号礫群、V a層主体の第114・122号礫群、V b層主体の第110・125号礫群と重複する。

本ブロックは、礫群の重複関係や器種組成から複数の石器文化が重複していると思われる。

第4014号ブロック (図版316)

本ブロックはVI ND02グリッドを中心に、東西9.6×南北8mの平面的広がりをもつ。第4011・4012・4013号ブロックが接し、第4018号ブロックが近接する。遺物は、石器が38点、礫が28点で総数66点となる。出土層位はIII層～V c層で、IV～V b層にかけて多くなる。器種組成は、ナイフ形石器1点、掻器2点、削器1点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片2点、敲石1点、ナイフ形石器破片1点、剥片22点、砕片4点、石核2点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が主体である。

IV層主体の第101・109号礫群、V b層主体の第110号礫群と重複する。

第4015号ブロック (図版316)

本ブロックはVI NJ04グリッドを中心に、南北方向を長軸に10.4×7.2mの平面的広がりをもつ。遺物分布は希薄である。第4020号ブロックが接する。遺物は、石器が19点、礫が7点で総数26点となる。出土層位はI・II層～V b層で、IV層が主体である。器種組成は、掻器1点、削器1点、微細剝離痕のある剥片1点、剥片12点、砕片2点、石核2点である。石材は、黒曜石、チャート、無斑品質安山岩他、多種である。

III・IV層主体の第94・95号礫群、IV層主体の第96号礫群と重複する。

第4018号ブロック (図版317)

本ブロックはVI ML03グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に15.2×5.6mの平面的広がりをもつ。調査範囲の制限からブロックの半分しか調査できなかったとおもわれる。第4017・4021・4022号ブロックが近接するが、その境界は明瞭である。遺物は、石器が403点、礫が12点で総数415点となる。出土層位はI・II層～V c層で、V c層が主体である。器種組成は、台形石器1点、斧形石器1点、掻器状石器2点、楔形石器2点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片2点、敲石3点、剥片186点、砕片196点、石核7点、原石1点である。石材は、チャートが主体である。

第4020号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックは、特異な分布状況を示している。通常ブロックの縁辺部は徐々に遺物密度が希薄になるが、

本例は急激に遺物の分布がなくなる。また垂直分布もVb～Vc層にかけて集中し、あまり遺物が上下移動していないし、遺物の出土しなくなるレベルも一定する。さらにブロックのほぼ中央にあたる調査区の壁面Vb層上面で赤変した土壌を確認した。ただ残念なことに平面的な広がり調査範囲外にのびるため、ブロックとともにその規模・平面形状はとらえられなかった。しかしながら、何らかの掘り込みがあったことを想定させられる遺構である。

Vc層主体の第127号礫群と重複する。

第4017号ブロック (図版318)

本ブロックはVI MP04グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に7.2×5.6mの平面的広がりをもつ。第4016号ブロックが近接する。遺物は、石器が8点、礫が4点で総数12点となる。出土層位はⅢ層～Vb層で、Vb層が主体である。器種組成は、削器1点、2次加工のある剥片1点、剥片5点、石核1点である。石材は、無斑晶質安山岩、黒曜石が多い。

第4018号ブロック (図版318)

本ブロックはVI NA07グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に12.8×12mの平面的広がりをもつ。第4014・4019号ブロックが近接する。遺物は、石器が33点、礫が16点で総数49点となる。出土層位はⅢ層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、楔形石器1点、石刃2点、2次加工のある剥片1点、微細刺離痕のある剥片1点、敲石1点、剥片17点、削片1点、砕片6点、石核2点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩、黒曜石、チャートが多い。

Va層主体の第99・102号礫群と重複する。

第4019号ブロック (図版318)

本ブロックはVI NE05グリッドを中心に、東西方向を長軸に4×3.2mの平面的広がりをもつ。第4018号ブロックが近接する。遺物は、石器が16点、礫が6点で総数22点となる。出土層位はIV層～Vb層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、剥片12点、石核3点である。石材は、無斑晶質安山岩、凝灰岩、珪質頁岩の順である。

IV層主体の第98号礫群と重複する。

第4020号ブロック (図版319)

本ブロックはVI NI10グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に11.2×9.6mの平面的広がりをもつ。第4015号ブロックが接し、第4025号ブロックが近接する。遺物は、石器が70点、礫が6点で総数76点となる。出土層位はⅢ層～Vb層で、IV層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器1点、削器3点、楔形石器2点、2次加工のある剥片4点、微細刺離痕のある剥片1点、剥片39点、砕片12点、石核6点、原石1点である。石材は、チャート、無斑晶質安山岩、凝灰質頁岩が多い。

第4016号ブロックと接合資料を共有している。

第4021号ブロック (図版319)

本ブロックはVI MF08グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に13.6×7.2mの平面的広がりをもつが、調査範囲が限定されているため、本来的なブロックの規模は不明である。第4016号ブロックが近接する。遺物は、石器総数16点である。出土層位はⅢ層～Va層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、剥片12点、砕片1点、石核2点である。石材は、チャート、無斑晶質安山岩、黒曜石が多い。

第4022号ブロック (図版320)

本ブロックはVI MN08グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に15.2×8mの平面的広がりをもつ。遺物の分布は希薄である。第4016号ブロックが近接する。遺物は、石器が16点、礫が21点で総数37点とな

る。出土層位はⅢ層～V b層で、各層に分散している。器種組成は、槍先形尖頭器1点、搔器状石器1点、削器1点、石刃1点、微細刺離痕のある剥片1点、剥片6点、碎片3点、石核2点である。石材は、凝灰質頁岩、無斑品質安山岩、チャートを使用している。

第4023号ブロック (図版321)

本ブロックはVI MR13グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に12.8×9.6mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が76点、礫が22点で総数98点となる。出土層位はI・II層～V c層で、V a層が多いが、上下の層にもかなり分散している。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、槍先形尖頭器1点、搔器4点、削器2点、石刃2点、2次加工のある剥片5点、微細刺離痕のある剥片2点、折断剥片1点、剥片38点、碎片16点、石核2点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

Ⅲ下層主体の第108号礫群と重複する。

本ブロックは、出土層位、器種組成から、複数の石器文化が重複している可能性が高い。

第4024号ブロック (図版322)

本ブロックはVI ND11グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に9.6×7.2mの平面的広がりをもつ。遺物分布は希薄である。第4025号ブロックが近接する。遺物は、石器が11点、礫が6点で総数17点となる。出土層位はIV層～V b層で、V a・V b層が主体である。器種組成は、台形石器1点、削器1点、石刃1点、砥石1点、剥片7点である。石材は、凝灰質頁岩が多い。

第4025号ブロック (図版322)

本ブロックはVI NH14グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に9.6×8mの平面的広がりをもつ。遺物分布は比較的希薄である。第4020・4024号ブロックが近接する。遺物は、石器が20点、礫が5点で総数25点となる。出土層位はⅢ層～V a層で、V a層が主体である。器種組成は、抹鍬器1点、搔器1点、石刃1点、2次加工のある剥片2点、砥石1点、剥片13点、石核1点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第4039・4042号ブロックと接合資料を共有している。

第4026号ブロック (図版323)

本ブロックはVI MH19グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に9.6×5.6mの平面的広がりをもつ。遺物分布は希薄である。第4044号ブロックが接する。遺物は、石器が11点、礫が3点で総数14点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細刺離痕のある剥片2点、剥片6点、石核1点である。石材は、無斑品質安山岩が多い。

第4027号ブロック (図版323)

本ブロックはVI MQ18グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に8×4mの平面的広がりをもつ。遺物分布は希薄である。第4028号ブロックが近接する。遺物は、石器が22点、礫が12点で総数34点となる。出土層位はI・II層～V b層で、V b層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、削器2点、楔形石器1点、石刃2点、砥石2点、剥片10点、碎片1点、石核2点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が多い。

第4028号ブロック (図版323)

本ブロックはVI MT18グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に12×8mの平面的広がりをもつ。遺物分布は希薄である。第4032号ブロックが接し、第4027・4029・4031号ブロックが近接する。遺物は、石器が30点、礫が11点で総数41点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、台形石器2点、2次加工のある剥片6点、微細刺離痕のある剥片5点、剥片10点、碎片3点、石核4点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が多い。

第2地点の第2005・2007号ブロックと接合資料を共有している。

第4029号ブロック (図版324)

本ブロックはVI NE17グリッドを中心に、東西方向を長軸に12×5.6mの平面的広がりをもつ。遺物分布は希薄である。第4028・4030号ブロックが近接する。遺物は、石器が18点、礫が4点で総数22点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V b層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、剥片14点、碎片2点である。石材は、無斑品質安山岩が多い。

第4030号ブロック (図版324)

本ブロックはVI NG20グリッドを中心に、北東-南西方向を長軸に8.8×3.2mの平面的広がりをもつ。遺物分布は希薄である。第4029・4031号ブロックが近接する。遺物は、石器が18点、礫が4点で総数22点となる。出土層位はⅢ層～V c層で、V b層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、2次加工のある剥片1点、折断剥片1点、敲石1点、剥片8点、碎片2点、石核2点である。石材は、無斑品質安山岩が多い。

第4031号ブロック (図版324)

本ブロックはVI SD01グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸に8×4.8mの平面的広がりをもつ。第4028・4030・4032・4034号ブロックが近接する。遺物は、石器が130点、礫が3点で総数133点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V b層が主体である。器種組成は、削器1点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片66点、碎片40点、石核12点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越する。

V b層主体の第91号礫群と重複する。第4032・4034・4036・4037号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックでは、無斑品質安山岩製の石核が集中して出土している。

第4032号ブロック (図版325)

本ブロックはVI RS02グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸に12×8mの平面的広がりをもつ。第4028号ブロックが接し、第4031・4033・4037号ブロックが近接する。遺物は、石器が108点、礫が21点で総数129点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、台形石器1点、斧形石器1点、削器2点、楔形石器11点、石刃1点、2次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片62点、碎片16点、石核5点、原石1点である。楔形石器が多いのが特徴的である。石材は、無斑品質安山岩、玉髓が主体である。

第4031・4036号ブロックと接合資料を共有している他に、第2地点の第2040・2075号ブロックとも接合資料を共有している。

第4033号ブロック (図版326)

本ブロックはVI RP03グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸に12.8×6.4mの平面的広がりをもつ。第4038号ブロックが接し、第4032号ブロックが近接する。遺物は、石器が89点、礫が22点で総数111点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、台形石器1点、搔器1点、厚刃搔器1点、削器1点、楔形石器9点、石刃1点、2次加工のある剥片3点、折断剥片1点、敲石2点、剥片43点、碎片14点、石核9点である。楔形石器が多いのが特徴的である。石材は、無斑品質安山岩、黒曜石、玉髓が多い。

第4037・4038号ブロックと接合資料を共有している他に、第2地点の第2020号ブロックとも接合資料を共有している。

第4034号ブロック (図版327)

本ブロックはVI SE04グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に12×7.2mの平面的広がりをもつ。第4036号ブロックが接し、第4031・4035号ブロックが近接する。遺物は、石器が66点、礫が9点で総数75点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、Ⅳ層が主体である。器種組成は、搔器1点、削器2点、楔形石器1点、石刃5点、2次加工のある剥片4点、微細剝離痕のある剥片6点、折断剥片1点、剥片30点、碎片12点、石核4点である。石材は、無斑品質安山岩、黒曜石が多い。

第4031・4035・4036・4037・4040号ブロックと接合資料を共有している。

第4035号ブロック (図版327)

本ブロックはVI SF07グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に6.4×4mの平面的広がりをもつ。第4036・4039号ブロックが接し、第4034号ブロックが近接する。遺物は、石器が42点、礫が18点で総数60点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V b層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、斧形石器2点、揉鉢器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片1点、敲石2点、剥片19点、碎片9点、石核5点である。石材は、無斑品質安山岩、黒曜石、緑色凝灰岩が多い。

第4034号ブロックと接合資料を共有している。

第4036号ブロック (図版328)

本ブロックはVI SC07グリッドを中心に、直径約7.2mの円形の平面的広がりをもつ。第4034・4035・4037・4040号ブロックが接し、第4039号ブロックが近接する。遺物は、石器が206点、礫が21点で総数227点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、搔器2点、搔器状石器1点、削器3点、楔形石器3点、石刃3点、2次加工のある剥片6点、微細剝離痕のある剥片5点、斧形石器刃部破片1点、剥片103点、碎片59点、石核18点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第4031・4032・4034・4037・4040号ブロックと接合資料を共有している。

第4037号ブロック (図版328)

本ブロックはVI SA06グリッドを中心に、東西7.2×南北5.6mの平面的広がりをもつ。第4036・4040号ブロックが接し、第4032・4038号ブロックが近接する。遺物は、石器が120点、礫が5点で総数125点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、搔器1点、搔器状石器1点、削器2点、石刃3点、2次加工のある剥片4点、微細剝離痕のある剥片1点、敲石1点、剥片60点、碎片33点、石核14点である。石材は、チャートが主体である。

第4031・4033・4034・4036・4040号ブロックと接合資料を共有している。

第4038号ブロック (図版329)

本ブロックはVI RQ07グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に9.6×8mの平面的広がりをもつ。第4033・4040号ブロックが接し、第4037・4044号ブロックが近接する。遺物は、石器が110点、礫が16点で総数126点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、台形石器1点、楔形石器10点、2次加工のある剥片4点、微細剝離痕のある剥片4点、剥片60点、碎片28点、石核3点である。楔形石器が多いのが特徴的である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第4033号ブロックと接合資料を共有している。

第4039号ブロック (図版329)

本ブロックはVI SD11グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に11.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第4035・4043号ブロックが接し、第4036・4041号ブロックが近接する。遺物は、石器が292点、礫が12点で総数304点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～V c層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器2点、貝殻状刃器2点、削器4点、楔形石器1点、2次加工のある剥片3点、微細剝離痕の

ある剥片5点、折断剥片2点、敲石3点、凹石1点、剥片148点、碎片84点、石核35点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

V b層主体の第58号礫群と重複する。第4025・4042・4074・4076・4081号ブロックと接合資料を共有している。

本ブロックでは、無斑晶質安山岩製の石核が集中して出土している。

第4040号ブロック (図版330)

本ブロックはVI RT09グリッドを中心に、東西方向を長軸に10.4×7.2mの平面的広がりをもつ。第4036・4037・4038・4041・4042号ブロックが接する。遺物は、石器が133点、礫が12点で総数145点となる。出土層位はⅢ層～V c層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、貝殻状刃器1点、削器2点、楔形石器1点、2次加工のある剥片3点、微細刺離痕のある剥片3点、敲石2点、剥片66点、碎片37点、石核16点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4034・4036・4037・4042・4044・4052・4063・4067・4068・4070・4087号ブロックと接合資料を共有している他に、第2地点の第2016号ブロックとも接合資料を共有している。

第4041号ブロック (図版330)

本ブロックはVI SA12グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸に6.4×4.8mの平面的広がりをもつ。第4040・4042・4043号ブロックが接し、第4039号ブロックが近接する。遺物は、石器が49点、礫が8点で総数57点となる。出土層位はⅢ層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、削器1点、鋸歯縁状削器1点、楔形石器2点、2次加工のある剥片1点、微細刺離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片30点、碎片8点、石核1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4042号ブロック (図版330)

本ブロックはVI RQ13グリッドを中心に、南北方向を長軸に12.8×8mの平面的広がりをもつ。第4040・4041・4043・4052号ブロックが接し、第4074号ブロックが近接する。遺物は、石器が131点、礫が16点で総数147点となる。出土層位はⅢ層～V c層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器1点、削器2点、楔形石器1点、石刃3点、2次加工のある剥片4点、微細刺離痕のある剥片3点、剥片91点、碎片17点、石核7点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4025・4039・4040・4051・4056・4057・4058・4074・4076・4081号ブロックと接合資料を共有している他に、第2地点の第2016・2023号ブロックとも接合資料を共有している。

第4043号ブロック (図版331)

本ブロックはVI SB15グリッドを中心に、東西方向を長軸に11.2×7.2mの平面的広がりをもつ。第4039・4041・4042・4074・4081号ブロックが接する。遺物は、石器が245点、礫が14点で総数259点となる。出土層位はⅢ層～V c層で、V a層が主体である。器種組成は、台形石器2点、斧形石器2点、搔器1点、削器3点、2次加工のある剥片7点、折断剥片1点、斧形石器刃部破片1点、剥片146点、碎片70点、石核12点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4052・4081号ブロックと接合資料を共有している。

第4044号ブロック (図版332)

本ブロックはVI GK07グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸に24×12mの平面的広がりをもつ。傾斜面にかかっているので北側の分布はかなりの遺物の移動が考えられる。第4026・4045・4047・4052号ブロックが接し、第4038号ブロックが近接する。遺物は、石器が813点、礫が27点で総数840点となる。出土層位はI・II層～V b層で、Ⅲ・Ⅳ・V層の各層に分散している。器種組成は、ナイフ形石器3点、台形石器3点、斧形石器1点、搔器1点、搔器状石器1点、厚刃搔器1点、削器9点、楔形石器16点、石刃3点、2

次加工のある剥片16点、微細剥離痕のある剥片15点、折断剥片3点、敲石5点、剥片457点、碎片252点、石核26点、原石1点である。楔形石器と石核が多いのが特徴的である。石材は、無斑品質安山岩、チャート、黒曜石が主体である。

V a層主体の第22号礫群と重複する。第4040・4045・4047・4050・4051・4052・4054・4081・4095・4096号ブロックと接合資料を共有している。

第4045号ブロック (図版331)

本ブロックはVI RH09グリッドを中心に、南北方向を長軸に8.8×5.6mの平面的広がりをもつ。第4044・4046・4047号ブロックが接する。遺物は、石器が97点、礫が16点で総数113点となる。出土層位はI・II層～V a層で、III層が主体で、下層になるにしたがって遺物量は減少する。器種組成は、台形石器1点、搔器1点、削器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片7点、敲石4点、剥片65点、碎片12点、石核5点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第4044・4050・4051・4052号ブロックと接合資料を共有している。

第4046号ブロック (図版333)

本ブロックはVI RF11グリッドを中心に、南北方向を長軸に9.6×5.6mの平面的広がりをもつ。第4045・4047・4048号ブロックが接する。遺物は、石器が53点、礫が19点で総数72点となる。出土層位はIII層～V層で、III層が主体である。器種組成は、楔形石器1点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片1点、折断剥片1点、敲石1点、剥片34点、碎片12点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第4048号ブロックと接合資料を共有している。

第4047号ブロック (図版333)

本ブロックはVI RI12グリッドを中心に、南北方向を長軸に8×7.2mの平面的広がりをもつ。第4044・4045・4046・4050号ブロックが接し、第4051・4052号ブロックが近接する。遺物は、石器が168点、礫が16点で総数184点となる。出土層位はIII層～V層で、III層が主体ではあるがV層まで分散する。器種組成は、ナイフ形石器1点、貝殻状刃器2点、搔器2点、削器1点、楔形石器5点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片107点、碎片35点、石核9点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越している。

第4044・4051・4054号ブロックと接合資料を共有している。

第4048号ブロック (図版334)

本ブロックはVI RD13グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に15.2×8.8mの平面的広がりをもつ。第4046・4049・4050号ブロックが接する。遺物は、石器が95点、礫が31点で総数126点となる。出土層位はIII層～V層で、III層が主体ではあるがV層まで分散する。器種組成は、ナイフ形石器1点、斧形石器3点、削器1点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石2点、剥片65点、碎片11点、石核8点である。石材は、無斑品質安山岩、凝灰岩、鉄石英、黒曜石が多い。

第4046・4050号ブロックと接合資料を共有している。

第4049号ブロック (図版335)

本ブロックはVI RB17グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に11.2×8mの平面的広がりをもつ。第4048号ブロックが接する。遺物は、石器が39点、礫が12点で総数51点となる。出土層位はIII層～V層で、III～V層まで分散している。器種組成は、搔器1点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片2点、折断剥片2点、敲石1点、剥片29点、石核1点である。石材は、無斑品質安山岩、玉髄が多い。

第4052・4053・4081号ブロックと接合資料を共有している他に、第2地点の第2100号ブロックとも接合

資料を共有している。

第4050号ブロック (図版335)

本ブロックはVI RH15グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に8×7.2mの平面的広がりをもつ。第4047・4048・4051号ブロックが接する。遺物は、石器が218点、礫が32点で総数250点となる。出土層位はⅢ層～V層で、V層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、貝殻状刃器1点、搔器1点、削器1点、楔形石器4点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片1点、台石1点、剥片125点、碎片74点、石核4点、原石2点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越する。

Ⅲ層主体の第49号礫群と重複する。第4044・4045・4048・4051号ブロックと接合資料を共有している。

第4051号ブロック (図版336)

本ブロックはVI RK17グリッドを中心に、南北方向を長軸に12×10.4mの平面的広がりをもつ。第4050・4052・4054・4055号ブロックが接し、第4047号ブロックが近接する。遺物は、石器が446点、礫が27点で総数473点となる。出土層位はI・II層～Vb層で、V層が主体である。器種組成は、台形石器2点、斧形石器2点、搔器1点、削器1点、楔形石器6点、2次加工のある剥片7点、微細剥離痕のある剥片3点、折断剥片1点、敲石4点、剥片283点、碎片115点、石核20点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩、チャートが多い。

V・Vb層主体の第28号礫群と重複する。第4042・4044・4045・4047・4050・4052・4054・4056・4057・4058・4076・4081号ブロックと接合資料を共有している。

第4052号ブロック (図版337)

本ブロックはVI RN15グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に14.4×8.8mの平面的広がりをもつ。第4042・4044・4051号ブロックが接し、第4047号ブロックが近接する。遺物は、石器が523点、礫が36点で総数559点となる。出土層位はI・II層～Vb層で、Ⅲ～V層に分散している。器種組成は、ナイフ形石器2点、槍先形尖頭器1点、搔器3点、搔器状石器2点、削器6点、楔形石器11点、石刃2点、2次加工のある剥片11点、微細剥離痕のある剥片5点、折断剥片1点、砥石1点、敲石1点、剥片373点、碎片75点、石核28点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩、チャートが主体である。

Va層主体の第29・35号礫群と重複する。第4040・4043・4044・4045・4049・4051・4055・4066号ブロックと接合資料を共有している。

第4053号ブロック (図版338)

本ブロックはVI RF20グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に8×6.4mの平面的広がりをもつ。第4057号ブロックが接し、第4054号ブロックが近接する。遺物は、石器が32点、礫が5点で総数37点となる。出土層位はⅢ層～Va層で、IV層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、石刃2点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片2点、台石1点、剥片19点、碎片3点、石核1点である。石材は、無斑品質安山岩が多い。

第4049・4056号ブロックと接合資料を共有している。

第4054号ブロック (図版338)

本ブロックはVI WJ01グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に8×6.4mの平面的広がりをもつ。第4051・4055・4058号ブロックが接し、第4053・4057号ブロックが近接する。遺物は、石器が68点、礫が5点で総数73点となる。出土層位はⅢ層～Va層で、Ⅲ・IV層が主体である。器種組成は、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片5点、折断剥片1点、剥片40点、碎片16点、石核4点である。石材は、無斑品質安山岩、チャート、黒曜石が多い。

第4044・4047・4051・4077・4091号ブロックと接合資料を共有している。

第4055号ブロック (図版338)

本ブロックはVI WM02グリッドを中心に、南北方向を長軸に8×5.6mの平面的広がりをもつ。第4051・4054号ブロックが接し、第4063号ブロックが近接する。遺物は、石器が27点、礫が4点で総数31点となる。出土層位はI・II層～V b層で、IV下層からV a層が主体である。器種組成は、台形石器1点、削器1点、2次加工のある剥片1点、剥片21点、砕片2点、石核1点である。石材は、黒曜石が多い。

第4052号ブロックと接合資料を共有している。

第4056号ブロック (図版338)

本ブロックはVI WB04グリッドを中心に、南北方向を長軸に8.8×6.4mの平面的広がりをもつ。第4057号ブロックが接し、第4059・4061号ブロックが近接する。遺物は、石器が24点、礫が5点で総数29点となる。出土層位はIII層～V層で、IV層が主体である。器種組成は、台形石器1点、楔形石器1点、石刃1点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片15点、砕片1点、石核2点である。石材は、チャートが多い。

第4042・4051・4053・4057・4058・4076・4081号ブロックと接合資料を共有している。

第4057号ブロック (図版339)

本ブロックはVI WF03グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に10.4×10.4mの平面的広がりをもつ。第4053・4056・4058号ブロックが接し、第4054・4062号ブロックが近接する。遺物は、石器が241点、礫が27点で総数268点となる。出土層位はIII層～V a層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器1点、搔器状石器2点、厚刃搔器1点、削器1点、楔形石器3点、石刃4点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片3点、折断剥片1点、砥石1点、敲石1点、楔形石器破片1点、剥片167点、砕片40点、石核11点である。石材は、無斑品質安山岩が多い。

第4042・4051・4056・4058・4061・4076・4081号ブロックと接合資料を共有している。

第4058号ブロック (図版340)

本ブロックはVI WI04グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に6.4×4mの平面的広がりをもつ。第4054・4057号ブロックが接し、第4063号ブロックが近接する。遺物は、石器が44点、礫が7点で総数51点となる。出土層位はIII層～V a層で、IV・V層が主体である。器種組成は、台形石器1点、貝殻状刃器1点、石刃3点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片4点、折断剥片1点、剥片26点、砕片4点、石核3点である。石材は、黒曜石が多い。

第4042・4051・4056・4057・4063・4076・4081・4092・4096号ブロックと接合資料を共有している。

第4059号ブロック (図版340)

本ブロックはVI VS11グリッドを中心に、南北方向を長軸に22.4×7.2mの平面的広がりをもつ。第4060号ブロックが接し、第4056号ブロックが近接する。遺物は、石器が113点、礫が4点で総数117点となる。出土層位はIII層～V層で、III・IV層が主体である。器種組成は、石刃1点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片82点、砕片5点、石核20点、原石2点である。石材は、チャートが主体である。

IV層主体の第41号礫群と重複する。第4072号ブロックと接合資料を共有している。

第4060号ブロック (図版341)

本ブロックはVI WB09グリッドを中心に、南北方向を長軸に6.4×4mの平面的広がりをもつ。第4059・4061号ブロックが接する。遺物は、石器が25点、礫が6点で総数31点となる。出土層位はIII層～V b層で、III層が主体である。器種組成は、剥片22点、石核3点である。石材は、チャートが主体である。第4061号ブロックと接合資料を共有している。

第4061号ブロック (図版341)

本ブロックはVI WD08グリッドを中心に、南北方向を長軸に8.8×4.8mの平面的広がりをもつ。第

4060・4062号ブロックが接し、第4056号ブロックが近接する。遺物は、石器が64点、礫が15点で総数79点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴa層で、Ⅳ上層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、削器1点、楔形石器1点、敲石1点、磨石1点、剥片46点、碎片7点、石核6点である。石材は、凝灰質頁岩、チャートが多い。

第4057・4060号ブロックと接合資料を共有している。

第4062号ブロック (図版341)

本ブロックはⅥWG08グリッドを中心に、南北方向を長軸に8×7.2mの平面的広がりをもつ。第4061号ブロックが接し、第4057・4067号ブロックが近接する。遺物は、石器が43点、礫が19点で総数62点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴa層で、Ⅳ上層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、砥石2点、磨石2点、剥片28点、碎片6点、石核1点である。石材は、無斑晶質安山岩、チャートが多い。

第4063号ブロックと接合資料を共有している。

第4063号ブロック (図版342)

本ブロックはⅥWK06グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に10.4×8.8mの平面的広がりをもつ。第4055・4058・4064号ブロックが近接する。遺物は、石器が77点、礫が6点で総数83点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅴc層で、Ⅴa層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器1点、搔器状石器1点、楔形石器4点、石刃2点、2次加工のある剥片6点、微細剥離痕のある剥片4点、折断剥片3点、剥片30点、碎片23点、石核2点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4040・4058・4062・4064・4067・4068・4070・4087号ブロックと接合資料を共有している。

第4064号ブロック (図版342)

本ブロックはⅥWM09グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に8×6.4mの平面的広がりをもつ。第4066・4068号ブロックが接し、第4063・4065号ブロックが近接する。遺物は、石器が165点、礫が9点で総数174点となる。出土層位はⅢ層～Ⅴc層で、Ⅴb層が主体である。器種組成は、台形石器1点、貝殻状刃器1点、捺錐器1点、厚刃搔器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片3点、折断剥片6点、敲石1点、剥片50点、碎片98点、石核1点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4063・4066・4076・4088・4091・4096号ブロックと接合資料を共有している。

第4065号ブロック (図版343)

本ブロックはⅥWP07グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に6.4×4mの平面的広がりをもつ。遺物の分布は希薄である。第4064・4066号ブロックが近接する。遺物は、石器が13点、礫が7点で総数20点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅴb層で、Ⅳ層が主体である。器種組成は、貝殻状刃器1点、微細剥離痕のある剥片1点、折断剥片1点、剥片8点、碎片1点、石核1点である。石材は、黒曜石と無斑晶質安山岩で構成される。

Ⅴb層主体の第25号礫群と重複する。第4077号ブロックと接合資料を共有している。

第4066号ブロック (図版343)

本ブロックはⅥWO11グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に11.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第4064・4068号ブロックが接し、第4065号ブロックが近接する。遺物は、石器が156点、礫が8点で総数164点となる。出土層位はⅠ・Ⅱ層～Ⅴc層で、Ⅴb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、貝殻状刃器1点、搔器状石器1点、削器1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片8点、折断剥片2点、剥片59点、碎片75点、石核3点である。石材は、黒曜石が卓越する。

第4052・4064・4068・4075号ブロックと接合資料を共有している。

第4067号ブロック (図版344)

本ブロックはVI WF13グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に15.2×12mの平面的広がりをもつ。第4068・4069・4070号ブロックが接し、第4062号ブロックが近接する。遺物は、石器が628点、礫が69点で総数697点となる。出土層位はI・II層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、斧形石器1点、搔器1点、削器1点、2次加工のある剥片11点、微細剥離痕のある剥片2点、折断剥片1点、砥石1点、敲石5点、磨石1点、剥片435点、砕片147点、石核18点、原石2点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越する。

Va層主体の第46号礫群と重複する。第4040・4063・4068・4069・4070号ブロックと接合資料を共有している。

第4068号ブロック (図版345)

本ブロックはVI WK13グリッドを中心に、南北方向を長軸に15.2×11.2mの平面的広がりをもつ。第4064・4066・4067・4070号ブロックが接し、第4071号ブロックが近接する。遺物は、石器が687点、礫が74点で総数761点となる。出土層位はI・II層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、台形石器1点、貝殻状刃器2点、斧形石器1点、搔器2点、2次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片4点、折断剥片2点、砥石1点、敲石5点、砥石破片1点、剥片451点、砕片191点、石核15点、石核破片5点、原石1点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越する。

Vb層主体の第34号礫群と重複する。第4040・4063・4066・4067・4069・4070号ブロックと接合資料を共有している。

第4069号ブロック (図版346)

本ブロックはVI WF18グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に11.2×7.2mの平面的広がりをもつ。第4067・4070号ブロックが接する。遺物は、石器が234点、礫が19点で総数253点となる。出土層位はIII層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、鋸齒縁状削器1点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片1点、折断剥片1点、敲石2点、剥片175点、砕片42点、石核5点である。石材は、無斑品質安山岩、珪質凝灰岩が多い。

第4067・4068・4070号ブロックと接合資料を共有している。

第4070号ブロック (図版347)

本ブロックはVI WJ17グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に15.2×9.6mの平面的広がりをもつ。第4067・4068・4069号ブロックが接し、第4071号ブロックが近接する。遺物は、石器が973点、礫が21点で総数994点となる。出土層位はIII層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、斧形石器3点、搔器状石器1点、削器1点、2次加工のある剥片11点、微細剥離痕のある剥片3点、折断剥片1点、敲石9点、剥片606点、砕片310点、石核25点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越し、ついでチャートが多い。

Vb層主体の第47号礫群と重複する。Va層主体の第46号礫群と重複する。第4040・4063・4067・4068・4069号ブロックと接合資料を共有している。

第4071号ブロック (図版348)

本ブロックはVI WO17グリッドを中心に、東西方向を長軸に4.8×4mの平面的広がりをもつ。遺物の分布は希薄である。第4068・4070号ブロックが近接する。遺物は、石器が6点、礫が1点で総数7点となる。出土層位はI・II層～Va層で、I・II層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片3点、砕片1点である。石材は、無斑品質安山岩、黒曜石、チャートで構成される。

第4072号ブロック (図版348)

本ブロックはVI VR19グリッドを中心に、東西方向を長軸に8.8×7.2mの平面的広がりをもつ。第4073号ブロックが接する。遺物は、石器総数36点である。出土層位はⅢ層～Ⅳ層で、Ⅳ層が主体である。器種組成は、削器1点、2次加工のある剥片1点、敲石2点、剥片29点、碎片1点、石核2点である。石材は、チャートが主体である。

第4059号ブロックと接合資料を共有している。

第4073号ブロック (図版348)

本ブロックはX BQ03グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に14.4×8.8mの平面的広がりをもつ。遺物の分布は希薄である。第4072号ブロックが接する。遺物は、石器が12点、礫が7点で総数19点となる。出土層位はⅢ層～Ⅳ層で、Ⅲ層が主体である。器種組成は、削器1点、敲石1点、台石1点、剥片8点、石核1点である。石材は、無斑品質安山岩が多い。

第4074号ブロック (図版349)

本ブロックはVI RT19グリッドを中心に、東西方向を長軸に10.4×8.8mの平面的広がりをもつ。第4043・4075・4081号ブロックが接し、第4042・4076号ブロックが近接する。遺物は、石器が253点、礫が9点で総数262点となる。出土層位はⅢ層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、台形石器3点、貝殻状刃器1点、搔器2点、鋸歯縁状削器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片4点、微細刺離痕のある剥片4点、折断剥片1点、敲石3点、台石2点、剥片163点、碎片54点、石核14点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第4039・4042・4075・4076・4077・4081号ブロックと接合資料を共有している。他に、第2地点の第2040号ブロックとも接合資料を共有している。

第4075号ブロック (図版349)

本ブロックはVI WQ02グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に12.8×8mの平面的広がりをもつ。第4074・4076・4077号ブロックが接する。遺物は、石器が139点、礫が10点で総数149点となる。出土層位はⅢ層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、斧形石器1点、彫器1点、搔器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片5点、微細刺離痕のある剥片8点、剥片73点、碎片38点、石核11点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が主体である。

第4066・4074・4076・4077・4079・4085・4088・4093号ブロックと接合資料を共有している。

第4076号ブロック (図版350)

本ブロックはVI XA01グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に9.6×6.4mの平面的広がりをもつ。第4077・4078・4081号ブロックが接し、第4074号ブロックが近接する。遺物は、石器が302点、礫が7点で総数309点となる。出土層位はⅢ層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、削器2点、楔形石器2点、2次加工のある剥片7点、微細刺離痕のある剥片10点、折断剥片1点、敲石2点、台石2点、剥片181点、碎片78点、石核14点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越し、次いで黒曜石が多い。

第4039・4042・4051・4056・4057・4058・4064・4074・4075・4077・4080・4081・4082・4088・4092・4093・4096号ブロックと接合資料を共有している。

第4077号ブロック (図版350)

本ブロックはVI WS04グリッドを中心に、東西方向を長軸に10.4×8mの平面的広がりをもつ。第4075・4076号ブロックが接し、第4078・4079号ブロックが近接する。遺物は、石器が253点、礫が7点で総数260点となる。出土層位はⅢ層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、台形石器2点、貝殻状

刃器2点、斧形石器1点、搔器状石器3点、削器3点、鋸歯縁状削器1点、2次加工のある剥片13点、微細剝離痕のある剥片7点、折断剥片3点、斧形石器破片1点、削器破片1点、折断剥片破片1点、剥片127点、削片1点、砕片76点、石核10点、原石1点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4054・4065・4074・4075・4076・4079・4081・4087・4088・4093号ブロックと接合資料を共有している。

第4078号ブロック (図版351)

本ブロックはVIC03グリッドを中心に、東西方向を長軸に5.6×4.8mの平面的広がりをもつ。第4076・4079・4085号ブロックが接し、第4077号ブロックが近接する。遺物は、石器が29点、礫が1点で総数30点となる。出土層位はIII層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、折断剥片1点、剥片9点、砕片19点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4086号ブロックと接合資料を共有している。

第4079号ブロック (図版351)

本ブロックはVIC04グリッドを中心に、東西方向を長軸に4.8×2.4mの平面的広がりをもつ。第4078・4080号ブロックが接し、第4077号ブロックが近接する。遺物は、石器が20点、礫が1点で総数21点となる。出土層位はIV下層～Vb層で、Va層が主体である。器種組成は、厚刃搔器2点、2次加工のある剥片1点、折断剥片1点、剥片11点、砕片5点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4075・4077号ブロックと接合資料を共有している。

第4080号ブロック (図版351)

本ブロックはVIC06グリッドを中心に、東西方向を長軸に5.6×4mの平面的広がりをもつ。第4079号ブロックが接し、第4086号ブロックが近接する。遺物は、石器が43点、礫が1点で総数44点となる。出土層位はIII層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、貝殻状刃器2点、搔器状石器1点、削器2点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片2点、折断剥片3点、剥片18点、砕片11点、石核2点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4076号ブロックと接合資料を共有している。

第4081号ブロック (図版352)

本ブロックはVISE18グリッドを中心に、東西方向を長軸に13.6×11.2mの平面的広がりをもつ。第4043・4074・4076・4082号ブロックが接し、第4084号ブロックが近接する。遺物は、石器が415点、礫が24点で総数439点となる。出土層位はIII層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器5点、貝殻状刃器2点、槍先形尖頭器1点、斧形石器1点、彫器1点、搔器状石器1点、削器10点、楔形石器3点、石刃2点、2次加工のある剥片13点、微細剝離痕のある剥片8点、折断剥片1点、敲石1点、搔器破片1点、剥片217点、削片1点、砕片114点、石核32点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4039・4042・4043・4044・4049・4051・4056・4057・4058・4074・4076・4077・4082・4087号ブロックと接合資料を共有している。他に、第2地点の第2100号ブロックとも接合資料を共有している。

第4082号ブロック (図版353)

本ブロックはVISJ20グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に5.6×3.2mの平面的広がりをもつ。第4081号ブロックが接し、第4083・4084号ブロックが近接する。遺物は、石器が29点、礫が2点で総数31点となる。出土層位はIII層～Vc層で、IV下層が主体である。器種組成は、搔器1点、削器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片4点、微細剝離痕のある剥片1点、砥石1点、砥石破片3点、剥片11点、砕片3点、石核3点である。石材は、無斑晶質安山岩、黒曜石が多い。

第4076・4081号ブロックと接合資料を共有している。

第4083号ブロック (図版353)

本ブロックはVI XL01グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に6.4×4 mの平面的広がりをもつ。第4084号ブロックが接し、第4082号ブロックが近接する。遺物は、石器が33点、礫が3点で総数36点となる。出土層位はIV上層～V c層で、V a層が主体である。器種組成は、2次加工のある剥片1点、敲石1点、剥片19点、砕片7点、石核4点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4084号ブロック (図版353)

本ブロックはVI XJ02グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に10.4×6.4 mの平面的広がりをもつ。第4083・4085号ブロックが接し、第4081・4082号ブロックが近接する。遺物は、石器が99点、礫が6点で総数105点となる。出土層位はIII層～V c層で、IV上層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器2点、貝殻状刃器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片2点、折断剥片1点、敲石1点、台石1点、剥片62点、砕片21点、石核6点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体で、ついで黒曜石が多い。

第4085号ブロック (図版354)

本ブロックはVI XF03グリッドを中心に、東西方向を長軸に6.4×5.6 mの平面的広がりをもつ。第4078・4084号ブロックが接する。遺物は、石器が58点、礫が7点で総数65点となる。出土層位はIII層～V b層で、V a層が主体である。器種組成は、搔器1点、2次加工のある剥片2点、敲石1点、剥片41点、砕片9点、石核4点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第4075号ブロックと接合資料を共有している。

第4086号ブロック (図版354)

本ブロックはVI XH07グリッドを中心に、東西方向を長軸に13.6×6.4 mの平面的広がりをもつ。第4087・4088号ブロックが接し、第4080号ブロックが近接する。遺物は、石器が76点、礫が22点で総数98点となる。出土層位はIII層～V b層で、IV上層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器2点、彫器2点、搔器1点、搔器状石器1点、削器2点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、微細刻離痕のある剥片3点、折断剥片2点、剥片39点、砕片16点、石核3点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩、チャート、黒曜石が多い。

IV下層主体の第1・2号礫群と重複する。第4078号ブロックと接合資料を共有している。

第4087号ブロック (図版355)

本ブロックはVI XG10グリッドを中心に、東西方向を長軸に8×7.2 mの平面的広がりをもつ。第4086・4088・4092号ブロックが接し、第4091号ブロックが近接する。遺物は、石器が192点、礫が6点で総数198点となる。出土層位はIII層～V c層で、V c層が主体である。器種組成は、台形石器1点、貝殻状刃器1点、搔器状石器1点、削器3点、楔形石器1点、2次加工のある剥片2点、微細刻離痕のある剥片6点、折断剥片4点、敲石1点、剥片76点、砕片94点、石核1点、原石1点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4040・4063・4077・4081・4088・4092・4093号ブロックと接合資料を共有している。

第4088号ブロック (図版355)

本ブロックはVI XK09グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に11.2×6.4 mの平面的広がりをもつ。第4086・4087・4092・4093号ブロックが接し、第4089号ブロックが近接する。遺物は、石器が167点、礫が12点で総数179点となる。出土層位はIII層～V c層で、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、搔器2点、削器1点、2次加工のある剥片3点、微細刻離痕のある剥片2点、敲石2点、台石4点、剥片101点、砕片43点、石核6点、原石1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体で

ある。

IV下・Va層主体の第5号礫群と重複する。第4064・4075・4076・4077・4087・4093・4095号ブロックと接合資料を共有している。

第4089号ブロック (図版356)

本ブロックはVI X009グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に5.6×4mの平面的広がりをもつ。第4090号ブロックが接し、第4088号ブロックが近接する。遺物は、石器が66点、礫が29点で総数95点となる。出土層位はIII層～Vb層で、IV上層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、影器1点、搔器3点、削器2点、2次加工のある剥片4点、剥片32点、削片1点、砕片22点である。石材は、無斑品質安山岩、黒曜石、凝灰岩が多い。

第4090号ブロックと接合資料を共有している。

第4090号ブロック (図版356)

本ブロックはVI XQ07グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に8×5.6mの平面的広がりをもつ。第4089号ブロックが接する。遺物は、石器が53点、礫が1点で総数54点となる。出土層位はIII層～Vb層で、III層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、搔器1点、削器1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片25点、砕片24点である。石材は、黒曜石、無斑品質安山岩が多い。

第4089号ブロックと接合資料を共有している。

第4091号ブロック (図版357)

本ブロックはVI XE13グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に8.8×8mの平面的広がりをもつ。第4092号ブロックが接し、第4087号ブロックが近接する。遺物は、石器が108点、礫が5点で総数113点となる。出土層位はVa層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、搔器状石器3点、削器4点、楔形石器2点、2次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片6点、折断剥片3点、敲石1点、剥片30点、砕片52点、原石2点である。石材は、黒曜石が卓越する。

Vb層主体の第24号礫群と重複する。第4054・4064・4096・4097号ブロックと接合資料を共有している。

第4092号ブロック (図版358)

本ブロックはVI XII4グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に12.8×8.8mの平面的広がりをもつ。第4087・4088・4094号ブロックが接し、第4093号ブロックが近接する。遺物は、石器が160点、礫が13点で総数173点となる。出土層位はI・II層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、貝殻状石器1点、搔器状石器1点、削器2点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片11点、折断剥片4点、剥片49点、砕片82点、石核4点、原石1点である。石材は、黒曜石が主体である。

第4058・4076・4087・4095・4096・4098号ブロックと接合資料を共有している。

第4093号ブロック (図版359)

本ブロックはVI XM12グリッドを中心に、東西方向を長軸に7.2×5.6mの平面的広がりをもつ。第4088・4094号ブロックが接し、第4092号ブロックが近接する。遺物は、石器が41点、礫が7点で総数48点となる。出土層位はIII層～Vb層で、Va層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器状石器1点、楔形石器1点、微細剥離痕のある剥片1点、折断剥片1点、剥片22点、砕片7点、石核2点、原石5点である。石材は、無斑品質安山岩、黒曜石が多い。

Va層主体の第3号礫群と重複する。第4075・4076・4077・4087・4088号ブロックと接合資料を共有している。

第4094号ブロック (図版359)

本ブロックはVI XM15グリッドを中心に、東西方向を長軸に10.4×7.2mの平面的広がりをもつ。第4092・4093・4095号ブロックが接する。遺物は、石器が231点、礫が6点で総数237点となる。出土層位はIV上層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、台形石器1点、貝殻状刃器1点、搔器状石器1点、削器2点、2次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片8点、折断剥片4点、剥片62点、碎片146点、石核1点である。石材は、黒曜石が卓越する。

第4095号ブロック (図版360)

本ブロックはVI XL19グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に12.8×8mの平面的広がりをもつ。第4094号ブロックが接する。遺物は、石器が150点、礫が3点で総数153点となる。出土層位はVa層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、貝殻状刃器3点、搔器1点、搔器状石器2点、削器4点、石刃1点、2次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片12点、折断剥片5点、敲石1点、剥片55点、碎片56点、石核3点、原石1点である。石材は、黒曜石が卓越する。

Vb層主体の第31号礫群と重複する。第4044・4088・4092・4096号ブロックと接合資料を共有している。

第4098号ブロック (図版360)

本ブロックはVI YC10グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に10.4×5.6mの平面的広がりをもつ。第4097号ブロックが近接する。遺物は、石器が72点、礫が4点で総数76点となる。出土層位はIII層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、台形石器2点、貝殻状刃器1点、搔器3点、鋸歯縁状削器1点、石刃1点、2次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片5点、折断剥片1点、剥片16点、碎片35点、石核1点である。石材は、黒曜石が卓越する。

第4044・4058・4064・4076・4091・4092・4095号ブロックと接合資料を共有している。

第4097号ブロック (図版361)

本ブロックはVI YA12グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸に11.2×6.4mの平面的広がりをもつ。第4096号ブロックが近接する。遺物は、石器が68点、礫が33点で総数101点となる。出土層位はIV上層～Vc層で、Va層が主体である。器種組成は、搔器1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、折断剥片1点、剥片35点、碎片27点、石核2点である。石材は、無斑晶質安山岩、黒曜石、チャートで構成される。

第4091号ブロックと接合資料を共有している。

第4098号ブロック (図版361)

本ブロックはVI XT16グリッドを中心に、南北方向を長軸に13.6×10.4mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が72点、礫が1点で総数73点となる。出土層位はI・II層～Vc層で、Vb層が主体である。器種組成は、貝殻状刃器2点、削器1点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片2点、折断剥片1点、剥片14点、碎片43点、石核4点である。石材は、黒曜石が卓越する。

第4092号ブロックと接合資料を共有している。

第4099号ブロック (図版362)

本ブロックはVI YG15グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸に13.6×8.8mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が41点、礫が6点で総数47点となる。出土層位はIII層～Vb層で、IV下～Va層が主体である。器種組成は、搔器1点、削器1点、敲石1点、剥片22点、碎片15点、石核1点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

IV下層主体の第4号礫群と重複する。

第4100号ブロック (図版361)

本ブロックは、第4地点の主体をなすテラスより3mほど一段低い北向きのテラスに位置する。VI DO19グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸に3.2×2.4mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器総数5点である。出土層位はI・II層だけである。器種組成は、2次加工のある剥片1点、剥片3点、碎片1点である。石材は、無斑品質安山岩、珪質頁岩、鉄石英で構成される。

(2) 礫群 (図版363~375 第47表)

礫群は総数50基確認された。III層からVb層まで各層から出土しており、いくつかの時期に分けられる。そこでこれらの礫群を、主体となる出土層位と構成礫の個数、重量、遺存度をあらわしたのが、第47表である。これによって本地点の主要な礫群は大きく4類に分類される。

1類：礫の平均重量が300g~500gで、遺存度は完形礫のほうがやや多い。平面的な広がり是比较的小規模である。出土層位はIII層が主体となる。SH108・94・95・49が相当するが、なかでも94・95は他の礫群と比べ平面的な広がりがやや広く、出土層位もIV層出土の個体があり、時期的な差があるのかもしれない。礫群間の分布は特に集中する地域はなく、点々と散在する。

2類：礫の平均重量が80g~250gと軽量の礫が多い。遺存度も25%以下のものが多く、破損礫が主体となる。平面的な広がりは大きい。出土層位はIV~Va層が主体となる。SH1・4・39・40・96・98・99・101・109・111・112・113・114・116・120・122が相当する。

3類：礫の平均重量が700g~4kgと大形で、構成礫数は10個以内で散漫な分布を示す。この形態を、旧石器時代の場合「配石」と呼んできた。ほとんどが完形に近い礫で構成される。出土層位はVa~Vc層に限られる。SH22・24・25・28・29・30・31・34・47・58・91・102・102・103・105・110・117・119・121・123・127が相当する。

4類：礫の平均重量が280g~400gとI類とII類の中間の重量をもつ。出土層位はVb層に限られIII類との関係が興味深い。いわゆる配石ではなく、赤化礫が密集している礫群としては野尻湖遺跡群の中でも最古のものといえよう。SH124・125が相当する。

第2章 貫ノ木遺跡

遺構名	点数	方位	規模	重複BL	出土層位	重量gの 平均	重量gの 合計	遺存率(%)					遺存度 類型	層位 類型		
								不明	0	25	50	75			100	
SH44	6	NE	5.4×4.6		III	1,668	10,010			3	1	1	1	b	1	
SH49	6	NW	3.4×1.6	4050	III	328	1,970			5			1	b	1	
SH108	6	NW	2×2	4023	III下	457	2,740			1	3	1	1	c	2	
SH134	37	NE	4.1×6.8	4007	III・IV	966	35,735			7	3	3	24	a	3	
SH94	17	EW	4×2	4015	III・IV	388	6,600			2	2	4	9	a	3	
SH95	15	NW	4.7×3.5	4015	III・IV	360	5,400			4	2	2	7	c	3	
SH101	22	NW	2×2.5	4014	IV	84	1,850			16	4	1	1	b	5	
SH109	80	NE	4.2×3.7	4014	IV	168	13,450			44	5	11	20	b	5	
SH111	43	NE	5.1×4	4013	IV	138	5,940			19	9	4	11	c	5	
SH112	62	NE	3.5×2.4	4010	IV	189	11,720			35	12	4	11	b	5	
SH113	30	NW	4.7×2.3	4001	IV	143	4,300			10	5	2	13	c	5	
SH39	20	NE	3.7×2.4	4009	IV	241	4,820			3	4	10	3	c	5	
SH40	13	NE	3.8×2		IV	142	1,850			6	2	1	4	c	5	
SH41	8	NW	8×4.6	4059	IV	1,029	8,230			2	1	4	1	c	5	
SH98	35	NW	4×3	4019	IV	182	6,381			6	7	7	15	c	5	
SH1	89	NS	8×4	4086	IV下	99	8,814		2	67	4	4	12	b	6	
SH116	44	NW	3.4×2.4	4010	IV>Va	164	7,220	1		27	5	1	10	b	6	
SH120	47	NS	4.4×4.4	4008	IV>Va	194	8,920	1		26	9	4	7	b	6	
SH2	25	NW	4.1×2	4086	IV下	414	10,361			17	4	4	4	b	6	
SH4	36	NE	6.6×3	4099	IV下>Va	135	4,855			10	2	12	12	c	6	
SH5	42	NE	6.1×3.1	4088	IV下・Va	556	23,351			20	1	11	10	c	6	
SH96	27	NS	4.3×2.4	4015	IV>Va	244	6,579			7	2	3	15	a	6	
SH102	11	NE	5.7×3	4018	Va	691	7,600			2	2	2	7	a	8	
SH103	13	NW	3.5×2.1	4012	Va	1,793	23,310				1	2	10	a	8	
SH105	5	NW	4.1×2.4	4012	V	702	3,510						5	a	8	
SH114	91	NW	3.4×2.6	4013	Va>IV	188	17,120			42	12	10	27	c	8	
SH122	16	NW	2.9×1.4	4013	Va	170	2,720			5	2	3	6	c	8	
SH20	71	NE	4.1×2.7		Va	362	25,708		3	35	6	8	19	c	8	
SH22	8	NW	7.4×2.7	4044	Va	1,493	11,940			1	1		6	a	8	
SH28	16	NS	5.6×3.5	4051	V・Vb	830	13,277			9	2	1	4	b	8	
SH29	8	NW	4×2.9	4052	Va	858	6,862			2	1	2	3	c	8	
SH3	85	NS	6.1×3.4	4093	Va	358	30,399			1	32	10	12	30	c	8
SH30	6	NE	7.5×3.6	4052	Va	1,379	8,275			2			4	a	8	
SH46	24	NW	11.1	4070	Va	2,296	55,107			8	2	1	13	a	8	
SH99	15	NS	1×1	4018	Va	185	2,780			3	5		7	c	8	
SH110	6	NS	3.3×3.3	4014	Vb	4,435	26,610				1		5	a	9	
SH117	5	NE	4.1×2.7	4001	Vb	2,606	13,030						5	a	9	
SH119	11	NW	5.7×3.7	4011	Vb	1,399	15,390				1	3	7	a	9	
SH121	7	NW	3.2×2	4011	Vb	2,784	19,490			1		1	5	a	9	
SH123	7	EW	4.2×2.1	4008	Vb	2,814	19,700			1	1	2	3	c	9	
SH124	105	NW	6.1×5	4010	Vb	383	40,190			28	9	4	64	a	9	
SH125	28	NS	2.7×3.3	4013	Vb>IV	223	6,230			6	7	4	11	c	9	
SH127	8	NS	2.7×1.5	4016	Vc	1,194	9,548	1		1	2	2	2	c	9	
SH24	6	NS	2×1.9	4091	Vb	751	4,503			5			1	b	9	
SH25	3	EW	3.8×1.4	4065	Vb	1,817	5,450			1			2	a	9	
SH31	4	NE	5.3×2.6	4095	Vb	1,725	6,900				1		3	a	9	
SH34	5	NS	7×2.5	4068	Vb	3,542	17,710			1			4	a	9	
SH47	3	NE	5×1.5	4070	Vb	1,400	4,200			1		1	1	c	9	
SH58	8	NS	5.4×4.6	4039	Vb	1,391	11,130			5		1	2	b	9	
SH91	9	NW	4.3×3.6	4031	Vb	2,326	20,930			1	1	2	5	a	9	

第47表 貫ノ木遺跡 第4地点群

3 遺物

(1) ナイフ形石器 (図版376~386・報告番号1201~1271・写真図版83~86)

ナイフ形石器は74点出土した。出土層位はⅢ層14点、Ⅳ層19点、Ⅴa層26点、Ⅴb層10点、Ⅴ層一括4点、Ⅴa層が多く、Ⅴb層になると減少する。第4地点100ブロック中ナイフ形石器を出土したのはほぼ半数の48ブロックだが、1ブロックあたりの出土数は1~3点と、出土数に偏りがみられない。石材は黒曜石32点と、無斑品質安山岩19点で主体をなす。本地点のナイフ形石器11類に分類できる。

1類：縦長剥片(石刃状)を素材とし、打面を残置して基部側に設ける基部加工のナイフ形石器。7点みられた(1205・1220・1238・1244・1252・1257・1265)。

2類：縦長剥片(石刃状)を素材とし、多くは打面を基部側に設け、基部先端部に調整加工を施す。1類との違いは基部を尖鋭になるように加工するところである。9点みられた(1211・1214・1230・1234・1237・1245・1258・1263・1268)。

3類：縦長剥片、寸詰りの縦長剥片を素材とし、基部付近をやや抉るように調整加工を施すもので、先端にはほとんど加工を施さないが、尖るような素材を選択していたと考えられる。調整剥離の方向には正方向剥離・反方向剥離・錯向剥離などバラエティーがある。調整剥離の種類は平坦剥離。4点みられた(1204・1207・1239・1249)。

4類：3類と素材、形状などは同じだが、調整剥離の種類が微細剥離。6点みられた(1202・1248・1250・1266・1267・1271)。

5類：3類と素材、形状などは同じだが、調整剥離の種類が通常剥離。5点みられた(1221・1222・1241・1243・1269)。

6類：剥片剥離軸と石器主軸が一致する二側縁加工のナイフ形石器で、石刃状の縦長剥片が用いられる。3点みられた(1212・1223・1227)。

7類：剥片剥離軸と石器主軸が一致せず斜めになる二側縁加工のナイフ形石器で、石刃状の縦長剥片が用いられる点は6類と同じ。6点みられた(1203・1224・1228・1242・1256・1264)。

8類：縦長剥片もしくは寸詰りの縦長剥片を用い、打面を基部に設けやや鋸歯状の調整加工を二側縁に施す。長野県和田村男女倉遺跡B・J地点にみられるナイフ形石器に類例が求められる。2点みられた(1208・1218)。

9類：横長剥片を素材とし、打面を側縁に用いる。鋸歯状の調整加工を施すものが日立つ。加工部位は二側縁のものと同側縁のものがある。4点みられた(1251・1259・1261・1262)。

10類：部分加工のナイフ形石器。5点みられた(1209・1210・1225・1226)。

11類：弧状一側縁加工のナイフ形石器。5点みられた(1219・1233・1235・1253・1254)。

(2) 台形石器 (図版386~393・報告番号1272~1326・写真図版86~88)

台形石器は58点出土した。出土層位はⅢ層5点、Ⅳ層15点、Ⅴa層17点、Ⅴb層14点、Ⅴc層1点、Ⅴ層一括5点で、Ⅴ層の出土数が多い。出土数の多いブロックはBL4081の5点で、他は1~2点の出土であった。石材はナイフ形石器と同様黒曜石33点、無斑品質安山岩14点と、この2石材が主体を占める。

本地点の台形石器も第3地点の分類にしたがって分けると以下のようななる。

1類：剥片もしくは横長の剥片を用い、打面は側縁に置き、調整加工は通常剥離を施す。14点みられた(1275・1280~1282・1289・1290・1295~1297・1301・1302・1311・1321・1326)。

2類：剥片もしくは横長の剥片を用い、打面は側縁に置き、調整加工は平坦剥離を施す。22点みられた(1272・1276・1277・1279・1284・1285・1287・1291・1292・1294・1303・1304・1308~1310・1312~1316・

1318・1325)。近接したブロック群でまとまって出土する傾向がある。

3類：剥片もしくは横長の剥片を用い、打面は割縁に置き、調整加工は微細剥離を施す。5点みられた(1288・1299・1306・1307・1317)。

4類：寸詰まりの縦長剥片を用い、打面を基部側に置き、基部を中心に加工を施す。先端部は開き、台形状を呈す。調整加工は通常剥離を施す。3点みられた(1283・1298・1300)。

5類：寸詰まりの縦長剥片を用い、打面を基部側に置き、基部を中心に加工を施す。先端部は開き、台形状を呈す。調整加工は平坦剥離を施す。6点みられた(1273・1278・1293・1320・1323)。

6類：寸詰まりの縦長剥片を用い、打面を基部側に置き、基部を中心に加工を施す。先端部は開き、台形状を呈す。調整加工は微細剥離を施す。3点みられた(1286・1319・1322)。

(3) 貝殻状刃器 (図版393～395・報告番号1327～1349・写真図版88～89)

貝殻状刃器は30点出土した。出土層位はⅢ層1点、Ⅳ層8点、Ⅴa層7点、Ⅴb層9点、Ⅴc層3点、Ⅴ層一括2点で、Ⅴ層の出土が多い。21のブロックで出土しているが、各ブロック1～3点の出土で偏りはなかった。石材は黒曜石が28点、無斑晶質安山岩が2点であった。

(4) 槍先形尖頭器 (図版396・報告番号1350～1357・写真図版89)

槍先形尖頭器は9点出土した。出土層位はⅡ層1点、Ⅲ層5点、Ⅳ層3点であった。

1350は菱形を呈す片面調整の尖頭器である。左右非対称で片側縁が肩をはるものに1351・1354がある。

1352・1353・1357は楕状剥離を有する尖頭器である。この3点は共通して、楕状剥離を行った後、その楕状剥離の末端部の側縁を調整している。第2地点にも楕状剥離を有する尖頭器が出土しているが、この楕状剥離後の調整がみられなかった。注意していきたい。

(5) 斧形石器 (図版397～403・報告番号1358～1371・1663～1665・写真図版90～91)

斧形石器は22点出土した。出土層位はⅢ層4点、Ⅳ層2点、Ⅴa層6点、Ⅴb層6点、Ⅴc層2点、Ⅴ層一括2点である。Ⅲ層出土の1点は種子柴型石斧と考えられるので、その他21点が後期旧石器時代前半期の斧形石器ととらえられる。

1358は、再生品であろうか、左右非対称である。研磨痕が著しく、着たい全体の範囲に及ぶ。1359は片面に自然面を残す。刃部中央から右側縁にかけて裏面からの衝撃による剥離痕(刃こぼれ)が顕著である。1363も片面に自然面を残す。表面より刃部は再生されている。刃部は表裏研磨された後、表面よりの衝撃で裏面刃部が大きく欠損し(刃部稜線が大きく表面に屈曲している)、その後裏面側の再度研磨している。そのため実測図では明確に表現できなかったが、裏面側の研磨範囲は稜線が認められ、いくつかの面を形成し、線状痕もやや方向が違うものがみられる。1360は未製品か。1361は欠損品であるがもし完形品であったとしたらかなり大形になると思われる。無斑晶質安山岩製である。1365・1366は自然面が残らない。1366のように刃部幅の狭いタイプのものがいくつかみられる。1362・1369・1371などである。1664は全体が丁寧に両面調整されている。これも刃部幅は短い。

(5) 彫器 (図版404～405・報告番号1372～1380・写真図版92)

彫器は9点出土した。出土層位はⅡ層1点、Ⅲ層2点、Ⅳ層下部2点、Ⅴa層3点、Ⅴb層1点と各層から出土しているが、1～3地点のようにⅢ・Ⅳ層に偏在する傾向はあまり認められず、Ⅳ下～Ⅴa層に出土数が多いのが本地点の特徴となろうか。出土ブロックはBL4001で4点とまとまるほか、BL4075・4081・4086・4089と地点南東よりの近接したブロックのⅣ下層～Ⅴa層にかけて出土している。

(6) 捺錐器 (図版405・報告番号1381～1382・写真図版92)

捺錐器は3点出土した。BL4025のⅤa層から鉄石英製が、BL4035のⅤb層から黒曜石製が、BL4064のⅤb層から黒曜石製がそれぞれ1点ずつ出土した。

(7) 撻器 (図版406~413・報告番号1383~1413・写真図版93~94)

撻器は52点出土した。出土層位はⅢ層11点、Ⅳ層13点、Ⅴa層20点、Ⅴb層6点、Ⅴ層一括2点であった。Ⅴa層の出土が多かった。Ⅴa層から複数出土しているブロックにはBL4023(3点)とBL4096(2点)がある。石材は無斑晶質安山岩が29点と最も多用され、黒曜石が11点と次いで多かった。無斑晶質安山岩製の撻器が多かったブロックはBL4023で4点、黒曜石製の撻器が多かったブロックはBL4096で3点であった。

(8) 撻器状石器 (図版413~415・報告番号1414~1435・写真図版94~95)

撻器状石器は30点出土した。出土層位はⅢ層4点、Ⅳ層5点、Ⅴa層6点、Ⅴb層15点で、やはりⅤb層が最も多い。22のブロックから出土しているが、各ブロックとも1~3点と特に出土数が偏るブロックはなかった。石材は無斑晶質安山岩が最も多く29点、黒曜石が11点と次いで多い。

(9) 厚刃撻器 (図版416・報告番号1436~1438)

厚刃撻器として6点を抽出した。出土層位はⅢ層1点、Ⅳ層1点、Ⅴa層1点、Ⅴb層2点、Ⅴ層一括1点であった。石材は黒曜石が4点、無斑晶質安山岩、珪質頁岩が各1点。

(10) 削器 (図版417~426・報告番号1439~1483・写真図版95~96)

削器は123点出土した。主な出土層位はⅢ層19点、Ⅳ層34点、Ⅴa層31点、Ⅴb層28点、Ⅴc層1点、Ⅴ層一括4点であった。石材は、無斑晶質安山岩が52点、黒曜石が43点とこの2つの石材が大半を占める。無斑晶質安山岩はⅢ・Ⅳ層が多く、下層のⅤb層になると出土数が減少するのに対し、黒曜石はⅤb層に多くみられた。BL4081では10点がⅢ~Ⅴb層まで各層から出土、BL4044では9点、BL4052で6点、BL4006で5点がⅢ・Ⅳ層から出土している。

(11) 鋸歯線状削器 (図版427・報告番号1484~1485)

鋸歯線状削器として5点を認定した。出土層位はⅢ層1点、Ⅴa層3点、Ⅴb層1点であった。

(12) 楔形石器 (図版427~435・報告番号1486~1543・写真図版96~98)

楔形石器は135点出土した。主な出土層位はⅢ層28点、Ⅳ層41点、Ⅴa層33点、Ⅴb層15点、Ⅴc層4点、Ⅴ層一括13点、Ⅳ層からⅤa層にかけてピークがありそうである。47カ所のブロックから出土しているが、出土数が多かったのはBL4044で16点、BL4052、BL4032で各11点、BL4038で10点、BL4033で9点と、第4地点中央付近の近接したブロック群から出土している。主な利用石材は無斑晶質安山岩が44点、黒曜石が42点、チャートが24点、玉髄が14点であった。

(13) 石刃 (図版436・報告番号1544~1547・写真図版110~112)

石刃は61点出土した。出土層位はⅢ層8点、Ⅳ層22点、Ⅴa層7点、Ⅴb層19点、Ⅴ層一括5点、Ⅲ~Ⅳ層とⅤb層に2つのピークがみられる。出土数が比較的多かったブロックには、BL4001で7点、BL4034で5点がある。この2ブロックは出土層位が対照的で、BL4001はⅢ・Ⅳ層から、BL4034はⅣ・Ⅴb層であった。打面の形態を層位別にみると、単刺離打面のは、Ⅲ層1点、Ⅳ層6点、Ⅴa層4点、Ⅴb層12点、単刺離打面例はⅤb層が多くなる。一方調整打面もしくは複数打面例はⅢ層5点、Ⅳ層10点、Ⅴa層1点、Ⅴb層4点、Ⅲ~Ⅳ層が多く、対照的な在り方を示している。使用石材も硬質頁岩はⅢ~Ⅳ層に限ってみられる。他の石材については、偏在性は認められなかった。

(14) 2次加工のある剥片

2次加工のある剥片として325点を抽出した。出土層位はⅢ層73点、Ⅳ層80点、Ⅴa層73点、Ⅴb層80点、Ⅴc層4点、Ⅴ層一括11点、各層から出土している。

(15) 微細刻離痕のある剥片

微細刻離痕のある剥片は270点出土した。出土層位はⅢ層43点、Ⅳ層68点、Ⅴa層55点、Ⅴb層80点、

Vc層3点、V層一括17点であった。73ヵ所のブロックから出土しているが、出土数が多かったブロックはBL4044で15点、BL4095で12点などである。石材は黒曜石177点とが圧倒的に多く、次いで多いのは無班品質安山岩、チャートだが、点数は20点台であった。

06 折断削片 (図版437・報告番号1548~1551)

折断削片は75点出土した。出土層位はⅢ層7点、Ⅳ層6点、Va層22点、Vb層32点、Vc層3点、V層一括4点で、下層になるにつれ出土数は増え、Vb層にピークがある。42ヵ所のブロックで出土しているが、BL4064で6点、BL4087・4091・4092・4094・4095の地点南側の近接したブロックで3~5点と出土数が多いブロックがある。使用石材は黒曜石が59点と最も多く、ついで無班品質安山岩が10点、他は1~2点であった。

07 砥石 (図版437~439・460・報告番号1552~1555・1662・写真図版99~100)

砥石は13点出土した。出土層位はⅢ層4点、Ⅳ層5点、Va層2点、Vb層2点であった。Ⅲ・Ⅳ層出土の砥石9点のうち、8点が5~110gまでの小破片であった。大形のしっかりしたものを3点を図示した。他の5点は小破片であった。出土層位をみると図示した資料はⅣ下1点、Vb層2点と、1点のⅣ下の資料は再検討の余地を残すものの、AT(始良・丹沢火山灰)下位の石器群に帰属すると考えてよい。他の小破片については、Ⅲ・Ⅳ層出土なので、前者とは異なる時期、場合によっては縄文時代のものも含まれている可能性があるが、時期等の決定は控えた。

1554は裏面に剝離痕がみられるが磨耗しており、出土したこの状態で長く使われていたようであるが、原型はさらに大きかったものと考えられる。両側面ともに研磨痕がみられ、特に右側面はまだ剝離面を残している。研磨面は横断面・縦断面ともに中央部がくぼむ形状をなしている。1552・1555はあまりくぼみは顕著ではない。1553は欠損しているが、原形はかなり大形であったと考えられる。欠損後も使用したと推定できる研磨痕が裏面の欠損部に若干であるがみられる。研磨面にみられる線状痕は基本的には上下方向で、上下端の減りが著しい縦断面がレンズ状をなしている。研磨面は切り合っており表裏面ともに3ないし4つの面を形成している。それぞれの面は横断面が凹形状をなし、縦断面が凸形状をなし、中央部がくぼむタイプの砥石とは使用形態の違いをあらわしているのかもしれない。

08 凹石 (図版439・報告番号1556・写真図版100)

BL4039のVb層から1点出土した。表裏に1ヵ所ずつ凹部をもつ。凹部は敲打によると考えられ、半球状を呈している。上下端にやや平坦な面が看取される。それは敲打によるものではないと思われるが、研磨面とも言えない状況である。

09 敲石 (図版440~442・報告番号1557~1570・写真図版100~101)

敲石は104点出土した。出土層位はⅢ層20点、Ⅳ層19点、Va層27点、Vb層28点、Vc層2点、V層一括7点であった。各層より出土している。まとめて出土した遺構はBL4070で9点、次いでBL4044・4067・4068で各5点出土した。BL4044はやや北に位置するが、他の3ブロックは地点南側の接するブロックである。また、BL4044とBL4070は石核の出土が多いブロックで示唆的である。

図示できなかったが、BL4044・4045の敲石のなかに器体中央部に敲打痕が認められるものがあつた。

09 磨石 (図版442~443・報告番号1571~1574・写真図版101)

磨石は4点出土した。BL4062で2点、BL4061・4067で1点と、地点南西部の隣接するブロックから出土している。すべてⅢ層からの出土であった。石材もすべて安山岩。

1571・1872は球形の亜円礫を利用、全的に弱い磨耗が認められた。1573・1574はやや扁平な円礫を利用、1573は表裏両面、1574は表面のみに顕著な磨耗の痕跡が認められた。なお、1573・1574は敲打底も認められる。

01 台石

台石は14点出土した。出土層位はIV層2点、V a層10点、V層一括2点であった。石材は安山岩と砂岩が用いられている。

02 礫器

BL4006のIII層から礫器が1点出土した。

03 削片

削片は7点出土した。

04 剥片・砕片

剥片は7515点、砕片は3568点出土した。

05 石核 (図版444～459・報告番号1575～1644・写真図版102～110)

石核は635点出土した。出土層位はIII層103点、IV層159点、V a層166点、V b層150点、V c層5点、V層一括42点で、各層から出土している。

第4地点100ブロック中88カ所のブロックから出土している。特に20点以上と出土数の多かったブロックは、BL4039の35点、BL4081の32点、BL4052の28点、BL4044の26点、BL4006の26点、BL4070の25点、BL4051の21点、BL4059の20点であった。

石材としては安山岩・黒曜石・チャートが多い。打面転移をしているものがほとんどで、打面を固定して石刃状の縦長剥片を剥離しているのは1631の例のように非常に少ない。

06 原石

原石は40点出土した。出土層位はIII層6点、IV層12点、V a層10点、V b層7点、V c層3点、V層一括2点であった。石材はチャート、黒曜石が多いが、チャートは重量10g以下のいわゆる「イモ石」が半数近くある。BL4093では黒曜石の原石が5点出土している。出土層位は1点III層だが、あとはV a層である。

4 接合資料 (図版461～482)

第4地点での接合資料は、376例1183点あった。

地点南半部の接合は北半部に比べ圧倒的に多い。また、北半部と南半部は接合関係をほとんどもたないことが分布図からも読み取れる。第2地点と接合資料を共有することは注目していきたい。

個々の接合資料については図版の表を参照していただきたい。

全体的には無斑晶質安山岩は板状の素材(剥片)から横長もしくは貝殻状の剥片をとっている例(An-10やAn-55など)が多い。チャートの接合資料は原石近くまで戻る(C h-109・150)。原石のまま搬入されたことがうかがわれる。

Ob-79 黒曜石の搔器1点、搔器状石器2点の接合資料である。これらの石器が、一連の剥離作業で作られ出したことがうかがわれる。

第3章 西岡A遺跡

第1節 遺跡と調査の概要

1 遺跡の概要

西岡A遺跡は、長野県上水内郡信濃町大字野尻字傳九郎1521-1他に所在する。本遺跡は、野尻湖の西から南西方向に次第に標高を増していく仲町丘陵の最南端に位置し、隣接して東側に貫ノ木遺跡が広がるが、貫ノ木遺跡よりも一段低い西向きの緩斜面にある。野尻湖までの距離は約2kmほどである。標高は685m前後である。

本遺跡は、過去に発掘調査歴がなく、遺跡の詳細な情報はなかったが、隣接して野尻湖発掘調査団によって調査がされていた貫ノ木遺跡の状況などから、旧石器時代を中心とした遺跡であることは予想されていた。また、今回の調査の前年にあたる1993年には東方200mにある西岡B遺跡において宅地造成に伴う事前調査が信濃町教育委員会によって行われ、斧形石器をはじめ旧石器時代の遺物が発見されていた。

遺跡の範囲は、後述する県教委・町教委の試掘調査結果から標高690m～710mで、南北約500m、東西約150mといった南北に細長い広がりをもつことが明らかになった。

2 調査の概要（第69図）

(1) 調査範囲と調査方法

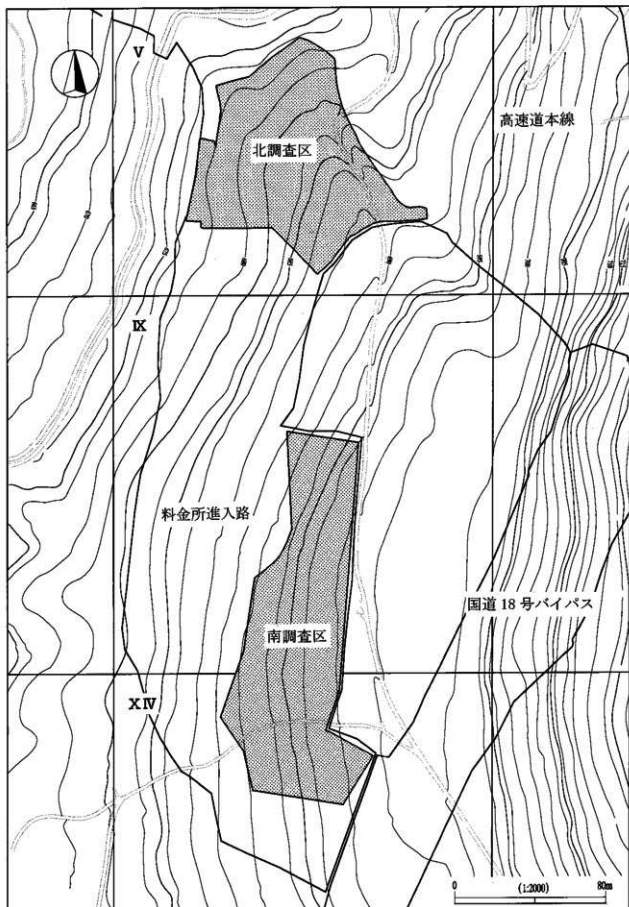
前項でも述べたように、西岡A遺跡は遺跡情報が少なかったため、事前に県教委・町教委によって試掘調査を行い、遺跡の範囲を確定していった。調査区の設定については隣接する貫ノ木遺跡と同時に行い、大々地区の呼称も両遺跡で通しにした（第2図参照）。大々地区は、V・IX・X・XIV・XVの5区画であるが、今回の調査で実際に遺物が検出されたのはV・IX・XIVの3地区であった。

西岡A遺跡は、上信越自動車道野尻インターチェンジの料金所にあたる。高速道本線から南に分岐して料金所に至る本線が遺跡範囲とかなりの面積で一致する。発掘調査は平成6・7年度の2か年に分けて行われた。

平成6年度は高速道本線から料金所予定地に分岐する地点（V区）とバイパス本線部分（IX・XIV区）の2か所を調査した。平成7年度はV区の一部と料金所予定地（IX・XIV区）の2か所調査を行った。

V区は遺跡の北端にあたり、遺物が集中して検出された。県教委のトレンチによる試掘調査で、遺物は遺跡範囲に広範に広がることと、遺物包含層上面であるローム層漸移層（Ⅲ層）までは浅いことがわかっていたので、遺跡の範囲内はすぐに表土を剥ぎ、精査に入った。遺跡境界部分はトレンチを入れ、遺物が出土した場合は拡張したが、県教委の試掘結果から大きな範囲変更はなかった。

IX・XIV区は平坦な地形であり、町教委による試掘で遺物が発見されていた。しかしながら遺物は散漫で、はっきりと遺跡の範囲がとらえられてはいなかった。平成6年度に調査を行ったバイパス本線部分は、遺跡の南端にあたるXIV区の最南端でトレンチ調査のみで調査を終了したが、基本的には調査対象範囲を面的に広げて調査を行っていった。重機により表土及び黒色土除去後、Ⅲ層上面よりジョレンを用い精査を行っていった。原則としてV層まで精査を行って、遺物が検出されなくなってから、下層の文化層を



第69図

確認するため、部分的に重機を用い、試掘坑を設けていった。結果、バイパス本線部分では遺物が散見される程度で、ブロックや礫群をとらえることはできなかった。平成7年度調査を行った料金所予定地周辺でも、試掘による遺物の出土数は少なかった。したがって、本調査ではトレンチや2×2mの試掘坑を併用して、遺物の出土状況を確認しながら面的調査範囲を拡大していった結果、このIX・XIV区では、8ヵ所のブロック、8基の礫群を検出するに至った。

バイパス本線部分のX区は、貫ノ木遺跡と本遺跡との境界部分にあたり、急斜面であったが、表土層より石器類が若干採集されたので、平成6年度に重機によりトレンチ調査を行った。トレンチは、幅を2mとし、バックフォーにより、表土および黒色土を除去後、ジョレンによる精査をし、遺構・遺物の検出作業を行い、遺物等が見られなかった場合は、再度重機により数cmずつ掘り下げては、ジョレンによる精査を繰り返し行い、最終的にはVII層の上面（約4万年前の黒姫火山のスコリア層）まで掘り下げたが、遺物包含層を検出することはできなかった。

(2) 調査経過（調査日誌抄）

平成8年度

4月21日	平成6年度の発掘開始。V区はすでに重機により表土剥ぎを行っていたので、III層から精査に入る。	8月23日	X区、重機によるトレンチ調査終了。
5月11日	遺跡範囲の確認のため重機により、V区北側にトレンチを入れる。（調査期間1週間）	8月25日	X区、空測・空撮を実施。トレンチの設置状況の記録を行う。
5月24日	V区で、遺物が出土しなかった範囲について、重機により下層（V層）の遺物検出作業に入る。	8月26日	IX・X区北側より重機による表土剥ぎを開始する。
6月9日	V層上面の地形測量。	9月1日	IX・X区、ジョレンによる精査開始。
7月8日	V区東半部の調査終了。	9月12日	調査範囲は順次XIV区へ移行。
7月19日	高速度用地にそってガス管を埋設するため、用地西隣側道を調査することとなる（V区西）。	9月28日	XIV-E区より礫が出土するが、礫群にはなりそうもない。
7月23日	V区西、漸移層より遺物が出土しはじめる。ブロックを形成しそうである。	10月5日	V区西、8月終了範囲よりもさらに東へ10mの幅で、工事作業ヤードが必要ということで、調査を再開する。
8月9日	貫ノ木遺跡との境を確認するため、斜面部に重機によるトレンチ調査開始（X区）。バイパス用地内の西岡A遺跡の調査開始となる。貫ノ木遺跡寄りの斜面上部より下部に向かってトレンチを入れる。	10月14日	XIV-J区において剥片出土。遺物はきわめて希薄で、遺跡の周辺部にあたると思われる。
8月19日	V区西、遺物はIII-IV層上部で、下層には広がらない。側道部分の調査を終了する。	11月20日	XIV-S区でIII層中より赤化礫が確認される。
8月22日	X区、トレンチ内からの遺物は検出されない。	11月28日	XIV-S区出土の礫は礫群と認定し調査を進めるが、礫の密集度はあまりなく、散漫な分布状況をしめす。
		10月30日	V区西、調査終了。
		12月8日	調査範囲の測量調査（9日まで）。
		12月9日	平成6年度発掘調査終了。

平成7年度

4月5日	重機による表土剥ぎ 作業開始。V区、昨年の残り部分の調査から入る。	7月13日	IX区・XIV区の本格調査に入る。
4月11日	IX区・XIV区のとレンチ調査を並行して行う。	9月21日	IX区、ブロックを検出する。
4月27日	V区、ブロックの調査を開始する。	9月22日	國學院大學小林達雄教授視察。
5月11日	V区、礫群精査。	9月26日	IX-W区ブロック精査。
		9月28日	XIV-C区ブロック完掘。

10月12日 SH38検出。

行う。

10月13日 XIV-H区ブロック完掘。IX・XIV区の空堀を

10月20日 調査終了。

3 基本層序 (第10図)

西岡A遺跡の土層は、貫ノ木遺跡台地部の土層と同じであった。したがって層序名とその特徴については第2章第1節4を参照していただきたい。

第2節 調査の結果

1 調査結果の概要

(1) 地形と遺物の分布

遺跡全体は西向き緩斜面でいくつかの沢が入り、そのことによって遺物の分布が途切れるようである。座標90800ライン上に比較的大きな沢が入るため、今回の調査ではその沢を挟んで北調査区と南調査区でそれぞれ面的に精査をし、遺構・遺物を調査した。

北調査区では、17ヵ所のブロックと22基の礎群を検出した。一方南調査区では8ヵ所のブロックと8基の礎群を検出した。北調査区のブロックはさらに東西2つのブロック群にわかれて分布する。

(2) 遺物の出土層位 (第48表)

遺物は、II層～V c層まで出土している。地形的に西向き斜面で安定しているため、調査区内での層位の大きな差異は認められなかった。北調査区の石器類はIII層1002点、IV層741点、V a層63点、V b層6点、V c層1点、V層一括16点であり、南調査区の石器類はIII層419点、IV層521点、V a層215点、V b層117点、V c層5点であった。北調査区は、III・IV層が主体を占め、V a層になると激減する。一方、南調査区もやはりIII・IV層が多いが、V a・V b層にも一定数の遺物があり、北調査区に比べ、下層の石器文化が想定された。ただ、遺跡全体としてはIII・IV層の石器文化が主体となっていることは遺物の出土層位から言えることである。

(3) 器種組成 (第49表)

石器3181点、礫769点が出土した。器種組成は、ナイフ形石器55点、台形石器6点、槍先形尖頭器41点、角錐状石器4点、彫器23点、揉錐器2点、搔器27点、削器122点、挟入削器16点、楔形石器12点、石刃28点、2次加工のある剥片32点、微細刻離痕のある剥片88点、敲石24点、有茎尖頭器1点、ナイフ形石器破片3点、削器破片1点、折断剥片4点、槍先形尖頭器破片1点、尖頭器調整剥片7点、敲石破片2点、石核破片2点、剥片1791点、削片5点、砕片746点、石核135点、原石3点である。

(4) 石材組成 (第50～53表)

石器3181点の総重量は558.44kgになる。剥片石器類の主要な石材は、無斑晶質安山岩が1386点で285.42kgであった。次いで多かったのは、黒曜石が889点で16.92kg、凝灰質頁岩が194点で59.23kg、珪質頁岩が176点で22.96kg、凝灰岩が115点で24.31kgであった。点数的には黒曜石が多いが、頁岩・凝灰岩系の石材は重量的には多い。

分布上の偏りをみると、無斑晶質安山岩は各ブロックに分布するが、北調査区西側ブロック群、南調査区では、BL18・20に集中する。黒曜石は和田麩山群(WDTY)がBL11と14に集中する。このブロックからは小形の槍先形尖頭器が多数出土している。頁岩・凝灰岩系の石材は各ブロックから出土している。

第3章 西岡A遺跡

ブロック	II	III	IV上	IV	IVF	V	Va	Vb	Vc	攪乱	合計
1		15		9	2						26
2		26	4	38	5						73
3		30	5	50	3						88
4		7	1	19	10	1					38
5		115	12	49	7	1					184
6		52	2	12	1						67
7		57	2	23							82
8	4	23									27
9		19	4	13							36
10	2	17									19
11		89	67		44		21	1			222
12		97	18	1	7		2	4	1		130
13		53	90		56		35	1			235
14		78	60		35		5				178
15		179		44		14					237
16		56	6		1						63
17		89		41							130
18		113	96		133		160	92			594
19		10	7					2			19
20		101	39		5		2				147
21		9	26		8		14	11	5		73
22		31	20		9		16	6			82
23		6	7		8		20	5			46
24		18	2		1						21
25		131	126		34		3				294
外		53	5	8	1					3	70

第48表 西岡A遺跡 ブロック別出土層位組成表

ブロック	ナイフ形石器	台形石器	槍先形石器	角造形石器	形器	批條器	罌器	挿入罌器	楕形石器	石刃	2次加工のある銅片	微細銅産の心る銅片	敲石	磁石	有茎尖頭器	ナイフ形石器破片	罌器破片	折断銅片	槍先形尖頭器破片	尖頭器銅製銅片	磁石破片	石板破片	銅片	銅片	砂片	石核	原石	合計	
1	1						1	2				1																	26
2	3						2					2	1										17						73
3	4						1					2	1										54		25	1			88
4	5										3	2											22		6				38
5	3						1	1			2	5											82		73	3			184
6	1						1				1	1	1										32		28				67
7	4	2					3	2	4		1	2	3										39		16	6			82
8							1	4			2	2	1	1									13		5				27
9							1	1			2	1	2	1									22		6				36
10	3							2			1	1											9		2				19
11	1	1	13	2			7	21	6		1	10	12			1						5	75	52	5				222
12	5						1	8			4	8											65		29	10			130
13	1	1	2				3	15	2	1	3	1										1	150		46	8			235
14	2	12	1	1			5	10	4	1	3	15											81		37	4	1		178
15	11						18				1	2	6	4		1	2						1	150		21	19		237
16							1	4			1	5	1										41		9	1			63
17	5						1	12	1		2	4				1						2	85		17				130
18	2						2	5		5	2	9	1										473		59	34			594
19	1																						13		3				19
20	2										1	1	2										108		23	7			147
21											2	2											30		30	4			73
22		1					11	1		1	12	1	2										37		3	8	5		82
23											1	1	2										32		2	6	1		46
24											2					1							6		5				21
25								1	2	2	1	4											56		225	3	1		294
外	1	1	1				1			1	1	3	1										47		1	10	2		70
合計	55	6	41	4	23	2	27	122	16	12	28	82	88	24	0	1	3	1	4	1	7	2	2	1791	5	746	135	3	3181

第49表 西岡A遺跡 ブロック別器種組成表

ブロック	無名 赤灰土 山石	黒曜石	チャ ー ト	建築 用 石	瓦 礫	遺 民 用 石	紀 伊 半 島 石	海 成 石	緑 色 硬 質 石	玉 子	鉄 石 灰	蛇 紋 石	流 紋 石	砂 岩	安 山 岩	不 明	合 計
1	17 394.5	7 65.4		1 4.1				1 7.8									56 471.5
2		23 78.5	2 17.7	1 33.3	1 7.6	37 216.1		1 1.0					1 324.6				73 878.1
3	2 5.1	4 3.3	1 11.4	5 7.9	33 120.7	2 48.0		1 1.0		39 215.6	2 4.5				1 779.5		88 1198.1
4	6 88.4	2 7.3		2 11.1	2 73.2					8 147.7							38 327.7
5	38 784.6	48 62.5	3 1.2	28 310.3	1 3.8			123.8		61 346.3	2 2						184 1635.3
6	4 41.4	25 13.1		32 141.9	1 0.5					1 0.3	2 21.5	2 2.0			1 431.2		67 653.8
7	36 1029.1	16 41.9		8 142.4	2 27.6	1 57.0		1 3.2		1 11.7	2 4.6						82 1385.9
8		8 13.1	3 5.1	7 35.5				1 11.7		2 4.6				1 514.3			27 662.3
9	14 179.1	7 19.2		4 6.0		6 121.3		2 6.1		2 10.7				1 11.1			36 353.3
10	9 195.0		3 13.5														19 225.0
11	14 115.7	192 410.2	6 26.7	6 109.9	6 33.1			1 67.9	2 6.5								227 737.5
12	106 178.1	3 9.2	1 2.9	5 65.1		6 256.0		3 30.8					1 119.4				130 2260.0
13	185 2291.6	28 53.8				5 110.8		18 307.2						1 26.2			235 2789.6
14	26 259.7	134 291.9	1 0.8	6 28.7		2 55.4		6 70.4		3 13.0							178 719.9
15	211 4128.2	2 4.3	1 1.8			1 4.1		1 24.9	9 353.5				11 824.8		1 139.5		237 5482.8
16	53 467.8	14 35.2	2 2.2					2 3.4	10 81.2					2 69.8			63 659.8
17	109 3725.3	2 30.8		1 0.6		1 15.4		1 42.6	8 342.8					8 1297.1			130 5454.6
18	892 6327.7	27 105.7	31 216.0	35 893.9	0.4	1 2969.0		73 21.7	1 547.7	32 1			1 3.7				594 10886.9
19	11 173.7	4 10.6	1 2.7			1 11.6		1 11.6	1 435.0			1 13.3					19 646.4
20	91 1378.2	6 9.3		1 2.4		9 203.4		12 164.2	8 13.6	19 567.9	1 2.5			2 1901.4			147 4332.8
21	31 1185.7	3 7.2	4 45.1	11 48.0		5 134.2		5 37.7	10 342.4					4 728.8			73 2509.2
22	10 366.9	11 35.6	1 10.4	7 44.1		24 730.6		26 464.9	3 56.9					1 126.1			83 1835.3
23	12 3271.5	1 3.1	6 359.9	4 52.3		15 1012.5		3 17.9	3 13.9					1 326.0			1 46 6654.1
24	6 84.6	3 9.7		5 42.8		1 36.9		4 7.6	2 1.7								21 182.9
25	2 6.1	289 301.8	2 28.1						1 3.8								3 33.9
外	21 337.8	24 49.3	2 2.9	8 307.2		5 253.4		4 37.5	1 4.7	3 5.0			3 55.3	1 1672.6			70 2675.7
合計	1386 2654.0	889 1022.7	69 833.4	176 2296.2	62 266.9	194 5023.7	86 1337.4	115 2431.7	21 572.9	139 878.9	5 28.1	1 11.1	1 55.3	1672.6 8126.9	3 1300.2	1 1606.2	3181 55844.4

第50表 西岡A遺跡 ブロック別石材組成表(上段:点数、下段:重量(g))

第3章 西岡A遺跡

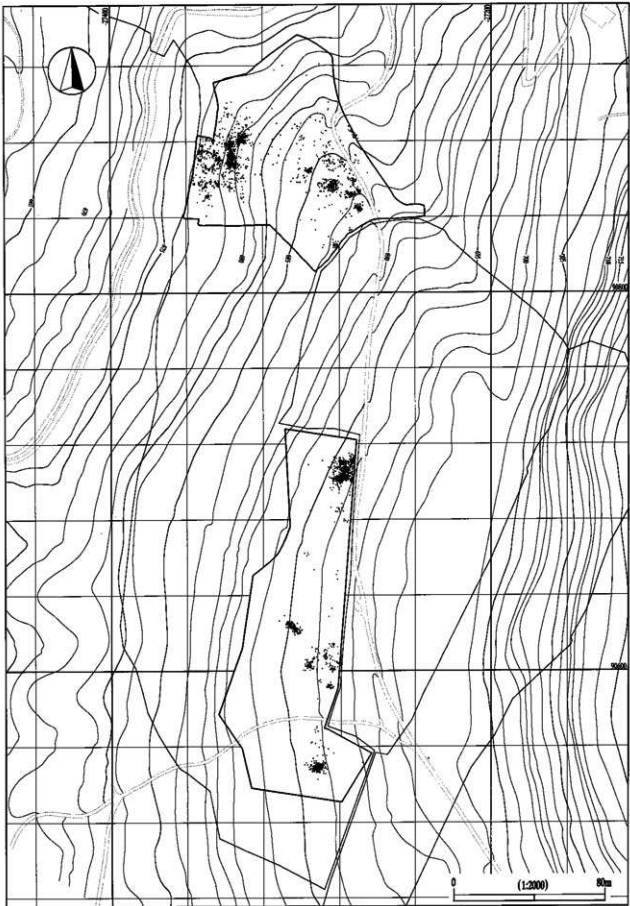
ブロック	材質	合計	ナイフ彫石器	白彫石器	楕円形尖頭器	角筒状石器	彫器	撻器	撻器	挿入彫器	楕円石器	石刀	2次加工のある刮片	微細刻線のある刮片	磁石	砥石	有茎尖頭器	ナイフ形石器破片	削器破片	新製刮片	尖頭器調整刮片	磨石破片	刮片	骨片	骨片	骨片	石槌	石	石
1	An	17																											
	Ob	7												1															
	SS	1	1																										
	Tu	1																											
	TS	37	1											1															
2	Ob	29	2											1															
	Tu	2												1															
	Ch	2																											
	Sh	1																											
	SS	1																											
3	Ag	39	3																										
	Sh	33	1																										
	Ob	4																											
	SS	3																											
	An	2																											
4	Ja	2																											
	TS	2																											
	Ch	2																											
	Tu	1																											
	安山岩	1																											
5	Sh	22	4																										
	Ag	5																											
	An	5	1																										
	Ob	2																											
	SS	2																											
6	Tu	0																											
	Ag	61																											
	Ob	46	1		2																								
	An	38	2																										
	SS	28																											
7	ST	7																											
	Ch	3																											
	Sh	1																											
	Ja	1																											
	安山岩	1																											
8	SS	32	1																										
	Ob	25																											
	An	4																											
	Ag	2																											
	GI	1																											
9	Ja	1																											
	Sh	1																											
	安山岩	1																											
	An	36	1	1																									
	Ag	17	2																										
10	Ob	16																											
	SS	8	1																										
	Sh	2																											
	Ja	1																											
	TS	1																											
11	Tu	8																											
	Ob	7																											
	SS	5																											
	Ag	5																											
	Ch	2																											
12	Tu	2																											
	Sh	1																											
	An	14	1																										
	Ch	6																											
	SS	6																											
13	Tu	2																											
	Sh	1																											
	Ob	192	1	13	2																								
	An	14																											
	Ch	6																											

第51表 西岡A遺跡 石材別器種組成表1

第3章 西岡A遺跡

ブロック	材質	合計	ナイフ形石器	台形石器	積先形尖頭器	尖頭状石器	形器	柱状器	棒器	削器	抉入削器	楔形石器	石刀	2次加工のある石片	採集層のある石片	砥石	砥石	有茎尖頭器	ナイフ形石器破片	積先形尖頭器破片	削器破片	折断石片	尖頭器調整軌片	砥石破片	石核破片	削片	砕片	石核	原石
22	Ob	3							1															2					
	ST	25					8	1					12											2	1		1		
	TS	24					1			1														20			2		
	Ob	11					1								1									3	1	5			
	An	10														1								6		2	1		
	SS	7		1			1																	4	1				
	Tu	3																						2					
	Ch	1																						2					
	Sa	1															1											1	
23	TS	15																						13			2		
	An	12													1									8		1	1		
	Ch	6																						3					
	SS	4										1			1									2				3	
	ST	3																						2					
	Tu	3																						3					
	Ob	1																						1					
	Sa	1															1							1					
	不明	1															1												
24	An	6			1																			4					
	SS	6			2		1																						
	ST	4													1									1		3			
	Ob	3																							1				
	Tu	2																									2		
	TS	1																											
25	Ob	289								1	2	2	1											54	223	2	1		
	An	2																						2					
	Ch	2																						2					
	Tu	1																									1		
	不明	1																											
外	Ob	24	1										1	2										12		8			
	An	21									1													18		1			
	SS	8													1									4	1		2		
	TS	5					1																	4					
	Tu	4																						4					
	Ag	3			1																			2					
	Cl	2																						1		1			
	Rh	1																						1					
	Sa	1																						1					

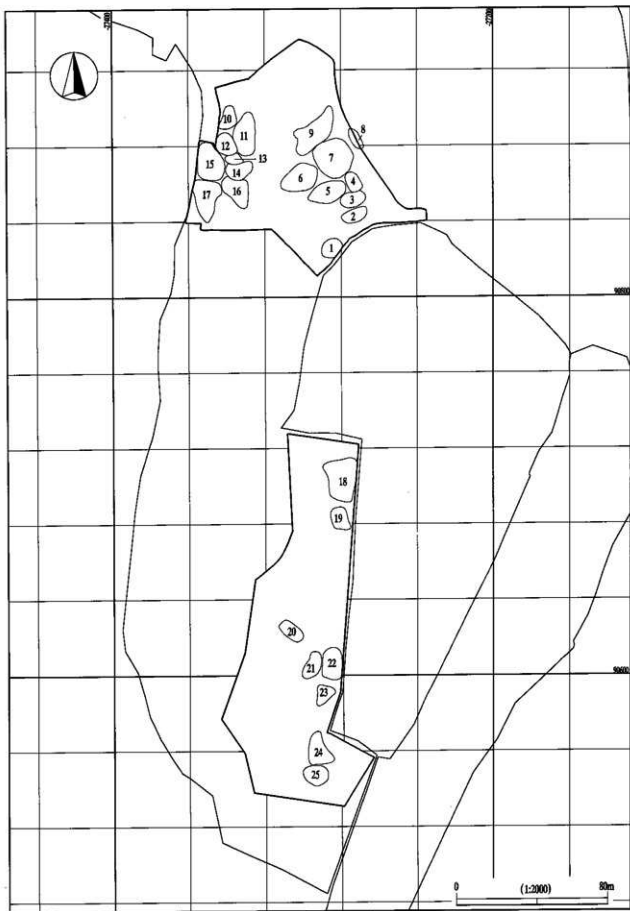
第53表 西岡A遺跡 石材別器種組成表3



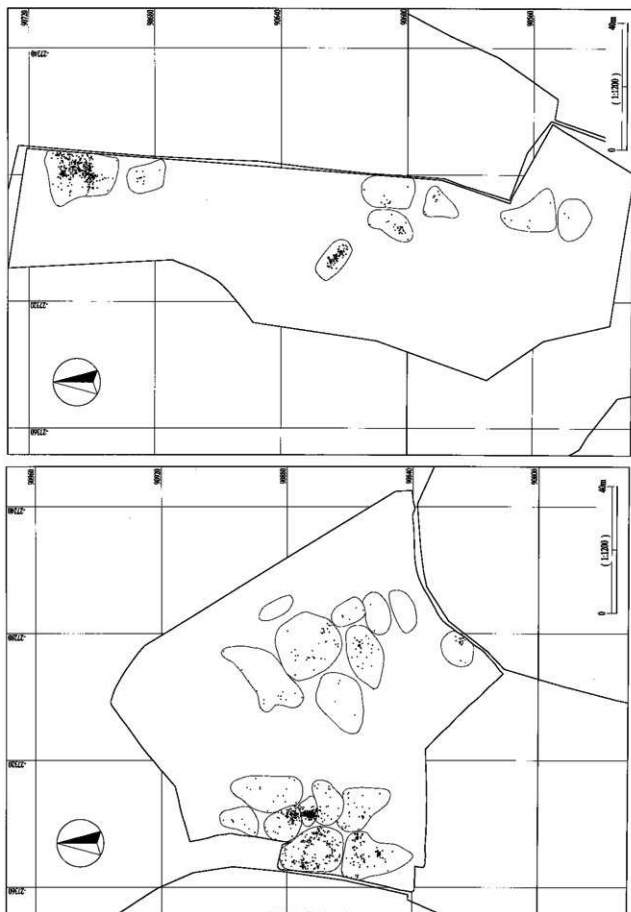
第70図 西岡A遺跡 石器全点



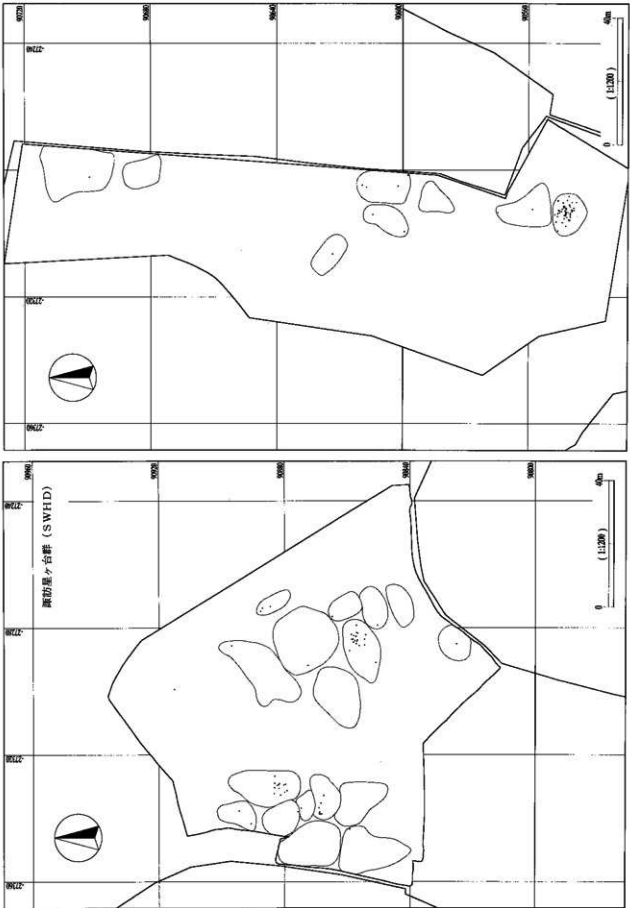
第71図 西岡A遺跡 石器全点（ブロック範囲入り）



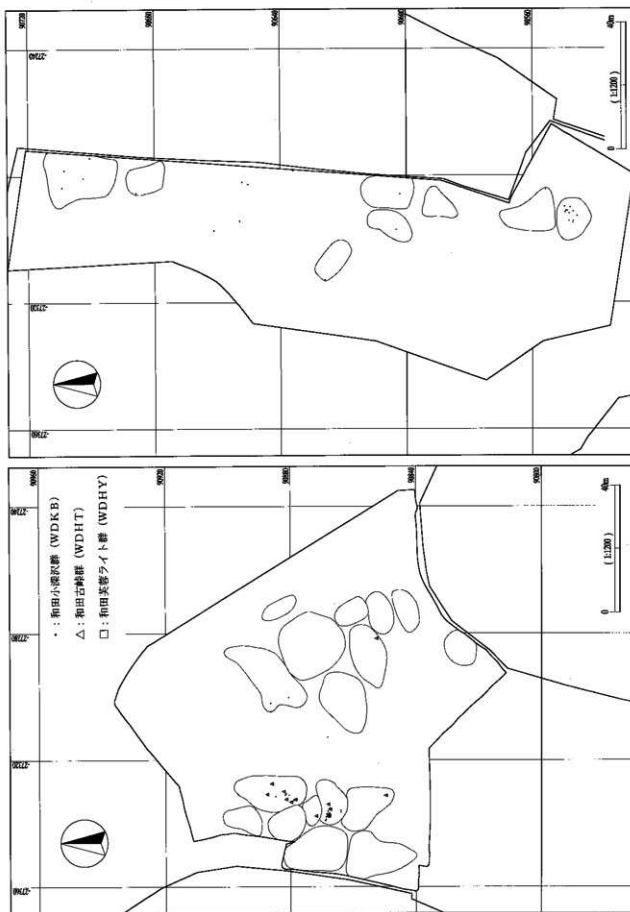
第72図 西岡A遺跡 ブロック配置図



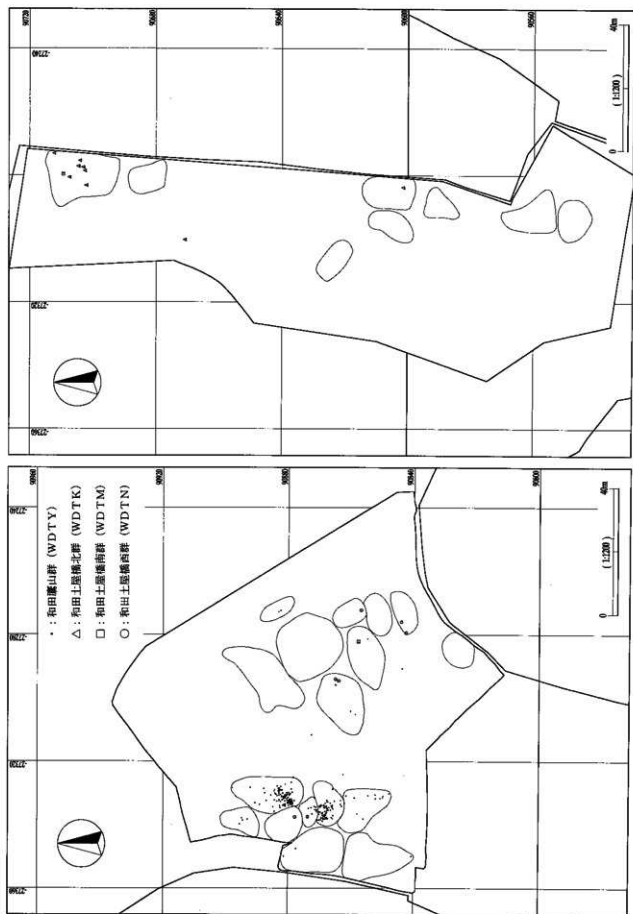
第73図 西岡A遺跡 石材別分布図 I (無斑晶質安山岩)



第74図 西岡A遺跡 石材別分布図2 (黒曜石産地別1)



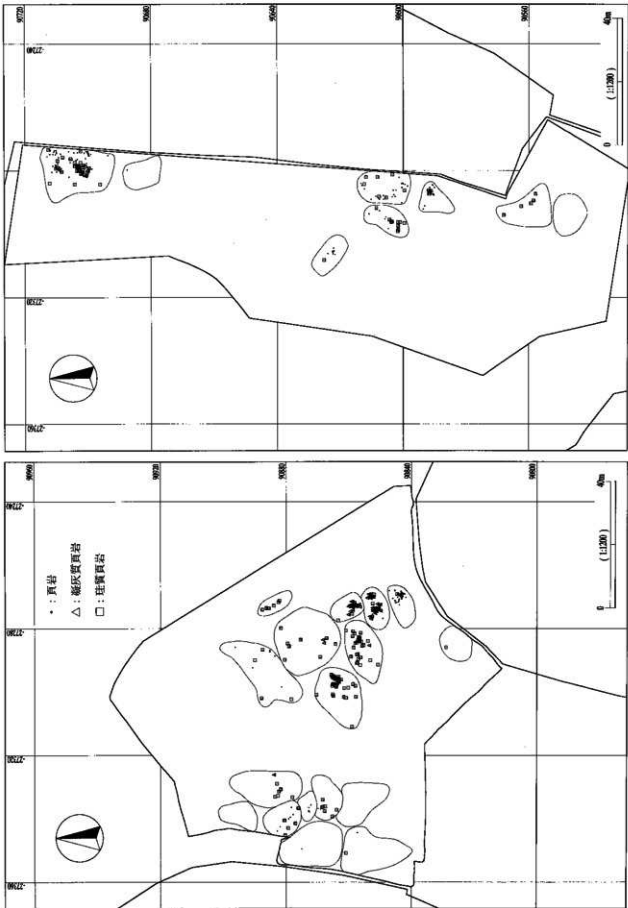
第75図 西岡A遺跡 石材別分布図3 (黒曜石産地別2)



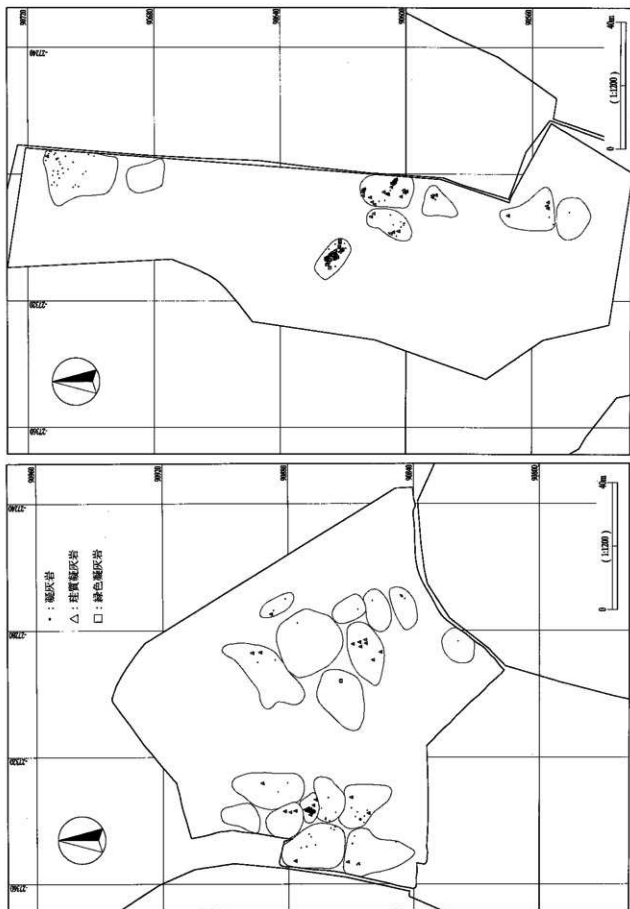
第76図 西岡A遺跡 石材別分布図4 (黒曜石産地別3)



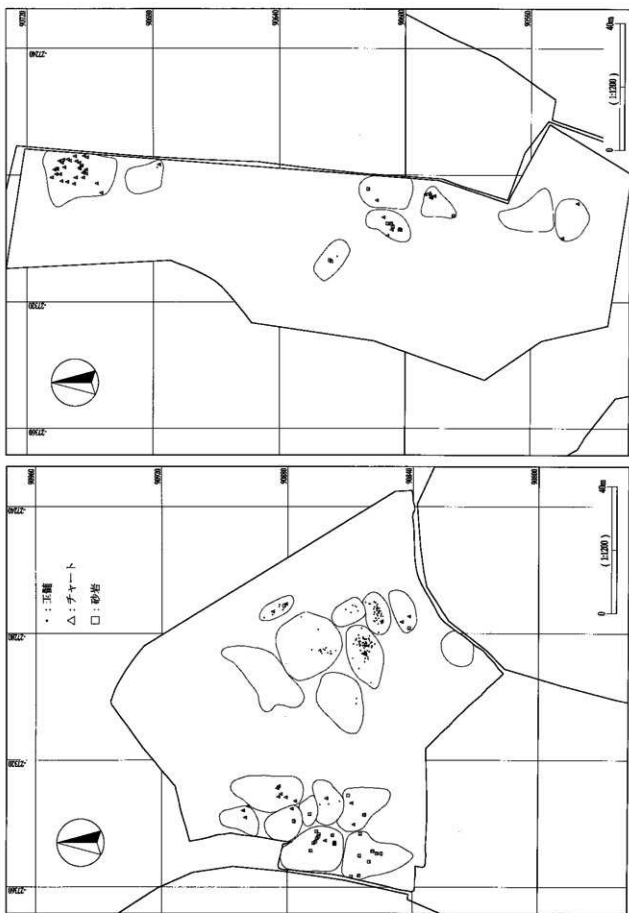
第77図 西岡A遺跡 石材別分布図5 (黒曜石産地別4)



第78図 西岡A遺跡 石材別分布図6 (頁岩系)



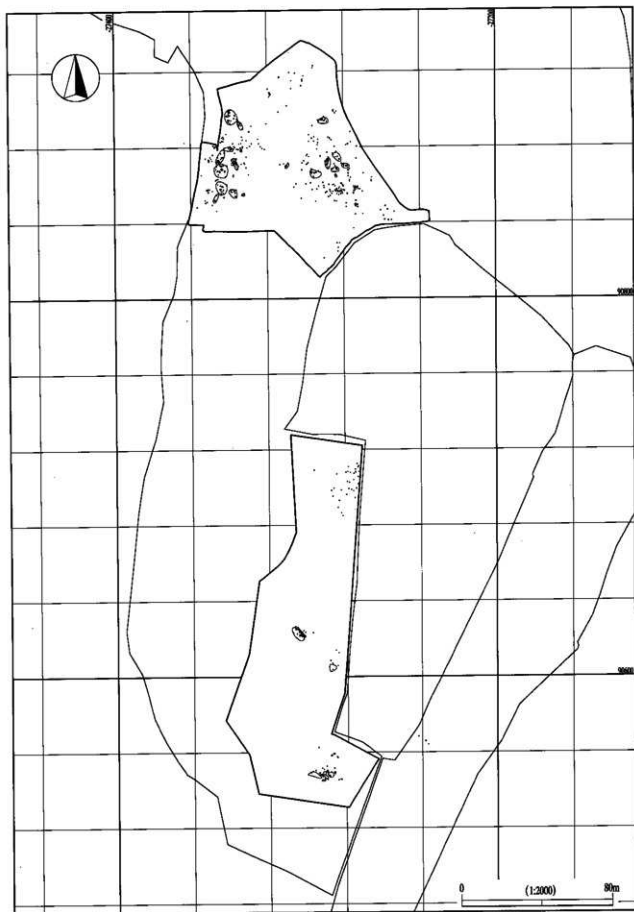
第79図 西岡A遺跡 石材別分布図7 (凝灰岩系)



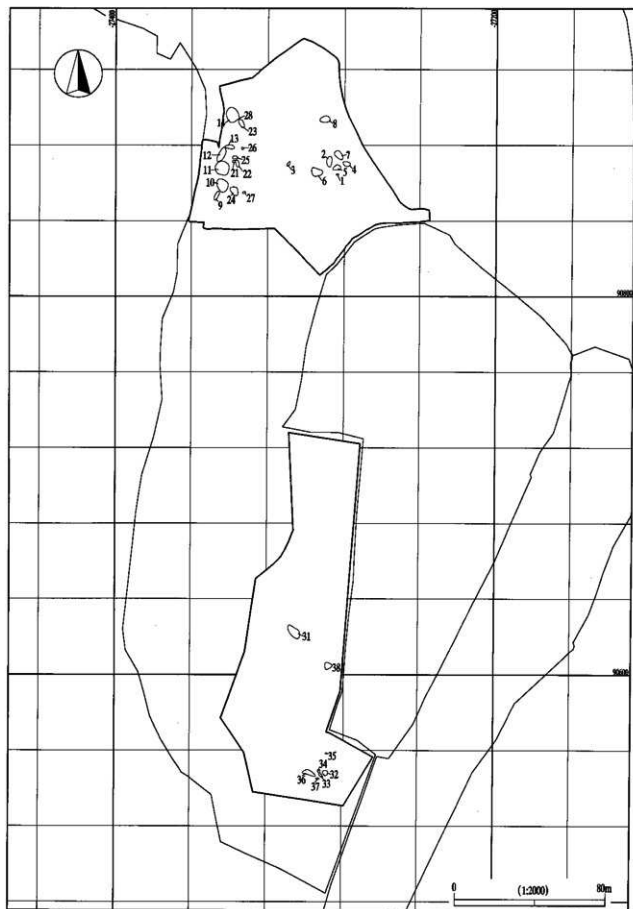
第80図 西門A遺跡 石材別分布図8 (その他の石材)



第81図 西岡A遺跡 跡全点



第82図 西岡A遺跡 標全点 (標群範囲入り)



第83図 西岡A遺跡 礎群配置図

2 遺構

(1) ブロック

第1号ブロック (図版487)

本ブロックはV WS08グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸にして12×9.1mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が26点、礫が4点で総数30点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ下層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器1点、削器2点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片17点、砕片4点である。石材は、無斑品質安山岩が主体である。

第2号ブロック (図版487)

本ブロックはVSD20グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸にして13.4×6.6mの平面的広がりをもつ。北に第3号ブロックが接する。遺物は、石器が73点、礫が2点で総数75点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ下層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、削器2点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片53点、砕片12点である。石材は、凝灰質頁岩、黒曜石が多い。

第3号ブロック (図版488)

本ブロックはVSD15グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸にして12.5×8.7mの平面的広がりをもつ。周囲に第2・4・5号ブロックが接する。遺物は、石器が88点、礫が12点で総数100点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ下層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器4点、搔器1点、微細剥離痕のある剥片2点、敲石1点、剥片54点、砕片25点、石核1点である。石材は、玉髄、頁岩が主体である。

第4号ブロックと接合資料を共有する

第4号ブロック (図版488)

本ブロックはVSD11グリッドを中心に、北西—南東方向を長軸にして10.8×7.1mの平面的広がりをもつ。周囲に第3・5・7号ブロックが接する。遺物は、石器が38点、礫が27点で総数65点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴ層までだが、Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器5点、石刃3点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片22点、砕片6点である。石材は、頁岩が主体である。

第3号ブロックと接合資料を共有する。

第5号ブロック (図版489)

本ブロックはVRQ13グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸にして20.5×10.8mの平面的広がりをもつ。東に第3・4号ブロックが接する。遺物は、石器が184点、礫が50点で総数234点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴ層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、槍先尖頭器3点、揉錐器1点、搔器1点、削器9点、石刃2点、微細剥離痕のある剥片5点、削器破片1点、尖頭器調整剥片1点、剥片82点、砕片73点、石核3点である。石材は、玉髄、黒曜石、無斑品質安山岩、珪質頁岩が主体である。

第6号ブロック (図版489)

本ブロックはVRK09グリッドを中心に、北東—南西方向を長軸にして20.5×14.2mの平面的広がりをもつ。周囲に第5・7・9号ブロックが近接する。遺物は、石器が67点、礫が9点で総数76点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ下層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、搔器1点、楔形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、敲石1点、尖頭器調整剥片1点、剥片32点、砕片28点である。石材は、珪質頁岩、黒曜石が主体である。

第7号ブロック (図版490)

本ブロックはVRS04グリッドを中心に、東西21.3×南北21.2mの平面的広がりをもつ。周囲に第4・9

号ブロックが接する。遺物は、石器が82点、礫が14点で総数96点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器4点、台形石器2点、彫器3点、搔器2点、削器4点、石刃1点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片3点、剥片39点、砕片16点、石核6点である。石材は、無斑晶質安山岩、玉髄、黒曜石が主体である。

Ⅲ層主体の第1・2・4・5・7号礫群と重複する。

第8号ブロック (図版491)

本ブロックはVND19グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸にして12.6×4.6mの平面的広がりをもつ周囲に第7・9号ブロックが近接する。遺物は、石器が27点、礫が1点で総数28点となる。出土層位は、Ⅱ層～Ⅲ層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、彫器4点、石刃2点、微細剝離痕のある剥片1点、敲石1点、剥片13点、砕片5点である。石材は、黒曜石、珪質頁岩、玉髄が比較的多い。

第9号ブロック (図版491)

本ブロックはV MN17グリッドを中心に、北東-南西方向を長軸にして30.7×13.5mの平面的広がりをもつ。南東に第7号ブロックが接する。遺物は、石器が36点、礫が20点で総数56点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、彫器1点、削器2点、抉入削器1点、石刃2点、微細剝離痕のある剥片1点、剥片22点、砕片6点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

Ⅲ層主体の第8号礫群と重複する。

第10号ブロック (図版492)

本ブロックはVLK13グリッドを中心に、南北12.5×東西9.1mの平面的広がりをもつ。南東に第11号ブロックが接する。遺物は、石器総数19点となる。出土層位は、Ⅱ層～Ⅲ層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器3点、槍先形尖頭器1点、削器2点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、剥片9点、砕片2点ある。石材は、無斑晶質安山岩、黒曜石、チャート主体である。

Ⅲ層主体の第23号、Ⅳ層主体の第11・14号、Ⅳ上層主体の第28号礫群と重複する。

第11号ブロック (図版493)

本ブロックはVLP18グリッドを中心に、南北22.7×東西11.1mの平面的広がりをもつ。周囲に第10・12号ブロックが接する。遺物は、石器が222点、礫が17点で総数239点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴb下層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、槍先形尖頭器13点、角錐状石器2点、搔器7点、削器21点、抉入削器6点、石刃1点、2次加工のある剥片10点、微細剝離痕のある剥片12点、ナイフ形石器破片1点、尖頭器調整剥片5点、剥片75点、砕片62点、石核5点である。石材は、黒曜石が卓越する。

Ⅲ層主体の第23号、Ⅳ下層主体の第26号礫群と重複する。

第12号ブロックと接合資料を共有する。

第12号ブロック (図版494)

本ブロックはVQK01グリッドを中心、北西-南東方向を長軸にして13.9×9.4mの平面的広がりをもつ。周囲に第11・13・15号ブロックが接する。遺物は、石器が130点、礫が17点で総数147点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴc層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器5点、搔器1点、削器8点、2次加工のある剥片4点、微細剝離痕のある剥片8点、剥片65点、砕片29点、石核10点である。石材は、無斑晶質安山岩が卓越する。

Ⅳ層主体の第12・13号礫群と重複する。

第11・13・15号ブロックと接合資料を共有する。

第13号ブロック (図版495)

本ブロックはVQM04グリッドを中心に、東西9.1×南北5.7mの平面的広がりをもつ。周囲に第11・12・14・15号ブロックが接する。遺物は、石器が235点、礫が3点で総数238点となる。出土層位は、Ⅲ層～V b下層までだが、IV上層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、台形石器1点、槍先形尖頭器2点、搔器3点、削器15点、挟入削器2点、楔形石器1点、2次加工のある剥片3点、微細刻離痕のある剥片1点、折断剥片1点、石核剥片1点、剥片150点、砕片46点、石核8点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越する。

IV下層主体の第21号、IV上・V a層主体の第25号、V a層主体の第22号礫群と重複する。

第12・14・15号ブロックと接合資料を共有する。

第14号ブロック (図版496)

本ブロックはVQN08グリッドを中心に、東西14.1×南北9.2mの平面的広がりをもつ。周囲に第13・15・16号ブロックが接する。遺物は、石器が178、礫が4点で総数182点となる。出土層位は、Ⅲ層～V a層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、槍先形尖頭器12点、角錐状石器1点、形器1点、搔器5点、削器10点、挟入削器4点、楔形石器1点、2次加工のある剥片3点、微細刻離痕のある剥片15点、剥片81点、削片1点、砕片37点、石核4点、原石1点である。石材は、黒曜石が卓越する。

V a層主体の第22号礫群と重複する。

第13・15・16号ブロックと接合資料を共有する。

第15号ブロック (図版497)

本ブロックはVQF05グリッドを中心に、南北20×東西13.3mの平面的広がりをもつ。周囲に第12・13・14・15号ブロックが接する。遺物は、石器が237点、礫が19点で総数256点となる。出土層位は、Ⅲ層～V層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器11点、角錐状石器1点、削器18点、石刃1点、2次加工のある剥片2点、微細刻離痕のある剥片6点、敲石4点、ナイフ形石器剥片1点、折断剥片2点、石核剥片1点、剥片150点、砕片21点、石核19点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越する。

IV層主体の第12号礫群と重複する。

第12・13・14・17号ブロックと接合資料を共有する。

第16号ブロック (図版498)

本ブロックはVQN13グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸にして15.7×13.2mの平面的広がりをもつ。周囲に第14・17号ブロックが接する。遺物は、石器が63点、礫が0点で総数63点となる。出土層位は、Ⅲ層～IV下層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、搔器1点、削器4点、2次加工のある剥片1点、微細刻離痕のある剥片5点、敲石1点、剥片41点、砕片9点、石核1点である。石材は、無斑品質安山岩、黒曜石、凝灰岩が主体である。

Ⅲ層主体の第24号、IV層主体の第10号、V a層主体の第27号礫群と重複する。

第14・17号ブロックと接合資料を共有する。

第17号ブロック (図版499)

本ブロックはVQF13グリッドを中心に、南北22.1×東西15mの平面的広がりをもつ。周囲に第15・16号ブロックが接する。遺物は、石器が130点、礫が21点で総数151点となる。出土層位は、Ⅲ層～IV層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器5点、搔器1点、削器12点、挟入削器1点、微細刻離痕のある剥片2点、敲石4点、ナイフ形石器破片1点、敲石破片2点、剥片85点、石核17点である。石材は、無斑品質安山岩が卓越する。

IV層主体の第9号、IV層主体の第10号礫群と重複する。

第15・16号ブロックと接合資料を共有する。

第18号ブロック (図版500)

本ブロックはIX NB09グリッドを中心に、南北23.1×東西17.9mの平面的広がりをもつ。南に第19号ブロックが近接する。遺物は、石器が594点、礫が29点で総数523点となる。出土層位は、III層～V b層までだが、V a層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、彫器2点、削器6点、楔形石器5点、2次加工のある剥片2点、微細剝離痕のある剥片9点、敲石1点、折断剥片1点、剥片473点、碎片59点、石核34点である。石材は、無斑晶質安山岩が卓越し、次いで凝灰質頁岩、珪質頁岩が多い。

第21・22号ブロックと接合資料を共有する。

第19号ブロック (図版501)

本ブロックはIX MT20グリッドを中心に、北西-南東方向を長軸にして11.6×10.2mの平面的広がりをもつ。

北に第18号ブロックが近接する。遺物は、石器が19点、礫が3点で総数22点となる。出土層位は、III層～V b層までだが、III層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器1点、槍先形尖頭器1点、敲石1点、剥片13点、碎片3点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

第20号ブロック (図版501)

本ブロックはIXWG09グリッドを中心に、南西-北東方向を長軸にして13.8×11.8mの平面的広がりをもつ。遺物は、石器が147点、礫が2点で総数149点となる。出土層位は、III層～V a層までだが、III層が主体である。器種組成は、ナイフ形石器2点、削器3点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片1点、敲石2点、剥片108点、碎片23点、石核7点である。石材は、無斑晶質安山岩が主体である。

III層主体の第31号礫群と重複する。

第21号ブロック (図版502)

本ブロックはIX WM18グリッドを中心に、南東-北西方向を長軸にして15.2×12.2mの平面的広がりをもつ。東に第22号ブロックが接する。遺物は、石器総数73点となる。出土層位は、III層～V c下層までだが、IV上層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器1点、搔器2点、楔形石器2点、石刃2点、敲石2点、剥片30点、碎片30点、石核4点である。石材は、無斑晶質安山岩、珪質頁岩、凝灰岩が主体である。

第18・22号ブロックと接合資料を共有する。

第22号ブロック (図版503)

本ブロックはIXWR17グリッドを中心に、南北12.2×東西9.2mの平面的広がりをもつ。西に第21号ブロックが接する。遺物は、石器が82点、礫が3点で総数85点となる。出土層位は、III層～V b層までだが、III層が主体である。器種組成は、台形石器1点、彫器11点、揉錐器1点、削器1点、石刃12点、微細剝離痕のある剥片1点、敲石2点、剥片37点、削片3点、碎片8点、石核5点である。石材は、珪質凝灰岩、凝灰質頁岩、黒曜石、無斑晶質安山岩の順で多い。

IV上層主体の第38号礫群と重複する。

第18・21・23号ブロックと接合資料を共有する。

第23号ブロック (図版504)

本ブロックはXIV CP06グリッドを中心に、南東-北西方向を長軸にして11.8×9.4mの平面的広がりをもつ。北に第21・22号ブロックが近接する。遺物は、石器総数46点となる。出土層位は、III層～V b層までだが、V a層が主体である。器種組成は、楔形石器1点、2次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片1点、敲石2点、剥片32点、碎片2点、石核6点、原石1点である。石材は、凝灰質頁岩、無斑

晶質安山岩が主体である。

第22号ブロックと接合資料を共有する。

第24号ブロック (図版504)

本ブロックはXIV CP20グリッドを中心に、南北22.1×東西13.4mの平面的広がりをもつ。南に第25号ブロックが接する。遺物は、石器が22点、礫が3点で総数25点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅳ下層までだが、Ⅲ層が主体である。器種組成は、槍先形尖頭器5点、彫器1点、微細剥離痕のある剥片2点、有茎尖頭器2点、槍先形尖頭器破片1点、剥片6点、砕片5点である。石材は、無斑晶質安山岩、珪質頁岩、珪質凝灰岩が主体である。

Ⅲ層主体の第35号礫群と重複する。

第25号ブロック (図版505)

本ブロックはXIV HN07グリッドを中心に、東西13×南北10.3mの平面的広がりをもつ。北に第24号ブロックが接する。遺物は、石器が294点、礫が5点で総数299点となる。出土層位は、Ⅲ層～Ⅴa層までだが、Ⅲ・Ⅳ層が主体である。器種組成は、搔器1点、削器2点、抉入削器2点、楔形石器1点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片55点、砕片225点、石核3点、原石1点である。石材は、黒曜石が卓越する。

Ⅲ層主体の第32・33・34・36・37号礫群と重複する。

(2) 礫群 (図版506～516 第54表)

礫群は北調査区で22基、南調査区で8基、計30基検出された。属性は第54表に示した。

遺存度類型は、礫の完形率を示すが、類型aは50%以上が完形、類型bは50%以上が遺存度25%以下の礫、類型cはaとbの中間を示す。北調査区では類型cが多かった。南調査区では類型aが多く、比較的完形の礫が多かったことになる。

層位類型では、上層から下層へ、類型1～9まで分けた。類型1(Ⅲ層)が17基、類型5(Ⅳ層)が10基、類型7(Ⅳ・Ⅴ層)が1基、類型8(Ⅴa層)2基と、多くがⅢ・Ⅳ層出土であり、Ⅴb層出土の礫群は明確にはとらえられなかった。

ブロックとの関係では、北調査区においては、BL1～5が礫群と重複関係をもたないが、他のブロックは礫群が伴っている。一方、南調査区ではBL20・22・24・25が礫群を伴っている。

遺構名	点数	方位	規模	重複BL	出土層位	重量gの 平均	重量gの 合計	遺存度 (%)						遺存度		層位 類型
								不明	0	25	50	75	100	類型	類型	
SH1	13	NW	1.1×1.2	7	Ⅲ	532	6,915			6	4	1	2	c	1	
SH2	25	SN	5.3×2.5	7	Ⅲ	223	5,578			15	7		3	b	1	
SH3	9	NE	2.3×1.3		Ⅲ	509	4,580				1		8	a	1	
SH4	14	EW	3.6×2.2	7	Ⅲ	146	2,046			4	8	1	1	c	1	
SH5	14	EW	4.1×2.1	7	Ⅲ	288	4,028			3	2		9	a	1	
SH6	14	NW	5.5×4.3	6	Ⅲ	163	2,280				7	2	5	c	1	
SH7	8	NW	5.2×2.7	7	Ⅲ	750	6,002			1	2	1	4	c	1	
SH8	15	EW	5.4×3.1	9	Ⅲ	312	4,676			4	5	2	4	c	1	
SH9	9	NE	4.8×1.4	17	Ⅳ	290	1,737	3		4			2	c	5	
SH10	22	NW	12.4×5.4	16・17	Ⅳ	352	7,744			9	5	3	5	c	5	
SH11	49	SN	7.4×7.1	10	Ⅳ	356	17,096	1	15	11	5	17	c	5		
SH12	31	NE	8.2×3.2	12・15	Ⅳ	154	4,764			12	9	3	7	c	5	
SH13	18	EW	5.1×1.8	12	Ⅳ	321	5,452	1	6	9			2	c	5	
SH14	45	NW	7.2×6.1	10	Ⅳ	471	21,180			5	9	3	28	a	5	
SH21	18	EW	1.7×1.6	13	Ⅳ	387	6,958			3	1	14	a	5		
SH22	17	NW	3.8×1.4	13・14	V a	452	7,676			2	4	2	9	a	8	
SH23	15	NW	4.3×2.8	10・11	Ⅲ	309	4,640			6	5	1	3	c	1	
SH24	14	NW	5.1×3.5	16	Ⅲ	121	1,690			7	4		3	b	1	
SH25	13	EW	2.4×1.2	13	Ⅳ・V a	236	3,073			4	1		8	a	7	
SH26	5	SN	1.4×1	11	Ⅳ	230	1,150			1	2		2	c	5	
SH27	6	EW	1.7×1.1	16	V a	498	2,990						6	a	8	
SH28	3	SN	0.5×0.3	10	Ⅳ	538	1,615						3	a	5	
SH31	73	NW	8.1×4.2	20	Ⅲ	212	12,100	16		15	22	14	6	c	1	
SH32	9	EW	3.9×2.9	25	Ⅲ	455	4,095					3	6	a	1	
SH33	8	NW	2.5×1.7	25	Ⅲ	566	4,530			1	1	1	5	a	1	
SH34	6	NE	1.7×1.1	25	Ⅲ	399	2,395					2	4	a	1	
SH35	4	EW	1.6×0.7	24	Ⅲ	300	1,200			1	1		2	c	1	
SH36	17	NW	7.2×2.4	25	Ⅲ	191	3,254			3	2	2	10	a	1	
SH37	4	EW	2.1×1.1	25	Ⅲ	308	1,230						4	a	1	
SH38	4	NW	3.6×3.5	22	Ⅳ	661	2,645					2	1	1	c	5

第54表 西岡A遺跡 礎計

3 遺物

(1) ナイフ形石器 (図版517~527・報告番号1~55・写真図版116~118)

ナイフ形石器は55点出土した。出土層位はⅢ層35点、Ⅳ層18点、Ⅴa層1点で、Ⅲ層出土のものが多い。石材は無斑晶質安山岩が29点で圧倒的に多く、以下、黒曜石8点、珪質頁岩6点、頁岩、玉髓が各5点と続く。25カ所のブロック中17ブロックからナイフ形石器の出土をみるが、5点以上まとまって出土したブロックは、BL15で11点、BL4・12・17で各5点であった。BL15ではすべて無斑晶質安山岩製である。

1~6は石刃状の縦長剥片を素材にして基部・先端に加工を施したナイフ形石器である。10~18は縦長もしくは寸詰まりの縦長剥片を素材として、打面を基部側に設け、側縁は全体を弧状に調整加工を施し、もう側縁は基部周辺のみを調整する全体的にやや幅広いのナイフ形石器である。BL2・3・4・5・7といった北調査区東側のブロック群からまとまって出土しており、石器文化の目安になりそうである。

19~42は無斑晶質安山岩製横長剥片を用いたナイフ形石器で、いわゆる国府型ナイフ形石器との類似が指摘される資料である。素材となった剥片、剥片剥離技術、ナイフ形石器の製作方法はいずれも瀬戸内技法そのものではない。このナイフ形石器については成果と課題の章で触れることにする。

(2) 台形石器 (図版527・報告番号57~62・写真図版118)

台形石器は6点出土した。出土層位はⅢ層4点、Ⅳ層2点であった。BL7で2点、BL11・13・22で各1点出土。

57は遠端がヒンジフラクチャーを起こしている石刃状の素材を用い、基部にやや平坦な調整剥離を施している。59は、素材の使い方、調整加工の部位等ナイフ形石器と変わらないが、先端が開いていたため台形石器となった。57・59は切出形石器や台形椀石器の仲間には入らない一群である。

(3) 槍先形尖頭器 (図版528~533・報告番号63~103・写真図版118~120)

槍先形尖頭器は41点出土した。出土層位はⅡ層1点、Ⅲ層24点、Ⅳ層14点、Ⅴa層2点でⅢ~Ⅳ層にかけて多い。石材は黒曜石が33点と圧倒的に多く、その他は無斑晶質安山岩、珪質頁岩、珪質凝灰岩、凝灰質頁岩が各2点であった。頁岩・凝灰岩系の石材はすべてⅢ層である。出土数が多かったブロックはBL11の13点、BL14の12点、BL24の5点、BL5の3点であった。

63・64は欠損品であるため、正確な全長は不明だが、10cmを超えることは間違いない、両面調整の槍先形尖頭器である。65・66は5cmほどの両面調整槍先形尖頭器である。石材は珪質頁岩と黒曜石であるが、貫ノ木第1地点の黒曜石槍先形尖頭器石器群に類似する。

67はブロック外からの単独出土、68はBL21からの出土だが、ブロックの主体はⅤ層にあるので、混入したと考えられるので、単独出土に近い。67・68ともに発達した槍先形尖頭器石器群の時期に位置付けられよう。

69~94は片面調整・半両面調整・周縁調整の槍先形尖頭器で全体的に5cm以下の小形品である。黒曜石製のものが多く、今回の調査範囲の中でも特徴的な石器のひとつである。

(4) 角錐状石器 (図版533・報告番号104~107・写真図版120)

角錐状石器は4点出土した。出土層位はⅢ層2点、Ⅳ層2点である。BL11で2点、BL11・15で各1点出土した。

(5) 彫器 (図版534~537・報告番号108~130・写真図版120~122)

彫器は23点出土した。出土層位はⅢ層19点、Ⅳ層4点で、Ⅲ層が圧倒的に多い。石材は珪質凝灰岩9点、珪質頁岩7点と珪質頁岩が多い。出土数が多かったブロックは、BL7で3点、BL8で4点、BL22で9点、すべてⅢ層からの出土である。

108～116・121は素材の遠端を背面側から主要剥離面側に施された調整加工を打面として、背面側に彫刻刀面が作出されている。石刃を素材としており、いわゆる「神山型彫器」の範疇にはいるものと思われる。119も背面側からの調整で打面を作出しているが、彫刻刀面は剥片のエッジに長く入っている。

117・118は打面が主要剥離面側から背面への調整によって作出されている例である。

120・123・129は先の彫刻刀面を打面として彫刻刀面を作出するものである。113は打面が彫刻刀面ではなく、素材剥片の背面だが、主要剥離面との角度が大きく、効果としては前出の例と同じと考えられる。124は「上ヶ屋型彫器」に類するものであろうか。125～127は折れ面もしくは調整加工面を打面として彫刻刀面を作っている。

(6) 掻器 (図版538～542・報告番号131～157・写真図版122～123)

掻器は27点出土した。出土層位はⅢ層15点、Ⅳ層10点、Ⅴa層2点であった。石材は黒曜石が16点、無斑晶質安山岩が7点で、他には珪質頁岩、頁岩、玉髓が1～2点使用されている。出土遺構はBL11と14が多い。BL14で無斑晶質安山岩製が1点あるだけで、あとは黒曜石製である。

(7) 削器 (図版543～552・報告番号158～206・写真図版123～126)

削器は122点出土した。出土層位はⅢ層64点、Ⅳ層48点、Ⅴa層9点、Ⅴb層1点であった。主要な石材は無斑晶質安山岩62点と黒曜石33点であるが、他にも多様な石材を使用している。出土遺構をみると、BL11～15に比較的集中して出土している。

(8) 挟入削器 (図版552～554・報告番号207～222・写真図版126～127)

挟入削器は16点出土した。出土層位はⅢ層6点、Ⅳ層8点、Ⅴa層1点であった。出土遺構はBL9・11・13・14・17・25であったが、BL11・14の出土数が多かった。石材は14点が黒曜石であった。

(9) 揉鉢器 (図版554・報告番号223～224・写真図版127)

揉鉢器は2点出土した。

(10) 楔形石器 (図版555・報告番号225～234・写真図版127)

楔形石器は12点出土した。出土層位はⅢ層2点、Ⅳ層7点、Ⅴa層2点、Ⅴb層1点と比較的深い層序でも出土している。BL18で5点と、まとまって出土している。

(11) 石刃 (図版556～557・報告番号235～250・写真図版128)

石刃は28点出土した。出土層位はⅢ層が20点、Ⅳ層が8点であった。10カ所のブロックから出土しているがBL22では12点がまとまって出土、他のブロックでは1～3点である。石材は珪質凝灰岩が、15点と最も多いが、これはBL22の石刃がすべてこの石材であることからくる。他には無斑晶質安山岩が5点、黒曜石、頁岩、玉髓、珪質頁岩、凝灰質頁岩が1～2点である。

28点中22点の打面の形態を観察したところ、単剥離打面が10点、複数打面が5点、調整打面が4点、線打面が2点、点打面が1点であった。ちなみにBL22の打面観察可能な10点は、単剥離打面が5点、調整打面等が5点であった。

(12) 2次加工のある剥片 (図版570・報告番号318・写真図版138)

2次加工のある剥片は32点出土した。出土層位はⅢ層18点、Ⅳ層9点、Ⅴa層5点であった。25カ所のブロック中半数の12ブロックで確認された。BL11で10点と、出土数が多かった。他のブロックでは1～3点である。2次加工のある剥片は本来、特定された機能をもつ石器ではなく、破片等で器種判別が不可能であった石器に用いられている。このことから、BL11に出土数が多いのは破損された石器が多かったということにもなるか。石材は黒曜石が多かった。

318はBL20から出土、黒曜石産地分析により栃木県高原山産 (THAY) という結果がでた。

⑬ 微細刻離痕のある剥片（図版）

微細刻離痕のある剥片は88点出土した。出土層位はⅢ層44点、Ⅳ層33点、Ⅴa層10点、Ⅴb層1点であった。25カ所のブロック中、22カ所で出土している。BL11と14で10点以上まとまって出土した。石材黒曜石が51点、次いで無斑品質安山岩10点、珧質頁岩9点、凝灰質頁岩7点などであった。BL11では12点中10点、BL14では15点すべてが黒曜石であった。

⑭ 敲石（図版571～572・報告番号311～317・写真図版137～138）

敲石は24点出土した。出土層位はⅢ層15点、Ⅳ層5点、Ⅴa層2点、Ⅴb層3点であった。石材は砂岩が15点と最も多用されている。25カ所のブロック中14カ所で出土している。比較的まとまって出土したブロックはBL15と17で、各4点である。

⑮ 有茎尖頭器（図版570・報告番号310）

BL24のⅢ層から珧質頁岩製の有茎尖頭器1点が出土した。鋸歯状の縁辺をもち、身部は長い。かえし部は丸味をもたせる形態である。BL24ではこの他に大形と小形の槍先形尖頭器が出土している。この石器群は槍先形尖頭器の項目でも述べたように貫ノ木遺跡第1地点の石器群とも共通性をもち、後期旧石器時代後半期から終末期にかけての所産と考えられる。そこに有茎尖頭器が伴うかは、疑問があるが、出土した事実を報告しておく。

⑯ 折断剥片

折断剥片は4点出土した。出土層位はⅢ層が2点、Ⅳ層が2点。石材はすべて無斑品質安山岩であった。BL13・15・18から出土している。

⑰ 尖頭器調整剥片（図版570）

尖頭器調整剥片は7点出土した。出土層位はⅢ層が6点、Ⅳ層が1点であった。BL11で5点、あとはBL5・6で各1点が出土している。BL11では黒曜石が4点であったが、そのうちの1点が産地分析により栃木県高原山産（THAY）であるという結果がでた。他の3点は和田（WDTY）が2点、蓼科（TSTY）が1点であった。ブロック全体でも和田（WDTY）が多く、高原山産（THAY）は検出されなかった。

⑱ 削片（図版558・報告番号251～253）

削片は5点出土した。やはり彫器の多いBL22から3点が出土している。

⑲ 剥片・砕片（図版559・570・報告番号56・254～258）

剥片は1791点、砕片は746点出土した。

⑳ 石核（図版560～569・報告番号259～309・写真図版259～137）

石核は135点出土した。出土層位はⅢ層63点、Ⅳ層37点、Ⅴa層24点、Ⅴb層8点、Ⅴc層1点、Ⅴ層一括2点と各層から出土しているが、上述してきた石器類ではⅢ層が最も多く、次いでⅣ層、Ⅴ層になると激減していたが、石核ではⅤa層の出土数が多い。25カ所のブロック中16カ所で出土しているが、特に多かったブロックはBL18で34点、BL15で19点、BL17で17点、BL12で10点である。Ⅴa層出土の石核が多かったブロックは、BL18で14点と半数近くをしめ、他にはBL21～23で各2～4点出土している。石材は無斑品質安山岩が82点で一番多く使用されている。次いで凝灰質頁岩13点、黒曜石12点である。

㉑ 原石（図版～・報告番号320・写真図版138）

原石は3点出土した。BL14ではⅣ層から重量14gの黒曜石、BL23ではⅤb層から重量3030gの無斑品質安山岩、BL25では、Ⅲ層から重量33gの黒曜石が出土した。

4 接合資料 (図版573~578)

接合資料は、111例296点であった。無斑晶質安山岩の接合資料が多かった。

An-62は、削器、剥片、石核の接合例である。自然面を表面に残す厚手の剥片を素材として、表面から裏面に周縁を調整加工して(反方向剥離)削器を作ろうとする意図がみられる。その過程で分割されたような大形の剥片がとれている。4は平坦な剥離がみられたため、石核にしたが、接合資料の状況から、削器でもよいのかもしれない。

GT-4は、削器と剥片の接合例である。1・2はひとつの剥片で、剥離後に鋸歯状の調整加工を施し、削器に仕上げた後、折れて、1と2に分離したと思われる。

SS-3・10は、剥片、楔形石器、石核の接合例である。円礫の表皮部分にあたる、自然面を表面全面に残す厚手の剥片が素材である。1・2はその主要剥離面を打面として剥離を行い、打面を形成。3~8はそれを打面として縦長の剥片を剥離している。そのうち6でとられた縦長剥片がさらに分割されるように剥離され最終的に楔形石器が作られたかたちになる(SS-10)。

SS-4も、SS-3・10と同一母岩と思われる。剥片、微細剥離痕のある剥片の接合例である。素材はSS-3・10と同じで、円礫の表皮部分にあたる、自然面を表面全面に残す厚手の剥片を用いている。剥離手順も前者の接合例と同じ、石核は残さない。

TS-3・16は、剥片、石核の接合例である。亜角礫を素材として、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を進行させている。厚手の剥片が取れば、それを素材として剥片剥離を行っている(TS-16)。

TS-16は、剥片の接合例である。円礫を素材として、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を進行させている。ただ、一定程度の打面が形成されれば、打面を固定して、複数回の剥片剥離を行っている(4~7)。これによく似た接合例は貫ノ木遺跡第4地点接合資料10(Sa-1)にみられる。

第4章 自然科学分析

第1節 貫ノ木遺跡出土炭化材の樹種

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

貫ノ木遺跡は、信濃町大字野尻字貫ノ木地内の丘陵斜面に位置する先土器時代の遺跡である。遺跡からは、主にⅢ～Ⅴ層にかけて石器・剥片およびブロック群、礫および礫群、炭化物などが検出されている。

このうち、炭化物は、大きく11ヵ所の集中部が確認され、それらを構成する炭化物自体は比較的大型で、保存の良い炭化材から構成されている。これは、他地域の先土器時代の遺跡では見られない大きな特徴と考える。当然ながら、これらの炭化材は当時の生業活動の痕跡であり、燃料材として使用した木材の一部が保存されたものと推定される。こうしたことから、この炭化材の樹種を検討し、燃料材としてどのような樹木が利用されていたかについて調べた。

2 標本の記載と結果

炭化材は、保存の良い硬質部分を選び、適宜手割りで横断面を作成し、実体顕微鏡下で観察する。この段階で同定できる試料と同定できないものに分類する。同定される典型試料と同定できない試料すべてについて、片刃カミソリなどを用いて試料の横断面（木口と同義）、接線断面（板目と同義）、放射断面（柾目と同義）の3断面を作る。各断面試料は、直径1cmの真鍮製試料台に固定、金蒸着を施した後、走査電子顕微鏡（日本電子製 JSMT-100型）で観察する。

第55表にその結果を示す。樹種の同定は、現生標本との比較により行う。以下に、標本の記載と同定の根拠について述べる。

モミ属 *Abies* マツ科 第84図1a～1c.

仮道管および放射柔細胞からなる針葉樹材で、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。また、早材部仮道管は大きく薄壁で、晩材部仮道管は厚壁、扁平でかつ狭い（横断面）。放射組織は、柔細胞からなり単列で2～16細胞高である（接線断面）。放射組織の壁は厚く、じゅず状末端壁を有する（放射断面）。

以上の形質から、マツ科のモミ属の材と同定される。モミ属の樹木には、亜高山帯に分布するシラビソ (*A. veichii*) やオオシラビソ (*A. mariesii*)、暖帯から温帯にかけて分布するモミ (*A. firma*) などがあ。いずれも樹高30m、幹径1mに達する常緑針葉樹である。

トウヒ属またはカラマツ属 (*Picea* or *Larix*) マツ科 第84図2a～2c.

放射仮道管、垂直および水平樹脂道、これを取り囲むエビセリウム細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行はやや急である（横断面）。エビセリウム細胞以外は、放射仮道管を含め2～18細胞高である（接線断面）。放射組織では、じゅず状末端壁が見られる（放射断面）。

以上の形質から、マツ科のトウヒ属またはカラマツ属の材と同定される。トウヒ属の樹木には、エゾマツ (*P. jezoensis*) やその変種のトウヒ (*P. jezoensis* var. *hondoensis*) などがあ、亜高山帯を中心に

第4章 自然科学分析

試料番号	遺物名	フリッド	遺物番号	層位	樹種	備考
10			679	Vb	ニレ	図版
11	SV06・09	VI-X	679	Vb	ナナカマド	図版
13			684	Vb	ナナカマド	図版
15			684	Vb	ナナカマド	図版
16			685	Vb	ニレ	
17			685	Vb	ニレ	
20	SV08・09	VI-X	689	Vb	ナナカマド	図版
21	SV08・09	VI-X	690	Vb	サクラ	
22	SV08・09	VI-X	691	Vb	ニレ	
23	SV08・09	VI-X	692	Vb	コナラ	
24	SV08・09	VI-X	693	Vb	板札材B	図版
25	SV08・09	VI-X	695	Vb	サクラ	
27			694	Vb	コナラ	
28			694	Vb	コナラ	
34	SV08・09	VI-W	738	Vb	コナラ	
47	SV08・09	VI-W	267	Vb	コナラ	
48	SV08・09	VI-W	165	Vb	コナラ	図版
65			166	Vb	コナラ	
66			167	Vb	コナラ	
68			167	Vb	コナラ	
106			219	Vb	コナラ	
107			220	Vb	サクラ	
108			221	Vb	コナラ	
109			222	Vb	コナラ	
110			222	Vb	板札材A	保存票い
111			222	Vb	板札材A	図版
112			222	Vb	板札材A	図版
113	SV11D	VI-V	228	Vb	板札材	保存票い
114	SV11D	VI-V	227	Vb	ニレ	
115	SV11D	VI-V	227	Vb	アサギ	
116			227	Vb	トネズク	図版
117	SV11D	VI-V	230	Vb	トネズク	図版
118	SV11D	VI-V	231	Vb	コナラ	
119	SV11C	VI-V	232	Vb	コナラ	
120	SV11C	VI-V	232	Vb	コナラ	
121	SV11D	VI-V	234	Vb	ナナカマド	図版
122	SV11D	VI-V	235	Vb	サクラ	
123	SV11D	VI-V	235	Vb	ニレ	
124			235	Vb	コナラ	
133	SV11D	VI-V	263	Vb	コナラ	
143			220	Vb	ナナカマド	図版
144	SV05	VI-V	925	Vb	トネズク	図版
147			924	Vb	サクラ	保存票い
149			926	Vb	コナラ	
150			926	Vb	コナラ	
152			926	Vb	マツ科	図版
154	SV06B	VI-X	931	Vb	カシ	図版
155	SV06B	VI-X	932	Vb	ナナカマド	図版
156	SV08・09	VI-X	935	Vb	アザサイ	図版
158	SV08・09	VI-X	936	Vb	コナラ	
160	SV06B	VI-X	937	Vb	コナラ	
161	SV06B	VI-X	937	Vb	コナラ	
184			1106	Vb	ナシ	
185			1107	Vb	ナシ	
186	SV11A・B	VI-X	1108	Vb	ナシ	
187			1110	Vb	コナラ	
188			1111	Vb	コナラ	
190			1112	Vb	コナラ	
191			1113	Vb	コナラ	
192			1114	Vb	コナラ	
193			1115	Vb	コナラ	
194			1116	Vb	コナラ	
195			1117	Vb	コナラ	
196			1118	Vb	コナラ	
197	SV11D	VI-X	1119	Vb	コナラ	
200	SV11A・B	VI-X	1122	Vb	コナラ	
201	SV11A・B	VI-X	1123	Vb	コナラ	
202			1122	Vb	サクラ	
205	SV10A	VI-X	1143	Va	コナラ	
240	SV10B	VI-X	1240	Vb	板札材A	
241			1240	Vb	板札材A	
242			1492	Vb	コナラ	
243	SV10B	VI-X	1820	Vb	コナラ	
244	SV10B	VI-X	1821	Vb	板札材A	
245	SV10B	VI-X	1822	Vb	コナラ	
246	SV10B	VI-X	1823	Vb	サクラ	
247	SV10B	VI-X	1824	Vb	サクラ	図版
248	SV10B	VI-X	1824	Vb	サクラ	
249	SV10B	VI-X	1825	Vb	ナナカマド	
250	SV10B	VI-X	1826	Vb	コナラ	
251	SV10B	VI-X	1829	Vb	アサギ	
252	SV10B	VI-X	1830	Vb	サクラ	
253	SV10B	VI-X	1831	Vb	サクラ	
254	SV10B	VI-X	1832	Vb	ナナカマド	
255	SV10B	VI-X	1833	Vb	コナラ	
256	SV10B	VI-X	1834	Vb	コナラ	
257	SV10B	VI-X	1835	Vb	コナラ	
258	SV10B	VI-X	1836	Vb	ナナカマド	図版
259	SV10B	VI-X	1837	Vb	コナラ	
260	SV10B	VI-X	1838	Vb	コナラ	
261	SV10B	VI-X	1842	Vb	コナラ	図版
262	SV10B	VI-X	1843	Vb	サクラ	
263	SV10B	VI-X	1844	Vb	コナラ	
264	SV10B	VI-X	1845	Vb	コナラ	
265	SV10B	VI-X	1846	Vb	コナラ	
266	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
267	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
268	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
269	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
270	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
271	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
272	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
273	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
274	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
275	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
276	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
277	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
278	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
279	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
280	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
281	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
282	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
283	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
284	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
285	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
286	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
287	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
288	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
289	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
290	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
291	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
292	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
293	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
294	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
295	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
296	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
297	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
298	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
299	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
300	SV10B	VI-X	1847	Vb	コナラ	
301	SV10A	VI-X	671	Vb	板札材	保存票い
302	SV10A	VI-X	874	Vb	コナラ	
303	SV10A	VI-X	875	Vb	コナラ	
304			876	Vb	コナラ	
305			1877	Vb	ナナカマド	図版
306			1878	Vb	板札材A	
307	SV10C	VI-X	1879	Vb	トウヒ	図版
322		VI-S	718	Vb	カラマツ	図版
323	SV01			IV(中)	カラマツ	
324	SV01			IV(中)	カラマツ	
325	SV01			IV(中)	カラマツ	
326	SV01			IV(中)	カラマツ	
327	SV01			IV(中)	カラマツ	
328	SV01			IV(中)	カラマツ	
329	SV01			IV(中)	カラマツ	
330	SV01			IV(中)	カラマツ	
331	SV01			IV(中)	カラマツ	
332	SV01			IV(中)	カラマツ	
333	SV01			IV(中)	カラマツ	
334	SV01			IV(中)	カラマツ	
335	SV01			IV(中)	カラマツ	
336	SV01			IV(中)	カラマツ	
337	SV01			IV(中)	カラマツ	
338	SV01			IV(中)	カラマツ	
339	SV01			IV(中)	カラマツ	
340	SV01			IV(中)	カラマツ	
341	SV01			IV(中)	カラマツ	
342	SV01			IV(中)	カラマツ	
343	SV01			IV(中)	カラマツ	
344	SV01			IV(中)	カラマツ	
345	SV01			IV(中)	カラマツ	
346	SV01			IV(中)	カラマツ	
347	SV01			IV(中)	カラマツ	
348	SV01			IV(中)	カラマツ	
349	SV01			IV(中)	カラマツ	
350	SV01			IV(中)	カラマツ	
351	SV01			IV(中)	カラマツ	
352	SV01			IV(中)	カラマツ	
353	SV01			IV(中)	カラマツ	
354	SV01			IV(中)	カラマツ	
355	SV01			IV(中)	カラマツ	
356	SV01			IV(中)	カラマツ	
357	SV01			IV(中)	カラマツ	
358	SV01			IV(中)	カラマツ	
359	SV01			IV(中)	カラマツ	
360	SV01			IV(中)	カラマツ	
361	SV01			IV(中)	カラマツ	
362	SV01			IV(中)	カラマツ	
363	SV01			IV(中)	カラマツ	
364	SV01			IV(中)	カラマツ	
365	SV01			IV(中)	カラマツ	
366	SV01			IV(中)	カラマツ	
367	SV01			IV(中)	カラマツ	
368	SV01			IV(中)	カラマツ	
369	SV01			IV(中)	カラマツ	
370	SV01			IV(中)	カラマツ	
371	SV01			IV(中)	カラマツ	
372	SV02			III(中)	コナラ	
373	SV02			III(中)	コナラ	
374	SV02			III(中)	コナラ	
375	SV02			III(中)	コナラ	
376	SV02			III(中)	コナラ	
377	SV02			III(中)	コナラ	
378	SV02			III(中)	コナラ	
379	SV02			III(中)	コナラ	
380	SV02			III(中)	コナラ	
381	SV02			III(中)	コナラ	
382	SV02			III(中)	コナラ	
383	SV02			III(中)	コナラ	
384	SV02			III(中)	コナラ	
385	SV02			III(中)	コナラ	
386	SV02			III(中)	コナラ	
387	SV02			III(中)	コナラ	
388	SV02			III(中)	コナラ	
389	SV02			III(中)	コナラ	
390	SV02			III(中)	コナラ	
391	SV02			III(中)	コナラ	
392	SV02			III(中)	コナラ	
393	SV02			III(中)	コナラ	
394	SV06(A)			Va	コナラ	
395	SV06(B)			Va	板札材C	図版
396	SV07			IV	ミズキ	
397	SV07			IV	ミズキ	
398	SV07			IV	ミズキ	
399	SV07			IV	ミズキ	
400	SV07			IV	ミズキ	
401	SV07			IV	ミズキ	図版
402	SV07			IV	ミズキ	
403	SV07			IV	ミズキ	
404	SV07			IV	ミズキ	
405	SV07			IV	ミズキ	
406	SV07			IV	ミズキ	
407	SV07			IV	ミズキ	
408	SV07			IV	ミズキ	
409	SV07			IV	ミズキ	
410	SV07			IV	ミズキ	
411	SV07			IV	ミズキ	
412	SV07			IV	ミズキ	
413	SV07			IV	ミズキ	
414	SV07			IV	ミズキ	
415	SV07			Va	トウヒ	図版
416	SV07			Va	カラマツ	
417	SV07			Va	カラマツ	
418	SV07			Va	カラマツ	
419	SV07			Va	カラマツ	
420	SV07			Va	カラマツ	
421	SV07		</			

分布する樹高30mに達する常緑針葉樹である。一方、カラマツ属の樹木には、本州の亜高山帯に分布するカラマツ (*L. leptolepis*)、グイマツ (*L. gmelinii*) があり、いずれも樹高30mに達する落葉針葉樹である。

マツ科 Pinaceae 第84図3a~3c.

放射仮道管、垂直および水平樹脂道、これを取り囲むエビセリウム細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。エビセリウム細胞以外は、放射仮道管を含め単列で2~12細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、マツ科の材と同定される。マツ科には、先に述べたトウヒ属、カラマツ属、モミ属のほか、マツ属(マツ属単維管束亜属および複維管束亜属)、ツガ属、トガサワラ属があるが、垂直および水平樹脂道が見られることから、トウヒ属・カラマツ属・マツ属・トガサワラ属のいずれかの材である。

針葉樹 第85図4a~4c.

仮道管および放射柔細胞からなる針葉樹材で、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである(横断面)。放射組織は、柔細胞からなり単列で2~15細胞高である(接線断面)。放射組織では、比較的小型の分野壁孔が1分野に1~2個見られる(放射断面)。

以上の形質から、針葉樹のモミ属・スギ属・ヒノキ属などのいずれかの材と思われる。

アサダ *Ostrya japonica* Sarg. 第85図5a~5c.

丸みを帯びた小~中型の道管が放射方向に2~3個複合した散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、内壁には微細ならせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、ほぼ同性1~3細胞幅、4~50細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、カバノキ科アサダ属のアサダの材と同定される。アサダは全国の温帯に分布する樹高20mに達する落葉広葉樹である。

カバノキ属 *Betula* カバノキ科 第85図6a~6c.

やや丸い中型の道管が単独あるいは2~4個放射方向に複合してほぼ均一に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は10本前後の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は同性で1~3細胞幅、1~20細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、カバノキ科のカバノキ属の材と同定される。カバノキ属の樹木には、樹高25m、幹径1mに達するウダイカンバ (*B. maximowicziana*) や亜高山帯上部に広く分布するダケカンバ (*B. ermanii*)、山地帯の二次林に多いシラカンバ (*B. platyphylla* var. *japonica*) など10種類ほどある落葉広葉樹である。

コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 第86図7a~7c.

年輪のはじめに大型の管孔が1ないしは2列に並び、そこから径を減じた小管孔がやや火炎状に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、単列同性のものとして集合放射組織からなる(接線断面)。

以上の形質から、ブナ科コナラ属のコナラ節の材と同定される。コナラ節の樹木にはコナラ (*Q. serrata*) やミズナラ (*Q. mongolica* var. *grosseserrata*)、カシワ (*Q. dentata*)、ナラガシワ (*Q. aliena*) などがある。いずれも温帯から暖帯にかけて広く分布する樹高20m、幹径1mの落葉広葉樹である。

コナラ亜属 *Quercus* subgen. *Lepidobalanus* ブナ科

年輪のはじめに大型の管孔が並ぶ環孔材である。道管のせん孔は単一で、放射組織は、単列同性のものとして集合放射組織からなる。

以上の形質から、ブナ科コナラ属のコナラ亜属の材と同定される。コナラ亜属は、コナラ節(コナラ属

コナラ節の記載参照)とクヌギ節(クヌギとアベマキがある)からなり、晩材部道管の配列により識別されるが、本標本は、材組織の保存が悪いため明瞭ではない。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 第86図8a~8c.

年輪のはじめに大型の管孔が単独ないし2列に並び、早材部では小管孔が2~8程度集合して接線方向ないしはやや斜めに配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が明瞭に認められる(放射断面)。放射組織は、異性1~7細胞幅、2~30細胞高からなり、結晶細胞が見られる(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のケヤキの材と同定される。ケヤキは暖帯から温帯にかけて分布する樹高35m、幹径2mに達する落葉広葉樹である。

ニレ属 *Ulmus* ニレ科 第86図9a~9c.

年輪のはじめに大型の管孔が数個配列し、晩材部では小型の管孔が径を減じて斜めに配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で(放射断面)、内壁にはらせん肥厚が明瞭に見られる(接線断面)。放射組織は、異性4~6細胞幅、10~50細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のニレ属の材と同定される。ニレ属の樹木には、中部地方以西の荒地などに生える樹高15m、幹径60cmに達するアキニレ(*U. parvifolia*)、北海道から九州にかけての平野部や山麓部で普通に生える樹高30m、幹径1mに達するハルニレ(*U. davidiana* Planch. var. *japonica*)や北海道に特に多く見られる樹高25m、幹径1mに達するオヒョウ(*U. laciniata*)がある。いずれも落葉広葉樹である。

アジサイ属 *Hydrangea* ユキノシタ科 第87図10a~10c.

やや角張った小型の管孔がほぼ単独で散在する散孔材で、管孔の径は年輪に向かって減少する(横断面)。道管のせん孔は、多数の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~2細胞幅、10~14細胞高で、単列部および多列部端部は直立細胞からなる(接線断面)。

以上の形質から、ユキノシタ科のアジサイ属の材と同定される。アジサイ属の樹木には、温帯に分布するノリウツギ(*H. paniculata*)など数種あり、いずれも低木あるいは藤本である。

サクラ属 *Prunus* バラ科 第87図11a~11c, 12a~12c.

年輪のはじめにやや小型の管孔が数個放射方向に複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、その内壁にはらせん肥厚がある(放射断面)。放射組織は、同性に近い異性で、1~5細胞幅、2~56細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、バラ科のサクラ属の材と同定される。サクラ属の樹木には、暖帯から亜熱帯にかけて分布する樹高25mに達するヤマザクラ(*P. jamasakura*)など数種類ある。

ナナカマド属 *Sorbus* バラ科 第88図13a~13c.

小型の管孔がほぼ単独で散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、同性1~2細胞幅、3~20細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、バラ科のナナカマド属の材と同定される。ナナカマド属の樹木には、ナナカマド(*S. commixta*)やアズキナシ(*S. alnifolia*)などがあり、温帯から暖帯にかけて分布する樹高15m、幹径30cmに達する落葉広葉樹である。

ナシ亜科 *Pomoideae* バラ科 第88図14a~14c.

中型の丸い管孔が単独で散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、その内壁にはらせん肥厚が見られる(放射・接線断面)。放射組織は、同性1~2細胞幅、4~20細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、バラ科のナシ亜科の材と同定される。ナシ亜科には、上述のナナカマド属やカナメモ

チ属、ナン属などがある。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume. トチノキ科 第88図15a~15c.

小型の管孔が単独または2~4個程度放射方向に複合し、やや密に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は、単一である。内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、同性単列または1~2細胞幅で、3~16細胞高である。また、この樹種を最も特徴づけるリップルマーク(規則的な層階状配列)が認められる(接線断面)。

以上の形質から、トチノキ科トチノキ属のトチノキと同定される。トチノキの樹木は、樹高30m、幹径2mに達する北海道から九州まで分布する落葉広葉樹である。

カエデ属 *Acer* カエデ科 第89図16a~16c.

中型の管孔が単独あるいは放射方向に2~5複合して散在する散孔材で、木部柔細胞は帯状または雲紋状を呈する(横断面)。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が認められる(放射断面)。放射組織は、同性1~6細胞幅、1~50細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、カエデ科のカエデ属の材と同定される。カエデ属の樹木は、全国の暖帯から亜寒帯まで広く、その種類も20種以上と多い。

ミズキ類 *Cornus* ミズキ科 第89図17a~17c.

小型で丸い管孔が単独あるいは2個程度複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は多数の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~4細胞幅、4~33細胞高で、単列部は背が高い(接線断面)。

以上の形質から、ミズキ科のミズキ属の材と同定される。ミズキ属の樹木には、ミズキ(*C. controversa*)やヤマボウシ(*C. kousa*)あるいはクマノミズキ(*C. brachypoda*)などがあるが、クマノミズキは道管が単独であることからこのクマノミズキ以外の樹木と考えられる。ミズキなどの樹木は、暖帯から温帯にかけて分布する樹高15m、幹径40cmに達する落葉広葉樹である。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 第89図18a~18c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~3個並び、以後径を減じた管孔がやや塊状に分布する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、同性1~3細胞幅、3~15細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、モクセイ科のトネリコ属の材と同定される。トネリコ属の樹木には、トネリコ(*F. japonica*)やしおじ(*F. spaethiana*)あるいはヤチダモ(*F. mandshurica*)などがあり、温帯に分布す

分類群	SV01		SV02		SV03A		SV03B		SV07		SV06-SV08			SV09	SV10A		SV10B		SV10C		SV10D		SV10E		SV10F		SV10G		SV10H		SV10I		SV10J		最大径			
	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	Va	Vb	Vc		Vb	Vb	Va	Vb	Va	Vb	Va	Vb	Va	Vb	Va	Vb	Va	Vb	Va	Vb	Va	Vb	Va	Vb				
モミ属									5	2																												
トウヒ属or カマツク属	1	1							1	3										1																		
マツ科																																				3		
針葉樹	1	1																																				
アサギ																																						
カエデ属	3	15																																				
コナラ属			4	4	1				2					4						1	15			4	5													
コナラ属属																																						
ケヤキ																																						
ニレ属																																						
ニレ属?																																						
アジサイ属																																						
サクラ属																																						
ナナカマド属																																						
ナナカマド属																																						
トチノキ																																						
カエデ属																																						
ミズキ類																																						
トネリコ属																																						
トネリコ属																																						
広葉樹																																						
合計	5	18	4	4	1	1	5	7	5	3	15	1	1	2	31	1	4	6	3	2	2	3	1	5	10	1	50	1										

第56表 遺構・層別別の炭化材樹種(その1)

分類群	層位別集計							合計
	Ⅲ上	Ⅲ中	Ⅳ中	Ⅳ	Va	Vb	Vc	
モミ属				5	2			7
トウヒ属orカラマツ属			1	2	3	1		7
マツ科				2		1		3
針葉樹			1	1				2
アサダ						4		4
カバノキ属			3	15				18
コナラ節	4	4	1		5	59		73
コナラ亜属						1		1
ケヤキ						1		1
ニレ属						6		6
ニレ属?					1			1
アジサイ属						1		1
サクラ属						18	2	20
ナナカマド属						7		7
ナシ亜科						16		16
トチノキ						1		1
カエデ属					3	5		8
ミズキ類						1		1
トネリコ属					2	1		3
散孔材					1	8		9
広葉樹						2		2
合計	4	4	6	25	17	133	2	191

第57表 遺構・層位別の炭化材樹脂 (その2)

る落葉広葉樹である。

散孔材A 第90図19a~19c.

中型の丸い管孔が単独で散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は多数の横坊からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~2細胞幅、4~30細胞高で、直立細胞からなる(接線断面)。

散孔材B 第90図20a~20c.

中型の丸い管孔が単独あるいは2~3個複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は26本程度の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、同性1~5細胞幅、3~52細胞高である(接線断面)。

散孔材C 第90図21a~21c.

中型で薄壁の管孔が単独あるいは2~3個接線方向に複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性1~2細胞幅、2~30細胞高である(接線断面)。

3 考察

ここで樹種の検討を行った炭化材は、炭化物集中部8ヵ所と集中部範囲外の試料で、合計191点である。これらの炭化材から検出される樹種分類群は、針葉樹が4分類群、広葉樹18分類群の合計22分類群である。全体的に出現する樹種を見ると、コナラ節が最も多く、次いでカバノキ属・サクラ属・ナシ亜科が多く、他にカエデ属・ナナカマド属・トウヒ属またはカラマツ属・モミ属・ニレ属などである。

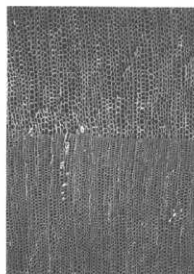
炭化物集中部ごとに見ると、第56・57表のように、各炭化物集中部間で出現分類群にある程度傾向が見られる。例えばSV01では、他の場所では見られないカバノキ属の樹木が多く検出されている。SV07では、モミ属やトウヒ属またはカラマツ属など針葉樹のみからなり、広葉樹は検出されていない。また、SV10では、コナラ節以外にサクラ属やナシ亜科が他に比べ高率で検出されている。一方、他の集中部や集中部範囲外では、コナラ節の樹木を中心とし数々の分類群が検出されている。

層位別に見ると、Ⅲ層(Ⅲ上およびⅢ中)では点数が少ないがコナラ節のみからなる。Ⅳ層ではSV01あるいはSV07を反映して、カバノキ属とモミ属などの針葉樹から構成されている。Ⅴ層では、全体的な傾向を反映して、コナラ節を中心としてサクラ属やナシ亜科などが多く見られる。各層位の点数が異なる

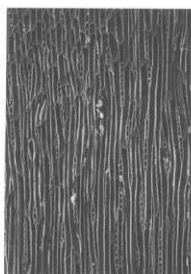
が、IV層とV層の間では樹種組成にやや違いが見られる。すなわち、IV層では針葉樹を伴うカバノキ属からなり、V層ではコナラ節を主体とする広葉樹（冷温帯）からなる。このIV層上部からV a層にかけてAT火山灰が挟在し、野尻湖およびその周辺に分布する上部野尻湖層に対比される。ここで示される炭化材樹種組成は、上部野尻湖層の花粉化石群集から推定される森林組成と概ね調和的であるとする（野尻湖花粉グループ、1993）。ここで検討した炭化材は、礫群に伴う炭化材であり、燃料材としての性格が強いが、周辺の植生をある程度反映した結果であり、周辺から無作為に伐採したものと推定される。

引用文献

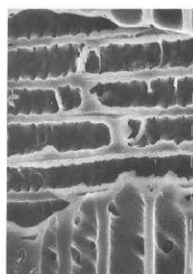
野尻湖花粉グループ（1993）野尻湖底ボーリングNJ88試料の花粉化石群集と古環境変遷、地質研専報41, p39-52.



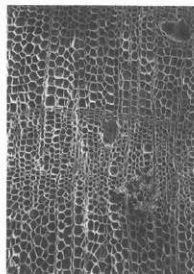
1a. モミ属 (横断面) No405 bar:0.5mm



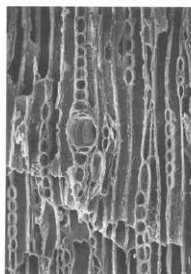
1b. 同 (縦線断面) bar:0.1mm



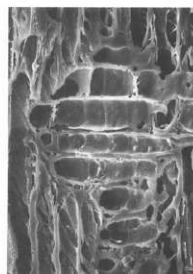
1c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



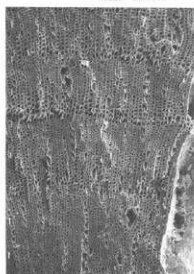
2a. トウヒ属またはウラマツ属 (横断面)
No307 bar:0.1mm



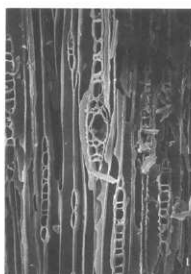
2b. 同 (縦線断面) bar:0.1mm



2c. 同 (放射断面) bar:0.05mm



3a. マツ科 (横断面) No152 bar:0.1mm



3b. 同 (縦線断面) bar:0.1mm



3c. 同 (放射断面) bar:0.05mm

第84図 貫ノ木遺跡出土炭化材樹種の電子顕微鏡写真1